

情報とデータサイエンス I a・b

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 横溝一浩

科目コード：INF101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	パソコンによる情報処理操作の基本および IT の動向、AI やデータサイエンスの理解と活用について学ぶ。情報を発信するためのプレゼンテーション能力や処理リテラシーを身につけるとともに、データを読み解くための基本的なデータサイエンスの基本を学び、society5.0 に対応できるようにする。
到達目標	パソコン操作に必要な OS やファイルの扱い方を理解し、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作と活用方法を学び情報リテラシーの基本を修得する。 データを読み解きながらデータサイエンスの基本を学び、現在及び将来に有益な IT 利活用能力を高める。

授業計画	
第 1 回	履修上の注意、授業計画、履修申告方法の説明。 情報化社会（society5.0）とは何か、ICT で変わる教育現場（GIGA スクールについて）。 事前 情報化社会について調べ、自分なりの理解をする。 135 分 事後 授業の目的、心構えを再確認し、情報化社会についての基礎的な理解をする。 135 分
第 2 回	情報機器の基本的な仕組み（スマートフォンと PC の違い）。 キーボード・マウス操作と日本語入力、タイピング練習。Windows10 について 事前 教科書の S-1～S-17 を読んで理解しておく。自分のスマートフォンの OS を確認する。 135 分 事後 授業の操作を復習する。 135 分
第 3 回	情報モラル（著作権・ネチケット）、インターネット・電子メールの使用法① SNS の利用と危険性。 事前 教科書の M-1～M-25、読んでおく。メールアドレスの仕組みを理解する。 135 分 事後 課題メールを送信する。 135 分
第 4 回	情報セキュリティ（ウィルス・個人情報保護）、電子メールの使用法②、 AI とは、生成 AI の体験 事前 教科書の M-27～M65 を読んでおく。AI の副教材を読んでおく。 135 分 事後 課題メールを送信する。AI 浸透の社会情勢について理解する。 135 分
第 5 回	Word による基本的な文書の作成 文字の移動とコピー、ファイルの保存と読み出し、印刷とプレビュー、書式とレイアウト 事前 教科書の W-1～W-17 を読んで、できれば操作する。 135 分 事後 授業の操作を復習（利用したアイコン・メニューの確認）。課題ファイルの作成。 135 分
第 6 回	Word による表および図の作成・挿入、ファイル管理。 表の作成・挿入、図の作成・挿入、表・図と文字のレイアウト。 事前 教科書の W-18～W-33、S-20～S-32 を読んで要領を理解しておく。 135 分 事後 授業の操作の復習（利用したアイコン・メニューの確認）。課題ファイルの作成。 135 分
第 7 回	Excel によるデータサイエンス入門① Excel のワークシートの構成、扱うデータの種類、オートフィルと相対参照・絶対参照。 事前 教科書の E-1～E234-3 を読んで、要領を理解しておく。 135 分 事後 表の作成の復習。利用したアイコン・メニューの確認。 135 分
第 8 回	Excel によるデータサイエンス入門② データの可視化とグラフの作成、ファイル操作と印刷。データのソート。 事前 教科書の E-30～E46 と副教材を読んで要領を理解しておく。 135 分 事後 最適なグラフの選定とグラフ作成手順の復習。利用したアイコン・メニューの確認。 135 分
第 9 回	Excel によるデータサイエンス入門③ 複数シートの取り扱い、計算式と関数、計算結果のコピー。 事前 教科書の E-51～E58 を読んで、要領を理解しておく。 135 分 事後 計算式と関数の使い方の復習。利用したアイコン・メニューの確認。 135 分
第 10 回	Excel によるデータサイエンス入門④ 尺度と順位（RANK 関数と条件分岐処理）。 事前 教科書の E-60～E66 と副教材（プリント）を読んで要領を理解しておく。 135 分 事後 RANK 関数、IF 関数の復習。IF 関数を複数使う場合の習得。 135 分
第 11 回	Excel によるデータサイエンス① 代表値（平均値・中央値・最頻値）の意味と関数による計算。 事前 副教材（プリント）を読んで要領を理解しておく。 135 分 事後 代表値の理解、確認、導出方法の復習。 135 分
第 12 回	Excel によるデータサイエンス② データの母集団の特性を知る（分散と度数分布）。 事前 教科書の E-69 と副教材（プリント）と副教材を読んで要領を理解しておく。 135 分 事後 分散と度数分布の理解、確認、導出方法の復習。 135 分
第 13 回	PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成① 事前 教科書の P-1～P-28 を読んで要領を理解しておく。 135 分 事後 スライドの作成要領と描画の復習。 135 分
第 14 回	PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成② 事前 教科書の P-30～P-33 を読んで要領を理解しておく。 135 分 事後 スライドのデザイン、各種効果と仕上げの復習。 135 分
第 15 回	PowerPoint を用いたプレゼンテーション（発表） 事前 前回作成したファイルの確認と発表練習。 135 分 事後 発表の振り返りと他者評価のまとめ。 135 分

フィードバック 必要時、提出課題等についてコメントを付けフィードバックする

成績評価 定期試験 60%、課題・理解度確認テスト等 30%、主体的な授業態度 10%

テキスト 教科書 FOM 出版著『情報リテラシー Windows10 Office2019 対応』FOM 出版

その他 副教材として適宜プリントを配布する

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する

アクティブ・ラーニング 自己紹介スライドの作成をならびにプレゼンテーションを通して、自己表現能力の確認と気付きを能動的に得る。

備考 事前事後学習の際には、座学に加え、パソコン実機による操作を行うことを推奨する

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	□	☑	□	☑	☑

情報とデータサイエンスⅡ

非常勤講師 横溝一浩

科目コード：INF201

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習と講義

単位数：2 単位

概要

情報とデータサイエンスⅠで学んだ知識・技能をさらに深め、今後 Society 5.0 において必要となる、データに基づいた確かな判断や意思決定能を行うための知識・技能を養う。

到達目標

IT を活用したデータマイニングやテキストマイニングの基礎知識を身につけ、数学的な計算ではなく処置結果の意味を理解する力を養う。データサイエンスの考え方や活用方法を理解し、DX（デジタル技術による変革）に対応できる実践的な問題解決能力を高める。

授業計画		
第 1 回	履修上の注意、授業計画の説明 データ駆動型社会（データドリブン社会）への移行とデータサイエンス	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく 135 分 事後 学修した知識や機能を復習し、データサイエンスを学ぶ理由について説明ができる 135 分
第 2 回	Word による文書作成の基本 基本的な文書の作成、表やオブジェクトの挿入	事前 情報とデータサイエンスⅠで学んだ Word の基本操作について振り返り理解しておく 135 分 事後 授業の内容を振り返り、基本的な Word の操作について理解している。 135 分
第 3 回	Word による文書作成（複数ページの文書、レポート・論文などの作成） ヘッダー・フッターの挿入と編集。段組み、目次の作成、脚注について	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、文書の完成形を理解しておく 135 分 事後 授業の内容を振り返り、学修した知識や機能（メニューの操作）を復習する 135 分
第 4 回	データサイエンスの基礎 データの収集と抽出方法（母集団と標本）、尺度、図表による要約	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、母集団・標本・尺度の言葉の意味を調べる 135 分 事後 授業の内容を振り返り、母集団からのデータの抽出方法を復習する 135 分
第 5 回	Excel によるデータサイエンス① 代表値（平均値・中央値・最頻値）の意味と関数による計算	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、代表値の意味を理解しておく 135 分 事後 授業の内容を振り返り、代表値のそれぞれの特徴について理解しておく 135 分
第 6 回	Excel によるデータサイエンス② いろいろな平均（平均、トリム平均、調和平均）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、平均にはどのような種類があるか調べる 135 分 事後 授業の内容を振り返り、平均とトリム平均の違いについて整理する 135 分
第 7 回	Excel によるデータサイエンス③ データの散らばりを見る（四分位偏差、分散、標準偏差）散らばりを可視化する。	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく 135 分 事後 授業の内容を振り返り、データの集団の捉え方を整理する 135 分
第 8 回	Excel によるデータサイエンス④ 2つのデータの関係を見る（相関、共分散、回帰、因果関係）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく 135 分 事後 2つのデータの取り扱いとして相関関係と因果関係の違いについて理解する 135 分
第 9 回	データサイエンス⑤ データに基づく推定（統計的検定：t 検定、 χ^2 検定などを用いた推定）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、確率について予習する 135 分 事後 授業の内容を振り返り、統計的検定の限界についても離開する 135 分
第 10 回	Excel によるデータサイエンス⑥ 標本データのもつ情報を視覚化する（グラフの作成と活用）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、グラフの種類を整理しておく 135 分 事後 授業の内容を振り返り、グラフの活用法について理解を深める 135 分
第 11 回	テキストマイニング①文章を分析する 単語出現頻度(TF-IDF 法)、共起キーワード、2 次元マップなど	事前 AI テキストマイニングツールのサンプルデータで文章を分析する 135 分 事後 授業の内容を振り返り、文章の分析方法を整理する 135 分
第 12 回	テキストマイニング② 感情分析、ボジネガ分析、AI による文章要約	事前 解析したい文章を準備する 135 分 事後 解析結果と自分の予測を比較する 135 分
第 13 回	プレゼン資料の作成①	事前 解析したい文章 1（小説や歌詞など）を準備する 135 分 事後 解析結果を整理・分析する 135 分
第 14 回	プレゼン資料の作成②	事前 追加分の解析したい文章 2（小説や歌詞など）を準備する 135 分 事後 文章 1 と文章 2 の解析結果を比較する 135 分
第 15 回	プレゼンテーション（発表会）	事前 プレゼンテーションの準備をする 135 分 事後 発表の振り返りと他者評価を行う 135 分

フィードバック

必要時、提出課題等についてコメントを付けフィードバックする

成績評価

小テスト・各単元の課題等 80％、プレゼンテーション 10％、主体的な授業態度 10％を目安に総合的に評価する

テキスト

テキスト
適宜資料を配布する

参考図書

1. 笛田薫,松井秀俊 著『Society 5.0 を生き抜くための必須教養 Excel で学べるデータサイエンス入門講義』日経 BP (ISBN:978-4296200146)
2. 岡田 朋子 著『エクセルで学習するデータサイエンスの基礎 統計学演習 15 講』近代科学社(ISBN :978-4764960565)
3. FOM 出版 著情『報リテラシー Windows 10/Office 2019 対応』FOM 出版(ISBN:978-4865104158)

オフィスアワー

授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する

アクティブ・ラーニング

グループディスカッション、TBL、プレゼンテーション等

備考

事前事後学習の際には、座学に加え、パソコン実機による操作を行うことを推奨する

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒

文学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：HUM201

専門／学年 全専門／2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 文学の一形態であり、音楽をはじめとするさまざまな芸術のインスピレーションともなって来た総合芸術である演劇は、文化や世相を映す鏡でもある。この授業では、シェイクスピアから現代ミュージカルにまで至る英米演劇の代表的な作品をとりあげ、その日本語訳（およびその抜粋やあらすじ）を読み、映像のあるものは部分的に映像を視聴し、内容や背景を知り、より深く作品を理解することを目指す。

到達目標 英米演劇の各作品について知り、戯曲の読み方に慣れ、人の心の動きや歴史、文化などの背景知識を理解する。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション、演劇とは？ エリザベス朝演劇とシェイクスピア	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 120 分 事後 エリザベス朝演劇とその地域、時代について整理する。 150 分
第 2 回	シェイクスピアの喜劇 1：『十二夜』（前半）	事前 『十二夜』の抜粋およびあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 シェイクスピアの喜劇について整理する。 150 分
第 3 回	シェイクスピアの喜劇 2：『十二夜』（後半） スキット	事前 『十二夜』の抜粋を声に出して読み、スキットとして演じてみる。 120 分 事後 教室で観る『十二夜』の映像について感想をまとめる。 150 分
第 4 回	シェイクスピアの恋愛劇：『ロミオとジュリエット』	事前 配布するプリントで『ロミオとジュリエット』のあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 シェイクスピアの作品を整理する。 150 分
第 5 回	シェイクスピアの悲劇 1：『マクベス』（前半）	事前 『マクベス』について調べておくこと。 120 分 事後 シェイクスピアの四大悲劇について整理する。 150 分
第 6 回	シェイクスピアの悲劇 2：『マクベス』（後半）	事前 配布するプリントで『マクベス』のあらすじおよび抜粋を読んでおくこと。 120 分 事後 『マクベス』について感想をまとめる。 150 分
第 7 回	シェイクスピアの悲劇 3：『ハムレット』（前半） あらすじ、オフィーリア「尼寺の場」	事前 配布するプリントで『ハムレット』のあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 『ハムレット』の「尼寺の場」の映像を YouTube 等で視聴する。 150 分
第 8 回	シェイクスピアの悲劇 4：『ハムレット』（後半） DVD 視聴、まとめ	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 120 分 事後 『ハムレット』について感想をまとめる。 150 分
第 9 回	『アマデウス』 ピーター・シェーファー（1979）（前半）	事前 配布するプリントで『アマデウス』について読んでおくこと。 120 分 事後 『アマデウス』のあらすじを読む。 150 分
第 10 回	『アマデウス』 ピーター・シェーファー（1979）（後半） DVD 視聴	事前 モーツァルト（およびサリエリ）の生きた時代背景について調べる。 120 分 事後 『アマデウス』の抜粋を読む。 150 分
第 11 回	『わが町』 ソーントン・ワイルダー(1938) アメリカ コミュニティの理想と現実	事前 配布するプリントで『わが町』のあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 1900 年代からのアメリカの変化を調べる。 150 分
第 12 回	『ガラスの動物園』 テネシー・ウィリアムズ(1945) 追憶の劇	事前 配布するプリントで『ガラスの動物園』のあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 アメリカ演劇の展開について整理する。 150 分
第 13 回	ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』 1 時代背景	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 120 分 事後 オーストリア併合、第二次世界大戦等の時代背景を調べる。 150 分
第 14 回	ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』 2 ストーリー・ミュージカルへ	事前 『サウンド・オブ・ミュージック』の実話について調べる。 120 分 事後 『サウンド・オブ・ミュージック』の感想をまとめる。 150 分
第 15 回	まとめ	事前 今学期の講義のノートを見直しておくこと。 120 分 事後 理解が不十分だった点について調べること。 150 分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付けて返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末に提出するレポート 50%と授業への取り組み方 50%とによる。

テキスト 『ハムレット』ウィリアム・シェイクスピア著、松岡和子訳（ちくま書房）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

アクティブ・ラーニング 取り上げる戯曲の一部をスキットとして演じてみる。自分たちなりの解釈、演出を試みる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	現代社会における具体的な哲学の諸問題について取り上げる。ディベート形式によるテキストを読み解くことにより、哲学的な思考を養うことができる。また、哲学的な問題に踏み込み、議論することで、今まで気づけなかったことが見えるようになる。

到達目標	現代社会における哲学の諸問題を理解し、説明することができる。哲学の諸課題について自ら考え、自らの意見を言うことができる。
------	--

授業計画															
第 1 回	はじめに	—	哲学とは何か、カントの普遍的道德、功利的快楽主義などについて学ぶ。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 2 回	人命	—	いかに産むべきか、日本における生殖医療の可能性について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 3 回	代理出産について	—	出自とプライバシー、出自を伝えるべきかを考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 4 回	ベビー・ビジネス	—	ベビー・ビジネスの市場のひろがり、代理母の権利について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 5 回	人権	—	どのように罰するべきか、被害者と加害者の人権、死刑の方法について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 6 回	死刑	—	応報主義と人道主義、死刑と文化について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 7 回	終身刑	—	正当防衛と予防主義、終身刑と国民感情について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 8 回	自由	—	何をしても許されるのか、自由と責任について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 9 回	メーガン法	—	性犯罪更生プログラムと行動療法、行動療法の効果について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 10 回	売春	—	自己主張とパターナリズム、自己決定権の意味、自己決定権の揺らぎについて考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 11 回	尊厳	—	いかに死すべきか、「最善の選択」とは何かについて考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 12 回	安楽死	—	安楽死の新たな基準、生命の質と安楽死について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 13 回	自殺	—	普遍的道德とパターナリズム、文学者にとつての「死」と医学者にとつての「死」について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 14 回	文化	—	食べるとはどのようなことか、文化における「食」、文化相対主義の特徴について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 15 回	まとめ	—	生命の授業 哲学の授業を通じて、自らの人生観、世界観を確立する。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、自らの人生観、世界観を確立する。										180 分

フィードバック リアクションペーパー・課題に対し、次週の授業でコメントを行い、受講生の意見を共有し省察する。

成績評価 講義に対するリアクションペーパー(20%)やテーマごとの課題レポート(80%)により、総合的に評価する。

テキスト 高橋昌一郎『哲学ディベート』日本放送出版協会 （授業時に教科書として使用する）

オフィスアワー 質問などがある場合には、授業後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□

法学（日本国憲法）	
※教育職員免許状取得に関わる科目	
非常勤講師　大野健一	科目コード：SOC101
専門／学年：全専門／１～２年次	
形態：講義	単位数：２単位
概要	日本国憲法について、制定経緯、各規定の意味、憲法以外の法との関係との体系を学ぶ。

到達目標	１．日本国憲法に規定されている人権の基礎的な知識を習得する。前提として、憲法の精神を理解する。 ２．選挙制度について正しい知識を身に着ける。 ３．社会問題に興味を持ち、自身の見解を持つ。
------	---

授業計画				
第 1 回	導入：日本国憲法の制定経緯、位置づけ	事前	日本国憲法についての既存の知識をまとめる。	120 分
		事後	事前課題と講義の内容を比較し、講義内容を復習する。	150 分
第 2 回	法体系：憲法、法律、条例、省令、判例、契約	事前	憲法、法律、条令、省令、判例、条約の関係について考察する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 3 回	憲法の規定事項：人権と統治	事前	日本国憲法の条文を確認する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 4 回	基本的人権：幸福追求権と法の下での平等	事前	幸福追求権・平等権について、既存の知識をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 5 回	基本的人権：精神的自由（特に表現の自由）	事前	精神的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 6 回	基本的人権：経済的自由	事前	経済的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 7 回	基本的人権：身体的自由	事前	身体的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 8 回	基本的人権：社会権	事前	社会権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 9 回	基本的人権：参政権ほか	事前	参政権に関連する権利について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 10 回	統治：選挙制度	事前	選挙制度についてまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 11 回	社会問題：非嫡出子、夫婦別姓、同性婚	事前	非嫡出子、夫婦別姓、同性婚について、問題となっている論点をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 12 回	社会問題：子供の権利、外国人の権利	事前	子供の権利、外国人の権利はどの程度保障されているか、検討する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 13 回	社会問題：一票の較差	事前	一票の較差とは何かを調べ、現在の選挙に関する較差につき自身の見解を検討する。	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分
第 14 回	社会問題：裁判員裁判、死刑制度	事前	裁判員裁判について調べておく。死刑制度についての自身の見解をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分
第 15 回	講義の復習	事前	これまでの講義を振り返り、全体を復習する。	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分

フィードバック 授業内での解説

成績評価 試験 100%

テキスト レジュメを講義時に配布する。それ以外のテキストがあれば、講義内で指定する。

オフィスアワー 質問等は随時メールにて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	□

心理学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：NAT201

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	本科目は、心理学の基礎的な概念や理論、研究法を学び、心理学とはいかなる学問であるかを正しく理解することを目的とする。心理学の歴史や代表的な理論、研究者を紹介し、心理学の諸領域を基礎から応用まで広く概観していく。知覚、認知、学習、発達、社会、臨床、パーソナリティなど心理学の諸領域の代表的研究を紹介することを通して、心理学の全体像をつかんでいくことを目指す。
到達目標	1．心理学とはどのような特徴を持つ学問であるかについて、自分の言葉で簡潔に説明できるようになる。 2．人の心の仕組みと働きについて、基本的な心理学的知識の理解に基づいた説明ができるようになる。 3．心理学の諸領域の代表的な研究について理解した上で、自分の言葉で説明できるようになる。
授業計画	

第 1 回	オリエンテーション ～心理学とはなにか～	事前 シラバスに目を通し、この科目履修の目的を明確にする。	40 分
		事後 この科目の学習計画を立てる。	60 分
第 2 回	心理学の歴史	事前 教科書第 1 章を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 3 回	学習心理学	事前 教科書第 2 章を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 4 回	生理心理学	事前 教科書第 3 章を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 5 回	知覚心理学	事前 教科書第 4 章を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 6 回	認知心理学	事前 教科書第 5 章を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 7 回	中間試験とまとめ	事前 授業ノート（前半）を見直しておく。	80 分
		事後 試験後の解答について自分で確認・振り返る。	20 分
第 8 回	社会心理学	事前 教科書第 6 章を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 9 回	パーソナリティ心理学（1）～パーソナリティとは何か～	事前 教科書第 7 章第 1 節および第 2 節を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 10 回	パーソナリティ心理学（2）～パーソナリティの形成～	事前 教科書第 7 章第 3 節および第 4 節を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 11 回	臨床心理学（1）～臨床心理学とは何か～	事前 教科書第 8 章第 1 節および第 2 節を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 12 回	臨床心理学（2）～様々なアプローチ～	事前 教科書第 8 章第 3 節および第 4 節を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 13 回	発達心理学	事前 教科書第 9 章を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 14 回	神経心理学	事前 教科書第 10 章を読む。	60 分
		事後 授業ノートを見直しておく。	40 分
第 15 回	最終試験とまとめ	事前 授業ノート（後半）を見直しておく。	80 分
		事後 試験後の解答について自分で確認・振り返る。	20 分

フィードバック 授業内で行う課題については、次週の授業内において口頭でフィードバックを行う。

成績評価 試験の成績と授業への取り組みを総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（30%）、中間試験の成績（35%）最終試験の成績（35%）

テキスト 板口典弘・相馬 花恵（編著）『心理学入門——こころを科学する 10 のアプローチ』講談社
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応する。

備考 この授業では心理学の基礎知識を学ぶことを中心の目的とするが、幅広い内容の学びは、自分や他者の客観的理解に役立つはずである。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

音楽心理学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：NAT101

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 この授業では、音楽心理学という研究領域で行われている幅広い研究内容についての基礎知識を身につけ、その中で使用されている方法論の理解を目指している。その上で、各自がこの研究領域の中で興味を持ったテーマについて、文献を調べ、自らの視点でレポートをまとめることで、人間生活の中での音楽についてより深く考える力を養うことも目標としている。

到達目標 1．音楽心理学の諸研究についての基礎知識を身につける。
2．この領域で用いられている研究方法を体験し、理解する。
3．この領域の文献を読んで理解し、レポート作成に活用する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーションへ講義の目的・内容・進め方などへ	事前 事後	シラバスに目を通し、この科目履修の目的を明確にする。 この科目の学習計画を立てる。	40 分 60 分
第 2 回	音楽心理学とは何か	事前 事後	教科書第 1 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 3 回	音楽と音響	事前 事後	教科書第 2 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 4 回	楽音の知覚	事前 事後	教科書第 3 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 5 回	音楽の認知	事前 事後	教科書第 4 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 6 回	音楽の記憶	事前 事後	教科書第 5 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 7 回	音楽と他の認知能力	事前 事後	教科書第 6 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 8 回	音楽と感情	事前 事後	教科書第 7 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 9 回	音楽行動の発達	事前 事後	教科書第 8 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 10 回	音楽と脳	事前 事後	教科書第 9 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 11 回	演奏の心理	事前 事後	教科書第 1 0 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 12 回	音楽の社会心理学	事前 事後	教科書第 1 1 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 13 回	音楽心理学と音楽療法	事前 事後	教科書第 1 2 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 14 回	産業音楽心理学	事前 事後	教科書第 1 3 章を読む。 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 15 回	最終試験とまとめ	事前 事後	授業ノート全体を見直しておく。 試験の解答を自分で確認・振り返る。	80 分 20 分

フィードバック 授業内で行う課題については、次週の授業内において口頭でフィードバックを行う。

成績評価 試験の成績と授業への取り組み等を総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（25 点）、レポート（25 点）、最終試験（50 点）。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』（誠信書房）

オフィスアワー 授業後、教室にて対応する。

備考 音楽心理学は人の心身と音楽の関係を探究する学問である。心は内部（脳・生理的基盤）と外部（環境・文化）から作られていることが、音楽を媒介にすることで明確に見えてくるはずである。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	人間の身体の仕組みについて、基礎を学習する。生体の恒常性を維持するための呼吸、循環、消化などの生理機能を理解すると共に、人間が自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応しているかについて学習する。

到達目標	人間と自然環境、脳・呼吸・循環・代謝などに関する基礎を学び、生体の恒常性を維持する仕組みについて理解できること、また人間の環境適応のメカニズムについて理解できることを到達目標とする。
------	---

授業計画		
第 1 回	人間と自然環境、人間の特異性	事前 教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「人間の特異性、命の循環」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 2 回	人間と植物・動物・微生物、変化する地球環境への対応	事前 教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「人間と植物・動物・微生物、変化する環境への対応」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 3 回	命の誕生、心身の発達と環境、愛着	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「人間らしさの発達と環境」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 4 回	呼吸の仕組み	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「呼吸」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 5 回	血液	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「体液」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 6 回	心臓の構造と働き、循環調節	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「循環調節」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 7 回	消化吸収	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「消化吸収」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 8 回	脳の働き	事前 教科書の 3 章「酸素とエネルギーに依存する脳」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「酸素とエネルギーに依存する脳」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 9 回	体温調節とサーカディアンリズム	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「体温調節とサーカディアンリズム」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 10 回	体性感覚・特殊感覚	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「体性感覚・特殊感覚」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 11 回	自律神経系	事前 教科書の 4 章「ストレスと自律神経系」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「自律神経系」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 12 回	内分泌系	事前 教科書の 4 章「ストレスと内分泌系」を読み、概要をつかむ。 135 分
		事後 「ストレスと内分泌系」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 13 回	学習発表 1	事前 学習発表の準備をする。 135 分
		事後 学習発表のまとめをする。 135 分
第 14 回	学習発表 2	事前 学習発表の準備をする。 135 分
		事後 学習発表のまとめをする。 135 分
第 15 回	学習発表 3	事前 学習発表の準備をする。 135 分
		事後 学習発表のまとめをする。 135 分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 レポート 3 0 %、学習発表 4 0 %、授業態度 3 0 %

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著

参考図書 自律神経の科学 講談社ブルーバックス 2023、鈴木郁子著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

備考 「医学概論」を履修する学生は、「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒

医学概論

非常勤講師 高橋保夫

科目コード：NAT203

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 生理学的見地から、様々なストレスへの対応、内部・外部環境の変化による私たちの体に生じる変化と対応について基礎的知識をつける。これらの知識をもとに、音楽が私たちの体にもたらす効果について考察し理解を深める。

到達目標 ストレス全般及び生体のストレス対応について理解できることを目標とする。
現代社会の環境変化に直面する人間にとって音楽療法がどのような意義を持つかを考える力を養う。

授業計画

第 1 回	ストレスとは？ ストレスの定義と歴史	事前 教科書 4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。自身のストレス体験を思い出す。 60 分 事後 ストレス学説をまとめ、理解し復習する。 60 分
第 2 回	ストレスと自律神経系、内分泌系	事前 「ストレスへの対応」について自律神経系と内分泌系の箇所を読み、概要をつかむ。 60 分 事後 自律神経系と内分泌系におけるストレスへの対応について理解し復習する。 60 分
第 3 回	ストレスと脳、認知症	事前 「ストレスへの対応」について脳の箇所を読み、概要をつかむ。認知症について予習する。 60 分 事後 ストレスが脳に及ぼす影響と認知症について課題を理解し復習する。 60 分
第 4 回	心理・社会的ストレス、死へのストレス	事前 「ストレスへの対応」について心理・社会的ストレス、死へのストレスの概要をつかむ。 60 分 事後 心理・社会的、及び死へのストレスについて理解し復習する。 60 分
第 5 回	音楽と脳、音楽療法とストレス	事前 種々のストレス対応として音楽療法がもたらす効果について予習する。 60 分 事後 音楽療法が心と体に及ぼす効果について理解し復習する。 60 分
第 6 回	心拍・血圧計測の実習 1（運動負荷による体の変化）	事前 循環器の生理学について復習し、実習の準備をする。 60 分 事後 心拍・血圧が運動負荷によってどのように変化するか、理由を含めて理解しまとめる。 60 分
第 7 回	心拍・血圧計測の実習 2（音楽などによる心理的变化）	事前 計測機器の取り扱いに慣れ、実習の準備をする。 60 分 事後 心理的な変化による心拍・血圧などの変化を調べ、その効果について理解しまとめる。 60 分
第 8 回	生活環境と健康、健康と疾病	事前 教科書 5 章「生活環境と健康」について健康と生活習慣病について概要をつかむ。 60 分 事後 健康と種々の生活習慣病について理解し復習する。 60 分
第 9 回	生体の免疫反応、健康への有害物質	事前 「生活環境と健康」について生体の免疫反応について概要をつかむ。 60 分 事後 生体の免疫反応、有害物質について理解し復習する。 60 分
第 10 回	環境問題の歴史と現代生活における課題	事前 教科書 6 章「環境問題と人間」について環境問題の歴史と各論について概要をつかむ。 60 分 事後 環境問題の歴史から現代生活の課題を読み解き、理解し復習する。 60 分
第 11 回	環境問題と私たちの将来	事前 「環境問題と人間」について環境保全と将来の安全社会について概要をつかむ。 60 分 事後 将来の環境保全活動の在り方について理解し復習する。 60 分
第 12 回	生命倫理	事前 生命倫理について予習する。 60 分 事後 生命倫理の考え方と行いについて理解し復習する。 60 分
第 13 回	学習発表 1	事前 学習発表の準備をする。 60 分 事後 学習発表のまとめをする。 60 分
第 14 回	学習発表 2	事前 学習発表の準備をする。 60 分 事後 学習発表のまとめをする。 60 分
第 15 回	学習発表 3、総括	事前 学習発表の準備をする。 60 分 事後 学習発表のまとめをする。授業全体を総括する。 60 分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 授業内レポート 30%、学習発表 40%、授業態度 30%

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著
参考図書 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社 2015、鈴木郁子編著
自律神経の科学 講談社ブルーバックス 2023、鈴木郁子著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

アクティブ・ラーニング ・プレゼンテーション、グループワーク
・生理学実習において、実習計画立案、実施、まとめをグループ毎に行う。
備考 「医学概論」を履修する学生は、1 年次の「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	☑	☑

社会福祉

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 瓜巢由紀子 科目コード：SOC202

専門／学年： 全専門／2 年次

形態： 集中講義 単位数： 2 単位

概要 社会福祉の対象は児童、障害児・者、高齢者、生活困窮者など多岐にわたり、ひいては全ての国民が対象である。そこで社会福祉の政策や法律などが私たちの生活の中にどのように活かされているかという基礎的知識を習得する。さらに、今日におけるわが国の社会福祉の課題について考え、これからの社会福祉のあり方についても習得し、社会福祉の理解を深めていく。

到達目標 ・社会福祉を広い視点で学び、基礎的知識を習得する。
・政策や法制度として社会福祉を理解するだけでなく、自らの生活に当てはめて社会福祉を理解できる。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 社会福祉のイメージ	事前 新聞記事やニュース等で社会の動きについて学ぶ。実習等で得た記録や資料等を復習する 事後 教科書の指定ページを復習する	140 分 140 分
第 2 回	社会福祉とは何か	事前 教科書の指定ページを予習 事後 教科書の指定ページを復習	140 分 140 分
第 3 回	私たちの生活と社会福祉の現状	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140 分 140 分
第 4 回	社会福祉の歴史	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書の指定ページを復習	140 分 140 分
第 5 回	社会福祉の法制度	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140 分 140 分
第 6 回	社会福祉の機関と施設	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140 分 140 分
第 7 回	利用者支援の基礎	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140 分 140 分
第 8 回	社会保障・公的扶助	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140 分 140 分
第 9 回	子ども家庭福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140 分 140 分
第 10 回	高齢者福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140 分 140 分
第 11 回	障害者福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140 分 140 分
第 12 回	地域福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140 分 140 分
第 13 回	社会福祉の専門職	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140 分 140 分
第 14 回	社会福祉の課題	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140 分 140 分
第 15 回	まとめ 試験内容の解説	事前 教科書指定ページを予習 事後 理解不足な箇所の確認とその復習	140 分 140 分

フィードバック ワークシートや発表などについてコメントを付け、学習成果をフィードバックする

成績評価 試験 60%、ワークシート 10%、発表 10%、授業への積極的な取組 20%

テキスト 『よくわかる社会福祉【第 11 版】』山縣文治・岡田忠克編/ミネルヴァ書房
そのほか必要に応じてプリント等配布

オフィスアワー 授業後に教室にて

アクティブ・ラーニング ・グループワークを実施し、プレゼンテーションを行う
・ICT を活用した理論の可視化

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	☑	□	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	

健康とスポーツ

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子	科目コード：PHY101
------------	--------------

専門／学年：全専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要 様々なスポーツを楽しみながら実践することで一人ひとりに適した運動、安全に効果的に身体を動かすこと等の理解を深める。
生涯にわたって健康な身体、人生を築くために運動・スポーツに親しむ態度や能力の習得を目指す。

到達目標

- ・運動・スポーツの必要性和楽しさを実感する
- ・仲間づくりやコミュニケーションを高めるための運動・スポーツの役割について理解する

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 手軽にできる体力・運動能力チェック	事前 初回授業に向けてケガをしないからだの準備をする 事後 疲労が感じられる部分のケアをする	120 分 120 分
第 2 回	健康維持のための運動	事前 1 週間の身体活動の記録をまとめる 事後 自分の身体活動時間を見直す	120 分 120 分
第 3 回	健康・体力づくりのための運動	事前 1 週間の身体活動の記録をまとめる 事後 生活の中に身体活動時間を増やす工夫を実践する	90 分 150 分
第 4 回	誰とでもできる運動遊び	事前 からだを動かし体調の管理をする 事後 疲労が残らないようにケアする	120 分 120 分
第 5 回	動いてみよう、動かしてみよう レクリエーションダンス	事前 からだを動かし体調の管理をする 事後 疲労が残らないようにケアする	120 分 120 分
第 6 回	動いてみよう、動かしてみよう 縄とび	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う 事後 疲労が残らないようにケアする	100 分 140 分
第 7 回	動いてみよう、動かしてみよう リズム縄とび	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う 事後 リズムに合わせて跳べるようにする、疲労が感じられる部分をケアする	100 分 140 分
第 8 回	ゲームを楽しもう ボール運動：基本	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う 事後 使った部分を中心にケアする、ストレッチ、軽い筋力トレーニングを行う	90 分 150 分
第 9 回	ゲームを楽しもう ボール運動：応用	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う 事後 使った部分を中心にケアする、ストレッチ、筋力トレーニングを行う	90 分 150 分
第 10 回	ゲームを楽しもう ラケットスポーツ基本	事前 ラケットスポーツに必要な準備体操を調べ実践する 事後 使った部分を中心にケアする、ストレッチ、筋力トレーニングを行う	100 分 140 分
第 11 回	ゲームを楽しもう ラケットスポーツ応用	事前 ラケットスポーツに必要な準備体操を実践する 事後 使った部分を中心にケアする、ストレッチ、筋力トレーニングを行う	100 分 140 分
第 12 回	リズムにのって動いてみよう 動きを楽しもう	事前 からだを動かし体調の確認をする、有酸素運動を取り入れる 事後 全身がリラックスできる体操を実践する	120 分 120 分
第 13 回	リズムにのって動いてみよう 動きを工夫してみよう	事前 からだを動かし体調の確認をする、有酸素運動を取り入れる 事後 全身がリラックスできる体操を実践する	120 分 120 分
第 14 回	レクリエーションを企画しよう	事前 楽しくからだを動かせる内容を考える、提案準備をする 事後 楽しくからだを動かせる内容に工夫を加える	140 分 100 分
第 15 回	自分にあった適切な運動・まとめ	事前 自分に必要な運動とは何かふりかえる 事後 自分にあった運動を理解する	120 分 120 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技 50%、授業への取り組み 30%、提出物 20%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

アクティブ・ラーニング

- ・少人数グループに分かれ、リズム体操を創作する
- ・その後お互いに発表し評価しあいます
- ・グループワーク、プレゼンテーション

備考

- ・安全面・衛生面を考慮して、必ず運動着・運動靴を着用する
- ・運動制限のある学生は授業で申し出ること
- ・忘れ物をした場合や体調不良などで見学したい学生は、授業開始前に連絡し指示を受けること

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	□	□	□	☑

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。

到達目標 各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画				
第 1 回	Orientation 自己紹介、教科書紹介	事前	教科書を入手し、Unit 1 を予習する。	80 分
		事後	英語での自己紹介の仕方を練習する。	190 分
第 2 回	Unit 1 Introductions in the U.S.A. Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 3 回	Unit 1 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 4 回	Unit 2 The Natural Wonders of Iceland Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 5 回	Unit 2 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 6 回	Unit 3 Getting Around the U.K. Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 7 回	Unit 3 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 8 回	Unit 4 Tackling Rugby in Ireland Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 9 回	Unit 4 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 10 回	Unit 5 Norwegian Folktales Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 11 回	Unit 5 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 12 回	Unit 6 Food Tour in Germany Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。	135 分
第 13 回	Unit 6 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 1-6)	事前	教科書の該当箇所を復習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 15 回	Review (Unit 1-6) 理解度確認テスト	事前	確認テストの準備をする	135 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組み 50%】

テキスト Akira Tajino, Hiroshi Nakagawa, John Andras Molnar, “Make Your Way!: Communicating while Abroad” （金星堂）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	□		□

英語 I -2

非常勤講師 山内あゆ子		科目コード：ENG102
専門／学年： 全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	英語 I -1 に引き続き、実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。	
到達目標	各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。	

授業計画		
第 1 回	Unit 7 T.O.- Austrarian Symphony Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前 教科書の該当箇所を予習する 80 分
		事後 今日の授業内容を復習する 190 分
第 2 回	Unit 7 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。 135 分
第 3 回	Unit 8 The Animals of Malta Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する。 135 分
第 4 回	Unit 8 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。 135 分
第 5 回	Unit 9 Moroccan Souvenirirs Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する 135 分
第 6 回	Unit 9 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。 135 分
第 7 回	Unit 10 Spanish Dancing Lessons Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する 135 分
第 8 回	Unit10 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。 135 分
第 9 回	Unit 11 Fashion Week in France Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する 135 分
第 10 回	Unit 11 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。 135 分
第 11 回	Unit 12 A Fjord in Montenegro Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する 135 分
第 12 回	Unit 12 Listening, Reading, Writing, Speaking, Review Test	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。 135 分
第 13 回	Unit 13 Swiss Sweets Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前 教科書の該当箇所を予習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。 135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 7-13)	事前 教科書の該当箇所を復習する 135 分
		事後 今日の授業内容を復習する 135 分
第 15 回	Review (Unit 7-13) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 135 分
		事後 理解不足の箇所を復習する 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 50%】

テキスト Akira Tajino, Hiroshi Nakagawa, John Andras Molnar, “Make Your Way!: Communicating while Abroad” （金星堂）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐

科目コード: ENG201

形態：講義

到達目標	日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語 I」で学んだことをもとに、各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。
------	---

第 1 回	Orientation 自己紹介／教科書紹介	事前 教科書を入手し、Unit 1 を予習する。	80 分
		事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	190 分
第 2 回	Unit 1 Getting Up Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 3 回	Unit 1 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 4 回	Unit 2 Breakfast Time Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 5 回	Unit 2 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 6 回	Unit 3 Getting Ready for School Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 7 回	Unit 3 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 8 回	Unit 4 First Class of the Day Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 9 回	Unit 4 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 10 回	Unit 5 Lunchtime Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 11 回	Unit 5 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 12 回	Unit 6 Shopping Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 13 回	Unit 6 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 1-6)	事前 教科書の該当箇所を復習する	135 分
		事後 今日の授業内容を復習する	135 分
第 15 回	Review (Unit 1~6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	135 分
		事後 理解不足の箇所を復習する	135 分

テキスト Robert Hickling, “English Day!” (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒

科目コード: ENG202

形態：講義 単位数：2 単位

到達目標	日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語 I」で学んだことをもとに、各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。
------	---

第 1 回	定期試験の解説 前期の復習	事前 前期の基礎事項を確認する	80 分
		事後 試験の問題を復習する	190 分
第 2 回	Unit 7 Getting Lost Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 3 回	Unit 7 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 4 回	Unit 8 In the Museum Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 5 回	Unit 8 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 6 回	Unit 9 At a Café Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 7 回	Unit 9 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 8 回	Unit 10 Part-Time Job Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 9 回	Unit 10 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 10 回	Unit 11 After Work Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 11 回	Unit 11 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 12 回	Unit 12 Housework Words & Expressions, Conversation, Grammar, Grammar Quizzes	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分
第 13 回	Unit 12 Short Conversations, Reading, Writing, Review Quiz	事前 教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 7-12)	事前 教科書の該当箇所を復習する	135 分
		事後 今日の授業内容を復習する	135 分
第 15 回	Review (Unit 7~12) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	135 分
		事後 理解不足の箇所を復習する	135 分

成績評価 授業態度、テスト、課題などにに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒

専門／学年： 全専門／1～2 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要

イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語に初めて触れる学生が対象。
アルファベートと発音の練習からはじめ、初級文法の学習を中心としながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げてゆきたい。

到達目標

イタリア語のアルファベートと発音、名詞・冠詞・形容詞・動詞の用法を理解し、簡単な単語を使って基本的な挨拶や自己紹介ができるようになることが目標である。

授業計画

原則的に教科書にしたがって授業を進める。
履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

第 1 回	アルファベートと発音（解説 副教材を使用）	事前 教科書に目を通し、付属 CD でイタリア語の音声を試聴 事後 配布教材を使い、授業内容の復習	120 分 150 分
第 2 回	アルファベートと発音（練習 副教材を使用）	事前 第 1 回の配布教材を使い、アルファベートと発音の練習 事後 配布教材を使い、授業内容の復習	120 分 150 分
第 3 回	Unità 1：名詞と形容詞（教科書 pp.6-9）	事前 教科書 Unità 1（pp.6-9）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 教科書巻末にある Unità 1 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 4 回	Unità 1：名詞と形容詞（pp.10-13）	事前 Unità 1（pp.10-13）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 1 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 5 回	Unità 2：essere と avere（pp.14-19）	事前 Unità 2（pp.14-19）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 2 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 6 回	Unità 2：essere と avere（pp.18-23）	事前 Unità 2（pp.18-23）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 2 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 7 回	Unità 3：are 動詞（pp.24-27）	事前 Unità 3（pp.24-27）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 3 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 8 回	Unità 3：are 動詞（pp.28-31）	事前 Unità 3（pp.28-31）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 3 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 9 回	Unità 4：are 動詞・ere 動詞・ire 動詞（pp.32-35）	事前 Unità 4（pp.32-35）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 4 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 10 回	Unità 4：are 動詞・ere 動詞・ire 動詞（pp.36-39）	事前 Unità 4（pp.36-39）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 4 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 11 回	Unità 5：piacere（pp.40-43）	事前 Unità 5（pp.40-43）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 5 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 12 回	Unità 5：piacere（pp.44-47）	事前 Unità 5（pp.44-47）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 5 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 13 回	Unità 6：再帰動詞・不規則動詞（pp.48-53）	事前 Unità 6（pp.48-53）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 6 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 14 回	Unità 6：再帰動詞・不規則動詞（pp.52-57）	事前 Unità 6（pp.52-57）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 6 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 15 回	アルファベートと発音、Unità 1-6 のまとめ	事前 アルファベートと発音、Unità 1・6 の復習 事後 授業内容の復習、期末試験の準備	120 分 150 分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価

主に期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
【評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 10％、期末試験 90％】

テキスト

遠藤礼子著 『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版』（白水社）

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考 イタリア語の辞書については初回の授業で紹介する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	

専門／学年： 全専門／1～2 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要

イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。伊語・1 からの継続講義。
動詞の用法を中心に初級文法の学習を進めながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。
語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標

過去や未来の時制をはじめ、動詞の用法についての理解を深めて語彙も増やし、日常のコミュニケーションに必要な表現の基本を身につけることが目標である。

授業計画

原則的に教科書にしたがって授業を進める。
履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

第 1 回	Unità 1-3 の復習	事前 Unità 1-3 のテキストや解説の復習 事後 教科書巻末にある Unità 1-3 の練習問題の復習	120 分 150 分
第 2 回	Unità 4-6 の復習	事前 Unità 4-6 のテキストや解説の復習 事後 Unità 4-6 の練習問題の復習	120 分 150 分
第 3 回	Unità 7：補助動詞（教科書 pp.58-61）	事前 Unità 7（pp.58-61）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 7 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 4 回	Unità 7：補助動詞（pp.62-65）	事前 Unità 7（pp.62-65）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 7 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 5 回	Unità 8：近過去（pp.66-67）	事前 Unità 8（pp.66-67）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 6 回	Unità 8：近過去（pp.68-69）	事前 Unità 8（pp.68-69）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 7 回	Unità 8：近過去（pp.70-73）	事前 Unità 8（pp.70-73）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 8 回	Unità 9：半過去（pp.74-75）	事前 Unità 9（pp.74-75）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 9 回	Unità 9：半過去（pp.76-79）	事前 Unità 9（pp.76-79）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 10 回	Unità 9：未来（pp.80-81）	事前 Unità 9（pp.80-81）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 11 回	Unità 9：未来（pp.82-85）	事前 Unità 9（pp.82-85）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 12 回	Unità 11：命令法（pp.86-87）	事前 Unità 11（pp.86-87）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 11 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 13 回	Unità 11：命令法（pp.88-91）	事前 Unità 11（pp.88-91）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 11 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 14 回	Unità 7-8 のまとめ	事前 Unità 7-8 の復習 事後 授業内容の復習	120 分 150 分
第 15 回	Unità 9-11 のまとめ	事前 Unità 9-11 の復習 事後 授業内容の復習、期末試験の準備	120 分 150 分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価

主に期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
【評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 10％、期末試験 90％】

テキスト

遠藤礼子著 『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版』（白水社）

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考 伊語・1（前期）の継続講義となるので、伊語・1 の単位取得者が対象。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	フランス語を初めて学習する者を対象に、基礎的な文法や語彙、会話表現を習得する。また、会話にとって重要な要素である聞き取りの練習にも重点を置く。こうした総合的な語学学習を通し、多角的な視点でフランス語圏の文化に触れる。

到達目標 文字と綴りの関係を学び、フランス語の持つリズムに慣れることから始め、基礎的な文法事項を習得・定着させることを目標とする。

授業計画				
第 1 回	フランス語の綴りと発音 Leçon1 あいさつの表現、「お元気ですか?」の言い方、お礼・おわびの言い方	事前	教科書の音声ダウンロードし、アルファベの発音を確認する。	60 分
		事後	Leçon1 を復習する。	180 分
第 2 回	Leçon2 名詞の性と数 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 3 回	Leçon2 冠詞 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 4 回	Leçon2 提示の表現 Révisions 1	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 5 回	Leçon3 主語になる代名詞、-er 形の規則動詞（第 1 群規則動詞） Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3 を復習する。	180 分
第 6 回	Leçon3 否定文の作り方 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3 を復習する。	180 分
第 7 回	Leçon4 動詞 être の活用、用法、国籍・身分・職業などの言い方 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon4 を復習する。	180 分
第 8 回	Leçon4 疑問文の作り方、疑問文への答え方 Révisions 2	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon4 を復習する。	180 分
第 9 回	Leçon5 動詞 avoir の活用、否定の冠詞 de Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon5 を復習する。	180 分
第 10 回	Leçon5 Il y a の用法、avoir を使う慣用的な表現 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon5 を復習する。	180 分
第 11 回	Leçon6 形容詞の位置、形容詞の性と数 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon6 を復習する。	180 分
第 12 回	Leçon6 特殊な語尾変化をする形容詞、指示形容詞 Révisions3	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon6 を復習する。	180 分
第 13 回	Leçon7 動詞の種類と現在形の活用、-ir 形の規則動詞（第 2 群規則動詞）・不規則動詞（partir、sortir など）、Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon7 を復習する。	180 分
第 14 回	Leçon7 所有形容詞、時刻の表現 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon7 を復習する。	180 分
第 15 回	理解度の確認	事前	Leçon1～7 の内容を復習し、学期末試験の準備を整える。	60 分
		事後	理解が十分でなかった箇所を把握し、復習する。	180 分

フィードバック 課題や小テストについて、コメントを付けて学修成果をフィードバックする。

成績評価	概ね次の割合で総合的に評価する。
	学期末試験 40%、授業での積極的な取組み 40%、課題提出 20%
テキスト	松村博史著『リエゾン 1 Liaison1』（白水社、2023 年）
	その他、必要に応じプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応。もしくは事前にメールで日時調整をし、個別に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	☑	□	□

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	フランス語を初めて学習する者を対象に、基礎的な文法や語彙、会話表現を習得する。また、会話にとって重要な要素である聞き取りの練習にも重点を置く。こうした総合的な語学学習を通し、多角的な視点でフランス語圏の文化に触れる。

到達目標 文字と綴りの関係を学び、フランス語の持つリズムに慣れることから始め、基礎的な文法事項を習得・定着させることを目標とする。

授業計画				
第 1 回	Leçon8 動詞 aller と venir の活用、前置詞 à/de と定冠詞の縮約 Exercices	事前	前期で学んだ文法事項を確認する。	60 分
		事後	Leçon8 を復習する。	180 分
第 2 回	Leçon8 近接未来（近い未来）と近接過去（近い過去）、主語になる代名詞 on Révisions4	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon8 を復習する。	180 分
第 3 回	Leçon9 動詞 faire と prendre の活用、命令文の作り方 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon9 を復習する。	180 分
第 4 回	Leçon9 疑問詞を使った疑問文 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon9 を復習する。	180 分
第 5 回	Leçon9 疑問形容詞 quel Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon9 を復習する。	180 分
第 6 回	Leçon10 直接目的補語と間接目的補語、直接・間接目的補語の代名詞 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon10 を復習する。	180 分
第 7 回	Leçon10 目的補語の代名詞を使う命令文、強勢形の代名詞 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon10 を復習する。	180 分
第 8 回	Leçon10 代名動詞 Révisions5	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon10 を復習する。	180 分
第 9 回	Leçon11 形容詞と副詞の比較級 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon11 を復習する。	180 分
第 10 回	Leçon11 形容詞と副詞の最上級 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon11 を復習する。	180 分
第 11 回	Leçon11 bon と bien の比較級・最上級、attendre と répondre などの不規則動詞 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon11 を復習する。	180 分
第 12 回	Leçon12 複合過去の形と用法、avoir を使う複合過去 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon12 を復習する。	180 分
第 13 回	Leçon12 être を使う複合過去 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon12 を復習する。	180 分
第 14 回	Leçon12 代名動詞の複合過去 Révisions6	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon12 を復習する。	180 分
第 15 回	理解度の確認	事前	Leçon8～12 の内容を復習し、学期末試験の準備を整える。	60 分
		事後	理解が十分でなかった箇所を把握し、復習する。	180 分

フィードバック 課題や小テストについて、コメントを付けて学修成果をフィードバックする。

成績評価	概ね次の割合で総合的に評価する。
	学期末試験 40%、授業での積極的な取組み 40%、課題提出 20%
	松村博史著『リエゾン 1 Liaison1』（白水社、2023 年）
テキスト	その他、必要に応じプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応。もしくは事前にメールで日時調整をし、個別に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

仏語Ⅱ-1		科目コード：FOR203	
非常勤講師 八木直子			
専門／学年：		全専門／2 年次	
形態：		単位数：2 単位	
概要		仏語Ⅰを履修した初級文法習得者を対象とし、フランス語能力をさらに伸ばしていく。語学の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的に磨き、文法をしっかりと習得するとともに双方向のコミュニケーションを意識し、教科書の題材やフランス文化についてディスカッションを行う。	
到達目標		フランス語の基礎力を確実なものとし、必要な表現を自分で発信できるようになることを目指す。	

授業計画				
第 1 回	『ル・フランセ・クレール』 Leçon1～7 まとめ Leçon8 形容詞・副詞の比較級、最上級、特殊な比較級・最上級	事前	仏語Ⅰで学んだ文法事項を復習する	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 2 回	Leçon9 faire, prendre の直説法現在、命令形、非人称構文 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 3 回	Leçon10 目的語になる人称代名詞・強勢形 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 4 回	Leçon11 過去分詞、直説法複合過去 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 5 回	Leçon12 関係代名詞、強調構文 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 6 回	Leçon13 代名動詞、指示代名詞 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 7 回	Leçon14 pouvoir, vouloir, devoir の直説法現在、直説法単純未来 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 8 回	Leçon15 中性代名詞 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 9 回	Leçon16 直説法半過去 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 10 回	Leçon16 受動態 Exercices, Vocabulaire	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Exercices と Vocabulaire を復習する。	180 分
第 11 回	『リエゾン 2』 Leçon1 動詞の現在形の復習 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon1 を復習する。	180 分
第 12 回	Leçon1 複合過去の復習 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon1 を復習する。	180 分
第 13 回	Leçon2 動詞 pouvoir, vouloir, devoir の活用と用法 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 14 回	Leçon2 中性代名詞 en, y, le の用法 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 15 回	理解度の確認	事前	これまでの内容を復習し、学期末試験の準備を整える。	60 分
		事後	理解が十分でなかった箇所を把握し、復習する。	180 分

フィードバック 課題や小テストについて、コメントを付けて学修成果をフィードバックする。

成績評価 概ね次の割合で総合的に評価する。
学期末試験 40%、授業での積極的な取り組み 40%、課題提出 20%

テキスト 最初に「仏語Ⅰ」で使用した次のテキストを使用するため、初回授業は持参すること。
清岡智比古著『ル・フランセ・クレール[三訂版] Le français clair (troisième édition)』（白水社、2021 年）

その後、松村博史、エディ・バンドロム著『リエゾン2 Liaison2』（白水社、2024 年）を使う予定だが、購入指示は授業内で行う。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応。もしくは事前にメールで日時調整をし、個別に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	☑	□	□

仏語Ⅱ-2

非常勤講師 八木直子

科目コード：FOR204

専門／学年： 全専門／2 年次

形態： 単位数：2 単位

概要 仏語Ⅰを履修した初級文法修得者を対象とし、フランス語能力をさらに伸ばしていく。語学の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的に磨き、文法をしっかりと習得するとともに双方向のコミュニケーションを意識し、教科書の題材やフランス文化についてディスカッションを行う。

到達目標 フランス語の基礎力を確実なものとし、必要な表現を自分で発信できるようになることを目指す。

授業計画

第1回	Leçon3 未来の表現、単純未来の活用と用法 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3を復習する。	180 分
第2回	Leçon3 前未来、指示代名詞 Révisions1	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3を復習する。	180 分
第3回	Leçon4 時・理由・条件を表す接続詞 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon4を復習する。	180 分
第4回	Leçon4 「～させる」「～させておく」の言い方、所有代名詞 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon4を復習する。	180 分
第5回	Leçon5 半過去の活用、半過去の用法 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon5を復習する。	180 分
第6回	Leçon5 大過去の用法 Révisions2, Lecture1 Les Français et le cinéma	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon5を復習する。	180 分
第7回	Leçon6 関係代名詞、強調構文、「～と言う」「～と思う」などの言い方 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon6を復習する。	180 分
第8回	Leçon7 現在分詞の使い方、ジェロンディフ Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon7を復習する。	180 分
第9回	Leçon7 受動態、過去分詞の形容詞的な用法 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon7を復習する。	180 分
第10回	Leçon8 条件法現在 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon8を復習する。	180 分
第11回	Leçon8 条件法過去、選択を尋ねる疑問代名詞 Révisions3	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon8を復習する。	180 分
第12回	Leçon9 接続法の考え方と用法、接続法現在 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon9を復習する。	180 分
第13回	Leçon9 接続法過去、感覚動詞 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon9を復習する。	180 分
第14回	Leçon10 直接話法と間接話法、時制の一致、単純過去 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles, Révisions4, Lecture2 La tour Eiffel	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon10を復習する。	180 分
第15回	理解度の確認	事前	Leçon 3～10の内容を復習し、学期末試験の準備を整える。	60 分
		事後	理解が十分でなかった箇所を把握し、復習する。	180 分

フィードバック 課題や小テストについて、コメントを付けて学修成果をフィードバックする。

成績評価 概ね次の割合で総合的に評価する。
学期末試験 40%、授業での積極的な取組み 40%、課題提出 20%

テキスト 松村博史、エディ・バンドロム著『リエゾン2 Liaison2』（白水社、2024 年）
その他、必要に応じプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応。もしくは事前にメールで日時調整をし、個別に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	☑	□	□

初年次プログラム

学科長 教授 内田有一／准教授 廣枝優子	科目コード：CAR101
専門／学年： 全専門／1 年次	

形態：講義	単位数：2 単位
概要	短大に入学した新入生はキャリアのビジョンをもち2年間の学修に取り組むとともに、教養を深めることが重要である。このプログラムは、自己のキャリア形成を考え、Society5.0 の市民としての教養的資質を身に付けることをねらいとする。

到達目標	2年後の自分を思い描き、何をどう学ぶかについて自己の自覚を深める。音楽文化を題材とした主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）の学習を通して現代を生きる市民としての在り方を考え、大学で学ぶことの意義について自覚する。
------	--

授業計画		
第 1 回	キャリア学習① 3つのポリシーを理解し、学修の見通しをもつ。 キャリア形成の考え方、3 年次編入、留学について理解し自己のキャリア観を明確にする。	事前 学生のためのハンドブックを読み、履修計画表、講義要旨、授業時間表を読む。 140 分 事後 時間割に基づいた生活の在り方について考える。 140 分
	第 2 回 学内情報の利用方法（情報モラル含む） 学修への心構え（授業への出席、実技試験におけるステージマナーの修得）	事前 学生便覧を読む。 140 分 事後 時間割の完成 140 分
第 3 回	自校史	事前 自校史の資料を読む。 140 分 事後 自校史に関するレポートを書く。 140 分
第 4 回	卒業生講話 キャリア学習③	事前 自己の将来についてまとめておく。 100 分 事後 講話を基に自己の将来を考える。 180 分
第 5 回	レポートの基本（読解力・執筆力）	事前 『学生のためのハンドブック』の該当項を読み、理解する。 150 分 事後 授業で配布された資料や、聴講した内容を復習し、レポートの執筆方法をまとめる。 150 分
第 6 回	短期大学での学び－アクティブ・ラーニングの基本	事前 アクティブ・ラーニングにはどのような手法や実践方法があるのか調べる。 150 分 事後 授業で配布された資料や、聴講した内容を復習し、授業の種類を理解する。 150 分
第 7 回	自分にとって音楽ってなんだろう	事前 自分にとって音楽とはなにかについて、考える。 150 分 事後 授業で配布された資料や意見交流から、各自探究課題を立てる。 150 分
第 8 回	課題探究①資料収集	事前 図書館やインターネットなどを利用し、各自の課題探究に必要な資料を収集する。 150 分 事後 課題探究に必要な資料を分析し、考察をする。 150 分
第 9 回	課題探究②プレゼンテーション資料の作成	事前 各自の課題探究に必要な資料収集など準備する。 150 分 事後 効果的なプレゼンテーションの技法をふまえて資料を作成する。 150 分
第 10 回	「音楽と自分」をテーマにしたプレゼンテーション①	事前 プレゼンテーションに使用する資料を作成し、発表・討論の準備をする。 150 分 事後 プレゼンテーションや意見交流を通して学んだことをまとめる。 150 分
第 11 回	「音楽と自分」をテーマにしたプレゼンテーション②	事前 プレゼンテーションに使用する資料を作成し、発表・討論の準備をする。 150 分 事後 プレゼンテーションや意見交流を通して学んだことをまとめる。 150 分
第 12 回	「音楽と自分」をテーマにしたプレゼンテーション③	事前 プレゼンテーションに使用する資料を作成し、発表・討論の準備をする。 150 分 事後 プレゼンテーションや意見交流を通して学んだことをまとめる。 150 分
第 13 回	「音楽と自分」をテーマにしたプレゼンテーション④	事前 プレゼンテーションに使用する資料を作成し、発表・討論の準備をする。 140 分 事後 プレゼンテーションや意見交流を通して学んだことをまとめる。 140 分
第 14 回	「音楽と自分」に関する学びのまとめと省察	事前 これまでの資料を読み返し、問題点や関心を持ったことを整理する。 140 分 事後 音楽文化と学びの方法についてまとめ、課題に取り組む。 140 分
第 15 回	言語表現	事前 課題作文を書いて、期限までに大学事務部へ提出する 140 分 事後 課題への取り組みを通じて、自分と音楽との関わり方を再確認する 140 分

フィードバック 「言語表現」時に口頭で初年次プログラム全体のフィードバックを行う。

成績評価 レポート 60％ 授業への取り組み 40％

テキスト 特になし

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング
備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	□

専門実技Ⅰ-1（ピアノ）

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 准教授 倉地恵子	科目コード：IND101
----------------	--------------

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	古典派の作品で読譜力・構成力・立体的表現力を身につける

到達目標	ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・運指・脱力を習得することを目標とする。
------	--------------------------------------

授業計画	前期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグルーブレッスン 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。		
第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	事前 自分の演奏で何が不足しているかを考える 事後 1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分 420 分
第 2 回	基礎的なことの確認－姿勢－	事前 様々な椅子の高さで演奏を試み、最適な椅子の高さを探す 事後 椅子に座った時の姿勢を確認しながら演奏をする	420 分 420 分
第 3 回	基礎的なことの確認－打鍵－	事前 ピアノアンサンブルⅠで調べた打鍵のしくみを確認する 事後 打鍵を確認しながら、1 つ 1 つの音をしっかりと演奏する	420 分 420 分
第 4 回	基礎的なことの確認－脱力－	事前 体を動かして肘・手首の脱力を試みる 事後 肩・肘・手首に力が入らずに演奏できているかを確認をする	420 分 420 分
第 5 回	グルーブレッスン① ー前期試験に向けての勉強の仕方ー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 6 回	前期試験曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして、読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をする	420 分 420 分
第 7 回	前期試験曲－形式－	事前 形式を考え、練習をする 事後 ソナタ形式について調べ、演奏に結びつける	420 分 420 分
第 8 回	前期試験曲－様式－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 前期試験曲－表現－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 10 回	前期試験曲－和声感－	事前 和声機能の確認をする 事後 和音の響きを確認する	420 分 420 分
第 11 回	前期試験曲－強弱－	事前 強弱の確認をする 事後 コントラストのつけ方の研究をする	420 分 420 分
第 12 回	前期試験曲－音色－	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探る 事後 曲のキャラクターを考え、練習をする	420 分 420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 前期試験曲－より深い解釈－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 14 回	前期試験曲－より深い表現－	事前 表現を掘り下げて練習をする 事後 独自の表現ができているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	前期試験曲－仕上げ－	事前 アーディキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をするように心がけて、練習をする	420 分 420 分

フィードバック	前期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。
---------	--------------------------------------

成績評価	実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％ 試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
------	--

テキスト	適宜授業内に指示する。
------	-------------

オフィスアワー	各実技担当教員のレッスン室で対応する。（各実技担当教員レッスン日）
---------	-----------------------------------

アクティブ・ラーニング	3 回のグルーブレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	☒	☒	□	□

専門実技Ⅰ-2（ピアノ）

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 准教授 倉地恵子	科目コード：IND102
----------------	--------------

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：実技 単位数：2 単位

概要 ロマン派、近現代の作品で、表現能力・音楽性を身につける。

到達目標 表現力・音の色彩感を養うことを目標とする。

授業計画 後期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグルーブレッスン
実技演習においては、各人の進捗に合わせて授業を進める。

第 1 回	オーディションの曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認して、練習をする	420 分 420 分
第 2 回	オーディションの曲－解釈－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 形式を考え、練習をする	420 分 420 分
第 3 回	オーディションの曲－表現－	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す	420 分 420 分
第 4 回	グルーブレッスン① オーディションの曲－仕上げ－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 5 回	後期試験曲－後期試験に向けての勉強の仕方	事前 作品を決め、読譜をはじめる 事後 作曲家について調べる	420 分 420 分
第 6 回	後期試験曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をし、練習をする	420 分 420 分
第 7 回	後期試験曲－形式－	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420 分 420 分
第 8 回	後期試験曲－様式－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 後期試験曲－表現－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 10 回	後期試験曲－和声感－	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和音の響きを意識して、練習をする	420 分 420 分
第 11 回	後期試験曲－強弱－	事前 強弱の確認をして練習をする 事後 コントラストのつけ方の研究をして、練習する	420 分 420 分
第 12 回	後期試験曲－音色－	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分 420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 後期試験曲－細部の表現－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 14 回	後期試験曲－細部の音色－	事前 タッチの確認をして練習をする 事後 色彩感のある音を出しているか、確認をしながら、練習をする	420 分 420 分
第 15 回	後期試験曲－仕上げ－	事前 曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする 事後 広い空間での響きを意識して、練習をする	420 分 420 分

フィードバック オーディション・後期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各実技担当教員のレッスン室で対応する。（各実技担当教員レッスン日）

アクティブ・ラーニング 3 回のグルーブレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	様々な作曲家特有の語法を学ぶ。

到達目標 バランス・聴きとる力を養い、学内演奏会でのホール演奏に結びつける。

授業計画 前期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグルーブレッスン。
実技演習においては、ピアノアンサンブルⅡ-1 の学内演奏会の曲の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	事前 レパートリーに加えたい作品を選ぶ	420 分
		事後 1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分
第 2 回	オーディションの曲―定期演奏会オーディションに向けての勉強の仕方―	事前 作品を決め、読譜を始める	420 分
		事後 作曲家について調べる	420 分
第 3 回	オーディションの曲―読譜の確認―	事前 楽語を調べ、楽語を意識して、練習する	420 分
		事後 正しい読譜が出来ているか確認をする	420 分
第 4 回	オーディションの曲―様式・形式―	事前 作曲家の時代背景を考える	420 分
		事後 曲の形式を考える	420 分
第 5 回	グルーブレッスン① 定期演奏会オーディションに向けての勉強の仕方―	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	420 分
		事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分
第 6 回	オーディションの曲―和声感―	事前 和声機能の確認をして、練習をする	420 分
		事後 和音の響きを意識して、練習をする	420 分
第 7 回	オーディションの曲―強弱・音色―	事前 強弱の確認をし、作曲家の要求している音色を探る	420 分
		事後 コントラストのつけ方、曲のキャラクターを考える	420 分
第 8 回	オーディションの曲―フレーズ感―	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする	420 分
		事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 定期演奏会オーディション曲―表現―	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	420 分
		事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分
第 10 回	オーディションの曲―テンポ感―	事前 表現をする上で、最適なテンポを探し、設定する	420 分
		事後 テンポの不自然なふらつきがないか、確認をする	420 分
第 11 回	学内演奏会の曲―様式―	事前 作曲時の時代背景を調べる	420 分
		事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分
第 12 回	学内演奏会の曲―表現―	事前 表現方法を考えて、練習をする	420 分
		事後 表現をする上で、最適なテンポを探し、練習をする	420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 前期試験曲―より深い解釈―	事前 強弱の確認をして、練習をする	420 分
		事後 コントラストのつけ方を研究して、練習する	420 分
第 14 回	学内演奏会の曲―強弱―	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	420 分
		事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分
第 15 回	学内演奏会の曲―仕上げ―	事前 2 人でタッチの確認をし、掘り下げた表現ができているか確認をする	420 分
		事後 声部それぞれが生きており、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分

フィードバック 学内演奏会の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 学内演奏会 60%、課題 20%、授業態度 20%

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

アクティブ・ラーニング 3 回のグルーブレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（ピアノ）

ピアノ主任 准教授 倉地恵子

科目コード：IND202

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	より高度なテクニック・より深い音楽表現・より豊かな表現力を習得する。

到達目標	楽曲にあった音色・音楽表現を追及し、オーディション・卒業演奏試験で質の高い演奏を目指す。
------	--

授業計画	後期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグルーブレッスン 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	--

第 1 回	オーディションの曲―細かいニュアンス	事前 事後	タッチの確認をして、練習する 色彩感のある音を出しているか確認して、練習する	420 分 420 分
第 2 回	オーディションの曲―響き―	事前 事後	和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分 420 分
第 3 回	オーディションの曲―仕上げ―	事前 事後	曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする 掘り下げた表現ができているか確認をする	420 分 420 分
第 4 回	グルーブレッスン① オーディションの曲―仕上げ―	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 5 回	試験曲―卒業演奏試験に向けての勉強の仕方―	事前 事後	作品を決め、読譜をする 作曲家について、調べる	420 分 420 分
第 6 回	試験曲―読譜の確認―	事前 事後	楽譜を調べ、楽譜を意識して、練習をする 正しい読譜が出来ているか、確認をする	420 分 420 分
第 7 回	試験曲―形式―	事前 事後	形式を考えて、練習をする 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420 分 420 分
第 8 回	試験曲―様式―	事前 事後	作曲時の時代背景を調べる 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 後期試験曲―表現―	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 10 回	試験曲―和声感―	事前 事後	和声機能の確認をして、練習をする 和音の響きを意識して、練習をする	420 分 420 分
第 11 回	試験曲―強弱―	事前 事後	強弱の確認をして、練習する コントラストのつけ方を研究して、練習をする	420 分 420 分
第 12 回	試験曲―音色―	事前 事後	作曲家の要求している音色を探る 曲のキャラクターを考える	420 分 420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 後期試験曲―細部の表現―	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 14 回	試験曲―細部の音色―	事前 事後	タッチの確認をする 色彩感のある音を出しているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	試験曲―より深い解釈―	事前 事後	和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分 420 分

フィードバック	オーディション・卒業演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	卒業演奏試験の評価が 50 点以上であること。卒業演奏試験 60%、課題 20%、授業態度 20% 試験にレッスンへの取り組み等を加味して、総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
------	---

テキスト	適宜、授業内に指示する。
------	--------------

オフィスアワー	各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）
---------	------------------------------

アクティブ・ラーニング	3 回のグルーブレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅰ-1（器楽）

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：IND101

専門／学年：器楽専門／1 年次

形態：実技 単位数：2 単位

概要 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。前期試験に向けて計画を立て学修する。

授業計画		前期 15 回 各人 50 分の個人指導（グループレッスン含む） 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。
第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前 入学前の学習を確認し学習計画案を立てる 420 分 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（装飾法を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 他の楽器の問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす 420 分
第 5 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、弦楽器のバロック音楽を調べる 420 分 事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす 420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、木管楽器のバロック音楽を調べる 420 分 事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす 420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、金管・打楽器のバロック音楽を調べる 420 分 事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす 420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する 420 分

フィードバック 前期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅰ-2（器楽）

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 特任教授 飯島和久	科目コード：IND102
----------------	--------------

専門／学年：器楽専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標	個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。後期試験に向けて計画を立て学修する。
------	---

授業計画	後期 15 回 各人 50 分の個人指導（グループレッスン含む） 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。			
	第 1 回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 4 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、弦楽器の古典時代の音楽を調べる	420 分	
		事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分	
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、木管楽器の古典時代の音楽を調べる	420 分	
		事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分	
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ後期試験曲を学ぶ	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（テクニックを学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（音楽表現を学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、金管・打楽器の古典時代の音楽を調べる	420 分	
		事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分	
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分	
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、後期試験に向けて練習する	420 分	

フィードバック 後期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各教員から教則本、楽曲等の指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-1（器楽）

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：IND201

専門／学年：器楽専門／2 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要

専門実技Ⅱ-1 は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標

個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画

前期 15 回 各人 50 分の個人指導（グループレッスン含む） 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	一年次の学習を確認し学習計画案を立てる	420	分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420	分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（演奏スタイルを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 5 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、学内演奏会に向けて練習する	420	分

フィードバック

学内演奏会の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価

学内演奏会において評価する。評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト

各実技教員から指示あり。

オフィスアワー

各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考

1 回あたりの時間数（事前・事後）は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（器楽）

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：IND202

専門／学年：器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	専門実技Ⅱ-2は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標	個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。
------	--

授業計画	後期 15 回 各人 50 分の個人指導（グルーブレッスン含む） 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。
------	---

第 1 回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる	420 分
		事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 4 回	グルーブレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ後期試験曲を中心に	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（テクニクを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（音楽表現を学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後 問題箇所を確認し、卒業演奏試験に向けて練習する	420 分

フィードバック	卒業演奏試験の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。
---------	-----------------------------------

成績評価	実技試験・卒業演奏試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％ なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。
------	---

テキスト	各実技教員から指示あり。
------	--------------

オフィスアワー	各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）
---------	--------------------------

備考	1 回あたりの時間数（事前・事後）は各教員からの指示がある。
----	--------------------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅰ-1（声楽）

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND101

専門／学年：声楽専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱に必要な基礎技術を習得する。すなわち正しい姿勢、腹式呼吸による自然な発声を身につける。

到達目標	エチュード、イタリア古典歌曲を中心題材として歌唱の基本技術を体得することを目標とする。 声楽の技術、音楽を学び、実技試験等に向け表現力を養う。
------	--

授業計画	各人 50 分の個人指導 試験課題は、任意の歌曲 1 曲。
------	----------------------------------

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	90 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	グルーブレッスン① ー前期試験に向けてー	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 詩（ディクション）と音（メロディー）との関わり方	事前	練習曲⑤ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	練習曲⑤ 課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	歌曲、楽譜を読み込む 2 詩（ディクション）と音（メロディー）との関わり方	事前	練習曲⑤ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲④ 課題曲⑤ 言葉の意味を調べる	210 分
第 8 回	声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲④ 課題曲⑤ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲④ 課題曲⑤ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 9 回	前期試験曲を学ぶ 1 音程・リズムを正確に読む	事前	前期試験曲の言葉（単語）の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら反復練習	210 分
第 10 回	グルーブレッスン② 前期試験曲ー表現ー	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら反復練習	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強弱や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら反復練習	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 暗譜を確かなものとする	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに確認、練習をする	210 分
第 14 回	グルーブレッスン③ ー前期試験曲を仕上げるー	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしなが伴奏合わせをくり返す	90 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック	試演、試験後に個人面談のかたちで学修成果をフィードバックする
---------	--------------------------------

成績評価	実前期演奏試験、評価は複数の教員による採点。
------	------------------------

テキスト	コンコーネ 50 番 他 イタリア古典歌曲集 等 担当教員より、ガイダンス及び授業内にて適宜指示する。
------	---

オフィスアワー	各教員の出校日 各教員のレッスン室
---------	----------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐		☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技 I -2（声楽）

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直	科目コード：IND102
--------------	--------------

専門／学年： 声楽専門／1 年次

形態：実技 単位数：2 単位

概要 個人レッスンの形態で、声楽の基礎技術および音楽を学ぶ。日本歌曲を含む歌唱技術と表現力を身につける。

到達目標 ディクシオン（詩・韻律）と音楽（旋律）との深い関わりを認識し、技術と表現力を向上を目標とする。
前期の学習を踏まえ、発声、エチュード、イタリア歌曲及び日本歌曲にて声楽の基礎の確立を目指す。

授業計画 各人 50 分の個人指導
試験課題は、日本歌曲および自由曲。上記を題材とし、読譜力、解釈力、演奏様式を身につける

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の選曲と譜読み	210 分 210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲①及び②の譜読み 事後 課題曲①及び②を音程、リズムに注意して練習する	210 分 210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲①及び②の言葉の意味を調べる 事後 課題曲①及び②を言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 4 回	グルーブレッスン① ーオーディション曲の仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分 210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	事前 課題曲③及び④の詩の内容を考える 発音練習する 事後 課題曲③及び④の詩の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210 分 210 分
第 6 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究、楽譜の意味を知る	事前 課題曲③及び④ 強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲③及び④ 表現、テンポを考えながら反復練習	210 分 210 分
第 7 回	後期試験曲を探る 読譜、音程・リズムを正確に	事前 課題曲⑤及び⑥ 譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥ 音程、リズムを正確に読む	210 分 210 分
第 8 回	後期試験曲を選ぶ 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 後期試験曲 発音練習母音と子音の明確化 事後 後期試験曲 表現、テンポを意識する	210 分 210 分
第 9 回	後期試験曲を学ぶ 1 表現法の研究、楽譜を読みこむ	事前 後期試験曲 言葉の意味、時代背景等調べる 事後 後期試験曲 言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 10 回	グルーブレッスン② ー後期試験に向けての勉強の仕方ー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習および曲の内容を把握する 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分 210 分
第 11 回	後期試験曲を学ぶ 2 テンポの変化、強弱他を意識する	事前 後期試験曲 単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする 事後 後期試験曲 詩の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 12 回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	事前 後期試験曲 伴奏あわせをする。 強弱他音楽用語を調べる 事後 後期試験曲 伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにする	事前 後期試験曲 伴奏者とともに表現方法を工夫する 事後 後期試験曲 曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い、後期試験曲を学ぶ ー表現ー	事前 呼吸、テンポ等、伴奏者と確認をする 事後 伴奏合わせを繰り返し、暗譜をする	210 分 210 分
第 15 回	グルーブレッスン③ 後期試験曲ー仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 伴奏者とともに曲の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック オーディション、定期演奏会等後に個人面談の形で、後期を振り返り、成果や次の課題を話し合う

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50 番 他
曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-1（声楽）

専門／学年：声楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標	1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを広げながら発声法・技術の向上を目指す。
------	---

授業計画	各人 50 分の個人指導。学内演奏会（独唱または重唱、器楽のオブリガードを伴う楽曲を含む）に向け、技術及び表現を身につける
------	---

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	90 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	グループレッスン① 詩（ディクショ）ン）と音（メロディー）との関わり方、楽譜の意味	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 詩の内容を理解する	事前	練習曲⑥ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲③、課題曲④ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 8 回	前期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前	課題曲③、課題曲④ 暗譜して練習する	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 暗譜の確認と表現法の研究	210 分
第 9 回	前期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	事前	前期試験曲の譜読み	210 分
		事後	前期試験曲の音程、リズムを正確に読む練習	210 分
第 10 回	グループレッスン② 母音と子音の明確化	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習、楽譜の意味を考える	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 問題点の認識と解決をはかる	事前	前期試験曲、伴奏合わせを繰り返す	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに練習	210 分
第 14 回	グループレッスン③ 前期試験曲を仕上げる	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしながら伴奏合わせをくり返す	210 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック 試演会、学内演奏会後、個人面談の形で前期を振り返り、次の課題を話し合う。

成績評価 前期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ、イタリア歌曲、その他
レッスン時に指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（声楽）

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND202

専門／学年：声楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標	1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを広げながら発声法・技術の向上を目指す。
------	---

授業計画	各人 50 分の個人指導。卒業課題は歌曲 1 曲、自由曲 1 曲。前期に加え、演奏の完成度を上げる
------	---

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の譜読み	210 分 210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲⑤及び⑥の譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥を音程、リズムに注意して練習する	210 分 210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥を言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 4 回	グルーブレッスン① ーオーディション曲の仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り復習する	210 分 210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究	事前 課題曲⑤及び⑥、強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥、表現、テンポを考えながら練習	210 分 210 分
第 6 回	後期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 課題曲⑦ 譜読み 事後 課題曲⑦⑧音程、リズムを正確に読む	210 分 210 分
第 7 回	後期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	事前 課題曲⑦⑧発音練習母音と子音の明確化 事後 課題曲⑦⑧表現、テンポを意識する	210 分 210 分
第 8 回	後期試験曲を学ぶ 1 母音、子音の明確化	事前 課題曲⑦⑧単語の意味を調べる、楽譜を調べる 事後 課題曲⑦⑧単語及び詩の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 9 回	後期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前 課題曲⑦⑧曲の内容を把握する 事後 課題曲⑦⑧曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 10 回	グルーブレッスン② ー後期試験に向けての勉強の仕方ー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、又は演奏される曲の内容を調べる 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り復習する	210 分 210 分
第 11 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前 試験曲の言葉の意味、時代背景等調べる 事後 試験曲の言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 12 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 2 楽曲の研究を深める	事前 試験曲の単語、文章の意味を調べる 事後 試験曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 3 楽曲の研究を深め、暗譜をする	事前 試験曲の伴奏合わせをする 強弱や音楽用語を調べる 事後 試験曲の伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い、後期試験曲を学ぶ ー表現ー	事前 試験曲の伴奏合わせを繰り返し、暗譜する 事後 試験曲の呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210 分 210 分
第 15 回	グルーブレッスン③ 後期試験曲ー仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り練習する	210 分 210 分

フィードバック 試演会、後期試験その他後、個人面談の形で振り返る。

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ、イタリア歌曲、オペラアリア等
レッスン時に指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF206

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	作曲法とは、旋律・和声・リズムなどの音楽形成の要素を駆使してひとつの楽曲を作り上げる方法のことである。特に変奏曲を中心に分析を行う。また、変奏曲の作曲にも取り組み、音出しをする。
----	---

到達目標 簡単な作曲ができるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【変奏曲の分析】		【変奏曲の作曲】			
第1回	ガイドンス	変奏曲とは	事前 事後	変奏曲の予習 変奏曲の復習	「変奏曲」の項目を音楽事典で読む 30分 30分
第2回	変奏曲（作品a上）	（変奏A）	事前	作品a、変奏Aの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	伴奏形	事後	作品a、変奏Aの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第3回	変奏曲（作品a中）	（変奏B）	事前	作品a、変奏Bの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	刺繍音	事後	作品a、変奏Bの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第4回	変奏曲（作品a下）	（変奏C）	事前	作品a、変奏Cの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	経過音	事後	作品a、変奏Cの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第5回	ヴァイオリンの変奏曲（作品b前半）	（変奏D）	事前	作品b、変奏Dの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	パガニーニ：24の奇想曲 第24番	倚音	事後	作品b、変奏Dの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第6回	ヴァイオリンの変奏曲（作品b後半）	（変奏E）	事前	作品b、変奏Eの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	パガニーニ：24の奇想曲 第24番	掛留音	事後	作品b、変奏Eの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第7回	変奏曲（作品c前半）	（変奏F）	事前	作品c、変奏Fの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：ピアノソナタK.331 第1楽章	先取音	事後	作品c、変奏Fの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第8回	変奏曲（作品c後半）	（変奏G）	事前	作品c、変奏Gの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：ピアノソナタK.331 第1楽章	逸音	事後	作品c、変奏Gの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第9回	変奏曲（作品d）	（変奏H）	事前	作品d、変奏Hの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	ヘンデル：調子のよい鍛冶屋	和声音	事後	作品d、変奏Hの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第10回	変奏曲（作品e前半） ベートーヴェン：	（変奏I）	事前	作品e、変奏Iの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「トルコ行進曲」による変奏曲	和音	事後	作品e、変奏Iの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第11回	変奏曲（作品e後半） ベートーヴェン：	（変奏J）	事前	作品e、変奏Jの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「トルコ行進曲」による変奏曲	移旋	事後	作品e、変奏Jの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第12回	変奏曲（作品f前半） ベートーヴェン：	（変奏K）	事前	作品f、変奏Kの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「わが心もはやうつろになりて」による変奏曲	拍子の変更	事後	作品f、変奏Kの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第13回	変奏曲（作品f後半） ベートーヴェン：	変奏曲の作曲法（基礎）	事前	作品f、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「わが心もはやうつろになりて」による変奏曲		事後	作品f、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第14回	変奏曲（作品g）	変奏曲の作曲法（発展）	事前	作品g、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	様々な作曲家：パガニーニの主題による変奏曲		事後	作品g、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第15回	変奏曲（作品h）	変奏曲の作曲法（総合）	事前	作品h、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	バッハ：ベル：3声のカノン		事後	作品h、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く

フィードバック 作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 作品提出・発表（変奏曲の作曲）50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF207

形態：演習

編曲法とは、旋律に、和声・リズムなどの音楽形成の要素を駆使してひとつの楽曲を作り上げる方法のことである。特にアンサンブル作品とフーガを中心に分析を行う。
また、ピアノ連弾（もしくは器楽＋ピアノ）への編曲にも取り組み、音出しをする。

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	--------------------------

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

テキスト 授業内指示

備考

[illegible]

音楽史-1

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎		科目コード：LEC101
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	主に古代ギリシア・ローマから 19 世紀に至るまでの西洋音楽史と、日本音楽史（古代・中世）を取り扱う。とりわけ音律・音階・旋法とといった音楽の基本的な構成要素と、それによって生み出される音楽のテクスチュアとその変遷の理解に重点を置く。	
到達目標	各時代の音楽様式を理解することで、ある音楽を聴いたときに、それがいつ頃の作品であるか、またどのような文化的・歴史的背景を持っているかを考え、説明することができる。	
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。	

第 1 回	音楽史の概要	事前 シラバスに目を通し、自分の興味についてまとめておく 事後 配布プリントに載る参考文献の所在を図書館で確認する	130 分 140 分
第 2 回	古代その 1 ギリシア・ローマの文化	事前 古代文明について高校世界史を復習する 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 3 回	古代その 1 音楽理論	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 4 回	中世その 1 キリスト教文化と聖歌	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 5 回	中世その 2 多声音楽	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 6 回	ルネサンスその 1 ブルゴーニュ楽派とフランドル楽派	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 7 回	ルネサンスその 2 宗教改革	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 8 回	ルネサンスその 3 世俗声楽曲と器楽	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 9 回	バロックその 1 オペラ	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 10 回	バロックその 2 オラトリオとカンタータ	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 11 回	バロックその 3 ソナタとコンチェルト	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 12 回	バロックその 4 鍵盤音楽	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 13 回	日本音楽史 古代	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 14 回	日本音楽史 中世	事前 プリント教材に目を通し、質問の準備をする 事後 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期のノートをまとめ、試験に備える。 事後 試験結果を振り返り、足りなかった点について復習する	130 分 140 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 定期試験を 50%、授業への取り組み（発言内容・小テスト・課題提出）を 50%とする。

テキスト 毎時プリント教材を配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて行う。

アクティブ・ラーニング 受講者は各自、授業で取り扱う音楽史全体の流れと各受講者の専攻との関係について調べ、発表する。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性、自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐

音楽史-2

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎		科目コード：LEC102
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	主に 19 世紀以降の西洋音楽史と、日本音楽史（近世・近現代）を取り扱う。調性音楽の確立と発展、それに伴う器楽曲の形式の変遷と、旋法の復興、多調音楽・無調音楽の台頭までの流れを概観するとともに、第二次世界大戦後から現在に至るまでの多様な音楽文化についても触れる。	
到達目標	各時代の音楽様式を理解することで、ある音楽を聴いたときに、それがいつ頃の作品であるか、またどのような文化的・歴史的背景を持っているかを考え、説明することができる。	
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。	

第 1 回	概要「19 世紀音楽」とは何か？	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 2 回	古典派その 1 概要と啓蒙主義について	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 3 回	古典派その 2 「ソナタ形式」と器楽曲	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 4 回	古典派その 3 声楽曲と交響曲	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 5 回	ロマン派その 1 歌曲	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 6 回	ロマン派その 2 ピアノと室内楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 7 回	ロマン派その 3 管弦楽とオペラ	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 8 回	19 世紀から 20 世紀へ 第一次世界大戦までの音楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 9 回	20 世紀 両大戦間の音楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 10 回	20 世紀 第二次世界大戦後の西洋芸術音楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 11 回	20 世紀 電気・電子楽器と商業音楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 12 回	21 世紀の音楽 我々の生きる時代と、音楽のこれからについて	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 13 回	日本音楽史 近世	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 14 回	日本音楽史 近現代	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 15 回	後期のまとめ	事前	後期のノートをまとめ、試験に備える	130 分
		事後	試験結果を振り返り、足りなかった点について補習する	140 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 定期試験を 50%、授業への取り組み（発言内容・小テスト・課題提出）を 50% とする。

テキスト 毎時プリント教材を配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて行う。

アクティブ・ラーニング 受講者は各自、授業で取り扱う音楽史全体の流れと各受講者の専攻との関係について調べ、発表する。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	□	□

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘 科目コード: SLF101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

概要	和声法とは、ある和音と後続の和音との連結の方法のことである。 決められた規則に従いつつ、与えられた旋律から美しい響きを紡ぎだす方法を、4声体の実施によって身につける。
----	--

到達目標	和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。
------	--

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	--------------------------

	【和声】	【楽典／和声分析】				
第1回	ガイダンス 和声法とは	(楽典の発展 a) 音程	事前	ガイダンス、楽典の発展 a の予習	「和声」の項目を音楽事典で読む	30 分
			事後	ガイダンス、楽典の発展 a の復習		30 分
第2回	第1章 和音（基礎）	(楽典の発展 b) ドイツ音名	事前	第1章、楽典の発展 b の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第1章、楽典の発展 b の復習	誤答を解き直す	30 分
第3回	第1章 和音（発展）	(楽典の発展 c) 調号	事前	第1章、楽典の発展 c の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第1章、楽典の発展 c の復習	誤答を解き直す	30 分
第4回	第2章 4 声体の配置（基礎）	(楽典の発展 d) 音階	事前	第2章、楽典の発展 d の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第2章、楽典の発展 d の復習	誤答を解き直す	30 分
第5回	第2章 4 声体の配置（発展）	(楽典の発展 e) 近視調	事前	第2章、楽典の発展 e の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第2章、楽典の発展 e の復習	誤答を解き直す	30 分
第6回	第3章 和音機能	(楽典の発展 f) 和音	事前	第3章、楽典の発展 f の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第3章、楽典の発展 f の復習	誤答を解き直す	30 分
第7回	第4章 D－T の連結（基礎）	(楽典の発展 g) 移調	事前	第4章、楽典の発展 g の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第4章、楽典の発展 g の復習	誤答を解き直す	30 分
第8回	第4章 D－T の連結（発展）	(楽典の発展 h) 調性判断	事前	第4章、楽典の発展 h の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第4章、楽典の発展 h の復習	誤答を解き直す	30 分
第9回	第5章 T－D－T の連結（基礎）	(和声分析 A) 4 声体の和声分析	事前	第5章、和声分析 A の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第5章、和声分析 A の復習	誤答を解き直す	30 分
第10回	第5章 T－D－T の連結（発展）	(和声分析 B) 4 声体の和声分析	事前	第5章、和声分析 B の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第5章、和声分析 B の復習	誤答を解き直す	30 分
第11回	第6章 T－T の連結	(和声分析 C) 4 声体の和声分析	事前	第6章、和声分析 C の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第6章、和声分析 C の復習	誤答を解き直す	30 分
第12回	第7章 T と D 諸和音との連結（基礎）	(和声分析 D) 4 声体の和声分析	事前	第7章、和声分析 D の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第7章、和声分析 D の復習	誤答を解き直す	30 分
第13回	第7章 T と D 諸和音との連結（発展）	(和声分析 E) 4 声体の和声分析	事前	第7章、和声分析 E の予習	テキストを読む	30 分
			事後	第7章、和声分析 E の復習	誤答を解き直す	30 分
第14回	試験の概要		事前	試験の概要の予習		30 分
			事後	試験の概要の復習		30 分
第15回	まとめ		事前	まとめの予習		30 分
			事後	まとめの復習		30 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード: SLF102

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	和声法とは、ある和音と後続の和音との連結の方法のことである。 決められた規則に従いつつ、与えられた旋律から美しい響きを紡ぎだす方法を、4声体の実施によって身につける。
----	--

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第1回	和声法Ⅰ－Ⅰの試験の解説		事前 事後	和声法Ⅰ－Ⅰの試験の解説の予習 和声法Ⅰ－Ⅰの試験の解説の復習	30分 30分	
第2回	第8章	Ⅱ ⁽¹⁾ の和音	事前 事後	第8章の予習 第8章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第3回	第9章	I ² ∪V ₇	事前 事後	第9章の予習 第9章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第4回	第9章	8小節のバス課題（基礎）	事前 事後	第9章の予習 第9章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第5回	第9章	8小節のバス課題（発展）	事前 事後	第9章の予習 第9章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第6回	第9章	8小節のソプラノ課題	事前 事後	第9章の予習 第9章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第7回	第9章	8小節のバス課題（調号有）	事前 事後	第9章の予習 第9章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第8回	第10章	V ² ₇ －Ⅰ ⁽¹⁾ の連結	事前 事後	第10章の予習 第10章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第9回	第11章	Ⅵの和音（基礎）	事前 事後	第11章の予習 第11章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第10回	第11章	Ⅵの和音（発展）	事前 事後	第11章の予習 第11章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第11回	第12章	Ⅳ ⁽¹⁾ （D ₂ ）の和音（Ⅱ ¹ の代用）	事前 事後	第12章の予習 第12章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第12回	第12章	Ⅳ ⁽¹⁾ （D ₂ ）の和音（D ₂ の連用）	事前 事後	第12章の予習 第12章の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	30分 30分
第13回	試験の概要		事前 事後	試験の概要の予習 試験の概要の復習	30分 30分	
第14回	まとめ		事前 事後	まとめの予習 まとめの復習	30分 30分	
第15回	試験の解説		事前 事後	試験の解説の予習 試験の解説の復習	30分 30分	

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

専門／学年：全専門／2 年次

概要 和声法Ⅰで学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

【和声】	【和声分析】		
第1回 (和声法Ⅰの復習 a) 第1章 和音	和声分析とは	事前 和声法Ⅰの復習 a の予習 事後 和声法Ⅰの復習 a の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第2回 (和声法Ⅰの復習 b) 第2章 4 声体の配置	(作品 A) ブルクミュラー：第1曲	事前 和声法Ⅰの復習 b、作品 A の予習 事後 和声法Ⅰの復習 b、作品 A の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第3回 (和声法Ⅰの復習 c) 第3章 和音機能	(作品 B) ブルクミュラー：第2曲	事前 和声法Ⅰの復習 c、作品 B の予習 事後 和声法Ⅰの復習 c、作品 B の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第4回 (和声法Ⅰの復習 d) 第4章 D-T の連結	(作品 C) ブルクミュラー：第3曲	事前 和声法Ⅰの復習 d、作品 C の予習 事後 和声法Ⅰの復習 d、作品 C の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第5回 (和声法Ⅰの復習 e) 第5章 T-D-T の連結	第14章 借用和音 (副Ⅴの和音)	事前 和声法Ⅰの復習 e、第14章の予習 事後 和声法Ⅰの復習 e、第14章の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第6回 (和声法Ⅰの復習 f) 第6章 T-T の連結	第14章 借用和音 (準固有和音)	事前 和声法Ⅰの復習 f、第14章の予習 事後 和声法Ⅰの復習 f、第14章の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第7回 (和声法Ⅰの復習 g) 第7章 T と D 諸和音との連結	第15章 根音省略形	事前 和声法Ⅰの復習 g、第15章の予習 事後 和声法Ⅰの復習 g、第15章の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第8回 (和声法Ⅰの復習 h) 第8章 II ⁽¹⁾ の和音	(作品 D) ブルクミュラー：第4曲	事前 和声法Ⅰの復習 h、作品 D の予習 事後 和声法Ⅰの復習 h、作品 D の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第9回 (和声法Ⅰの復習 i) 第9章 I ²⁻ V ⁽²⁾	(作品 E) ブルクミュラー：第5曲	事前 和声法Ⅰの復習 i、作品 E の予習 事後 和声法Ⅰの復習 i、作品 E の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第10回 (和声法Ⅰの復習 j) 第10章 V ²⁻ I ⁽¹⁾ の連結	(作品 F) ブルクミュラー：第6曲	事前 和声法Ⅰの復習 j、作品 F の予習 事後 和声法Ⅰの復習 j、作品 F の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第11回 (和声法Ⅰの復習 k) 第11章 VI の和音	(作品 G) ブルクミュラー：第7曲	事前 和声法Ⅰの復習 k、作品 G の予習 事後 和声法Ⅰの復習 k、作品 G の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第12回 (和声法Ⅰの復習 l) 第12章 IV ⁽¹⁾ の和音 (II ¹ の代用)	(作品 H) ブルクミュラー：第8曲	事前 和声法Ⅰの復習 l、作品 H の予習 事後 和声法Ⅰの復習 l、作品 H の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第13回 (和声法Ⅰの復習 m) 第12章 IV ⁽¹⁾ の和音 (D ₂ の連用)	(作品 I) ブルクミュラー：第9曲	事前 和声法Ⅰの復習 m、作品 I の予習 事後 和声法Ⅰの復習 m、作品 I の復習	テキストを読む 30 分 誤答を解き直す 30 分
第14回 試験の概要		事前 試験の概要の予習 事後 試験の概要の復習	30 分 30 分
第15回 まとめ		事前 まとめの予習 事後 まとめの復習	30 分 30 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

和声法 II-2

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF202

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	和声法Ⅱ－１で学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。 また、和声法で学んだ知識を実際の音楽に応用できるよう、実作品の和声分析も行う。
----	---

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【和声】		【和声分析】			
第1回	和声法Ⅱ-1の試験の解説	事前	和声法Ⅱ-1の試験の解説の予習	30	分
		事後	和声法Ⅱ-1の試験の解説の復習	30	分
第2回	第13章 IV (S) の和音 (基礎)	事前	第13章、作品Aの予習	30	分
	(作品A) ブルクミュラー：第10曲	事後	第13章、作品Aの復習	30	分
第3回	第13章 IV (S) の和音 (発展)	事前	第13章、作品Bの予習	30	分
	(作品B) ブルクミュラー：第11曲	事後	第13章、作品Bの復習	30	分
第4回	第13章 IV (S) の和音 (応用)	事前	第13章、作品Cの予習	30	分
	(作品C) ブルクミュラー：第12曲	事後	第13章、作品Cの復習	30	分
第5回	第14章 借用和音 (副Vの和音 基礎)	事前	第14章、作品Dの予習	30	分
	(作品D) ブルクミュラー：第13曲	事後	第14章、作品Dの復習	30	分
第6回	第14章 借用和音 (副Vの和音 発展)	事前	第14章、作品Eの予習	30	分
	(作品E) ブルクミュラー：第14曲	事後	第14章、作品Eの復習	30	分
第7回	第14章 借用和音 (準固有和音)	事前	第14章、作品Fの予習	30	分
	(作品F) ブルクミュラー：第15曲	事後	第14章、作品Fの復習	30	分
第8回	第18章 転位音 (刺繍音)	事前	第18章、作品Gの予習	30	分
	(作品G) ブルクミュラー：第16曲	事後	第18章、作品Gの復習	30	分
第9回	第18章 転位音 (経過音)	事前	第18章、作品Hの予習	30	分
	(作品H) ブルクミュラー：第17曲	事後	第18章、作品Hの復習	30	分
第10回	第18章 転位音 (倚音)	事前	第18章、作品Iの予習	30	分
	(作品I) ブルクミュラー：第18曲	事後	第18章、作品Iの復習	30	分
第11回	第18章 転位音 (掛留音)	事前	第18章、作品Jの予習	30	分
	(作品J) ブルクミュラー：第19曲	事後	第18章、作品Jの復習	30	分
第12回	第18章 転位音 (修飾音)	事前	第18章、作品Kの予習	30	分
	(作品K) ブルクミュラー：第20曲	事後	第18章、作品Kの復習	30	分
第13回	第18章 I度上のV ₇ の和音	事前	第18章、作品Lの予習	30	分
	(作品L) ブルクミュラー：第21曲	事後	第18章、作品Lの復習	30	分
第14回	試験の概要	事前	試験の概要の予習	30	分
		事後	試験の概要の復習	30	分
第15回	まとめ	事前	まとめの予習	30	分
		事後	まとめの復習	30	分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキ	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	□	☒	□	□	□	☒	□	□	☒		□	□		□	

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF105

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

概要	楽曲分析とは、全体をいくつかの部分に分けて吟味し、それらがどのように全体に対して働いているのかを見きわめ、再統合することである。そのため、実作品を用いて様々な形式を分析する。特に2部形式、3部形式、ロンド形式については受講生自らが分析し、授業内発表をする。また、2部形式の作曲にも取り組み、音出しをする。
----	---

到達目標 簡単な形式の楽曲を分析できるようになることを目標とする。

授業計画 「学生による分析」は、受講生の状況によって曲目を決定する。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【学生による分析】	【教員による分析】			
第1回	ガイダンス	楽曲分析とは	事前 事後	ガイダンスの予習 ガイダンスの復習	「楽曲分析」の項目を音楽事典で読む 120 分 120 分
第2回	基本的な形式（作品 a） ブルクミュラー：第1曲	2部形式（作品 A） フォスター：おおさザンナ	事前 事後	作品 a、作品 A の予習 作品 a、作品 A の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第3回	基本的な形式（作品 b） ブルクミュラー：第2曲	3部形式（作品 B） フランス民謡：キラキラ星	事前 事後	作品 b、作品 B の予習 作品 b、作品 B の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第4回	基本的な形式（作品 c） ブルクミュラー：第3曲	複合3部形式（作品 C） ボッケリーニ：メヌエット	事前 事後	作品 c、作品 C の予習 作品 c、作品 C の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第5回	基本的な形式（作品 d） ブルクミュラー：第4曲	ロンド形式 小ロンド（作品 D 前半） ベートーヴェン：ピアノソナタ 第8番「悲愴」第2楽章	事前 事後	作品 d、作品 D の予習 作品 d、作品 D の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第6回	基本的な形式（作品 e） ブルクミュラー：第5曲	ロンド形式 小ロンド（作品 D 後半） ベートーヴェン：ピアノソナタ 第8番「悲愴」第2楽章	事前 事後	作品 e、作品 D の予習 作品 e、作品 D の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第7回	基本的な形式（作品 f） ブルクミュラー：第6曲	ロンド形式 小ロンド（作品 E） モーツァルト：「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」第2楽章	事前 事後	作品 f、作品 E の予習 作品 f、作品 E の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第8回	基本的な形式（作品 g） ブルクミュラー：第7曲	ロンド形式 大ロンド（作品 F 前半） クラーウ：ソナチネ op.20-1 第3楽章	事前 事後	作品 g、作品 F の予習 作品 g、作品 F の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第9回	基本的な形式（作品 h） ブルクミュラー：第8曲	ロンド形式 大ロンド（作品 F 後半） クラーウ：ソナチネ op.20-1 第3楽章	事前 事後	作品 h、作品 F の予習 作品 h、作品 F の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第10回	基本的な形式（作品 i） ブルクミュラー：第9曲	ロンドソナタ形式（作品 G 前半） ベートーヴェン：ピアノソナタ 第8番「悲愴」第3楽章	事前 事後	作品 i、作品 G の予習 作品 i、作品 G の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第11回	基本的な形式（作品 j） ブルクミュラー：第10曲	ロンドソナタ形式（作品 G 後半） ベートーヴェン：ピアノソナタ 第8番「悲愴」第3楽章	事前 事後	作品 j、作品 G の予習 作品 j、作品 G の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第12回	基本的な形式（作品 k） ブルクミュラー：第11曲	2部形式の作曲法（旋律作法）	事前 事後	作品 k、2部形式の作曲法の予習 作品 k、2部形式の作曲法の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第13回	基本的な形式（作品 l） ブルクミュラー：第12曲	2部形式の作曲法（伴奏形）	事前 事後	作品 l、2部形式の作曲法の予習 作品 l、2部形式の作曲法の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第14回	基本的な形式（作品 m） ブルクミュラー：第13曲	2部形式の作曲法（アーティキュレーション）	事前 事後	作品 m、2部形式の作曲法の予習 作品 m、2部形式の作曲法の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分
第15回	基本的な形式（作品 n） ブルクミュラー：第14曲	2部形式の作曲法（総合）	事前 事後	作品 n、2部形式の作曲法の予習 作品 n、2部形式の作曲法の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 120 分 120 分

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

成績評価 授業内発表 30%、作品提出・発表（2部形式の作曲）40%、授業への積極的な取組 30%

テキスト “参照資料”ブルクミュラー『25の練習曲』※出版社自由

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード：SLF106

形態：講義

到達目標 ソナタ形式の楽曲を分析できるようになることを目標とする。

授業計画 「学生による分析」は、受講生の状況によって曲目を決定する。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

テキスト “参照資料” 『ソナチネアルバム 1』※出版社自由

備考

[illegible]

ソルフェージュ-1A

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 倉地恵子				科目コード：SLF107			
専門／学年：全専門／1 年次							
形態：演習		単位数：1 単位					
概要		ソルフェージュとは、音楽能力の総合的な基礎訓練のことである。 そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。 また「バロック期以降の管弦楽曲の抜粋を用いた聴音、読譜」も行う。					
到達目標		多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目指すとする。					
授業計画		各回の授業内容は、進度により変更することがある。					
	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】				
第 1 回	(聴音 a) 単旋律 和音	高音部譜表 二和音	(視唱 A) 発声スケール 発声	(クレ A) 高音部譜表	事前 視唱 A、クレ A の予習 事後 聴音 a の復習	「ソルフェージュ」の項目を音楽事典で読む 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 b) 単旋律 和音	低音部譜表 三和音	(視唱 B) 発声スケール ピアノ伴奏	(クレ B) 高音部譜表	事前 視唱 B、クレ B の予習 事後 聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第 2 回	(聴音 c) 単旋律 2 声体	臨時記号(基礎) C dur	(視唱 C) ダンノーゼル C dur(基礎)	(クレ C) 高音部譜表	事前 視唱 C、クレ C の予習 事後 聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 d) 単旋律 2 声体	リズム(基礎) a moll	(視唱 D) ダンノーゼル a moll(基礎)	(クレ D) 高音部譜表	事前 視唱 D、クレ D の予習 事後 聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第 3 回	(聴音 e) 単旋律 2 声体	休符(基礎) G dur	(視唱 E) ダンノーゼル G dur(基礎)	(クレ E) 高音部譜表	事前 視唱 E、クレ E の予習 事後 聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 f) 単旋律 2 声体	タイ(基礎) e moll	(視唱 F) ダンノーゼル e moll(基礎)	(クレ F) 低音部譜表	事前 視唱 F、クレ F の予習 事後 聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第 4 回	(聴音 g) 単旋律 3 声体	拍子(基礎) 密集 C dur	(視唱 G) ダンノーゼル F dur(基礎)	(クレ G) 低音部譜表	事前 視唱 G、クレ G の予習 事後 聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 h) 単旋律 3 声体	調(基礎) 開離 C dur	(視唱 H) ダンノーゼル d moll(基礎)	(クレ H) 低音部譜表	事前 視唱 H、クレ H の予習 事後 聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第 5 回	(聴音 i) 複旋律 3 声体	C dur 密集 a moll	(視唱 I) ダンノーゼル D dur(基礎)	(クレ I) 低音部譜表	事前 視唱 I、クレ I の予習 事後 聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 j) 複旋律 3 声体	a moll 開離 a moll	(視唱 J) ダンノーゼル h moll(基礎)	(クレ J) 低音部譜表	事前 視唱 J、クレ J の予習 事後 聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第 6 回	(聴音 k) 複旋律 3 声体	G dur 密集 G dur	(視唱 K) ダンノーゼル B dur(基礎)	(クレ K) 低音部譜表	事前 視唱 K、クレ K の予習 事後 聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 l) 複旋律 3 声体	e moll 開離 G dur	(視唱 L) ダンノーゼル g moll(基礎)	(クレ L) アルト譜表	事前 視唱 L、クレ L の予習 事後 聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第 7 回	(聴音 m) 複旋律 3 声体	F dur 密集 e moll	(視唱 M) ダンノーゼル へ音記号(基礎)	(クレ M) アルト譜表	事前 視唱 M、クレ M の予習 事後 聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 n) 複旋律 3 声体	d moll 開離 e moll	(視唱 N) ダンノーゼル へ音記号(発展)	(クレ N) アルト譜表	事前 視唱 N、クレ N の予習 事後 聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第 15 回	まとめ				事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		45 分 45 分
フィードバック		答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。					
成績評価		試験 50%、授業態度 50%					
テキスト		城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社）					
オフィスアワー		授業後教室にて					
備考		単位を既に取得した短大 2 年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。					

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
		☒	□	□	☒	□	□	□	☒	□		□	□	□	

ソルフェージュ-2A

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 倉地恵子				科目コード：SLF108	
専門／学年：全専門／1年次					
形態：演習		単位数：1単位			
概要		ソルフェージュとは、音楽能力の総合的な基礎訓練のことである。 そのために、聴音（単旋、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。 また「バロック期以降の管弦楽曲の抜粋を用いた聴音、読譜」も行う。			
到達目標		多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。			
授業計画		各回の授業内容は、進度により変更することがある。			
	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】		
第1回	(聴音 a) 単旋律 3声体 密集 F dur	(視唱 A) ダンノーゼル C dur(発展)	(クレ A) アルト譜表	事前 視唱 A、クレ A の予習 事後 聴音 a の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第2回	(聴音 b) 単旋律 3声体 開離 F dur	(視唱 B) ダンノーゼル a moll(発展)	(クレ B) アルト譜表	事前 視唱 B、クレ B の予習 事後 聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第3回	(聴音 c) 単旋律 3声体 密集 d moll	(視唱 C) ダンノーゼル G dur(発展)	(クレ C) アルト譜表	事前 視唱 C、クレ C の予習 事後 聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第4回	(聴音 d) 単旋律 3声体 開離 d moll	(視唱 D) ダンノーゼル e moll(発展)	(クレ D) アルト譜表	事前 視唱 D、クレ D の予習 事後 聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第5回	(聴音 e) 単旋律 4声体 密集 C dur	(視唱 E) ダンノーゼル F dur(発展)	(クレ E) アルト譜表	事前 視唱 E、クレ E の予習 事後 聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第6回	(聴音 f) 単旋律 4声体 開離 C dur	(視唱 F) ダンノーゼル d moll(発展)	(クレ F) アルト譜表	事前 視唱 F、クレ F の予習 事後 聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第7回	(聴音 g) 複旋律 4声体 密集 a moll	(視唱 G) ダンノーゼル D dur(発展)	(クレ G) アルト譜表	事前 視唱 G、クレ G の予習 事後 聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第8回	(聴音 h) 複旋律 4声体 開離 a moll	(視唱 H) ダンノーゼル h moll(発展)	(クレ H) テノール譜表	事前 視唱 H、クレ H の予習 事後 聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第9回	(聴音 i) 複旋律 4声体 密集 G dur	(視唱 I) ダンノーゼル B dur(発展)	(クレ I) テノール譜表	事前 視唱 I、クレ I の予習 事後 聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第10回	(聴音 j) 複旋律 4声体 開離 G dur	(視唱 J) ダンノーゼル g moll(発展)	(クレ J) テノール譜表	事前 視唱 J、クレ J の予習 事後 聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第11回	(聴音 k) 複旋律 4声体 密集 e moll	(視唱 K) ダンノーゼル A dur, fis moll	(クレ K) テノール譜表	事前 視唱 K、クレ K の予習 事後 聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第12回	(聴音 l) 複旋律 4声体 開離 e moll	(視唱 L) ダンノーゼル Es dur, c moll	(クレ L) テノール譜表	事前 視唱 L、クレ L の予習 事後 聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第13回	(聴音 m) 複旋律 5声体 C dur	(視唱 M) ダンノーゼル E dur, cis moll	(クレ M) テノール譜表	事前 視唱 M、クレ M の予習 事後 聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第14回	(聴音 n) 複旋律 5声体 a moll	(視唱 N) ダンノーゼル 首部記号交換読譜	(クレ N) テノール譜表	事前 視唱 N、クレ N の予習 事後 聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる
第15回	まとめ			事前 まとめの予習 事後 まとめの復習	45 分 45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業態度 50%

テキスト 城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフエージュ 上』(音楽之友社)

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・スキ	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	□	☒	□	□	☒	□	□	□	☒	□		□	□	□	□

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード : SLF107

形態：演習

到達目標	多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。
------	--

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】			
第1回	(聴音 a) 単旋律 和音	高音部譜表 二和音	(視唱 A) 発声スケール (山型) (クレ A) 低音部譜表 発声	事前 視唱 A、クレ A の予習 事後 聴音 a の復習	「ソルフージュ」の項目を音楽事典で読む 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第2回	(聴音 b) 単旋律 和音	低音部譜表 三和音	(視唱 B) 発声スケール (山型) (クレ B) 低音部譜表 ピアノ伴奏	事前 視唱 B、クレ B の予習 事後 聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第3回	(聴音 c) 単旋律 2 声体	臨時記号 (基礎) C dur	(視唱 C) ダンノーゼル (クレ C) 低音部譜表 2 度音程 (基礎)	事前 視唱 C、クレ C の予習 事後 聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第4回	(聴音 d) 単旋律 2 声体	リズム (基礎) a moll	(視唱 D) ダンノーゼル (クレ D) 低音部譜表 2 度音程 (発展)	事前 視唱 D、クレ D の予習 事後 聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第5回	(聴音 e) 単旋律 2 声体	休符 (基礎) G dur	(視唱 E) ダンノーゼル (クレ E) 低音部譜表 3 度音程 (基礎)	事前 視唱 E、クレ E の予習 事後 聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第6回	(聴音 f) 単旋律 2 声体	タイ (基礎) e moll	(視唱 F) ダンノーゼル (クレ F) 低音部譜表 3 度音程 (発展)	事前 視唱 F、クレ F の予習 事後 聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第7回	(聴音 g) 単旋律 3 声体	拍子 (基礎) 密集 C dur	(視唱 G) ダンノーゼル (クレ G) 低音部譜表 4 度音程 (基礎)	事前 視唱 G、クレ G の予習 事後 聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第8回	(聴音 h) 単旋律 3 声体	調 (基礎) 開離 C dur	(視唱 H) ダンノーゼル (クレ H) アルト譜表 4 度音程 (発展)	事前 視唱 H、クレ H の予習 事後 聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第9回	(聴音 i) 複旋律 3 声体	C dur 密集 a moll	(視唱 I) ダンノーゼル (クレ I) アルト譜表 5 度音程 (基礎)	事前 視唱 I、クレ I の予習 事後 聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第10回	(聴音 j) 複旋律 3 声体	a moll 開離 a moll	(視唱 J) ダンノーゼル (クレ J) アルト譜表 5 度音程 (発展)	事前 視唱 J、クレ J の予習 事後 聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第11回	(聴音 k) 複旋律 3 声体	G dur 密集 G dur	(視唱 K) ダンノーゼル (クレ K) アルト譜表 6 度音程 (基礎)	事前 視唱 K、クレ K の予習 事後 聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第12回	(聴音 l) 複旋律 3 声体	e moll 開離 G dur	(視唱 L) ダンノーゼル (クレ L) アルト譜表 6 度音程 (発展)	事前 視唱 L、クレ L の予習 事後 聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第13回	(聴音 m) 複旋律 3 声体	F dur 密集 e moll	(視唱 M) ダンノーゼル (クレ M) アルト譜表 7 度音程 (基礎)	事前 視唱 M、クレ M の予習 事後 聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第14回	(聴音 n) 複旋律 3 声体	d moll 開離 e moll	(視唱 N) ダンノーゼル (クレ N) アルト譜表 7 度音程 (発展)	事前 視唱 N、クレ N の予習 事後 聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30 分 30 分
第15回	まとめ			事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		30 分 30 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 城多又兵衛解説『ダンノーゼルのソルフエージュ 上』(音楽之友社出版)

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的な責任感	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒		☐	☐	☐	☐	☐

ソルフェージュ-2B

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF108

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	ソルフェージュとは、音楽能力の総合的な基礎訓練のことである。 そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。 また「フォルマシオン・ミュージカル」「フランス和声による伴奏つき視唱」「管楽器による聴音」も扱う。
----	---

到達目標	多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。
------	--

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】					
第1回	ソルフェージュ1の試験の解説			事前	ソルフェージュ1の試験の解説の予習	30分		
				事後	ソルフェージュ1の試験の解説の復習	30分		
第2回	(聴音 a)単旋律 3声体 密集 F dur	低音部譜表(発展)	(視唱 A) 発声スケール(ジグザグ型) 発声	(クレ A) テノール譜表	事前	視唱 A、クレ A の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 a の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第3回	(聴音 b)単旋律 3声体 開離 F dur	臨時記号(発展)	(視唱 B) 発声スケール(ジグザグ型) ピアノ伴奏	(クレ B) テノール譜表	事前	視唱 B、クレ B の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 b の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第4回	(聴音 c)単旋律 3声体 密集 d moll	リズム(発展)	(視唱 C) ダンノーゼル C dur	(クレ C) テノール譜表	事前	視唱 C、クレ C の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 c の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第5回	(聴音 d)単旋律 3声体 開離 d moll	休符(発展)	(視唱 D) ダンノーゼル a moll	(クレ D) テノール譜表	事前	視唱 D、クレ D の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 d の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第6回	(聴音 e)単旋律 4声体 密集 C dur	タイ(発展)	(視唱 E) ダンノーゼル G dur	(クレ E) テノール譜表	事前	視唱 E、クレ E の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 e の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第7回	(聴音 f)単旋律 4声体 開離 C dur	拍子(発展)	(視唱 F) ダンノーゼル e moll	(クレ F) テノール譜表	事前	視唱 F、クレ F の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 f の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第8回	(聴音 g)単旋律 4声体 密集 a moll	調(発展)	(視唱 G) ダンノーゼル F dur	(クレ G) ソプラノ譜表	事前	視唱 G、クレ G の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 g の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第9回	(聴音 h)複旋律 4声体 開離 a moll		(視唱 H) ダンノーゼル d moll	(クレ H) ソプラノ譜表	事前	視唱 H、クレ H の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 h の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第10回	(聴音 i)複旋律 4声体 密集 G dur		(視唱 I) ダンノーゼル D dur	(クレ I) ソプラノ譜表	事前	視唱 I、クレ I の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 i の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第11回	(聴音 j)複旋律 4声体 開離 G dur		(視唱 J) ダンノーゼル h moll	(クレ J) ソプラノ譜表	事前	視唱 J、クレ J の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 j の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第12回	(聴音 k)複旋律 5声体 C dur		(視唱 K) ダンノーゼル B dur	(クレ K) ソプラノ譜表	事前	視唱 K、クレ K の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 k の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第13回	(聴音 l)複旋律 5声体 a moll		(視唱 L) ダンノーゼル g moll	(クレ L) ソプラノ譜表	事前	視唱 L、クレ L の予習	課題を読む、歌う	30分
					事後	聴音 l の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分
第14回	まとめ				事前	まとめの予習		30分
					事後	まとめの復習		30分
第15回	試験の解説				事前	試験の解説の予習		30分
					事後	試験の解説の復習		30分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 城多又兵衛解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

[illegible]

合唱Ⅰ-1・Ⅱ-1

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 大隈優梨子 科目コード：VEN101／VEN201

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	合唱における基本的な体の使い方、呼吸法、発声法等を総合的に学ぶ。 また、音楽にあわせ簡単なステップをふむなどし、体全体を使って表現力を育む。

到達目標	基本的なテクニック（体の使い方・しくみ、呼吸法、発声法等）を理解し、実践していく。 リハーサルを通して、合唱すること、表現することの楽しさを感じ、演奏へつなげる。また、将来にむけて、基本的な合唱指導テクニックを身につける。
------	--

授業計画	週 1 回、全 15 回 各授業内容は進度に応じて変更する場合がある。
------	--

第 1 回	ガイダンス 声種分け（パートリーダー決め）	事前 事後	自分の声が混声合唱のどのパートに相応するかを考える 各声種の役割を考える	130 分 140 分
第 2 回	合唱の基礎トレーニング ～姿勢、ストレッチ、呼吸法～	事前 事後	自分の声のパートを確認する 歌う時の姿勢や、呼吸を意識する	130 分 140 分
第 3 回	合唱の基礎トレーニング ～発音するときの口腔内、表情筋～ 練習曲①	事前 事後	練習曲①の音取りをする パートの音取りをする	130 分 140 分
第 4 回	合唱の基礎トレーニング 選曲の重要性 合唱曲①	事前 事後	選曲の意図を探る 合唱曲①を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130 分 140 分
第 5 回	課題曲を学ぶ ～パート別練習を中心に～	事前 事後	課題曲の音取りをする パートの確認と復習	130 分 140 分
第 6 回	課題曲を学ぶ ～歌詞を声に出して読む、音程、リズム～	事前 事後	課題曲の歌詞を音読する、意味を調べる 授業で指摘された所の復習	130 分 140 分
第 7 回	課題曲を学ぶ ～歌詞を具現化して表現する～ステップを踏み～	事前 事後	1 つ 1 つの言葉に動作をつけてみる 授業で学んだことの復習、ステップの確認	130 分 140 分
第 8 回	課題曲を学ぶ ～具現化した全体のイメージを統一する～	事前 事後	子音・母音に気をつけて、表情をつけて練習 授業で決めた全体のイメージを表現しながら演奏してみる	130 分 140 分
第 9 回	課題曲を学ぶ ～パート別練習及び全体練習～	事前 事後	自分のパート以外のメロディーを聞いてみる 授業で指摘された所の復習	130 分 140 分
第 10 回	定期演奏会リハーサル ～客席へ届く表現を学ぶ～	事前 事後	ブレスを使った表現について考えてみる 歌詞を表現しながら声に出して読む	130 分 140 分
第 11 回	定期演奏会リハーサル ～音楽のイントネーション（基礎）～	事前 事後	楽譜全体を見返す 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分
第 12 回	定期演奏会リハーサル ～音楽のイントネーション（応用）～	事前 事後	楽譜全体を見返す 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分
第 13 回	定期演奏会リハーサル ～空間、響き、発語の扱い～	事前 事後	譜面をはずして練習、空間を広く感じる 空間にあわせた子音のさばき方や発語について考える	130 分 140 分
第 14 回	定期演奏会リハーサル ～言葉の抑揚とメロディー～	事前 事後	音楽にあわせて体を動かす 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分
第 15 回	まとめ	事前 事後	暗譜を進める 自分の考えをまとめる	130 分 140 分

フィードバック	授業後、リハーサル、本番後に学習成果をフィードバックする機会を設ける
---------	------------------------------------

成績評価	授業への取り組み、リハーサルの成果、レポートにて総合的に評価する
------	----------------------------------

テキスト	授業内に指示する
------	----------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

合唱Ⅰ-2・Ⅱ-2

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 大隈優梨子	科目コード：VEN102／VEN202
-------------	---------------------

専門／学年： 全専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	合唱における基本的な体の使い方、呼吸法、発声法等を総合的に学ぶ。 また、音楽にあわせ簡単なステップを踏むなどし、体全体を使って表現力を育む。

到達目標	基本的なテクニック（体の使い方、しくみ、呼吸法、発声法等）を理解し、実践していく。 リハーサルを通して、合唱すること、表現することの楽しさを感じ、演奏へつなげる。また、将来にむけて基本的な合唱指導テクニックを身につける。
------	---

授業計画	週 1 回、全 15 回 各授業内容は進度に応じて変更する場合がある。
------	--

第 1 回	定期演奏会リハーサル ～リズムに合わせて発語する～	事前 歌詞を読み込む 事後 子音・母音・ロの形などに気をつけ歌詞を読む	130 分 140 分
第 2 回	定期演奏会リハーサル ～言葉の抑揚で歌う～	事前 単語を音の長さにして読みあげる 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 3 回	定期演奏会リハーサル ～体を動かしながら表現する～	事前 リズムにあわせてステップをふんでみる 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 4 回	定期演奏会リハーサル ～合唱指導・指揮のテクニック（基礎）～	事前 ハンドサインとは何かを考える 事後 ハンドサインを復習する	130 分 140 分
第 5 回	定期演奏会リハーサル ～合唱指導・指揮のテクニック（応用）～	事前 指揮の重要性を考える 事後 曲全体のバランスを見直す	130 分 140 分
第 6 回	定期演奏会リハーサル ～表現を広げる～	事前 表現方法を考える 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 7 回	定期演奏会リハーサル ～広い空間をイメージした演奏をする～	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 8 回	定期演奏会リハーサル ～広い空間での響き・発音を考える～	事前 子音・母音をゆっくり発語する 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 9 回	定期演奏会リハーサル ～ランスルー演奏をする～	事前 本番を想定する 事後 暗譜、ステップを見直す	130 分 140 分
第 10 回	定期演奏会リハーサル ～総合練習～	事前 再度楽譜を見直す 事後 指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 11 回	定期演奏会の振り返り	事前 定期演奏会を振り返る 事後 合唱曲①を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130 分 140 分
第 12 回	課題曲を学ぶ ～楽曲を分析し、指揮をする～①	事前 楽譜を分析し、指揮を試みる 事後 授業で指摘を受けた個所の改善	130 分 140 分
第 13 回	課題曲を学ぶ ～楽曲を分析し、指揮をする～②	事前 楽譜を見返し、考えをまとめる。指揮を試みる。 事後 授業で指摘を受けた個所の改善	130 分 140 分
第 14 回	課題曲を学ぶ ～指揮の重要性を考える～	事前 式の重要性について考える 事後 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分
第 15 回	まとめ	事前 楽譜全体を見直す 事後 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分

フィードバック	授業後、リハーサル、本番後に学習成果をフィードバックする機会を設ける
---------	------------------------------------

成績評価	授業への取り組み、リハーサルの成果、レポートにて総合的に評価する
------	----------------------------------

テキスト	授業内に指示する
------	----------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考	定期演奏会に向け生き生きとした演奏、美しいハーモニーを追求する。
----	----------------------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

鍵盤和声 I-1a

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF103

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	ピアノ実技と和声法で習得した技術を応用する科目として、実作の和声を楽譜から読み、鍵盤上で聴いて判別する力を養いながら、さらには旋律に対して適切な和音と伴奏形態を選択可能となる技術を身につける。 尚、I-1a と I-1b の内容はほとんど変わらないが、前者はピアノ専攻、後者は他専攻の学生がそれぞれ主な対象者となる。
到達目標	各調の三和音と属七の和音の基本形および転回形を片手あるいは両手で押さえ、メロディに対して簡易な伴奏付けをすることができるようになる。また実際の作品の分析やディスカッションを通して、伴奏付が音楽表現にどのような効果を及ぼしているのかを考察する術を身につける。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	授業内容についてのガイダンス 鍵盤和声とは何か	事前 授業計画を確認する 事後 授業内容を理解する	30 分 60 分
第 2 回	長音階 長調の主要三和音	事前 長音階の練習 事後 主要三和音の復習	30 分 60 分
第 3 回	長調 終止形	事前 属七の和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 4 回	長調 メロディ奏	事前 メロディの弾き方について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 5 回	長調 メロディに和音をつける	事前 テンボ感、フレーズ感について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 6 回	長調 和音記号による和音付	事前 和音記号の理解 事後 和音記号の復習	30 分 60 分
第 7 回	長調 リズム伴奏を考える	事前 和音付の復習 事後 コード型とアルペジオ型の反復練習	30 分 60 分
第 8 回	長調 メロディ奏→和音付→リズム伴奏	事前 伴奏型の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 9 回	短音階 短調の主要三和音	事前 短音階の練習 事後 短音階と主要三和音の復習	30 分 60 分
第 10 回	短調 終止形・メロディ奏	事前 短音階の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 11 回	短調 和音付	事前 短調の主要三和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 12 回	長調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 長調の課題の復習 事後 長調のメロディを作る	30 分 60 分
第 13 回	短調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 短調の課題の復習 事後 短調のメロディを作る	30 分 60 分
第 14 回	和音型とリズム型の伴奏 課題に取り組む	事前 課題の反復練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 15 回	和音型とリズム型の伴奏を発表する 前期総括	事前 課題の反復練習 事後 指摘のあった箇所の復習	60 分 30 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 伴奏のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒	☒	□	□	□

非常勤講師 川上啓太郎		科目コード：SLF104
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：演習	単位数：1 単位	
概要	前期以前に鍵盤和声 I・1a を履修している学生を対象とする。 これまでに学んだ基本的な技術を発展させ、初見演奏、弾き歌い、移調奏、コードネームなど、多くの場所で必要とされる事柄について学ぶ。	
到達目標	初見演奏では予見から和声構造を見抜き対応する力を、弾き歌いについてはパートごとに個別指導をする際のノウハウを身につける。 また移調奏については、調性格論の基本知識を学ぶことで、適切な調選択と、それによって生ずる問題に対応できるようになる。また基本的なコード・ネームに対応するとともに、時に適切な対旋律を加えられるようになる。	
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。	

第 1 回	初見演奏 予見について	事前	前期の復習	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 2 回	初見演奏 予見から演奏時の注意	事前	授業内課題以外の自己練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 3 回	初見演奏 課題に取り組む	事前	授業内課題以外の自己練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 4 回	弾き歌い 「弾く」と「歌う」について	事前	初見演奏の自己練習	60 分
		事後	歌う	30 分
第 5 回	弾き歌い 演奏時の注意	事前	課題の反復練習	60 分
		事後	注意の確認	40 分
第 6 回	弾き歌い 課題に取り組む	事前	バランスを考えての弾き歌い練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 7 回	移調奏 楽譜の捉え方	事前	移調とは何かを考える	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 8 回	移調奏 様々な調整に移調してみる	事前	様々な調整の確認	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 9 回	コードネーム 仕組みについて	事前	コードネームと和音記号比べる	40 分
		事後	コードネームと和音記号の理解	50 分
第 10 回	コードネーム 仕組みを理解し和音付	事前	コードネームの仕組みの復習	40 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 11 回	コードネーム 唱歌や童謡に伴奏をつける	事前	コードネームの仕組みの復習	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 12 回	カウンターライン メロディとコードネームから対旋律をみつける	事前	コードネーム仕組みの復習	40 分
		事後	カウンターラインを考える	50 分
第 13 回	カウンターライン 対旋律を作る	事前	カウンターラインのルールの復習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 14 回	カウンターラインのまとめ 後期総括	事前	後期の復習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 15 回	一年間のまとめ	事前	試験課題の自己練習	60 分
		事後	一年間のまとめ	30 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 伴奏付のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

鍵盤和声 I-1b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎 科目コード：SLF103

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	ピアノ実技と和声法で習得した技術を応用する科目として、実作の和声を楽譜から読み、鍵盤上で聴いて判別する力を養いながら、さらには旋律に対して適切な和音と伴奏形態を選択可能となる技術を身につける。 尚、I-1a と I-1b の内容はほとんど変わらないが、前者はピアノ専攻、後者は他専攻の学生がそれぞれ主な対象者となる。
到達目標	各調の三和音と属七の和音の基本形および転回形を片手あるいは両手で押さえ、メロディに対して簡易な伴奏付けをすることができるようになる。また実際の作品の分析やディスカッションを通して、伴奏付が音楽表現にどのような効果を及ぼしているのかを考察する術を身につける。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	授業内容についてのガイダンス 鍵盤和声とは何か	事前 授業計画を確認する 事後 授業内容を理解する	30 分 60 分
第 2 回	長音階 長調の主要三和音	事前 長音階の練習 事後 主要三和音の復習	30 分 60 分
第 3 回	長調 終止形	事前 属七の和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 4 回	長調 メロディ奏	事前 メロディの弾き方について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 5 回	長調 メロディに和音をつける	事前 テンボ感、フレーズ感について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 6 回	長調 和音記号による和音付	事前 和音記号の理解 事後 和音記号の復習	30 分 60 分
第 7 回	長調 リズム伴奏を考える	事前 和音付の復習 事後 コード型とアルペジオ型の反復練習	30 分 60 分
第 8 回	長調 メロディ奏→和音付→リズム伴奏	事前 伴奏型の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 9 回	短音階 短調の主要三和音	事前 短音階の練習 事後 短音階と主要三和音の復習	30 分 60 分
第 10 回	短調 終止形・メロディ奏	事前 短音階の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 11 回	短調 和音付	事前 短調の主要三和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 12 回	長調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 長調の課題の復習 事後 長調のメロディを作る	30 分 60 分
第 13 回	短調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 短調の課題の復習 事後 短調のメロディを作る	30 分 60 分
第 14 回	和音型とリズム型の伴奏 課題に取り組む	事前 課題の反復練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 15 回	和音型とリズム型の伴奏を発表する 前期総括	事前 課題の反復練習 事後 指摘のあった箇所の復習	60 分 30 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 伴奏付のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

鍵盤和声 I -2b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF104

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	前期以前に鍵盤和声 I-1b を履修している学生を対象とする。 これまでに学んだ基本的な技術を発展させ、初見演奏、弾き歌い、移調奏、コードネームなど、多くの場所で必要とされる事柄について学ぶ。
到達目標	初見演奏では予見から和声構造を見抜き対応する力を、弾き歌いについてはパートごとに個別指導をする際のノウハウを身につける。また移調奏については、調性格論の基本知識を学ぶことで、適切な調選択と、それによって生ずる問題に対応できるようになる。また基本的なコード・ネームに対応するとともに、時に適切な対旋律を加えられるようになる。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	初見演奏 予見について	事前 前期の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 2 回	初見演奏 予見から演奏時の注意	事前 授業内課題以外の自己練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 3 回	初見演奏 課題に取り組む	事前 授業内課題以外の自己練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 4 回	弾き歌い 「弾く」と「歌う」について	事前 初見演奏の自己練習 事後 歌う	30 分 60 分
第 5 回	弾き歌い 演奏時の注意	事前 課題の反復練習 事後 注意の確認	30 分 60 分
第 6 回	弾き歌い 課題に取り組む	事前 バランスを考えての弾き歌い練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 7 回	移調奏 楽譜の捉え方	事前 移調とは何かを考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 8 回	移調奏 様々な調整に移調してみる	事前 様々な調整の確認 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 9 回	コードネーム 仕組みについて	事前 コードネームと和音記号比べる 事後 コードネームと和音記号の理解	30 分 60 分
第 10 回	コードネーム 仕組みを理解し和音付	事前 コードネームの仕組みの復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 11 回	コードネーム 唱歌や童謡に伴奏をつける	事前 コードネームの仕組みの復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 12 回	カウンターライン メロディとコードネームから対旋律をみつける	事前 コードネーム仕組みの復習 事後 カウンターラインを考える	30 分 60 分
第 13 回	カウンターライン 対旋律を作る	事前 カウンターラインのルールの復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 14 回	カウンターラインのまとめ 後期総括	事前 後期の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 15 回	一年間のまとめ	事前 試験課題の自己練習 事後 一年間のまとめ	70 分 20 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50％、試験・提出物 50％
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 伴奏付のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

客員教授 星子知美

科目コード：PLE201

専門／学年：全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	演奏においてピアノ伴奏の担う役割は多岐にわたる。この授業では、主に声楽作品を取り上げ、次の観点からアプローチをおこなう。 ①詩、言葉の内容がピアノ伴奏パートにどのように反映されているかを把握する。 ②歌い手の呼吸、表現に相応しい伴奏法を考える。

到達目標	実際のピアノ伴奏の現場で役立つ数々の事柄の習得を目指す。
------	------------------------------

授業計画	第2回から第4回は、『ピアノ共演法』マーティン・カット著を基に伴奏法概論を講義する。第5回以降は、取り上げた様々な作品の解釈、演奏法等に実践的に踏み込んでいく。
------	--

第1回	全15回の講義内容計画の説明 “伴奏”について考える	事前 これまでの経験を含めて、“伴奏”について考えをまとめておく 事後 “伴奏”のポイントをまとめ、理解を深める	120分 120分
第2回	伴奏法概論(1) 言葉、呼吸について 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第2章、第3章の解説	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第2章、第3章を読む 事後 授業で取り上げた曲を弾き、授業内容を復習する	120分 120分
第3回	伴奏法概論(2) 複数の登場人物、前奏・間奏・後奏について 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第4章、第5章の解説	事前 音楽で複数の登場人物を弾き分けるにはどうすればよいかを考える 事後 授業で取り上げた弾き分けのテクニックを楽器練習の中で実践し、授業内容を復習する	120分 120分
第4回	伴奏法概論(3) オーケストラの伴奏について 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第8章の解説	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第8章を読む 事後 授業で取り上げた曲を弾き、授業内容を復習する	120分 120分
第5回	歌曲研究 日本歌曲 滝廉太郎「花」、中田喜直「夏の思い出」、團伊玖磨「花の街」等	事前 課題曲の楽譜を準備し、歌詞の意味を理解しながら譜読みをする 事後 弾きながら歌う練習をする	120分 120分
第6回	歌曲研究 イタリア古典歌曲 「アマリッリ」、「いとしい女よ」、「うつろの心」	事前 課題曲の楽譜を準備し、イタリア語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、歌い、弾いてみる	120分 120分
第7回	歌曲研究 モーツァルト「すみれ」	事前 課題曲の楽譜を準備し、ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、歌い、弾いてみる	120分 120分
第8回	歌曲研究 ドイツ歌曲 シューベルト「糸を紡ぐグレートヒェン」、「鱈」	事前 課題曲の楽譜を準備し、ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を聴いたり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第9回	歌曲研究 ドイツ歌曲 シューベルト「冬の旅」	事前 シューベルト「冬の旅」について調べる ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を聴いたり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第10回	歌曲研究 ドイツ歌曲 シューマン「献呈」	事前 課題曲の楽譜を準備し、ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第11回	歌曲研究 ドイツ歌曲 シューマン「女の愛と生涯」	事前 課題曲の楽譜を準備し、ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を聴いたり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第12回	歌曲研究 フランス歌曲 ビゼー、フォーレの作品	事前 課題曲の楽譜を準備し、フランス語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第13回	オペラアリア研究	事前 課題曲について、オペラの内容と歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を観たり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第14回	合唱曲研究	事前 課題曲について調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を聴いたり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第15回	まとめと感想レポート作成	事前 これまでの授業を振り返り、レポートの内容を考える 事後 フィードバック後、各自まとめをする	210分 30分

フィードバック	授業での課題のコメントにて、また、レポートについて添削や解説により学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	授業への積極的な取り組み、レポートにより総合的に評価する。(取り組み 50%、レポート 50%)
------	--

テキスト	”参照資料”マーティン・カット著『ピアノ共演法』 必要に応じてプリントなどを配布する
------	---

オフィスアワー	授業後、教室及び研究室にて受け付ける。
---------	---------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

ピアノ特殊講義

客員教授 千野宜大

科目コード：PLE202

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	様々な時代の作曲家、作品の様式、音楽言語、の違い、又は共通性を理解し、演奏や指導に役立つ楽譜の読み方を考察する。

到達目標	自身の演奏解釈、又は指導する際にしっかりとした理由を導き出せるようにする。
------	---------------------------------------

授業計画		前半は様々な時代、様式の作品を通して読譜力を養う。 後半は授業で学んだ内容を実践し、最終授業で発表する準備を進めていく。
第 1 回	全 15 回の講義内容計画の説明。 バロック作品（バッハ：インヴェンション）を用いて基本的な音楽文法を学ぶ①	事前 これまで学んだレパートリーの主な作品をメモにまとめる。バッハ：インヴェンションの楽譜を用意し、第 1 番を事前に弾いてみる。 事後 授業内容の復習。 135 分
第 2 回	バロック作品（バッハ：インヴェンション）を用いて基本的な音楽文法を学ぶ② 文法とテクニク的な連鎖をバッハ：平均律第 1 巻第 2 番プレリュード、ショパン：練習曲 Op.10-1 を例に学ぶ①	事前 バッハ：平均律第 1 巻第 2 番プレリュード、ショパン：練習曲 Op.10 の楽譜を用意する。Op.10-1 を実際に弾いておく。 事後 授業内容の復習 135 分
第 3 回	前授業で学んだ文法とテクニクの融合について、ツェルニー30 番、40 番より、いくつかのショパンの練習曲、ベートーヴェンの月光ソナタ第 3 楽章を用いて学ぶ。	事前 ツェルニー30 番、40 番より、ショパン：練習曲から数曲、ベートーヴェン：ソナタ「月光」第 3 楽章の楽譜を用意し、実際に弾いておく。 事後 授業内容の復習 135 分
第 4 回	ロマン派 特にショパンの作品を用いて、スペース記号、ルバート記号について学ぶ①	事前 ショパンのスケルツォ第 2 番の楽譜を用意。第 2 主題の部分を弾いておく。 事後 授業内容の復習、及び自身の学習中の作品で実践してみる。 135 分
第 5 回	ロマン派 特にショパンのバラード第 3 番を用いて、スペース記号、ルバート記号について学ぶ②	事前 ショパン：バラード第 3 番の楽譜を用意。授業内容を用いて実際に弾いてみる。 事後 授業内容の復習、及び自身の学習中の作品で実践してみる。 135 分
第 6 回	前回までの授業内容の理解の確認、復習をし、出来るだけ曖昧さをクリアにする。	事前 第 1 回授業から取り上げた作品、自身のレパートリーを用いて、授業内容の理解を深め確認する。 事後 授業内容の復習 135 分
第 7 回	バロック作品音楽修辭学に繋がる宗教的ノート・イネガルについて学ぶ①	事前 バッハのシンフォニア第 9 番へ短調、平均律第 2 巻第 17 番へ短調の楽譜を用意。実際に弾いておく。 事後 授業内容の復習 135 分
第 8 回	古典派、ロマン派の作品を通して音楽修辭学に繋がるノート・イネガルの発展的応用と用途について学ぶ② へ短調の意味と分岐点について学ぶ。	事前 ショパンのソナタ第 2 番第 1 楽章の楽譜、ベートーヴェンのソナタ「熱情」、リストの超絶技巧練習曲第 10 番の楽譜を用意。事前に楽譜を見ておく。 事後 授業内容の復習 135 分
第 9 回	音量指示記号についての理解を深める。 ppp、pp、p、mp、mf、f、ff、fff の意味すること、作曲家の示す感情表現について理解する。 音量指示記号と音楽用語との併用について学ぶ。	事前 それぞれの学習中の作品の 楽譜を通して、音量指示記号に特化して考察してみる。 135 分
第 10 回	これまでの授業で学んだ内容を用いて最終授業で演奏する楽曲を提出し、それぞれの曲について質問、ディスカッションする①	事前 最終授業（第 14 回、15 回目）で演奏する楽曲を決めておく。これまでの授業内容を用いて演奏解釈、アプローチを考察する。 事後 授業内容の確認 135 分
第 11 回	これまでの授業で学んだ内容を用いて最終授業で演奏する楽曲を提出し、それぞれの曲について質問、ディスカッションする②	事前 最終授業（第 14 回、15 回目）で演奏する楽曲を決めておく。これまでの授業内容を用いて演奏解釈、アプローチを考察する。 事後 授業内容の復習 135 分
第 12 回	様々な音楽様式、スタイルの起源であるバロックの三大原則について学ぶ。 前回までの授業内容についての確認、質問を通して理解を深める。	事前 授業内容の中で理解が充分でない事項を把握しまとめておく。 事後 授業内容の復習と、自身の発表する楽器で実践する。 135 分
第 13 回	前 8 回までの授業内容の復習と理解の確認。 作曲家と自分のスタンスを考える。 歴史上の偉人としてだけではなく、人間としての距離感を縮めていく。	事前 自分の最も好きな作品、作曲家を通じて、その作曲家の人間性、キャラクター、環境、健康状態などを考察し発表出来るようにしておく。 事後 授業内容を確認し、自身が勉強している作品で解釈、アプローチを改めて考える。 135 分
第 14 回	演奏の発表①	事前 発表曲の練習 事後 発表曲の練習 135 分
第 15 回	演奏の発表②	事前 発表曲の練習 事後 発表の振り返り 135 分

フィードバック	レポートについてはコメントをつけて返却を行う。
---------	-------------------------

成績評価	授業への取り組み方、授業態度、最終授業での発表、レポートで評価する。
------	------------------------------------

テキスト	”参考資料”各自で上記の楽譜を用意すること。
------	------------------------

オフィスアワー	授業後教室にて
---------	---------

アクティブ・ラーニング	・学生同士で模擬レッスンを行い、指導する立場になったときに、どのような工夫が出来るか、これまでの各々の経験をどのように生かせるか、話し合う。 ・様々な演奏を動画で視聴し、異なる演奏解釈や奏法、個性について意見交換を行う。
-------------	---

備考	最終授業の発表とは、授業の中での模擬レッスンで担当した曲を一人一曲演奏する。演奏の番でない学生は全員、一人一人の演奏について「良い点」「悪い点」を具体的に上げながら、アドバイスレポートを書いていく（演奏している本人への開示は行わない）。
----	--

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	☒	□	□	☒	□	☒		□

ピアノアンサンブルⅠ

客員教授 山崎紫乃

科目コード：PEN101

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 連弾を通して、他者と呼吸を合わせてひとつの音楽をつくり上げるプロセスと、古典からロマン派、近現代の作品に幅広く触れて、アンサンブルの基本を学ぶ。

到達目標 呼吸の合わせ方、バランスの取り方、合わせの練習方法や連弾のレパートリーを通して室内楽の楽しみを導き、連弾の演奏知識を身につける。アンサンブルの基本的な技術を養い、感性を磨くことを目標とする。

授業計画

第 1 回	ガイダンス 授業の進め方、連弾の練習のポイントについて	事前 必要な楽譜を用意し、これまでの経験を含めて連弾とその作品について調べ学習する	135 分
		事後 担当する曲目の読譜を始める	135 分
第 2 回	モーツァルト 4 手のためのソナタ ニ長調 K. 381 (123a) 第 3 楽章	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 3 回	ディアベルリ 小ソナタと軍隊 rondó 作品 150 より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 4 回	ベートーヴェン 行進曲 作品 45-1	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 5 回	シューベルト 軍隊行進曲 D733 第 1 番	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 6 回	ブラームス ハンガリー舞曲 第 5 番	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 7 回	ドヴォルザーク スラヴ舞曲 第 1 集 作品 46 第 7 番	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 8 回	ライネッケ ばら 作品 286 より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 9 回	モシュコフスキー スペイン舞曲 第 1 番	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 10 回	フォーレ ミ・ア・ウ 「ドリー 作品 56」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 11 回	フォーレ ドリーの庭 「ドリー 作品 56」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 12 回	ドビュッシー 行列 「小組曲」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 13 回	ドビュッシー メヌエット 「小組曲」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 14 回	三善晃 プレリユード 「ピアノ連弾組曲 音の手帳」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 15 回	まとめ 演奏の発表	事前 これまでの授業内容をまとめ、連弾の合わせと練習をして発表の準備をする	135 分
		事後 演奏の発表を振り返り、問題のある箇所を復習し、2 年次のアンサンブルに備える	135 分

フィードバック 授業での課題と演奏の発表について、コメント及び解説等により学修成果をフィードバックする。

成績評価 課題への取り組み 50%、授業への積極的な取り組み 50%

テキスト 適宜指示する

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 学生同士の演奏を聴き合い、改善点や良かったところをディスカッションする

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□	☑	□	☑	□	□	□	□

ピアノアンサンブルⅡ

客員教授 山崎紫乃

科目コード：PEN201

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要 受講生同士パートナーを組み、連弾及び 2 台ピアノの作品を通じてアンサンブルを体験し学ぶ授業である。なるべく多くの演奏機会が持てるような課題曲構成となっている。

到達目標 アンサンブルにおいて大切な、バランス、呼吸の合わせ方、練習の仕方などを、連弾および 2 台ピアノを通じて学び、体験する。4 手のバランスの取り方で、様々に音色が変化することを聴き取り、楽曲の理解力とともに、それぞれの役割分担を考え、共演者とともに一つの音楽を作り上げていくプロセスを学ぶことを目標とする。

授業計画				
第 1 回	Jean Françaix：ルノワールによる 15 の子供の肖像画 No.1~No.7	事前	個人のパートを練習しておく。フランスについて調べる。	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 2 回	Jean Françaix: ルノワールによる 15 の子供の肖像画 No.8~No.14	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 3 回	①W.A.Mozart：ドイツ舞曲 K.600 および K.605 ②F. Schubert: 4 つのレントラー D.814	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 4 回	C.M.von Weber: 6 つの小品 Op.3 導入	事前	個人パートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。ウェーバーについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 5 回	C.M.von Weber: 6 つの小品 Op.3 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 6 回	R.Schumann: 12 の練習曲 Op.85 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。曲の成り立ちについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 7 回	R.Schumann: 12 の練習曲 Op.85 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 8 回	R.Schumann=C. Debussy :カノン形式による 6 つの練習曲 (2 台ピアノ) 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。曲の成り立ちについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 9 回	R.Schumann=C. Debussy :カノン形式による 6 つの練習曲 (2 台ピアノ) まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 10 回	Reinhold Glière: 6 つの小品 (2 台ピアノ)	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておくグリエールについて調べる。	170 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	110 分
第 11 回	J.Brahms:ワルツ Op.39 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	160 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	120 分
第 12 回	J.Brahms:ワルツ Op.39 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する。ブラームスの他の連弾曲を聴く。	90 分
第 13 回	M. Ravel:マ・メール・ロワ 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	190 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、次の授業までに修正しておく	90 分
第 14 回	M. Ravel:マ・メール・ロワ まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善できているか確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認しておく	120 分
第 15 回	発表会	事前	授業で取り上げた曲の中から 1 曲を選び、パートナーと共に準備する	220 分
		事後	発表会での演奏を振り返りパートナーと共に、改善点を話し合う	60 分

フィードバック 各自練習してきた課題曲を授業内で演奏し、それに対して教員より課題及び学修成果について個々にアドバイスを行う。

成績評価 課題への取り組み方(50%)、授業態度(50%)

テキスト 授業曲目や組み分けについては、前期授業開始前（4 月初旬）に掲示する。

オフィスアワー E メールにて相談の上、対応する。 sun.138@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 各自練習してきた課題曲を授業内で演奏し、それに対して教員より課題及び学修成果について個々にアドバイスを行う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

器楽合奏(ウィンド)Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS101／ENS201

専門／学年： 器楽専門／1～2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 成果発表会に向け、授業時間をその練習に充て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

第 1 回	ガイダンス・アンサンブル基礎概論	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	同属楽器アンサンブル実習 1・基礎	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	同属楽器アンサンブル実習 2・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	同属楽器アンサンブル実習 3・表現方法	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	同属楽器アンサンブル実習 4・立体的な演奏を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	同属楽器アンサンブル実習 5・精度の上げ方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	同属楽器アンサンブル実習 6・まとめ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	混成楽器アンサンブル実習 1・混成編成概論	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	混成楽器アンサンブル実習 2・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	混成楽器アンサンブル実習 3・バランスのとり方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	混成楽器アンサンブル実習 4・オーケストレーション	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	混成楽器アンサンブル実習 5・表現を深める	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	混成楽器アンサンブル実習 6・精度の上げ方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	混成楽器アンサンブル実習 7・まとめ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	成果発表会	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

器楽合奏（ウィンド）Ⅰ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS102／ENS202

専門／学年： 器楽専門／1～2 年次	
形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。
到達目標	2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に充て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

第 1 回	楽曲リハーサル演習 1・秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	楽曲リハーサル演習 2・秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	楽曲リハーサル演習 3・ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	楽曲リハーサル演習 4・秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	楽曲リハーサル演習 5・秋のコンサート演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 6 回	楽曲リハーサル演習 6・秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 7 回	楽曲リハーサル演習 7・秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	楽曲リハーサル演習 8・秋のコンサート演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	楽曲リハーサル演習 9・定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 10 回	楽曲リハーサル演習 10・定期演奏会演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 11 回	楽曲リハーサル演習 11・定期演奏会演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 12 回	楽曲リハーサル演習 12・定期演奏会演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	楽曲リハーサル演習 13・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	楽曲リハーサル演習 14・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	楽曲リハーサル演習 15・定期演奏会演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー	授業後直ぐに対応する。予約も可能。
備考	曲目は都度指定する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

器楽合奏Ⅰ-1・Ⅱ-1（その他の楽器）

特任教授 飯島和久
 科目コード：IEN101／IEN201

専門／学年：器楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	アンサンブルをする場合における技術的な基本（和音におけるピッチの取り方、同種楽器・他楽器とのバランス、主旋律と副旋律、あるいは伴奏などの演奏法）を学ぶ。

到達目標
 初対面同士でコミュニケーションも図りながらともに音楽をまとめ上げていけるようにする。

授業計画

・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。
 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。

第 1 回	自己紹介、グループ分け	事前 自己紹介の準備をする 事後 グループメンバー内の連絡方法を決める	50 分 50 分
第 2 回	和音を重視した優しい楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕 譜読み 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕 部分練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕 全体練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 5 回	上記楽曲を仕上げる	事前 〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 6 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕 譜読み 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 7 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕 部分練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕 全体練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記楽曲を仕上げる	事前 〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 10 回	小発表会	事前 〔グループ練習〕 ゲネプロ 事後 個人練習・反省点を振り返る	50 分 50 分
第 11 回	小発表会反省会、櫻樹祭演奏会用グループ分け	事前 グループごとに集まり反省点を振り返る 事後 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 12 回	櫻樹祭演奏会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕 譜読み 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕 部分練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕 全体練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分

フィードバック
 小発表会後に演奏内容、ステージマナー等のアドバイスでフィードバックする。

成績評価	授業態度 50% 発表会等の演奏内容 50%
テキスト	特になし

オフィスアワー
 授業後すぐに対応する。予約も可能

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

器楽合奏Ⅰ-2・Ⅱ-2（その他の楽器）

特任教授 飯島和久

科目コード：IEN102／IEN202

専門／学年：器楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	前期より難易度の高い楽曲を取り上げ、よりアンサンブル力を高める。

到達目標	自分達の力である程度のレベルまで仕上げられるようにする。 ともに音楽を作る楽しさを味わえるようにする。
------	--

授業計画	・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。
------	--

第 1 回	前期の楽曲より難易度の高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 2 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 5 回	授業（ゲネプロ）後、櫻樹祭演奏会本番	事前 事後	〔グループ練習〕 ゲネプロ 個人練習・反省点を振り返る	50 分 50 分
第 6 回	櫻樹祭演奏会反省会、発表会グループ分け	事前 事後	グループごとに集まり反省点を振り返る 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 7 回	発表会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 10 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 11 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要） 難易度も高い楽曲を学ぶ	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 12 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 15 回	授業（ゲネプロ）後、発表会本番	事前 事後	〔グループ練習〕 ゲネプロ 一年で学んだことを振り返る	50 分 50 分

フィードバック 櫻樹祭のコンサート、発表会後に演奏内容、ステージマナー等のアドバイスでフィードバックする。

成績評価	授業態度 50% 発表会等の演奏内容 50%
テキスト	特になし

オフィスアワー 授業後すぐに対応する。予約も可能

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

副科ピアノ-1

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 准教授 倉地恵子

科目コード：IND103

専門／学年： 器楽・声楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・正しい運指を習得する。

到達目標 基礎テクニックを身につけ、調性感を養うことを目標とする。

授業計画	前期 15 回 各人 20 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。 1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。		
第 1 回	基礎的な事の確認(1)－姿勢－	事前 ピアノの構造を調べる 事後 良い姿勢で演奏しているか確認をし、椅子の高さを考え、練習をする	105 分 105 分
第 2 回	基礎的な事の確認(2)－打鍵－	事前 1 本ずつ指が独立しているか確認をして、練習をする 事後 鍵盤の下までしっかり打鍵しているか確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 3 回	基礎的な事の確認(3)－運指－	事前 運指の基本を考える 事後 様々な調性のスケールの運指の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 4 回	基礎的な事の確認(4)－読譜－	事前 ヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする 事後 ト音記号とヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする	105 分 105 分
第 5 回	C dur の音階の運指の確認	事前 C dur の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 C dur の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 6 回	C dur でカデンツの定型を確認	事前 C dur のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105 分 105 分
第 7 回	a moll の音階の運指の確認	事前 a moll の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 a moll の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 8 回	a moll でカデンツの定型を確認	事前 a moll のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105 分 105 分
第 9 回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 10 回	課題に出ている音階のカデンツ練習	事前 課題の音階とカデンツの練習をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする	105 分 105 分
第 11 回	前期演奏試験曲(1)――読譜――	事前 試験曲を決める 事後 試験曲の正確な読譜をする	105 分 105 分
第 12 回	前期演奏試験曲(2)――リズム・ハーモニー――	事前 正確なリズムで演奏できるように練習をする 事後 ハーモニーを確認して、演奏をする	105 分 105 分
第 13 回	前期演奏試験曲(3)――強弱・表現――	事前 楽譜に書かれている指示されている事の確認をする 事後 表現しようと思っている音楽になっているかを確認する	105 分 105 分
第 14 回	前期演奏試験曲(4)――テンポ――	事前 ゆっくりとしたテンポで練習をする 事後 テンポをあげて練習をする	105 分 105 分
第 15 回	仕上げ	事前 暗譜の確認をする 事後 テンポが安定しているか確認をしながら、練習をする	105 分 105 分

フィードバック 前期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
実技試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。
なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科ピアノ-2

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 准教授

科目コード：IND104

専門／学年： 器楽・声楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	正確な読譜力を身につけ、表現力を養う。

到達目標 対位法や和声感を養い、曲にふさわしい様式感をもって演奏できることを目標とする。

授業計画		後期 15 回 各人 20 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。 副科ピアノ・1 と合わせて、1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。		
第 1 回	基礎テクニックを身につける(1)－legato 奏法－	事前	音階を legato で演奏できる練習をする	105 分
		事後	アルベッジョを legato で演奏できる練習をする	105 分
第 2 回	基礎テクニックを身につける(2)－staccato 奏法－	事前	手首の動きを意識する練習をする	105 分
		事後	連打の練習をする	105 分
第 3 回	基礎テクニックを身につける(3)－和音の弾き方－	事前	オクターブが力を入れずに演奏できる練習をする	105 分
		事後	和音がずれないように練習をする	105 分
第 4 回	和声感を養う(1)－基本的なコード－	事前	様々なコードを演奏し、和音の表情を感じとる練習をする	105 分
		事後	曲の中で終止形を見つける練習をする	105 分
第 5 回	和声感を養う(2)－和音の響きを聴く－	事前	ペダルの構造を調べる	105 分
		事後	ペダルの踏み方を考えながら練習をする	105 分
第 6 回	課題に出ている音階練習	事前	課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする	105 分
		事後	課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分
第 7 回	課題に出ている音階のカデンツの練習	事前	課題のカデンツを確認をする	105 分
		事後	課題の音階とカデンツの練習をする	105 分
第 8 回	後期演奏試験曲——読譜の確認——	事前	作品を決め読譜をし、楽語を調べる	105 分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	105 分
第 9 回	後期演奏試験曲——形式——	事前	形式を考えて、練習をする	105 分
		事後	曲の大きな流れを捉える	105 分
第 10 回	後期演奏試験曲——表現——	事前	表現方法を考えて、練習をする	105 分
		事後	表現する上で最適なテンポを探す	105 分
第 11 回	後期演奏試験曲——和声感——	事前	和声機能の確認をして、練習をする	105 分
		事後	和声の響きを意識して、練習をする	105 分
第 12 回	後期演奏試験曲——強弱——	事前	強弱の確認をして、練習をする	105 分
		事後	コントラストのつけ方を研究して、練習をする	105 分
第 13 回	後期演奏試験曲——音色——	事前	作曲家の要求しているニュアンスを探りながら練習をする	105 分
		事後	曲のキャラクターを考えて練習をする	105 分
第 14 回	後期演奏試験曲——フレーズ感——	事前	アーティキュレーションスラーの確認をする	105 分
		事後	フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	105 分
第 15 回	試験曲の仕上げ－まとめ－	事前	強弱・コントラストの確認をする	105 分
		事後	曲のキャラクターの確認をする	105 分

フィードバック 後期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。

成績評価 学年末試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
学年末試験にレッスンへの積極的な取り組み等を加味して総合的に評価。
なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	☑	□	□	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	□	□	□

副科声楽

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直	科目コード：IND203
--------------	--------------

専門／学年：ピアノ・器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要	歌唱に必要な基礎技術を習得する。 前期ではエチュードを中心に、後期ではイタリア古典歌曲を中心題材として、言語を伴った声楽の表現法を学ぶ。
----	---

到達目標	歌唱の基本、すなわち、正しい姿勢と腹式呼吸による、自然な発声法を習得することをテーマとする。 それぞれが持つオリジナル楽曲である「声」を研究することは、自分の個性と音楽を知ることに通じる。「声」＝「音色」の特性を生かせるような発声法および歌唱表現を習得し、音楽性を充実させることを目標とする。
------	---

授業計画	隔週 20 分の個人指導 コンコーネ他練習曲およびイタリア古典歌曲等を課題とする。
------	--

第 1 回	ガイダンス、年間の学習計画を立てる	事前 事後	コンコーネ 50 番、イタリア古典歌曲集を準備する 練習曲① 課題曲① 読譜	80 分 80 分
第 2 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 1 ストレッチ、呼吸法を中心に	事前 事後	練習曲① 課題曲① 読譜 練習曲①、② 課題曲① の練習	80 分 80 分
第 3 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 2 呼吸法、発声法を中心に	事前 事後	練習曲②、③ 課題曲① の練習 練習曲③、④ 課題曲① の練習	80 分 80 分
第 4 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 1 特に母音、子音の発音を中心に	事前 事後	練習曲③、④ 課題曲① の練習 練習曲③、④ 課題曲② の練習	80 分 80 分
第 5 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 2 母音、子音の明確化	事前 事後	練習曲④、⑤ 課題曲② の練習 練習曲⑤、⑥ 課題曲③ の練習	80 分 80 分
第 6 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 3 詩の内容を理解する	事前 事後	練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習 練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習	80 分 80 分
第 7 回	課題曲の選曲 課題曲 A 課題曲 B	事前 事後	課題曲 A 及び B の読譜 課題曲 A 及び B の練習	80 分 80 分
第 8 回	課題曲を学ぶ 1 楽譜の読み方を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B の譜読み 課題曲 A 及び B 発音を中心に練習	80 分 80 分
第 9 回	課題曲を学ぶ 2 発音を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B 単語の意味を調べる 課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる	80 分 80 分
第 10 回	課題曲を学ぶ 3 歌唱表現法を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる 課題曲 A 及び B 強弱他、気をつけて反復練習	80 分 80 分
第 11 回	試演会用の楽曲のレッスン 1 選択曲を中心に	事前 事後	試演会用の楽曲の譜読み 課題曲を中心に譜読み練習	80 分 80 分
第 12 回	試演会用の楽曲のレッスン 2 呼吸やテンポの合わせ方を中心に	事前 事後	課題曲を発声及び発音に注意して練習 課題曲を発声及び発音に注意して練習	80 分 80 分
第 13 回	試演会用の楽曲のレッスン 3 暗譜をして歌う	事前 事後	課題曲を伴奏者と合わせて練習 課題曲を暗譜しながら曲の内容を意識する	80 分 80 分
第 14 回	試演会用の楽曲を仕上げる	事前 事後	課題曲を伴奏者と合わせて練習 課題曲の暗譜を確実にし内容を深める	80 分 80 分
第 15 回	総合演習	事前 事後	課題曲を伴奏者と合わせて練習 課題曲を暗譜の上、曲の完成度を高める	80 分 80 分

フィードバック	発表会終了後、コメントにてフィードバックする。
---------	-------------------------

成績評価	発表会 30% 課題 30% 授業態度 40%
------	-------------------------

テキスト	コンコーネ 50 番 イタリア古典歌曲集等、 担当教員より、授業内にて適宜指示する。
------	--

オフィスアワー	各教員の在校時間内（ただしレッスンの時間を除く） 各教員のレッスン室
---------	---------------------------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

フルートオーケストラⅠ-1・Ⅱ-1

特任教授 飯島和久 科目コード： IEN103／ IEN203

専門／学年：フルート専門／1～2 年次

形態：実技 単位数：1 単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画

- ・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。
- ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。
- ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と 責任の心得を持って授業に取り組む事。

第 1 回	特殊楽器を紹介・試奏 (ソプラノフルート・アルトフルート)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分 105 分
第 2 回	特殊楽器を紹介・試奏 (バスフルート・コントラバスフルート)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分 105 分
第 3 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (フルートの弱点を知る)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 4 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音合わせの仕方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 5 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 6 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (ユニゾンの音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 7 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (平均律、純正律を学ぶ)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 8 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (2 声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 9 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (4 声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 10 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (担当楽器を決め、譜読みを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 11 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (時代背景、演奏法を学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 12 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (テクニクを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 13 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (バランスを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 14 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (表現を中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 15 回	発表会に向けて練習、後日発表会	事前 仕上げ 事後 発表会后、教員コメント読み後期授業に役立てる。	105 分 105 分

フィードバック 発表会での教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	

フルートオーケストラⅠ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久

科目コード：IEN104／IEN204

専門／学年：フルート専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。
到達目標	この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画	・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。		
第 1 回	コンサートに向け楽曲の練習（譜読みを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 2 回	コンサートに向け楽曲の練習（時代背景、演奏法を学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 3 回	コンサートに向け楽曲の練習（和音を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 4 回	コンサートに向け楽曲の練習（テクニックを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 5 回	コンサートに向け楽曲の練習（音程を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 6 回	コンサートに向け楽曲の練習（音色を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 7 回	コンサートに向け楽曲の練習（バランスを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 8 回	コンサートに向け楽曲の練習（表現を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 9 回	コンサートに向け楽曲の練習（仕上げ練習）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 10 回	ゲネプロ（曲順で練習）、櫻樹祭コンサート	事前 櫻樹祭コンサートに向けて問題箇所を練習する 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 11 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（譜読みを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 12 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（時代背景、演奏法を学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 13 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（テクニックを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 14 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（表現を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 15 回	ゲネプロ（曲順で練習）、授業後発表会	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105 分 105 分

フィードバック 櫻樹祭コンサート、学外でのコンサート等の演奏会等でのアンケート、また、教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒		□

声楽アンサンブルⅠ・Ⅱ

非常勤講師 栗田恵美子

科目コード：VEN103／VEN203

専門／学年：声楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	オペラの重唱曲を取り上げ、演奏するために必要な演技法・発声法・呼吸法などを総合的に学ぶ。

到達目標 履修者の演技つき重唱曲を通じ、個々の作曲家、作品の特質に触れながら、舞台での自然な動きができるよう試みる。

授業計画		
第 1 回	オペラの歴史について	事前 オペラの歴史を調べる 120 分
		事後 オペラの歴史をより深く学習する 150 分
第 2 回	オペラに必要な姿勢と発声法	事前 オペラの映像資料や文献を各自で調べ、理解を深める 120 分
		事後 姿勢、発声法などより深く探求する 150 分
第 3 回	演技の基礎 実際に一人一人に演じてもらい、演技を体感する	事前 ヘンデルのオペラについて研究する 120 分
		事後 授業で学んだ演技をより深く学習する 150 分
第 4 回	演技の基礎②	事前 オペラ・ブッフアの作品を各自調べ研究する 120 分
		事後 授業で学んだ動き方を復習し、研究する 150 分
第 5 回	男性役、女性役の場合の異なる動作、動き方を体感する	事前 オペラ・セリアの作品を各自で調べ研究する 120 分
		事後 授業で学んだ動き方を復習し各自研究する 150 分
第 6 回	視覚による演技の見え方と演技法について研究する	事前 授業で取り上げたモーツァルトのオペラ作品を映像資料などにより深く研究する 120 分
		事後 授業で学んだ動き方をより深く研究する 150 分
第 7 回	オペラ重唱曲音楽練習	事前 授業以外のモーツァルトのオペラ作品を各自調べ研究する 120 分
		事後 授業で学んだ曲を復習し、くり返し練習する 150 分
第 8 回	オペラ原語付き音楽練習	事前 古典オペラ特にモンテヴェルディ、バーセル、ラモーなどの作品を各自研究する 120 分
		事後 授業で学んだ重唱曲の音楽練習及び、原語の言葉の意味を調べる 150 分
第 9 回	オペラ重唱曲、音楽練習総括	事前 ロッシーニ、ドニゼッティ、ベッリーニのオペラを研究する 120 分
		事後 重唱曲の音楽練習の復習 150 分
第 10 回	オペラ重唱曲の演技つけ	事前 ドイツ・オペラを研究する 120 分
		事後 授業での重唱曲のオペラ映像資料から演技について研究する 150 分
第 11 回	演技をともなう重唱曲 実践練習① 一組ずつ実際に演技をしながら歌唱を試みる	事前 フランス・オペラコミックとグランド・オペラを研究する 120 分
		事後 授業の重唱曲のオペラの演技を研究する 150 分
第 12 回	演技付きオペラ重唱曲実践練習②	事前 ヴェルディのオペラを研究する 120 分
		事後 課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながら演技練習する 150 分
第 13 回	演技付きオペラ重唱曲総合練習	事前 ワグナーのオペラを研究する 120 分
		事後 課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながらより深く研究する 150 分
第 14 回	演技付きオペラ重唱曲総合練習まとめ 他者と協力しながら、演技つき歌唱の習得を試みる	事前 イタリア・ヴェリズモ・オペラを研究する 120 分
		事後 試験に向けてオペラ重唱曲の演技付き練習を行う 150 分
第 15 回	演技付きオペラ重唱曲の試験 他者と協力しながら演技つき歌唱の更なる習得をめざす	事前 オペレッタ、ミュージカルについて研究する 120 分
		事後 試験で歌ったオペラ重唱曲の個々の演奏についてディスカッションする 150 分

フィードバック 授業中または授業終了後、希望者に個別に対応する。

成績評価 演技付き演奏試験、授業態度などから総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング オペラの重唱曲を歌いながら演技することによってそれぞれの演技、演奏についてディスカッションする。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

声楽特殊演習

教授 細谷美直

科目コード：VEN204

専門／学年：声楽専門／2 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	日本歌曲の継承と発展を学ぶ。 ドイツ歌曲のはじまりと代表的作品をグループレッソンの形態で演習する 声楽アンサンブル（邦人作品）を取り上げハーモニー間隔を学ぶ
到達目標	初めてドイツ歌曲に取り組む学生に配慮し、ドイツ語の発音を中心に学ぶ それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める

授業計画	声楽科 2 年生による演習を中心とした授業 各回の授業内容は進度により変更することがある
------	---

第 1 回	日本歌曲のはじまり 明治以前の日本のうた～わらべうたの世界～	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	内容の理解を深める	120 分
第 2 回	明治初期 近代音楽教育草創時代	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	内容の理解を深める	120 分
第 3 回	明治後期 文部省 唱歌の誕生	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	内容の理解を深める	120 分
第 4 回	大正時代 「赤い鳥」童謡運動の展開	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	内容の理解を深める	120 分
第 5 回	昭和初期 童謡の黄金時代	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	自分の考えをまとめる	120 分
第 6 回	ドイツリートのはじまり シューベルトの歌曲①	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	発音に注意しながら復習する	120 分
第 7 回	シューベルトの歌曲①、② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 8 回	モーツァルトの歌曲① 作品の解釈と発音を中心に	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 9 回	モーツァルトの歌曲①、② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 10 回	声楽アンサンブル① 読譜、リズム、音程等を中心に	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	楽譜を用意し、音取りをすすめる	120 分
第 11 回	声楽アンサンブル① 和声感、様式感を中心に	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 12 回	声楽アンサンブル① ハーモニー感を中心に	事前	課題曲について調べる	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 13 回	声楽アンサンブル① 伴奏を伴い、表現の発展を図る	事前	これまでの曲を復習する	120 分
		事後	ピアニストと伴奏合わせを重ねる	120 分
第 14 回	声楽アンサンブル① 伴奏を伴い、表現を深める	事前	ピアニストと伴奏合わせを重ねる	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 15 回	声楽アンサンブル① 演奏の質の向上を図る	事前	ピアニストと伴奏合わせを重ねる	120 分
		事後	録音（画）等を使い演奏を振り返る	120 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 授業への取り組み 40％、演奏 60％

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー 授業の前後、教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒

民族音楽学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：LEC201

専門／学年：全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。「アフリカ」「南アジア」「東南アジア」という三つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。
到達目標	異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

授業計画				
第 1 回	オリエンテーション アフリカ（1）民族文化的背景	事前	教科書の p.20～24 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 2 回	アフリカ（2） 太鼓の諸相	事前	教科書の p.24～28 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 3 回	アフリカ（3） 音楽構造の特徴と原理	事前	教科書の p.28～31 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 4 回	アフリカ（4） さまざまな体鳴楽器	事前	教科書の p.31～36 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 5 回	南アジア（1） 民族文化的背景	事前	教科書の p.82～84 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 6 回	南アジア（2） 古典音楽と地方の伝統音楽	事前	教科書の p.84～86 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 7 回	南アジア（3） 古典音楽の理論と楽器	事前	教科書の p.86～90 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 8 回	南アジア（4） 古典舞踊とポピュラー音楽	事前	教科書の p.95～100 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 9 回	東南アジア（1） 東南アジアの人形芝居と音楽	事前	教科書の p.102～104 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 10 回	東南アジア（2） インドネシアのガムラン音楽	事前	教科書の p.105～109 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 11 回	東南アジア（3） 竹の音楽文化（バッターラーとラナート）	事前	教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 12 回	東南アジア（4） 竹の音楽文化（ケーンとアングクルン）	事前	教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 13 回	学生によるプレゼンテーション（1）アフリカの伝統音楽	事前	第 12 回までの授業でとりあげた音楽ジャンルまたは楽器についての発表準備。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 14 回	学生によるプレゼンテーション（2）南アジアの伝統音楽	事前	第 12 回までの授業でとりあげた音楽ジャンルまたは楽器についての発表準備。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 15 回	学生によるプレゼンテーション（3）東南アジアの伝統音楽	事前	第 12 回までの授業でとりあげた音楽ジャンルまたは楽器についての発表準備。	220 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	60 分

フィードバック ・授業でのプレゼンテーションについて、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。
・期末レポートの内容について、各自に講評をフィードバックする。

成績評価 期末レポート 40% 小レポートおよびプレゼンテーション 40% 授業時の質疑応答 20%

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999 年）
・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。hiromaru886@hotmail.com または ball.60000622@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 興味をもった音楽ジャンル、楽器について各自調べ、授業中に発表する。

備考 ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
・楽器または音楽ジャンルに関する調査および参考動画を用了たプレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐

准教授 三宅康弘 科目コード: SLF208

形態：講義 單位數：2 單位

概要	まず、楽器法として、様々な楽器の構造及び用法について、専門生による音出しを伴いつつ解説をする。
----	---

到達目標	基本的な楽器の構造や、時代ごとに異なる管弦楽法について理解を深めるようになることを目標とする。
------	---

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	--------------------------

	【楽器法】	【管弦楽法】				
第 1 回	ガイダンス 管弦楽法とは	古典派の管弦楽法（作品 A） モーツァルト：「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」第 1 楽章	事前	ガイダンスの予習	「管弦楽法」の項目を音楽事典で読む	120 分
			事後	作品 A の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120 分
第 2 回	楽器の分類法		事前	楽器の分類法の予習	資料を読む	120 分
			事後	楽器の分類法の復習	プリントを読み直す	120 分
第 3 回	金管楽器		事前	金管楽器の予習	資料を読む	120 分
			事後	金管楽器の復習	プリントを読み直す	120 分
第 4 回	木管楽器 エアリード		事前	木管楽器の予習	資料を読む	120 分
			事後	木管楽器の復習	プリントを読み直す	120 分
第 5 回	木管楽器 シングルリード、ダブルリード		事前	木管楽器の予習	資料を読む	120 分
			事後	木管楽器の復習	プリントを読み直す	120 分
第 6 回	弦楽器		事前	弦楽器の予習	資料を読む	120 分
			事後	弦楽器の復習	プリントを読み直す	120 分
第 7 回	鍵盤楽器		事前	鍵盤楽器の予習	資料を読む	120 分
			事後	鍵盤楽器の復習	プリントを読み直す	120 分
第 8 回	打楽器		事前	打楽器の予習	資料を読む	120 分
			事後	打楽器の復習	プリントを読み直す	120 分
第 9 回	バロックの管弦楽法（作品 B） ヴィヴァルディ：協奏曲集「四季」より「春」		事前	作品 B の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120 分
			事後	作品 B の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120 分
第 10 回	古典派の管弦楽法（作品 C） モーツァルト：交響曲 第 25 番 第 1 楽章		事前	作品 C の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120 分
			事後	作品 C の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120 分
第 11 回	古典派の管弦楽法（作品 D） ベートーヴェン：交響曲 第 5 番「運命」第 1 楽章		事前	作品 D の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120 分
			事後	作品 D の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120 分
第 12 回	ロマン派の管弦楽法（作品 E） チャイコフスキー：交響曲 第 6 番「悲愴」第 4 楽章		事前	作品 E の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120 分
			事後	作品 E の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120 分
第 13 回	近代の管弦楽法（作品 F） ラヴェル：ボレロ		事前	作品 F の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120 分
			事後	作品 F の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120 分
第 14 回	現代の管弦楽法（作品 G） ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲		事前	作品 G の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120 分
			事後	作品 G の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120 分
第 15 回	作品発表 オーケストレーションの実施		事前	作品発表の予習		120 分
			事後	作品発表の復習		120 分

フィードバック レポートの返却により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 作品提出・発表（オーケストレーションの実施）50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 授業の内容から器楽専門生の積極的な履修を望むが、ピアノ専門や声楽専門の学生も歓迎

学位授与の方針との関連

[illegible]

鍵盤和声Ⅱ-1

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF203

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	鍵盤和声Ⅰ-1 およびⅠ-2 が履修済であることが望ましいが、必須ではない。 伴奏付けに必要な技術を確認しながら、ピアノ書法のみならず、他の楽器を想起させるような音型などについても触れてゆく。またそれらが西洋音楽の歴史のなかでどのような変遷を辿ってきたのかを学ぶことで、音楽様式への理解を深めてゆく。
到達目標	各々の伴奏技術の上達とともに、各時代の様式——バロック、古典派、ロマン派（初期・中期・後期）、19 世紀末～20 世紀初頭のフランス音楽、そして現代ほか——の理解に基づき、鍵盤上で適切な音楽表現を実現する技術を身につける。また後期授業の鍵盤和声Ⅱ-2 における学生の各々が関心を寄せる領域への取り組みの準備も行う。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	ガイダンス 鍵盤和声基礎知識の確認	事前 各調の音階と主和音を確認する。 事後 音の響きについて考察する。	40 分 50 分
第 2 回	音階とカデンツ 即興演習	事前 各調のカデンツを確認する。 事後 即興演習の復習をする。	30 分 60 分
第 3 回	旋律・和音・リズム 移調奏	事前 リズムについて考察する。 事後 移調奏の復習をする。	30 分 60 分
第 4 回	伴奏形について 初見奏	事前 伴奏形について予習する。 事後 伴奏形を復習する。	30 分 60 分
第 5 回	数字付低音の説明と和音付け 弾き歌い	事前 和音記号を確認する。 事後 数字付低音・弾き歌いの復習演習を行う。	30 分 60 分
第 6 回	伴奏譜にメロディーをつける 主和音と属和音による伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏形を考察する。 事後 伴奏づけの反復演習をする。	30 分 60 分
第 7 回	コードネームの説明 主要三和音を用いて伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏づけを行う。 事後 コードネームの復習演習を行う。	30 分 60 分
第 8 回	コードネームを用いて与えられた旋律に伴奏をつける	事前 各調の主要三和音を確認する。 事後 コードネーム伴奏づけの反復練習をする。	30 分 60 分
第 9 回	モチーフを基に小曲を作る	事前 コードネームを確認し、課題譜を考察する。 事後 メロディーづけの復習演習を行う	30 分 60 分
第 10 回	伴奏形を変えて変奏曲を作る 副三和音を用いての伴奏づけ	事前 課題譜を考察する。 事後 変奏曲の反復演習を行う。	40 分 50 分
第 11 回	非和声音について 非和声音を用いての伴奏づけ	事前 副三和音を確認し、課題譜を考察する。 事後 非和声音の確認を行う。	40 分 50 分
第 12 回	借用和音について	事前 伴奏形を確認し、課題譜を考察する。 事後 借用和音の確認を行う。	40 分 50 分
第 13 回	前期の復習・補足	事前 非和声音について復習し、課題譜を考察する。 事後 伴奏づけの復習演習をする。	40 分 50 分
第 14 回	前期総合演習	事前 前期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。 事後 前期の総合演習を行い、理解度を深める。	40 分 50 分
第 15 回	まとめ	事前 前期の演習課題を総合的に復習する。 事後 前期に学習したことを再確認する。	70 分 20 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 伴奏のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	□	☑	☑	□	□	□

鍵盤和声Ⅱ-2

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	前期の鍵盤和声Ⅱ-1 に引き続き、鍵盤上における和声表現に必要な技術を学んでゆくとともに、作品の分析も継続して行なっ てゆく。後者については、学生個々人が関心を寄せる対象に則して授業内容を決定する。とりわけ、特定の和音の持つ性質を利用 した劇的・悲劇的表現など、より具体的な技術についても実践する。
到達目標	自らの和声感覚を養い、これを鍵盤上での実践と結びつけることが第一であることに変わりはないが、単にその状況下に必要と される条件を満たすためではなく、つねにより良い音楽表現を求め、自らの感性と理性によって主体的に決定してゆく知識とコ ミュニケーション能力を身につけることを最終的な目標とする。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	非和声音を用いて小曲を作る	事前 非和声音について確認する。	40 分
		事後 非和声音について復習する。	50 分
第 2 回	借用和音を用いての伴奏づけ	事前 借用和音を確認する。	30 分
		事後 伴奏づけの復習をする。	60 分
第 3 回	移調奏 弾き歌い	事前 弾き歌いの予習をする。	30 分
		事後 移調奏、弾き歌いの復習演習を行う。	60 分
第 4 回	借用和音を用いて主題を基に変奏曲を作る	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。	30 分
		事後 変奏曲の復習演習を行う。	60 分
第 5 回	七の和音を用いての数字付低音	事前 数字付低音について確認する。	30 分
		事後 七の和音を使った数字付低音の復習演習	60 分
第 6 回	減七の和音を用いての伴奏づけ	事前 伴奏形を確認し、課題譜の考察をする。	30 分
		事後 減七の和音の復習演習を行う。	60 分
第 7 回	主題を基に変奏曲を作る	事前 課題譜の考察をする。	30 分
		事後 変奏曲の復習演習を行う。	60 分
第 8 回	モチーフを基に小曲を作る	事前 減七の和音を確認し、課題譜の考察をする。	30 分
		事後 モチーフ奏の復習演習を行う。	60 分
第 9 回	ナボリの 6 の和音について モチーフを基に小曲を作る	事前 課題譜の考察をする。	30 分
		事後 ナボリの 6 の和音の復習演習を行う。	60 分
第 10 回	増六の和音について 主題を基に変奏曲を作る。	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。	40 分
		事後 増六の和音を確認し、変奏曲を作る反復演習を行う。	50 分
第 11 回	モチーフを基にメロディーを作る	事前 課題譜を考察する。	40 分
		事後 モチーフ奏の反復演習を行う。	50 分
第 12 回	初見奏・弾き歌い・移調奏 主題を基に小曲を作る	事前 課題譜を考察する。	40 分
		事後 課題を基に小曲を作る反復演習を行う。	50 分
第 13 回	後期の復習・補足	事前 伴奏づけの復習演習を行い、後期に学んだことと考察する。	40 分
		事後 課題曲の反復演習を行う。	50 分
第 14 回	後期総合演習	事前 後期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。	40 分
		事後 後期の総合演習を行い、理解度を深める。	50 分
第 15 回	まとめ	事前 これまでの演習課題を総合的に復習する。	70 分
		事後 学習したことを再確認する。	20 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50％、試験・提出物 50％
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて行う。

アクティブ・ラーニング 伴奏のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力												
			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法概論

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 阿部真貴子		科目コード：THE101
専門／学年： 全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	音楽療法は、活動における音楽の持つ力と人とのかわりを用いて、対象者を多面的に支援する。音楽療法は医療・福祉・教育など様々な領域でニーズがあり、音楽療法の技能・知識も様々な領域で応用されている。本講義では、音楽療法士養成にあたって音楽療法の知識を学ぶとともに音楽療法とは何かについて考える時間としたい。	
到達目標	音楽療法とは何か、音楽療法の定義、音楽療法の歴史、音楽療法に必要な様々な理論、セッションの流れ等について学ぶ。講義を聴く・テキストを読むだけでなく、質疑応答を通して学生で意見を出し合い、より音楽療法を理解し、最終的には「音楽療法とは何か」について各自言語化・文章化できることを到達目標とする。	
授業計画		

第 1 回	第1章 音楽療法の現場風景 自閉症の子どもへの音楽療法	事前	p.2～4「第1章音楽療法の現場の風景」を読む。	140 分
		事後	第1章の内容の中で分からない用語を書きだし、調べる。	140 分
第 2 回	第2章 音楽療法とは カジュアルな音楽療法、フォーマルな音楽療法	事前	p.5～8「カジュアルな音楽療法」を読む。	140 分
		事後	「カジュアルな音楽療法」の例を書きだす。	140 分
第 3 回	第2章 音楽療法とは フォーマルな音楽療法の条件	事前	p.8～27「フォーマルな音楽療法の条件」を読む。	140 分
		事後	フォーマルな音楽療法の5つの条件の重要な部分を書きだす。	140 分
第 4 回	第3章 聴く音楽療法、する音楽療法 聴く音楽療法(受動的音楽療法)のいろいろ	事前	p.28～30「聴く音楽療法」を読む。	140 分
		事後	授業中に見た音楽療法の動画の感想を提出する。	140 分
第 5 回	第3章 聴く音楽療法、する音楽療法 する音楽療法(能動的音楽療法)のいろいろ	事前	p.30～42「する音楽療法」を読む	140 分
		事後	歌唱、楽器演奏、即興演奏、身体運動、作曲の中の1つを選びその重要性を提出。	140 分
第 6 回	第4章 音楽療法には効果があるのか 何をもって効果と呼ぶか、どうやって効果を確かめるか	事前	p.43～46「音楽療法には効果があるのか」を読む。	140 分
		事後	音楽療法の効果の中の「生理学的方法」と「心理学的方法」について調べる。	140 分
第 7 回	第4章 音楽療法には効果があるのか 数量化できるもの、数量化できないもの	事前	p.46～50「数量化できるもの」「数量化できないもの」を読む。	140 分
		事後	「量的研究」と「質的研究」について調べる。	140 分
第 8 回	第5章 音楽療法の歴史 古代における音楽と癒し。神話・歴史のエピソードに見る音楽と癒し	事前	p.51～55「音楽療法の歴史」を読む。	140 分
		事後	古代・神話・歴史のエピソードに関する文献を探す。	140 分
第 9 回	第5章 音楽療法の歴史 近代的音楽療法のはじまりー米国での音楽療法の発展及び日本における近代音楽療法の歴史	事前	p.55～59「近代的音楽療法の始まり」をよむ。	140 分
		事後	参考文献の「日本の音楽療法の動向」からさらに現在の日本の動向を調べる。	140 分
第 10 回	第6章 音と音楽とところとからだ 音とは何か・音を聴く・音と音楽・音楽と感情	事前	p.60～69「音と音楽とところとからだ」を読む。	140 分
		事後	音とは何か・音と感情・音と音楽について自分の体験を書きだし、提出する。	140 分
第 11 回	第7章 音楽療法のさまざまなアプローチ からだへのアプローチ・ところへのアプローチ	事前	p.70～86「からだへのアプローチ・ところへのアプローチ」を読む。	140 分
		事後	授業中に見た「応用行動分析的アプローチ」のDVDを観て、感想を書き、提出。	140 分
第 12 回	第7章 音楽療法のさまざまなアプローチ ところへのアプローチ・社会へのアプローチ	事前	p.86～105「人間主義心理学(ノードフ・ロビンズ音楽療法)」を読む。	140 分
		事後	授業中に見た「ノードフ・ロビンズ音楽療法」の動画を観て感想を書き、提出。	140 分
第 13 回	第8章 音楽療法が問いかけること 音楽療法発展の2つの方向・音楽療法の現場から、音楽について考える。	事前	p.106～115「音楽療法が問いかけること」を読む。	140 分
		事後	音楽療法と音楽教育について自分の考えを書き、提出。	140 分
第 14 回	第8章 音楽療法が問いかけること 音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を考える。	事前	p.116～120「音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を読む。	140 分
		事後	「個人の健康」と「社会の健康」について自分の考えを書き、提出。	140 分
第 15 回	第8章 音楽療法が問いかけること まとめ テキスト全域のまとめ 試験	事前	テキスト「音楽療法をまなぶ」全般から質問・疑問点を出す。	140 分
		事後	テキスト全域および試験の振り返り。	140 分

フィードバック

成績評価 筆記試験 60%、授業態度 20%、レポート等の提出 10% 発言・質問等の積極性 10%

テキスト 二俣泉・白川ゆう子・三浦優佳著『新訂増補版 音楽療法をまなぶ』（アカデミア・ミュージック株式会社）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室、もしくはメールにて対応する。mabe@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブラーニング

- ・二人組になり、会話の中から相手の情報を引き出す
- ・動画を見た感想を言い合う
- ・模擬セッションに参加する
- ・グループワーク

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	☑	□

児童の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目
※実務経験を持つ教員による授業

病院、特別支援学級、特別支援学校などで音楽療法の実務経験を持つ教員が、児童の音楽療法の理論や技術、実践方法などについて授業をおこなう

非常勤講師 鈴木涼子	科目コード：THE102
専門／学年：全専門／１年次	

形態：講義	単位数：2 単位
概要	児童に対する音楽療法の実践は、日本においても諸外国においても、音楽療法における重要な領域の一つである。 児童に対する音楽療法の理論や実践を知り、児童の意欲を引き出ししながら発達を促進する活動の進め方、活動の創作方法について学ぶ。
到達目標	児童への音楽療法の理論、実践の手順を理解する。 児童の意欲を引き出ししながら発達を促進させるための諸技術を学ぶ。

授業計画	講義とともに、ディスカッションや音楽活動の体験、活動の創作などの演習も組み合わせておこなう。
------	--

第 1 回	児童の音楽療法の歴史・概要 児童の音楽療法の対象	事前 事後	児童の音楽療法について知っていること、これから知りたいことを考えて整理する。 授業のノートを振り返り、要点をまとめる。	140 分 140 分
第 2 回	ノードフ・ロビンズ音楽療法	事前 事後	テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.55-59、p.72-78 を読む。 授業で紹介したノードフ・ロビンズ音楽療法の楽曲を弾き語りする。	140 分 140 分
第 3 回	感覚と運動の高次化理論にもとづく音楽療法	事前 事後	テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.72-78 を読む。 感覚と運動の高次化理論にもとづく音楽療法の特徴について振り返る。	140 分 140 分
第 4 回	ミュージック・ケア 早産児に対する音楽療法	事前 事後	テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.79-87 を読む。 ミュージック・ケア、早産児に対する音楽療法の特徴について振り返る。	140 分 140 分
第 5 回	応用行動分析に基づく音楽療法 (理論と介入方法、音楽療法への応用)	事前 事後	テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.48-53 を読む。 授業で扱った音楽療法の活動の手順を振り返り、自分でもできるようにする。	140 分 140 分
第 6 回	児童の「気づき」・「眼差しの共有」を促す音楽活動	事前 事後	テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.16-51 を読む。 「気づき」・「眼差しの共有」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分 140 分
第 7 回	児童の「要求行動」を促す音楽活動	事前 事後	テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.52-61 を読む。 「要求行動」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分 140 分
第 8 回	児童の「見分ける力、聞き分ける力」を促す音楽活動	事前 事後	テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.62-65、p.76-87 を読む。 「見分ける力、聞き分ける力」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分 140 分
第 9 回	児童の「行動のコントロール」を促す音楽活動	事前 事後	テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.66-75、p.88-91 を読む。 「行動のコントロール」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分 140 分
第 10 回	児童の「動作模倣、音声模倣」を促す音楽活動	事前 事後	テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.92-115 を読む。 「動作模倣、音声模倣」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分 140 分
第 11 回	児童の発達を促す曲づくり、活動づくりのポイント	事前 事後	テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.126-131 を読む。 第 11 回の授業で学んだことを、音楽教育においてどのように生かせるか考える。	140 分 140 分
第 12 回	児童の反応を引き出せない時の工夫、児童の介助・支援の方法	事前 事後	テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.132-141 を読む。 第 12 回の授業で学んだことを、音楽教育においてどのように生かせるか考える。	140 分 140 分
第 13 回	児童の発達を促す音楽活動の創作	事前 事後	第 1・12 回の授業の内容を振り返り、理解を定着させる。 授業中に自分で考えた音楽活動を振り返り、工夫できるところがないか再考する。	140 分 140 分
第 14 回	創作した音楽活動の発表、共有	事前 事後	自分で考えた音楽活動を練習する。 他の学生が発表した音楽活動の中から一つを選び、練習する。	140 分 140 分
第 15 回	授業まとめ、試験	事前 事後	第 1・14 回の授業内容を振り返りノートを整理する。 第 1・15 回の授業内容を振り返り、感想を書く。	140 分 140 分

フィードバック	授業での課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	--------------------------------------

成績評価	期末試験の成績 40%、授業中に実施する課題 30%、授業への積極的な取り組み 30%。
------	--

テキスト	二俣泉・鈴木涼子著『音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル』（春秋社）
------	---

参照資料：宮本啓子・二俣泉編著『音楽療法を知る その理論と技法』（杏林書院）

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールで対応する。メールアドレスは授業時に伝える。
---------	--

アクティブ・ラーニング	- グループに分かれて音楽活動を考える - グループに分かれて音楽活動のポイントや工夫例についてディスカッションをおこなう - 考えたアイデアや創作した音楽活動を発表したり、他者の発表にコメントをおこなったりする - 音楽活動のロールプレイをおこなう
-------------	---

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

高齢者の音楽療法

非常勤講師 田原ゆみ

科目コード：THE103

専門／学年：全専門／1年次

形態：講義

单位数：2 单位

概要	高齢化の進展により、高齢者を対象とした音楽療法に対するニーズや期待は年々高まっている。本授業では主に高齢者のための音楽療法に関する基本的な知識を習得するとともに、その実施方法について具体的に学ぶ。また、近年関心が高まっているホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についても事例を交えながら学ぶ。
到達目標	高齢者のための音楽療法に関する基本的な知識を身に付け、四季に合った音楽療法プログラムの作り方とその実施方法について学ぶ。ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法について理解する。

授業計画

第 1 回	講師と学生の自己紹介	事前	これまでの授業で学んだことを振り返りまとめる	130 分
	音楽療法の定義、歴史、日本の現状	事後	授業内容を振り返り、要点をまとめる	140 分
第 2 回	高齢者を取りまく環境および高齢者に多く見られる疾病と障がいについて	事前	高齢者の特徴としてどのような点が挙げられるかまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、高齢者の環境や疾病についてまとめる	140 分
第 3 回	高齢者を対象とした音楽療法の治療理論	事前	これまでの授業で学んだ治療理論についてまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法の治療理論についてまとめる	140 分
第 4 回	高齢者を対象とした音楽療法の目標	事前	これまでの授業で学んだ音楽療法の目標についてまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法の目標についてまとめる	140 分
第 5 回	認知症高齢者を対象とした音楽療法	事前	認知症について調べてまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、認知症高齢者の音楽療法の特徴や有効性についてまとめる	140 分
第 6 回	神経学的リハビリテーションのための音楽療法	事前	神経学的音楽療法について調べてまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、神経学的音楽療法の種類と有効性についてまとめる	140 分
第 7 回	介護予防のための音楽療法および健康な高齢者を対象とした音楽療法	事前	介護予防について調べてまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、健康な高齢者を対象とした音楽療法についてまとめる	140 分
第 8 回	高齢者を対象とした音楽療法のプログラムの構成	事前	これまで見学したセッションのプログラムを思い出してまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法のプログラムについてまとめる	140 分
第 9 回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの作成	事前	高齢者に馴染みのありそうな曲を調べてまとめる	130 分
		事後	指定された四季に適合した高齢者の音楽療法プログラムを完成させる	140 分
第 10 回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表（1）	事前	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表準備をする	130 分
		事後	自身の発表内容の改善点および他の学生の発表を聞いた感想をまとめる	140 分
第 11 回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表（2）およびフィードバック	事前	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表準備をする	130 分
		事後	自身の発表内容の改善点および他の学生の発表を聞いた感想をまとめる	140 分
第 12 回	ホスピス・緩和ケアの概要	事前	ホスピス・緩和ケアについて調べてまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアについてまとめる	140 分
第 13 回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の概要	事前	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法について調べてまとめる	130 分
		事後	授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についてまとめる	140 分
第 14 回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の実際	事前	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の事例について調べてまとめる	130 分
		事後	授業を振り返り、ホスピス・緩和ケアの音楽療法の効果や留意点についてまとめる	140 分
第 15 回	講義内容の総括と試験	事前	これまでの授業を振り返り、要点や疑問点をまとめる	130 分
		事後	授業内容と試験を振り返り、理解を深める	140 分

フィードバック 授業内課題やレポートに対するコメントや添削などで適宜フィードバックをおこなう

成績評価 高齢者の音楽療法やホスピス・緩和ケアにおける音楽療法に関する基本的な知識を習得することができたか、高齢者を対象とした集団音楽療法プログラムの基礎的な作成方法を身につけることができたか、試験・課題・授業への積極的な取組を総合的に評価する。
試験 50%、授業内で指示する課題 30%、授業への積極的取組 20%

テキスト 授業内で資料を配布する
参考資料：貫行子著『新訂 高齢者の音楽療法』（音楽之友社 2009）（購入任意）

オフィスアワー 授業後に教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

思春期・成人の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

平成9年認定音楽療法士取得以来、発達障害児童を中心に臨床を行なっている教員が、様々な領域の音楽療法に関する講義と視覚的資料を使用しながら指導を行う。

講師	中山晶世	科目コード	THE104
専門／学年	全専門／2 年次		
形態	講義		
	単位数：2 単位		

概要	近年、音楽療法の研究は目覚ましく、様々な障害や疾患に音楽が適応され、医療分野でも認められてきている。また、様々な音楽療法において音楽の使い方や目的も異なる。それらの音楽療法を幅広く学び、音楽療法の有効性を考える。
----	--

到達目標	音楽療法は、年齢・障害・領域によって音楽の使い方、セッションの進め方、形態、評価の仕方等が変わってくる。この授業では、おもに思春期と成人の音楽療法に関して理解を深める。様々な障害や疾患に関しての知識を持ち、それらの障害や疾患に有効な音楽療法の方法を学ぶ。
------	---

授業計画	授業は、テキスト内の難解な疾患名や用語等を調べ、理解した上で音楽療法の方法を学びながら進めていく。
------	---

第 1 回	精神科での音楽療法 精神科患者の特質	事前 p.129～130 統合失調症の特質を読む。 事後 精神科病院の音楽療法を見学した感想や疑問を提出。	140 分 140 分
第 2 回	精神科での音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.117～128 精神科での音楽療法を読む。 事後 実際の展開・伴奏・プログラムの立て方・配慮点・問題行動の対処についてノートに書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	慢性疾患の音楽療法 慢性疾患患者の特質	事前 p.168～172 慢性疾患患者の特質を読む。 事後 慢性疾患・急性疾患の差異。慢性疾患患者の心境。生活指導・医療との協同作業についてまとめる。	140 分 140 分
第 4 回	慢性疾患の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.172～179「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 音楽療法の適用領域・適用方法・目的・効果をまとめる。	140 分 140 分
第 5 回	心身症の音楽療法 心身症患者の特質	事前 p.195・200～201「心身症患者の特質」を読む。 事後 ストレスによる胃潰瘍や人間関係に悩み円形脱毛症などについて調べる。	140 分 140 分
第 6 回	心身症の音楽療法 音楽療法の症例を中心に	事前 p.195～200 「5 つの症例」を読む。 事後 摂食障害・高血圧症・肩関節周囲炎・過敏性腸症候群患者に対する音楽療法を学ぶ。	140 分 140 分
第 7 回	神経症・うつ状態の音楽療法 神経症・うつ状態患者の特質	事前 p.204～208「神経症・うつ状態」を読む。 事後 神経症の症状・うつ状態の症状の特質をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 8 回	神経症・うつ状態の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.208～214「神経症・うつ状態の音楽療法」を読む。 事後 音楽療法の長所と短所・音楽療法の適応・患者と接する時の注意点をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 9 回	発達障害の音楽療法 発達障害者の特質	事前 p.131～132「発達障害者の特質」を読む。 事後 「個人の行動に関する要因」「環境・制度に関する要因」について具体的な例を書き出す。	140 分 140 分
第 10 回	発達障害の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.133～154「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 地域の人たちとの交流の機会の提供・余暇活動の機会の提供と指導・不適切な行動の軽減を調べる	140 分 140 分
第 11 回	音楽療法で行う障害・疾病の理解 音楽療法士が向きあう対象者への知識	事前 p.5～12「音楽療法の実践 総論」を読む。 事後 音楽療法士が対象者に向きあう時の注意点を書き出す。	140 分 140 分
第 12 回	音楽療法で行う障害・疾病の理解 音楽療法士としての心構えと責任	事前 p.15～24「音楽療法士の治療的自我の育成」を読む。 事後 信頼され、人間的に自然体でのぞめるような音楽療法士になるための条件を書き出す。	140 分 140 分
第 13 回	認知症予防の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 「認知予防の音楽療法」について調べる宿題を出してある。 事後 認知予防の活動例を作成し、提出。	140 分 140 分
第 14 回	様々な疾患における音楽療法の効果	事前 「音楽療法の効果」について考える宿題をだしてある。 事後 1 つの領域を選び、音楽療法の効果についてレポートを提出。	140 分 140 分
第 15 回	授業のまとめ 理解度確認テスト	事前 1～14 回の復習をする。 事後 理解度確認テストの振り返り。	140 分 140 分

フィードバック	提出したノートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------

成績評価	理解度確認テスト 60％ 授業態度 20％ ノート提出 20％
------	---------------------------------

テキスト	日野原重明監修『標準 音楽療法入門 下 実践編』（春秋社） その他、必要に応じてプリントなどを配布する。
------	---

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp
---------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	☑	☑	□	☑	□

音楽療法技法-1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE107

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	音楽療法では、対象者に合わせることが基本となる。例えば児童の場合、対象児の行動の速度に合わせて音楽の速度を変える。それによって対象児の理解度やセラピストとの関係性も深くなる。高齢者の場合、行動の速度が遅くなる他に声の高さも低くなる。また、音域も狭くなる。従って歌唱では、既成の曲を対象者の音域に合わせたり、速度を遅くすることが必要となる。セラピストは臨機応変に対象者に合わせるよう、努力する。

到達目標	授業の中で模擬セッションを行い、ピアノ担当者はクライアントの歌唱の音域に合わせて演奏したり、楽器演奏の速度に合わせて演奏する。「合わせる」経験を通して音楽療法に必要な、対象者とのコミュニケーションを経験する。
------	--

授業計画	楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。
------	-----------------------------

第 1 回	音楽療法で使われる楽器の名称・演奏方法を学ぶ。	事前 事後	自分の知っている楽器の名称を楽器表に書き入れる。 音楽療法で使われる楽器を加え、演奏方法を書き入れる。	140 分 140 分
第 2 回	音楽療法での音楽のあり方を学ぶ。	事前 事後	配布した参考資料「音楽療法での音楽のあり方」を読んでおく。 一般の演奏と音楽療法の音楽の違いをノートにまとめる。	140 分 140 分
第 3 回	模擬セッション① 既成曲(童謡や唱歌など)でピアノ(セラピスト)楽器(対象者)の 1 対 1 の演奏	事前 事後	各自、童謡や唱歌などの既成曲を決め、ピアノの練習をする。 対象者役(楽器)との演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 4 回	模擬セッション② 同形式で、対象者のテンポを合わせる。	事前 事後	前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 対象者(楽器)とテンポを合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 5 回	模擬セッション③ 同形式で、対象者のテンポ・強弱を合わせる。	事前 事後	前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 対象者(楽器)とテンポと強弱を合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 6 回	模擬セッション④ 同形式で、ピアノ伴奏の工夫	事前 事後	前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をし、伴奏形を工夫する。 セラピスト役が伴奏を替えることによって対象者役の何が替るのかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	様々なリズムを組みわせて 1 曲(8 小節)を完成させる(協同作業)	事前 事後	リズムまたはリズムパターンを考えておく。 できた 8 小節を楽器で演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第 8 回	前回作成したリズムに強弱をつけ、楽器で演奏する(協同作業)	事前 事後	前回作成した 8 小節の曲に強弱をつける。 できた 8 小節を楽器で強弱をつけて演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第 9 回	前回作成したリズムにメロディをつけ、歌う(協同作業)	事前 事後	前回作成した 8 小節の曲に、メロディをつける。 メロディをつけた 8 小節に歌詞をつける。	140 分 140 分
第 10 回	セッションで使う「こんにちは」の曲を作曲する(個人)	事前 事後	子どものセッションにふさわしい「こんにちは」の曲を作る。 「こんにちは」の曲を作るにあたっての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	作曲した「こんにちは」を 1 人ずつ発表する	事前 事後	作曲した「こんにちは」の楽譜を完成させる。 1 人ずつの作品について、感想を提出。	140 分 140 分
第 12 回	即興課題 ドーリア旋法①教会旋法の説明	事前 事後	教会旋法について調べる。 ドーリア旋法について復習する。	140 分 140 分
第 13 回	即興課題 ドーリア旋法②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でドーリア旋法に慣れる。	事前 事後	ドーリア旋法の復習 ピアノ役 2 人で連弾し、ドーリア旋法の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 14 回	即興課題 ドーリア旋法③1 人でピアノ演奏する。	事前 事後	ドーリア旋法の復習。 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 15 回	即興課題 ドーリア旋法④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 事後	ドーリア旋法の復習。 対象者の楽器のリズムに合わせることを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分

フィードバック 模擬セッションについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内(模擬セッション内)の発言等の積極性 25%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 音楽療法の模擬セッションの中でピアノ役・クライアント役・ギャラリー役になってセッションを行った後、意見を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法技法-2

※音楽療法士養成に関する科目

講師	中山晶世	科目コード	THE108
----	------	-------	--------

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
-------	----------

概要	音楽療法で使われる音楽には既成音楽と即興音楽があり、対象者によって使い分けが必要となる。また、即興音楽には旋法や音階などの技術が必要である。それらの即興音楽を修得する方法として音楽性・即興性・表現力などを学ぶ。また、後半は、音楽療法で使われる合奏曲を、チームを組んで演奏したり、創作しながら、チームでのコミュニケーションを通して、対象者とのコミュニケーションを学ぶ。
----	---

到達目標	即興音楽は、ドーリア旋法・アラビア音階・沖縄音階を、音階楽器・連弾・ソロ演奏・対象者役の人の楽器と一緒に演奏と難易度を上げながら修得する方法で行なう。合奏はチームで合奏を行うだけが目標ではなく、チームで話し合い、楽器を決め、役割を決め、練習するまでのプロセスを通して、チームでのコミュニケーションを作ることを目標とする。
------	--

授業計画	楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。
------	-----------------------------

第 1 回	即興課題 アラビア音階①アラビア音階の説明	事前 事後	アラビア音階について調べる。 アラビア音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第 2 回	即興課題 アラビア音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でアラビア音階に慣れる。	事前 事後	アラビア音階の復習。 ピアノ役 2 人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	即興課題 アラビア音階③1 人でピアノ演奏	事前 事後	アラビア音階の復習 アラビア音階の復習 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 4 回	即興課題 アラビア音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 事後	アラビア音階の復習 対象者のリズムに合わせることを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第 5 回	即興課題 沖縄音階①沖縄音階の説明	事前 事後	沖縄音階について調べる。 沖縄音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第 6 回	即興課題 沖縄音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)で沖縄音階に慣れる。	事前 事後	沖縄音階の復習 ピアノ役 2 人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	即興課題 沖縄音階③1 人でピアノ演奏	事前 事後	沖縄音階の復習 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 8 回	即興課題 沖縄音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 事後	沖縄音階の復習 対象者の楽器のリズムを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第 9 回	合奏曲を作る(協同作業)① 音楽療法楽器を用いて既成曲(ハンガリア舞曲など)の合奏曲を作る。	事前 事後	合奏曲を作るための既成曲を決めておく。 音楽療法の使用楽器がふさわしかったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 10 回	合奏曲を作る(協同作業)② 音楽療法のメロディ楽器を用いて既成曲(ふるさとなど)の合奏曲を作る。	事前 事後	合奏曲を作る為の既成曲を決めておく。 既成曲にふさわしいメロディ楽器だったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	合奏曲を作る(協同作業)③ 絵楽譜・色音符楽譜等の視覚的教材を用いて合奏を体験する。	事前 事後	既成曲を決め、どのような視覚教材にするか考えておく。 視覚教材を完成させる。	140 分 140 分
第 12 回	合奏曲を作る(協同作業)④ 既成曲で絵楽譜を用いた合奏曲を作成する。	事前 事後	前回作成した視覚教材を準備する。 演奏し、工夫した面などについてノートに書きだす。	140 分 140 分
第 13 回	作成した絵楽譜を各グループで発表する。 発表後、意見交換をする。	事前 事後	さらに完成させた視覚教材を準備する。 発表後、意見交換した内容を書きだし、感想を提出。	140 分 140 分
第 14 回	「静かな森の大きな木」(オリジナル曲集を参考資料として配布) グループで話し合い、模擬セッションを考える(協同作業)	事前 事後	あらかじめ参考資料より曲を決めておく。 模擬セッションをするにあたって、工夫した面、難しかった面を書きだす。	140 分 140 分
第 15 回	同模擬セッションをグループごとに発表。	事前 事後	前回決めた曲を使って模擬セッションを準備する。 模擬セッション後、成功した面、反省した面を書きだし、提出する。	140 分 140 分

フィードバック	即興演奏及び合奏でのプロセスについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内(模擬セッション内)の発言等の積極性 25%
------	---

テキスト	必要に応じてプリントなどを配布する。
------	--------------------

オフィスアワー	授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp
---------	---

アクティブ・ラーニング	音楽療法の模擬セッション及び協同作業の中で小グループになり、積極的に意見を出し合う。
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

臨床心理学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 宮澤 淳滋

科目コード：NAT103

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	臨床心理学は、悩みを抱え、こころを病む人への援助に関する実践的な学問である。本講義では、心理臨床の対象となるクライアントがどのような問題を抱えているのか（さまざまな心理的問題）、心理療法理論（先人たちによるこころの見方や考え方）、心理臨床の実際（心理療法の特徴とその展開）について取り上げ、臨床心理学の基本的な考え方とその実践について理解する。

到達目標	①こころの悩み・問題に対する臨床心理学的な支援の考え方を体得し、②臨床心理学の実践の歴史の変遷について理解し、③臨床心理学の代表的な理論・技法についての知識を習得し、④グループワークを通じて、自分自身のこころのありようについて理解を深める
------	---

第 1 回	【基本的な聴く技術】臨床心理学における聴き方を習得する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートの見直し、およびワークの振り返りをして、聴き方を深める。	70 分 200 分
第 2 回	【心理学的アセスメント】臨床心理学におけるアセスメントの流れを理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、アセスメントについての理解を深める。	70 分 200 分
第 3 回	【乳幼児期から児童期までの心理学的問題】乳幼児期から児童期までの心理学的発達を考え、生じやすい問題を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、心理学的問題についての理解を深める。	70 分 200 分
第 4 回	【児童期から青年期までの心理学的問題】児童期から青年期までの心理学的発達を考え、生じやすい問題を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、心理学的問題についての理解を深める。	70 分 200 分
第 5 回	【青年期から老年期までの心理学的問題】青年期から老年期までの心理学的発達を考え、生じやすい問題を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、心理学的問題についての理解を深める。	70 分 200 分
第 6 回	【臨床心理学の理論（1）パーソンセンタードアプローチ】ロジャースのパーソンセンタードアプローチについて理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、パーソンセンタードアプローチについての理解を深める。	70 分 200 分
第 7 回	【臨床心理学の理論（2）その他の人間性心理学】ロジャース後期以降のパーソンセンタードアプローチおよびその他の人間性心理学の発展を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 グループワークを振り返り、自己理解を深める。	70 分 200 分
第 8 回	【臨床心理学の理論（3）パニック障害の認知行動療法】パニック障害を取り上げて、実際に行われる認知行動療法を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、認知行動療法について理解する。	70 分 200 分
第 9 回	【臨床心理学の理論（4）認知行動療法の技法】認知行動療法の成立過程、考え方、技法について理解する。	事前 事後	事前に配布された資料を読む。 授業ノートを見直し、認知行動療法の実践について理解を深める。	70 分 200 分
第 10 回	【臨床心理学の理論（5）精神分析】フロイトおよびフロイト以後の精神分析について理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、精神分析について理解する。	70 分 200 分
第 11 回	【臨床心理学の理論（6）ユング心理学】ユング心理学の基本的な考え方を理解し、夢の扱い方を知る。	事前 事後	事前に配布された資料を読む。 授業ノートを見直し、ユング心理学について理解する。	70 分 200 分
第 12 回	【臨床心理学の理論（7）力動的心理療法の実際】精神分析やユング心理学がどのように実践されているか、事例を通して議論する。	事前 事後	事前に配布された資料を読む。 授業で話し合った内容を振り返り、理解を深める。	70 分 200 分
第 13 回	【臨床心理学の理論（8）アートセラピー】箱庭療法、描画療法などについて理解し、アートと心との関係をとらえ直す。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、アートと臨床心理学との関係を理解する。	70 分 200 分
第 14 回	【臨床心理学の理論（9）家族療法】家族療法について理解し、家族の及ぼす心への影響を議論する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、家族療法について理解を深める。	70 分 200 分
第 15 回	【まとめ】授業のまとめ、試験について。	事前 事後	これまでの授業の内容を振り返る。 参考文献を読み、さらに理解を深める。	70 分 200 分

フィードバック リアクション・ペーパーを用い、質問・感想・意見などを受け付ける。それらに対し、授業内でフィードバックを行う。

成績評価 試験（70%）、授業への積極的な取り組み（30%）
適宜リアクション・ペーパーの提出を求める。有意義なリアクション（質問、意見、感想など）には加点して評価する。

テキスト 講義時に資料を配布する。

参照資料
下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 [改訂新版]』ミネルヴァ書房
野島一彦・岡村達也編『臨床心理学概論』遠見書房

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。

アクティブ・ラーニング 毎時間、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイングを実施する。

備考 この講義は、臨床心理学の全体像を概観し、こころの問題を抱えた人への援助の基本を学ぶことを目標としている。毎回テーマに沿ったグループワークを盛り込みながら、体験的に学ぶことができるように授業を進めていく。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	□	☑	□	□	☑	□	□	☑	☑	☑	□	□		☑

副科器楽（ピアノ）		
ピアノ主任 講師 倉地恵子		科目コード：IND204
専門／学年：器楽・声楽専門／2 年次		
形態：実技	単位数：2 単位	
概要 ピアノ奏法の基本を確認し、教育実習・音楽療法実習での実践力を身につける。		

到達目標 様々なピアノ曲を学び、より豊かな表現力溢れる演奏にむすびつける。年度末に発表会を行う。

授業計画			通年 15 回、20 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。		
第 1 回	練習曲（1）―打鍵―	事前	練習曲を 1 曲選曲して、読譜をする	105	分
		事後	鍵盤の下まで打鍵しているか、確認をする	105	分
第 2 回	練習曲（2）―運指―	事前	楽譜に記されている指使いで、練習をする	105	分
		事後	運指の確認をして、練習をする	105	分
第 3 回	バッハの作品（1）―読譜―	事前	バッハの作品を 1 曲選曲して、読譜をする	105	分
		事後	読譜の確認をする	105	分
第 4 回	バッハの作品（2）―和声感―	事前	和声機能の確認をして、練習をする	105	分
		事後	和声の響きを意識して、練習をする	105	分
第 5 回	ソナタ（1）―形式―	事前	モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンのソナタから 1 曲を選び、1 楽章の読譜をする	105	分
		事後	形式を考えて、練習をする	105	分
第 6 回	ソナタ（2）―表現―	事前	表現方法を考えて、練習をする	105	分
		事後	表現をする上で、最適なテンポを探す	105	分
第 7 回	ロマン派の作品（1）―強弱―	事前	ロマン派の作品を 1 曲選曲して、読譜をする	105	分
		事後	強弱の確認をして、練習をする	105	分
第 8 回	ロマン派の作品（2）―音色―	事前	作曲家の要求しているニュアンスを探りながら、練習をする	105	分
		事後	曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105	分
第 9 回	発表会用の楽曲―読譜の確認―	事前	作品を選曲して、読譜をする	105	分
		事後	楽語を調べ、読譜の確認をする	105	分
第 10 回	発表会用の楽曲―形式―	事前	形式を考えて、練習をする	105	分
		事後	曲の大きな流れを捉える練習をする	105	分
第 11 回	発表会用の楽曲―表現―	事前	表現方法を考えて、練習をする	105	分
		事後	表現をする上で、最適なテンポを探す	105	分
第 12 回	発表会用の楽曲―和声感―	事前	和声機能の確認をして、練習をする	105	分
		事後	和声の響きを意識して、練習をする	105	分
第 13 回	発表会用の楽曲―強弱―	事前	強弱の確認をして、練習をする	105	分
		事後	コントラストのつけ方を研究して、練習する	105	分
第 14 回	発表会用の楽曲―音色―	事前	作曲家の要求しているニュアンスを探りながら、練習をする	105	分
		事後	曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105	分
第 15 回	発表会用の楽曲の仕上げ―まとめ―	事前	フレーズ感をもって演奏をしているか、確認をする	105	分
		事後	暗譜の確認をする	105	分

フィードバック 発表会での演奏について、コメントをつけ、フィードバックする

成績評価 発表会 30% 課題への取り組み 30% 授業態度 40%

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各実技担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科器楽（ピアノ以外）

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 特任教授 飯島和久	科目コード：IND204
----------------	--------------

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要	ピアノ専門の学生がフルート、フルートの学生がヴァイオリン、ヴァイオリンの学生がハープ等、他の分野の楽器を個人レッスンで学ぶ事ができる。
----	---

到達目標	今日の学校教育の現場に於いては多様な音楽教育が行われている。専門以外の楽器奏法を習得し、さらに豊かな表現を目標とし、広く器楽教育の視野を持てるようにすることが望ましい。専門外の楽器を研究することは教職取得のみならず、大きな意味で、自分の音楽世界が広がっていくことであろう。15 回目の授業終了後に発表会を行う。
------	---

授業計画	2 年次で履修。年間 15 回、隔週 20 分の個人指導。以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。
------	--

第 1 回	楽器の仕組みについて	事前 選択楽器の歴史を調べ、楽器の演奏を聴く。購入する場合は事前に担当教員に必ず相談すること	105 分
第 2 回	楽器の扱い方について	事後 仕組みについて確認し、教則本等今後必要な準備をする	105 分
第 3 回	音を出してみよう（正しい持ち方）	事前 教則本を読み楽器の扱い方について調べる	105 分
第 4 回	音を出してみよう（ロングトーン）	事後 楽器の取り扱い方や掃除の仕方の確認をする	105 分
第 5 回	音を出してみよう（正しい姿勢）	事前 CD 等で演奏を聴きイメージを持つ	105 分
第 6 回	3 つの音の指を覚える	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 7 回	3 つの音で楽曲のレッスン	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 8 回	3 つの音で楽曲の仕上げ	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 9 回	5 つの音の指を覚える	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 10 回	5 つの音で楽曲のレッスン	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 11 回	5 つの音で楽曲の仕上げ	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 12 回	1 オクターブの楽曲のレッスン	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 13 回	2 オクターブの楽曲のレッスン	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 14 回	発表会用の楽曲のレッスン	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 15 回	発表会用の楽曲の仕上げ	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
		事後 問題箇所を確認し発表会に向けて練習する	105 分

フィードバック	発表会終了後、教員よりコメントを受ける。
---------	----------------------

成績評価	発表会 30％ 課題 30％ 授業態度 40％
------	-------------------------

テキスト	各教員から教則本の指示あり。
------	----------------

オフィスアワー	レッスン後すぐに対応
---------	------------

備考	楽器購入の際は必ず担当教員に相談のこと
----	---------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法演習 1

※音楽療法士養成に関する科目

准教授 倉地恵子

科目コード：PEN203

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要 学内演奏会に向けて、伴奏法の研究を行う。

到達目標 伴奏の重要性をあらためて感じとり、ピアノ伴奏の魅力を追及する。実践を通して、詩・言葉によってあらわされた情景や、詩・言葉から引きだされた情感を的確にピアノ伴奏で表現できることを目標とする。

授業計画 学内演奏会・定期演奏会オーディションに向けて、伴奏法の研究を行う。

第 1 回	伴奏とは	事前	日本歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	50 分
		事後	ドイツ歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	50 分
第 2 回	日本歌曲の伴奏<瀧廉太郎の作品> 詩の情景をピアノでどのように表現するか	事前	作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする	50 分
		事後	詩の内容の確認をする	50 分
第 3 回	日本歌曲の伴奏<山田耕筰の作品> 詩の情感をピアノでどのように表現するか	事前	作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする	50 分
		事後	詩の内容の確認をする	50 分
第 4 回	モーツァルトの歌曲の伴奏<すみれ> 細かい表現力を養う	事前	独語 1 つ 1 つの単語を調べ内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	作曲家に与えた影響について考える	50 分
第 5 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 プレスを考える	事前	それぞれのパートの練習をする	50 分
		事後	プレスの場所の確認をする	50 分
第 6 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 対象者にあわせたテンポ感について	事前	弾き歌いが出来る様に練習をする	50 分
		事後	合唱部分のハーモニーを演奏できる様に練習をする	50 分
第 7 回	シューベルトの歌曲の伴奏<野ばら> 有節歌曲の伴奏について	事前	独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	ゲーテについて調べる	50 分
第 8 回	シューベルトの歌曲の伴奏<ます> 情景の細かい表現について	事前	独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分
第 9 回	シューベルトの歌曲の伴奏<糸を紡ぐグレートヒエン>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	ゲーテの<ファウスト>について調べる	50 分
第 10 回	シューベルトの歌曲の伴奏<菩提樹>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	シューベルトの三大歌曲集と冬の旅について調べる	50 分
第 11 回	シューマンの歌曲の伴奏<献呈>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分
第 12 回	学内演奏会の曲の伴奏 バランスについて	事前	読譜をする	50 分
		事後	ソロと伴奏の楽譜からバランスを考える	50 分
第 13 回	学内演奏会の曲の伴奏 表現について	事前	ソロの音楽表現を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音楽表現に合わせられる様に練習をする	50 分
第 14 回	学内演奏会の曲の伴奏 音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	50 分
第 15 回	学内演奏会の曲の伴奏 仕上げ	事前	ソロの人と曲の内容を確認する	50 分
		事後	ピアノのふたの開閉状態を考える	50 分

フィードバック 学内演奏会での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング 授業内で伴奏を担当する学生が、楽曲についてプレゼンテーションを行う。
その後、楽曲、演奏に関してディスカッションをし、一つの曲を作り上げる。

備考 学内演奏会で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

ピアノ伴奏法演習 2

※音楽療法士養成に関する科目

准教授 倉地恵子

科目コード：PEN204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要 定期演奏会・卒業演奏試験に向けて、より高度な伴奏法を学ぶ。

到達目標 ソロの演奏を支えつつ、伴奏で更なる豊かな音楽を拓けていく能力を身につける。卒業後の演奏活動に役立つよう、更に実践的な伴奏法を学ぶ。

授業計画				
第 1 回	オーディションの曲の伴奏ー器楽曲ー バランス・表現・音色ー	事前	伴奏部の読譜の確認をする	50 分
		事後	ソロ楽器の特性を考える	50 分
第 2 回	オーディションの伴奏ー声楽曲ー バランス・表現・音色ー	事前	伴奏部の読譜の確認をする	50 分
		事後	歌詞の内容の確認をする	50 分
第 3 回	オーディションの曲の伴奏ー仕上げー	事前	ソロの楽譜を見ながら伴奏ができる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの人と表現方法の再確認をする	50 分
第 4 回	イタリア古典歌曲の伴奏ープレスを感ずるー	事前	イタリア古典歌曲の様式を調べる	50 分
		事後	プレスの場所の確認をする	50 分
第 5 回	イタリア古典歌曲の伴奏ー表現についてー	事前	イタリア古典歌曲の時代背景を調べる	50 分
		事後	作曲家について調べる	50 分
第 6 回	イタリア古典歌曲の伴奏ーまとめー	事前	当時の演奏形態を考える	50 分
		事後	宗教曲のアリアについて調べる	50 分
第 7 回	合唱曲の伴奏<高田三郎の作品> 合唱曲でのピアノの役割を考える	事前	作曲家の時代背景を調べる	50 分
		事後	ピアノが表現しなくてはならない音楽を考える	50 分
第 8 回	合唱曲の伴奏<新実徳英の作品> 伴奏の響きを聴く	事前	邦人作曲家の合唱曲の流れを調べる	50 分
		事後	三善晃の作品の響きと新実徳英の作品の響きを比べてみる	50 分
第 9 回	合唱曲の伴奏ーまとめー	事前	木下牧子の作品について調べる	50 分
		事後	混声合唱曲、女声合唱曲、男声合唱曲の伴奏の役割について考える	50 分
第 10 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー器楽曲ー バランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする	50 分
		事後	作曲家の時代背景を調べる	50 分
第 11 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー器楽曲ー 表現について	事前	ピアノが表現しなくてはならない部分の練習をする	50 分
		事後	ソロと表現方法が同じであるか確認をする	50 分
第 12 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー器楽曲ー 音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	50 分
第 13 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー声楽曲ー バランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする	50 分
		事後	ソロと伴奏の楽譜から、バランスを考える	50 分
第 14 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー声楽曲ー 表現について	事前	歌詞の内容を調べる	50 分
		事後	ピアノが表現する情景や情感を考える	50 分
第 15 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー声楽曲ー 音色について	事前	作曲家が要求している音色を考える	50 分
		事後	情景や情感に合った音色で演奏しているか確認をする	50 分

フィードバック 卒業演奏試験の伴奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト 各自で、定期演奏会オーディション・卒業演奏試験で伴奏する楽譜を用意する。
必要な楽譜は、授業中に適宜配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング 授業内で伴奏を担当する学生が、楽曲についてプレゼンテーションを行う。
その後、楽曲、演奏に関してディスカッションをし、一つの曲を作り上げる

備考 卒業演奏試験で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-1・Ⅱ-1

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS105／ENS205

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	2 回の公開演奏会、成果発表会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。器楽専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。
------	--

第 1 回	ガイダンス・合奏基礎	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 2 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 1・ マーチ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 3 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 2・ マーチ、コラール	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 4 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 3・ コラール、3 部形式作品	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 5 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 4・ 3 部形式作品、組曲	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 6 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 5・ 組曲、ソナタ形式	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 7 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 6・ ソナタ形式	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 8 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 1・ 秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 9 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 2・ 秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 10 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 3・ ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 11 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 4・ 秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 12 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 5・ 秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 13 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 6・ 定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 14 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 7・ 秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 15 回	成果発表会	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応する。予約も可能。
---------	-------------------

備考	曲目は都度指定する。
----	------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS106／ENS206

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。器楽専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる
------	---

第 1 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 1・秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 2 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 2・秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 3 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 3・ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 4 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 4・秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 5 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 5・秋のコンサート演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 6 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 6・秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 7 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 7・秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 8 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 8・秋のコンサート演奏曲・仕上げ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 9 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 9・定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 10 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 10・定期演奏会演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 11 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 11・定期演奏会演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 12 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 12・定期演奏会演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 13 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 13・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 14 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 14・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 15 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 15・定期演奏会演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応する。予約も可能。
---------	-------------------

備考	曲目は都度指定する
----	-----------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

指揮法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

- ・学校や社会団体活動における吹奏楽指導・指揮を歴任、全国で指導者向けの講習も実施している。
- ・今後の学校や社会の生涯学習活動となるよう適切に寄与できる音楽指導方法を考察・実践する。

非常勤講師 福田洋介 科目コード：SLF109

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要

- ・音楽指揮における基本技法の習得
- ・身体の使い方、演奏指示の出し方の実践
- ・総譜の読み解き方、指揮・指導の実践

到達目標

- ・指揮の基本動作を体得する。
- ・授業、サークル活動、部活動などで指導する際に必要な知識を得る。
- ・指揮者・指導者として適切なコミュニケーションスキルを持つ。

授業計画			
第 1 回	指揮法概論 指揮者・指導者の役割について考察する	事前	指揮棒を準備し、持って振ってみる 120 分
		事後	これまでに指揮者・指導者から教わった言葉をキーワードを用いて箇条書きする（提出） 150 分
第 2 回	指揮法研究 1 基本図形・1 拍子と 2 拍子	事前	ボールが弾む動きを観察し、自分の手でその動きを真似る 150 分
		事後	1 拍子と 2 拍子の図形を自分で指揮し、鏡などで確認する 150 分
第 3 回	指揮法研究 2 基本図形・3 拍子と 4 拍子	事前	1 拍子と 2 拍子の復習 120 分
		事後	3 拍子と 4 拍子の図形を自分で指揮し、鏡などで確認する 150 分
第 4 回	指揮法研究 3 図形の応用 - 停止、開始	事前	アウフタクトやフェルマータがある楽曲を探す（楽譜・音源） 120 分
		事後	アウフタクトやフェルマータの前後をどう指揮するか考察・実践する 150 分
第 5 回	指揮法研究 4 図形の応用 - 速度の変化	事前	リタルダンド・アッチェレランドがある楽曲を探す（楽譜・音源） 120 分
		事後	テンポの変化をどう指揮するか考察・実践する 150 分
第 6 回	指揮法研究 5 図形の応用 - テンポと図形	事前	異なるジャンル・形式の音楽を 3 つ選び、その音楽に合わせて拍子を指揮してみる 120 分
		事後	スタイルに応じた指揮の仕方を考察・実践する 150 分
第 7 回	指揮法研究 6 指揮実践 - 課題曲を設定し 1 名ずつ指揮実践する	事前	課題曲の予習（関連資料配布） 120 分
		事後	実践の録画を参照し改善点を考察する（提出） 150 分
第 8 回	指揮法研究 7 合唱の指揮・指揮・指導のポイント	事前	合唱作品の振り方をプランする（関連資料配布） 120 分
		事後	プランした振り方から改善し、指導ポイントを探る（関連資料配布・提出） 150 分
第 9 回	指揮法研究 8 器楽の指揮・指揮・指導のポイント	事前	教育楽器とオーケストラ楽器を調べておく（関連資料配布） 120 分
		事後	振り方のプランと指導ポイントを探る（関連資料配布・提出） 150 分
第 10 回	指揮法研究 9 スコアリーディング初歩 - 吹奏楽譜をモデルに	事前	移調楽器について調べておく（関連資料配布） 120 分
		事後	簡単な楽曲分析を実践する（関連資料配布） 150 分
第 11 回	指揮法研究 10 指揮・指導の指示・適切な言葉遣い	事前	必要な指示をどのように言うか考察する（関連資料配布） 120 分
		事後	指示の仕方を整理する（関連資料配布・提出） 150 分
第 12 回	指揮法研究 11 比喻表現・表現を具体化するために	事前	説明する楽語を 3 つ選ぶ 120 分
		事後	自分の言葉で説明する（提出） 150 分
第 13 回	指揮法研究 12 図形の応用 - 変拍子、アゴーギク	事前	変拍子を使った楽曲、アゴーギクの必要がある楽曲を視唱しておく（関連資料配布） 120 分
		事後	鏡などで確認する 150 分
第 14 回	指揮法研究 13 図形の応用 - 右手と左手の役割	事前	課題指示に対する左手の指示方法を準備する（関連資料配布） 120 分
		事後	鏡などで確認する 150 分
第 15 回	指揮法研究 14 指揮実践、まとめ	事前	課題曲の予習（関連資料配布） 120 分
		事後	実践の録画を参照し改善点を考察する（提出） 120 分

フィードバック 実践と表現の実習であるため、複数の正解が出現する可能性がある。その特性を活かし各自の創造性と工夫を尊重した指導を行う。個別の質問にも丁寧に答える。

成績評価 事前学習の評価及び授業後の課題提出 50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト テキストは使用しない。その都度プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング クラスの「合唱」を実際に指揮し、歌い手やピアニストに意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のヒントを与え、学生にその問題点を解決させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

教育合奏

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 福田洋介

科目コード： IEN207

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	・合奏活動(アンサンブル)の基礎について学習する。 ・リズムや音色などの音素材の組み合わせ、楽器を使う合奏、楽器を使わない合奏などを実践する。 ・複数人が集まって音楽演奏を共にする楽しさと難しさについての考察も行う。
到達目標	・合奏活動を創り上げるプロセスを体感する。 ・合奏を取り組む上で心掛けるべき事柄を理解する。 ・多様な音楽的素材に目を向けて創造力のある合奏活動を発想・展開できるようにする。

授業計画

第 1 回	教育合奏概論：合奏活動の意義と楽しみについて	事前 事後	これまでに合奏で担当した楽器を記述（提出） 合奏の疑問について記述（提出）	120 分 150 分
第 2 回	合奏法 1：ボディパーカッション演習 1－演奏法の導入	事前 事後	課題曲の譜読み（関連資料配布） グループでパート割りを行う	150 分 120 分
第 3 回	合奏法 2：ボディパーカッション演習 2－グループ練習	事前 事後	グループで練習 実践の感想を記述する（提出）	150 分 120 分
第 4 回	合奏法 3：リコーダー演習導入－リコーダーの使い方（運指とタンギング）	事前 事後	リコーダーを持参する グループでパート割りを行う	150 分 120 分
第 5 回	合奏法 4：リコーダー合奏演習 1－グループ練習（技術）	事前 事後	課題曲の予習（関連資料配布） グループで改善点を話し合う	150 分 120 分
第 6 回	合奏法 5：リコーダー合奏演習 2－グループ練習（表現）	事前 事後	課題曲の復習 グループで改善点を話し合う	150 分 120 分
第 7 回	合奏法 6：合奏演習－発表（ボディパーカッション・リコーダー合奏）	事前 事後	グループごとに復習 実践の録画を参照し改善点を考察する（提出）	150 分 120 分
第 8 回	楽器概論 1：教育用打楽器、鍵盤楽器などの基礎知識	事前 事後	リコーダー以外の教育楽器を持参する 教育楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す（提出）	150 分 120 分
第 9 回	楽器概論 2：オーケストラ楽器の基礎知識	事前 事後	資料の予習（関連資料配布） オーケストラ楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す（提出）	150 分 120 分
第 10 回	楽器概論 3：電気楽器・電子楽器の基礎知識	事前 事後	資料の予習（関連資料配布） 電気楽器・電子楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す（提出）	150 分 120 分
第 11 回	楽器概論 4：楽器創作演習－身近な素材を活用した打楽器の創作	事前 事後	楽器製作(数種から任意選択)の素材を準備する 実践の感想を記述する（提出）	150 分 120 分
第 12 回	合奏法 7：リズム創作演習－製作楽器でアンサンブル実践	事前 事後	リズム創作の素材となるリズムパターン(2・3 パターン)を準備する 実践の感想を記述する（提出）	150 分 120 分
第 13 回	合奏法 8：楽曲創作演習 1－多種の楽器を駆使した楽曲の計画・構成	事前 事後	自分の担当希望楽器を 3 つ選択する グループで改善点を話し合う	150 分 120 分
第 14 回	合奏法 9：楽曲創作演習 2－楽曲構成と演奏精度の向上	事前 事後	グループで練習 グループで改善点を話し合う	150 分 120 分
第 15 回	合奏法 10：楽曲創作演習 3－合奏発表、まとめ	事前 事後	グループで練習 実践の感想、「合奏の楽しみ」についての論述（提出）	240 分 30 分

フィードバック	グループ演習を中心とするため、複数の正解が出現する可能性がある。その特性を活かし各自の創造性と工夫を尊重した指導を行う。個別の質問にも丁寧に応える。
成績評価	事前学習の評価及び授業後の課題提出 50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト	テキストは使用しない。その都度資料を配布する。
------	-------------------------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて。
---------	-------------

アクティブ・ラーニング	リコーダー合奏を実際に指揮及び指導し、奏者の意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のためのヒントを与え、学生にその問題を解決させる。
-------------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	□

日本の伝統的な歌唱法

非常勤講師 松浦奈々恵

科目コード：IEN209

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実技 単位数：1 単位

概要 日本伝統音楽である長唄を通し、歴史や発声法の修得および三味線の仕組みや演奏法を知る。

到達目標 ・長唄「勸進帳」より謡いガカリ、大薩摩を唄えるようにする。
・三味線の調弦および「寄せの合方」を弾けるようにする。日本音楽の「間」を知る。

授業計画

第 1 回	長唄の歴史。「勸進帳」の説明。「勸進帳」より、謡いガカリと大薩摩の部分「旅の衣は薩摩の〜月の都を立ち出でて」までを唄う。	事前 配布プリントを読む。 事後 授業で学んだ唄を復習して唄う。	120 分 130 分
第 2 回	長唄の伴奏楽器である三味線の歴史、仕組み、演奏法、譜面の説明。三味線の調弦、構えを出来るようにする。「さくら」を弾いてみる。(出来たら替手を入れてみる。)	事前 前回学んだ唄を復習して唄う。 事後 三味線の調弦法、構えや撥の使い方の復習をする。	120 分 130 分
第 3 回	唄の復習。引き続き「これやこの〜海津の浦に着きにけり」までを唄えるようにする。	事前 前回の唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120 分 130 分
第 4 回	唄の復習。引き続き「それ山伏と〜押しもんだり」までを唄えるようにする。 三味線「さくら」の復習、「佃の合方」を口三味線で言えるようにし、その後弾いてみる。	事前 「さくら」の三味線の勘所（ポジション）の復習確認をする。 事後 「佃の合方」の口三味線を暗記する。	120 分 130 分
第 5 回	唄の復習。引き続き「もとより〜読み上げけれ」までを唄えるようにする。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120 分 130 分
第 6 回	唄の復習。「佃の合方」の復習。出来たら替手を入れてみる。次に勸進帳より「寄せの合方」を弾いてみる。	事前 「さくら」の復習をする。「佃の合方」の口三味線、勘所の復習確認をする。 事後 「寄せの合方」の旋律を覚える。	120 分 130 分
第 7 回	唄を始めから通して唄えるようにする。「さくら」「佃の合方」「寄せの合方」の復習。 三味線は 2 チームにて練習。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。	120 分 130 分
第 8 回	唄の復習。三味線は 2 チームにて練習。横並びで指揮者のいない演奏形態の体験。最後に唄を全員で唄い、三味線は各チームで発表。	事前 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。 事後 唄と三味線の出来なかった箇所の復習をする。三味線の仕組みの復習をする。	120 分 130 分

フィードバック 学生の長唄および三味線の演奏に対する助言 三味線の構えや撥の当て方など、演奏技術に対する助言・評価

成績評価 長唄・三味線の実技の修得状況 60%並びに取り組みの様子 30% 定期試験の結果 10%

テキスト ※適宜授業内配布。「勸進帳（研精譜）」 三味線合方（文化譜）

オフィスアワー 講義時間の前後

アクティブ・ラーニング 三味線体験の際に、本手と替手の各パートを小さなグループに分かれて合奏をする。それによって指揮がいらない中で息を合わせたり、相手に合わせる感覚を感じてもらい 一体感を作る。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	

和楽器研究法

客員教授 深海さとみ

科目コード：SCH202

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義

単位数：1 単位

概要 テキスト『箏エチュード』を用いて、毎回準備運動から始め、呼吸・身体を使い方、構え、調弦などの基礎事項の習熟を目指しながら、特に音楽授業で教材として用いられている《さくらさくら》と《六段の調べ》の演奏を中心に知識と技能を身に付けていく。

到達目標 学習指導要領に示された和楽器を用いた授業実践を行うために必要な和楽器演奏の技能を、息や身体を使い方、唱歌を用いた具体的な指導法など、指導上のポイントを身に付けながら箏を用いた学習指導の技能を中心に身に付ける。

授業計画 4 回×2 日間の集中講義で行う。

第 1 回	上半身の力を抜き、箏を楽に弾くための準備運動。爪の選び方。構え方。	事前 事後	『箏エチュード』の全体に目を通してくる。 『箏エチュード』 pp. 1-19 を熟読し、身体を使い方を復習する。	130 分 140 分
第 2 回	準備運動。構え方の演習。調弦を正確に素早くとる。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 20-27 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 20-27 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 3 回	準備運動。箏に馴れる。箏に向かう姿勢を身に付ける。《さくらさくら》の演奏。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 28-33 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 28-33 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 4 回	準備運動。箏に馴れる。呼吸と身体を使い方。親指で下降、人差し指・中指で上行。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 34-35 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 34-35 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 5 回	準備運動。箏に馴れる。口唱歌と共に《さくらさくら》のバリエーションを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 36-43 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 36-43 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 6 回	準備運動。《六段の調べ》初段の冒頭部分。息と身体を使って弾く。引き色、押し手。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 70-73 を読み、予習をしてくる。 《六段の調べ》 初段の冒頭部分を復習する。	130 分 140 分
第 7 回	準備運動。《六段の調べ》初段独奏を通して、授業で生徒に気付かせたいポイントを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 p. 115 の 50 番 を、イメージトレーニングしてくる。 《六段の調べ》 初段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 8 回	発表会。各自が《さくらさくら》《六段の調べ》を選んで、独奏する。	事前 事後	《さくらさくら》または《六段の調べ》を練習してくる。 『箏エチュード』の練習曲に挑戦する。	130 分 140 分

フィードバック 毎時間のレッスンの中で、適宜フィードバックを行う。

成績評価 毎回の授業に向かう姿勢（40％） 発表会での演奏の内容（60％）

テキスト 深海さとみ著『箏エチュード』 邦楽ジャーナル
必要な楽譜はプリントを配付する。

オフィスアワー 講義の前後の時間で行う。

備考 できれば、箏爪を購入することが望ましい。購入希望者には、始めのレッスン時にサイズに合わせた爪をつくり販売できるようにする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的責任力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	☑	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☐	☑	

音楽療法総合演習-1
※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世		科目コード：THE201
専門／学年：全専門／2 年次		
形態：実習	単位数：1 単位	
概要	音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように係わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。	
到達目標	音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。	
授業計画	高齢者施設での音楽療法実習。	

第 1 回	ビデオ観察方法と記録の取り方	事前 参考資料を配布。読む。	140 分
第 2 回	第 1 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 授業中に観たビデオを記録したものをきちんとした形に書き直す。	140 分
第 3 回	第 2 回高齢者施設での実習準備	事前 前回のビデオの取り方を復習する。	140 分
第 4 回	第 2 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 第 1 回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりを見直す。	140 分
第 5 回	第 3 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 6 回	第 3 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 先読みの仕方、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分
第 7 回	第 4 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。	140 分
第 8 回	第 4 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 第 2 回実習のビデオを記録したものを基に活動やピアノ伴奏について見直す。	140 分
第 9 回	第 5 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 10 回	第 5 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 歌唱練習、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分
第 11 回	第 6 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。	140 分
第 12 回	第 6 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 第 3 回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりについて見直す。	140 分
第 13 回	第 7 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 14 回	第 7 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分
第 15 回	第 8 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 第 5 回実習のビデオを記録したものを基にリーダーの役割、関わり方について見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 第 6 回実習のビデオを記録したものを基にピアノ伴奏、関わり方について見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 第 7 回実習のビデオを記録したものを基に歌唱、ピアノ伴奏について見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、関わり方について復習。	140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認試験 50％、積極的な発言 20％、記録の提出 30％

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aiores.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 実習で撮ったビデオを観たあと、反省点や良かった点を話し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法総合演習-2
※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世		科目コード：THE202
専門／学年： 全専門／2 年次		
形態：演習	単位数：1 単位	
概要	音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように係わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。	
到達目標	音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。	
授業計画	児童の音楽療法実践のビデオを見ながら客観的にセラピストと対象者について観察する。	

第 1 回	第 8 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 2 回	実習のまとめ	事後 第 8 回実習のビデオを記録したものを基に関わり方について見直す。	140 分
第 3 回	「応用行動分析学的アプローチ」の参考資料を配布	事後 ビデオ記録の不備の部分を訂正し、提出。	140 分
		事前 参考資料を読む。	140 分
第 4 回	「応用行動分析学アプローチ」とは	事後 「応用行動分析学的アプローチ」のポイントを書きだす。	140 分
		事前 参考資料から「応用行動分析学的アプローチの特徴」を書きだす。	140 分
第 5 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例①「こだわりの強い子の場合」	事後 社会的行動と音楽行動をノートにまとめる。	140 分
		事前 事例①「こだわりの強い子の場合」を読む。	140 分
第 6 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例②「聴覚過敏の子の場合」	事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例②「聴覚過敏の子の場合」を読む。	140 分
第 7 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」	事後 この事例からわかったことや疑問点をノートに書きだす。	140 分
		事前 事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」を読む。	140 分
第 8 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例④「初めての場面が苦手な子の場合」	事後 この事例からわかったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例④「初めての場面が苦手な子の場合」を読む。	140 分
第 9 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑤「集中が短く、多動の子の場合」	事後 この事例からわかったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑤「集中が短く、多動の子の場合」を読む。	140 分
第 10 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑥「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」	事後 この事例からわかったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑥「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」を読む。	140 分
第 11 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑦「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」	事後 この事例からわかったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑦「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」を読む。	140 分
第 12 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑧「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」	事後 この事例からわかったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑧「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」を読む。	140 分
第 13 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑨「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」	事後 この事例からわかったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑨「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」を読む。	140 分
第 14 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑩⑪「模倣が苦手な子の場合」「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」	事後 この事例からわかったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑩「模倣が苦手な子の場合」事例⑪「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」を読む。	140 分
第 15 回	授業のまとめ 理解度確認試験	事後 高齢者・児童の事例を復習。	140 分
		事後 試験の振り返り。	140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 40％、 理解度確認試験 40％、積極的な発言 10％、記録の提出 10％

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aiores.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 参考資料の事例を通して学んだこと及び音楽療法が日常生活にどのように活かせるか話し合う。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐

音楽療法実習（事前指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世		科目コード：THE105
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：実習	単位数：実習・事前指導・事後指導で 3 単位	
概要	音楽療法実習及び介護実習を行うに当たって心がけなければならない事について学ぶ。また、音楽療法実習及び介護実習の目的や内容について理解する。	
到達目標	実習の準備として、実習の心得・実習施設についての領域及び内容、障害や病気についての知識を学ぶ。音楽面では、模擬セッションを通して、使用する曲の楽器奏法また対象者に合わせる楽器奏法を学ぶ。	
授業計画	各音楽療法実習場面・介護実習場면을把握し、実習に備える。	

第 1 回	音楽療法実習・介護実習を行なうに当たっての心得	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 実習に関する心得について復習する。	140 分
第 2 回	音楽療法実習施設・介護実習施設の説明 今年度の音楽療法実習・介護実習の時間	事前 参考資料を配布。読む。	130 分
		事後 実習に行く施設、時間数、時期、回数を把握しノートに記入。	140 分
第 3 回	音楽療法実習マニュアルノート配布 各実習施設の注意事項	事前 マニュアルノートを読む。	130 分
		事後 施設名一覧、注意事項、音楽療法実習日誌、介護実習日誌について把握する。	140 分
第 4 回	介護実習日誌の書き方指導 日誌提出についての指導	事前 介護実習日誌を読む。	130 分
		事後 授業で車椅子体験し、それを介護実習日誌に記入し、提出。	140 分
第 5 回	音楽療法実習日誌の書き方を指導	事前 音楽療法実習日誌を読む。	130 分
		事後 授業中、音楽療法のビデオを観て、それを音楽療法実習日誌に記入し、提出。	140 分
第 6 回	ビデオの撮り方指導	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 授業中、実際の音楽療法場면을観て、ビデオの撮り方を把握したことを書きだす。	140 分
第 7 回	「高齢者の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 高齢者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 8 回	「発達障害者の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 発達障害者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 9 回	「精神科の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 精神科患者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 10 回	認知症について調べ、発表する	事前 認知症について調べ、ノートに書き出す。	130 分
		事後 他の人の発表を聴き、自分のノートに書き加える。	140 分
第 11 回	発達障害・知的障害等について調べ、発表する。	事前 発達障害・知的障害について調べ、ノートに書き出す。	130 分
		事後 他の人の発表を聴き、自分のノートに書き加える。	140 分
第 12 回	統合失調症、その他精神科の疾患について調べ。発表する。	事前 統合失調症、その他精神科の疾患について調べ、ノートに書き出す。	130 分
		事後 他の人の発表を聴き、自分のノートに書き加える。	140 分
第 13 回	高齢者施設での実習準備・リーダーの役割を中心に。	事前 高齢者の音楽療法でのリーダーの役割を考える。	130 分
		事後 リーダーの役割をノートに書き出す。	140 分
第 14 回	高齢者施設での実習準備・ピアノ伴奏を中心に。	事前 ピアノ伴奏練習。	130 分
		事後 ピアノ伴奏練習(移調、伴奏形の工夫)。	140 分
第 15 回	授業まとめ 理解度確認テスト	事前 事前指導授業で学んだことを復習する。	130 分
		事後 理解度確認テストの振り返り。	140 分

フィードバック 日誌等の提出及び実習準備のピアノ等の課題について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 50％、授業態度 15％、クラス内での協調性 15％、実習準備の課題遂行 20％

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐		☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法実習（事後指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世		科目コード：THE106
専門／学年：全専門／2 年次		
形態：実習	単位数：実習・事前指導・事後指導で 3 単位	
概要	1 年次後半より行なってきた音楽療法実習及び介護実習は、引き続き、事後指導の時間を使って高齢者介護施設を訪問し、8 回に亘り、音楽療法実習を行う。学生によって計画し、実施する実習として重要な実習であることを自覚する。誠心誠意利用者様のためにより良い音楽の時間となるよう努力する。	
到達目標	終了している音楽療法実習・介護実習・コンサートを振り返るとともに、継続している実習や今後予定している実習がより学びの多い実習となるよう、音楽療法についての理解を深める。さらに疑問点などについて話し合う。	
授業計画	実習に備えて、高齢者の音楽療法セッション技術を高める。また、利用者様との触れ合いを体験する。	

第 1 回	第 1 回実習準備	事前 事後	プログラム作成、歌詞カード作成、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌唱練習、ピアノ伴奏	130 分 140 分
第 2 回	第 1 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌詞カード準備、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 3 回	第 2 回実習準備 前回の実習の反省を踏まえて準備する。	事前 事後	プログラム計画。歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、次回の実習準備	130 分 140 分
第 4 回	第 2 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 5 回	第 3 回実習準備 利用者様の様子を中心に検討。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 利用者様の椅子の位置、学生の座る位置について考える。	130 分 140 分
第 6 回	第 3 回実習実施。 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 7 回	第 4 回実習準備 リーダーの声、ピアノの音量について検討。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 リーダーの話しの内容、声の大きさ、ピアノの音量について考える。	130 分 140 分
第 8 回	第 4 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 9 回	第 5 回実習準備 利用者様の対応について検討	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 利用者様の様子を観て、どのように関わればいいのか考える。	130 分 140 分
第 10 回	第 5 回実習実施。 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 11 回	第 6 回実習準備 リーダーの役割、ピアノの役割について考える。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 音楽療法セッションの中でリーダーはどのようなことが必要か、ピアノは何かが必要か考える。	130 分 140 分
第 12 回	第 6 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 13 回	第 7 回実習準備 リーダー・ピアノ以外の学生の役割（利用者様の隣に座り、一緒に歌うだけでいいのか）	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 アシスタントとしての学生の役割について考える。	130 分 140 分
第 14 回	第 7 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱指導、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 15 回	第 8 回実習実施 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入	130 分 140 分

フィードバック 実習実施後の日誌提出について、コメントをつけて学修成果をフィードバックする。

成績評価 実習での他メンバーとの協調性 40％、歌唱・ピアノ練習への意欲 25％、プログラム計画などの創造性 25％、日誌提出 10％

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽科教科教育法

※教育職員免許状取得に関わる科目
※実務経験を持つ教員による授業
小、中学校における管理職等の経験を生かして、教育事象を実践的に読み解く授業を行う。

教授	内田有一	科目コード：SCH101
専門／学年：	全専門／1 年次	
形態：講義	単位数 2 単位	
概要	学習指導要領における表現と鑑賞の目的を理解し、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。ICT を活用した学習を豊富に行い、ICT を活用した指導技術の獲得を図る。	
到達目標	この科目では、授業における実践力を獲得するために表現と鑑賞に関する教材研究の方法、指導案作成の方法、実践的指導方法を習得する。	

授業計画		
第 1 回	音楽科教育の理念と目的 学習指導要領の変遷と学力観 歌唱教材の指導法	事前 新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。 事後 新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。 160 分 110 分
第 2 回	中学校共通教材による歌唱指導と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」における共通歌唱教材を歌っておく。 事後 講義で配付した資料を基に共通歌唱教材における深い学びについて自己の考えをまとめる。 160 分 110 分
第 3 回	混声合唱の指導と評価の具体	事前 混声合唱「夢の世界を」の教材性について考えておく。 事後 混声合唱の指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 160 分 110 分
第 4 回	日本の伝統音楽による歌唱指導方法と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 「勧進帳」より指示された長唄の一節を歌えるようにしておく。 事後 伝統音楽の歌唱指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 160 分 110 分
第 5 回	器楽指導方法（リコーダー）と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 事前に指示されたリコーダー曲を吹けるようにしておく。 事後 リコーダーの指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 160 分 110 分
第 6 回	器楽指導方法（電子楽器）と評価の具体	事前 事前に配付する電子楽器に関する資料を読んでおく。 事後 電子楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。 160 分 110 分
第 7 回	器楽指導方法（和楽器：箏）と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 事前に配付する和楽器に関する資料を読んでおく。 事後 和楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。 160 分 110 分
第 8 回	創作学習方法（指導要領ア、イ）と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 事後 講義で配付した資料を基に創作指導と評価ついて自己の考えをまとめる。 160 分 110 分
第 9 回	鑑賞指導方法（知覚・感受と批評）と評価の具 GIGA スクール構想における ICT 活用体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」から一曲鑑賞教材を選び、聴いておく。 事後 講義で配付した資料を基に鑑賞指導における知覚・感受について自己の考えをまとめる。 160 分 110 分
第 10 回	鑑賞指導方法（生活や社会における意味）と評価 GIGA スクール構想における ICT 活用体	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 事後 自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。 160 分 110 分
第 11 回	教材研究と指導案の作成	事前 学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。 事後 講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。 160 分 110 分
第 12 回	指導案の検討及び履れた授業の条件	事前 指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。 事後 講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。 160 分 110 分
第 13 回	表現の模擬授業と批評	事前 表現の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。 160 分 110 分
第 14 回	鑑賞の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞	事前 鑑賞の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。 160 分 110 分
第 15 回	振り返りとまとめ	事前 優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。 事後 指導案構成力及び教育技術の習得について今後の見通しをもつ。 160 分 110 分

フィードバック リフレクションペーパーを通して学修者にフィードバックする。

成績評価 学習指導案評価（60％）、リフレクションペーパーの評価（40％）

テキスト 令和 3 年度版『中学校学習指導要領解説音楽編』『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング
二模擬授業を学生同士でピアレビューするとともに、教員の指導と合わせてリフレクションを行う。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	□	□	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	□	□	□	□

教育原理

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 廣枝優子

科目コード：SCH102

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互の関係を理解する。そして現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。また、学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。さらに学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取組事例を踏まえて理解する。最後に、学校の下で起こる問題、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。授業はディスカッションやリフレクションペーパーなども適宜取り入れ、学生には学修したことに対する自分の考えをまとめたり、意見交流をしたりすることで、教育に関する幅広い知識を身に付けられる形で進めていく。
到達目標	教育の基本的概念は何か、また、教育理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのようにして捉えられ、変遷してきたのかを理解する。また、これまでの教育の流れを受けて現代の学校教育に関する制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。そして学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

授業計画			
第 1 回	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標	事前 教育の目的について自分の考えをまとめる。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	100 分 180 分
第 2 回	教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係ー子供・教員・家庭・学校ー	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 3 回	家族と社会による教育の歴史	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 4 回	近代教育制度の成立と展開	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 5 回	現代社会における教育課題ー歴史的視点からの考察ー	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 6 回	家庭や子供に関わる教育の思想	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 7 回	学校や学習に関わる教育の思想	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 8 回	代表的な教育家の思想	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 9 回	公教育の原理及び理念	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 10 回	公教育制度を構成している教育関係法規	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 11 回	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みや諸問題ー例示と討議ー	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 12 回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 13 回	開かれた学校づくりが進められてきた経緯ー地域との連携を基としてー	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 14 回	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性 ー学校管理下で発生する問題、事故及び災害の実情ー	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 15 回	生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題 ー安全管理及び安全教育の両面からの具体的な取組ー	事前 指示された資料に目を通し、内容を理解する。 事後 授業で配布された資料や各自のノートを整理し、ポイントをまとめる。	140 分 140 分

フィードバック リフレクションペーパーやレポートを通して、学修者にフィードバックする。

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物（40%）、最終レポート（60%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 田中智志・橋本美保監修『新・教職課程シリーズ 教育の理念・歴史』（2019）一藝社

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラー教育の基本概念や理念等についてのディスカッションを通して、教育に関する幅広い知識を習得する。

ニング
備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	□	□	□	☑

教職概論

※教育職員免許状取得に関わる科目
※実務経験を持つ教員による授業
小中学校教諭，教育行政，管理職の経験を生かし，教職に必要な資質・能力を理解する授業を行う。

准教授 廣枝優子		科目コード：SCH104
専門／学年： 全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	到達目標の内容について，講義，討論等を通して知識を得ると共に，深く考え教職という仕事について理解する。	
到達目標	現代社会における教職の重要性や我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。また公教育の目的と教職の職業的特徴を理解する。更に教員に求められる役割や資質能力，服務上・身分上の義務，並びに学校が内外の専門家と連携することや，チーム学校として組織的に対応する重要性を理解する。	

授業計画	
第 1 回	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方について 教職の職業的特徴の理解
第 2 回	現代社会における教育の重要性 教員の存在意義と公教育の目的
第 3 回	学習指導要領の変遷と新学習指導要領 今日の我が国の学校教育の意義
第 4 回	音楽科教育の意義と歴史
第 5 回	いじめ等生徒指導における組織的取組
第 6 回	発達障害を有する児童・生徒への組織的対応
第 7 回	GIGA スクール構想における ICT を活用した主体的・対話的・深い学びを具現化するための教師としての資質・能力
第 8 回	チーム学校 の概念と具体 専門家との連携 教師のマネジメント力
第 9 回	地域との連携 地域の中の学校として果たす役割
第 10 回	教員の服務上・身分上の義務 教育法規に照らして事例を検証
第 11 回	教員の職務の全体像と，教員として必要な基礎的な資質能力の理解 コンプライアンス
第 12 回	保健安全教育 ー生活安全・交通安全・災害安全・保健ー
第 13 回	教員研修の意義と制度上の位置付け，並びに専門職としての責任
第 14 回	学校事故と安全管理，危機管理
第 15 回	生徒から，保護者から，地域から信頼される教師像

フィードバック リフレクションペーパーやレポートを通して，学習者にフィードバックする。

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物（40％），最終レポート（60％）を目安に総合的に評価する。

テキスト 毎回，資料を提示する。

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング学校教育の意義や教職の役割等についてのディスカッションを通して，教育の目的と教職の職業的特徴に関する幅広い知識を習得する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑		□

教育心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：SCH105

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 教育心理学とは、教育の諸問題について心理学的に研究し、その研究成果から得られた有益な知見や技術を、教育活動に提供する科学である。本授業では、発達と学習の基礎理論を中心に講義を行い、動機づけや教育評価等についての基礎知識の説明も行う。ほぼ毎回の授業終了時に、知識確認のための小課題を行う。講義内容に即した演習も行う予定である。

到達目標 ・心身の発達に対する内外要因の相互作用、発達の代表的理論を説明できる。／・心身の発達（運動、言語、認知、社会性）の特徴を説明できる。／・様々な学習の形態・概念及びその過程に関する代表的理論の基礎を説明できる。／・主体的学習を支える動機づけや学習評価の在り方を説明できる。／・心身の発達を踏まえ、主体的学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明できる。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション～教育心理学を学ぶ意義～	事前 教科書序章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	20 分 60 分
第 2 回	発達の原理	事前 教科書第 1 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 3 回	乳児期の発達	事前 教科書第 2 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 4 回	幼児期の発達	事前 教科書第 3 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 5 回	児童期の発達	事前 教科書第 4 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 6 回	青年期の発達	事前 教科書第 5 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 7 回	発達と教育	事前 教科書第 6 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 8 回	学習の理論 1（条件づけ）	事前 教科書第 7 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 9 回	学習の理論 2（認知説）	事前 教科書第 8 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 10 回	学習と記憶	事前 教科書第 9 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 11 回	動機づけ	事前 教科書第 1 0 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 12 回	学力と知能	事前 教科書第 1 1 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 13 回	学習指導法／教育評価	事前 教科書第 1 2 章および第 1 3 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 14 回	学級集団と教師	事前 教科書第 1 4 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 15 回	最終試験とまとめ	事前 教科書および授業ノートの確認。 事後 試験の振り返りと自分の解答の正否確認。	60 分 40 分

フィードバック 授業内で行う課題については、次週の授業内において口頭でフィードバックを行う。

成績評価 試験の成績と授業への取り組み等を総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（25 点）、レポート（25 点）、最終試験（50 点）。

テキスト 柏崎秀子（編著）『教職ベーシック 発達・学習の心理学〔新 2 版〕』（北樹出版）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。

備考 人間の子どもの時期は他の動物に比べて長い。「学ぶため」に長い子ども期を与えられているのだ。人間の発達過程と学習する心の仕組みを知り、生涯を通じた「学びを支える教育」について考える機会にしたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	□	□	□	☑

発達心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 佐藤典子 科目コード：SCH106

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 発達とは、個体が受胎から成熟して死に至るまで、その内的心理的傾向（能力、性格等）がどのように変化するのかを指す。発達心理学は、まずこうした事象を客観的に記述していきながら、同時に、自らを含め人間をどのように教育すればよいかという実践的問題とも関連をもつ。授業の目標は、発達の基礎原理を理解しながら人の生涯発達についての全体像を把握することである。

到達目標 1．発達の基礎理論について理解する。
2．生涯発達の観点から、各時期における身体・運動機能の発達、言語発達、認知（思考）の発達、感情の発達、社会性の発達について、具体的な内容を理解する。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション ～発達とはなにか～	事前 シラバスに目を通し、この科目履修の目的を明確にする。 事後 この科目の学習計画を立てる。 40 分 60 分
第 2 回	発達の定義と原理	事前 教科書第 1 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 3 回	発達心理学の歴史と先駆者たち	事前 教科書第 1 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 4 回	胎児期・乳児期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 2 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 5 回	胎児期・乳児期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 2 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 6 回	幼児期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 3 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 7 回	幼児期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 3 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 8 回	児童期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 4 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 9 回	児童期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 4 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 10 回	青年期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 5 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 11 回	青年期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 5 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 12 回	青年期の発達（3）アイデンティティとは何か	事前 教科書第 5 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 13 回	成人期・高齢期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 6 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 14 回	成人期・高齢期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 6 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 15 回	最終試験およびまとめ	事前 授業ノートを見直しておく。 事後 試験の解答を自分で確認・振り返る。 80 分 20 分

フィードバック 授業内で行う課題については、次週の授業内において口頭でフィードバックを行う。

成績評価 試験の成績と授業への取り組み等を総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（25 点）、レポート（25 点）、最終試験（50 点）。

テキスト 渡辺 弥生（監修）『完全カラー図解 よくわかる発達心理学』（ナツメ社）

オフィスアワー 授業後、教室にて対応する。

備考 人間の発達に関心を持ち、人の一生を考え、先人の考えを踏まえつつ勉強していくことが望まれる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード: SCH107

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

概要	本授業では、特別支援教育の理念や制度、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の特性、教室の中で求められる支援や合理的配慮などについて学ぶ。学生自身が受けてきた教育を対象化するとともに、特別支援教育の現状を調べまとめる活動を通して、特別支援教育を身近な問題として捉える。また、障害の疑似体験を通して、特別な支援のニーズを理解し、教室における支援を検討する。
----	--

到達目標	1) 学校に在籍する幼児児童生徒の多様な状況を踏まえ、特別支援教育の必要性、制度の概要、支援の仕組み等を理解する。 2) 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性や心身の発達を理解するとともに、教育課程や支援のために整備されてきた仕組みを踏まえ、具体的な支援の方法を例示する。
------	--

授業計画 特別支援教育を身近な問題と捉えられるよう自分たちの経験、現実起こっている問題を取り上げ、ディスカッションやグループワークで掘り下げるとともに講義により体系的な理解を図る。現場で発達障害のある子どもと出会ったとき、対応するための基本的な知識を身に付けるとともに、コミュニケーションスキルや情報活用能力等課題解決力の基礎を養うことを目指す。

第1回	特別支援教育の理念と制度～場からニーズへ～ グループディスカッション「私の経験した特別支援教育」	事前	テキスト p.18～20 を読む。支援を必要とする子どもの学校での様子を書き出す。	140 分
		事後	特別支援教育の理念と多様な学びの場や主な支援の仕組みを整理する。	140 分
第2回	特別支援教育の現状～支援を必要とする子どもたちへ～ グループワーク「特別支援教育の現状を調べる」	事前	テキスト p.12～17 を読む。	140 分
		事後	特別支援教育の現状を踏まえ、グループで調査したことを整理する。	140 分
第3回	一貫した支援の仕組み（就学先決定の仕組み、個別の教育支援計画等） ディベート「適切な就学先は小学校？特別支援学校？」	事前	テキスト p.36～39 を読む。	140 分
		事後	就学先決定の仕組みや個別の教育支援計画の意義や内容を整理する。	140 分
第4回	小・中学校等における特別支援教育（学校と地域の支援体制）	事前	テキスト p.71～84 を読む。	140 分
		事後	校内委員会や特別支援教育コーディネーター、地域の教育資源等の役割を整理する。	140 分
第5回	支援を必要とする子どもの理解（発達障害や軽度知的障害、母国語や貧困問題等によるニーズ） グループワーク「障害疑似体験を通して」	事前	テキスト p.86～87 を読む。	140 分
		事後	発達障害等の障害特性を理解するとともに疑似体験の感想をまとめる。	140 分
第6回	特別支援学校の教育（教育課程、障害による教育の特徴と自立活動の指導）	事前	テキスト p.114～117 を読む。	140 分
		事後	障害に対応した特別支援学校の教育の特徴と自立活動について整理する。	140 分
第7回	教室における支援の実際（個別の指導計画、合理的配慮） グループワーク「個別の指導計画の作成」	事前	テキスト p.40～44 を読む。	140 分
		事後	授業で取り上げた事例の学習上又は生活上の困難さの要因を整理する。	140 分
第8回	教室における支援の在り方と特別支援教育の課題	事前	特別支援教育総合研究所の合理的配慮データベースにアクセスし、3 事例を読む。	140 分
		事後	授業で取り上げた事例の個別の指導計画をまとめて提出する。	140 分

フィードバック 第4回及び第8回終了後に提出するワークシート（レポートを含む）にコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 ワークシート（レポートを含む）の内容 75% ディスカッション、調査、グループワークでの主体性・協調性 25%

テキスト 改訂版「教員と教員になりたい人のための 特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる。」
(小林倫代編・著 藤井茂樹 広瀬由美子 星祐子 著 Gakken)

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。

アクティブ・ラーニング 第1回：自分の学校生活を思い浮かべ、支援を必要とする子どもの学校での様子をグループで話し合う。グループで調査テーマを一つ決める。
第2回：第1回で決めたテーマについてテキスト、インターネット等を活用して調査し、発表する。
第3回：医療的ケアを必要とする子どもの就学先として小学校がふさわしいか、特別支援学校がふさわしいかディベートをする。
第5回：発達障害を疑似体験する。疑似体験を通して、感じたことをグループで話し合う。
第7回、第8回：事例について障害による困難さや考えられる支援を話し合い、各自が個別の指導計画を作成する。

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

教育課程総論

准教授 廣枝優子

科目コード：SCH107

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	学習指導要領を基準として編成される各学校における教育課程について、その意義や編成の方法を理解する。そして各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を考える。

到達目標	学校教育における教育課程が有する役割・機能・意義を学ぶ。 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントする方法を身に付ける。
------	---

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション 教育課程・カリキュラムとは何か	事前 シラバスから授業の概要ならびに目標を確認し、教育課程とは何か考えをまとめる。 100 分 事後 授業で配布された資料や聴講した内容を復習し、課題に取り組む。 150 分
第 2 回	教育課程の基本原則	事前 指示された資料を読み、教育課程について質問や意見等をまとめる。 100 分 事後 授業で配布された資料や聴講した内容を復習し、課題に取り組む。 150 分
第 3 回	教育課程編成の原理	事前 指示された資料を読み、教育課程について質問や意見等をまとめる。 100 分 事後 カリキュラムの類型の資料や聴講した内容を復習し、課題に取り組む。 150 分
第 4 回	教育課程編成の目的	事前 指示された資料を読み、教育課程について質問や意見等をまとめる。 100 分 事後 授業で配布された資料や聴講した内容を復習し、課題に取り組む。 150 分
第 5 回	近代日本における教育課程の変遷	事前 近代日本の教育に関する資料収集をし、質問や意見等をまとめる。 100 分 事後 授業内で提示された資料を用いて課題に取り組む。 150 分
第 6 回	学習指導要領の性格と位置付け	事前 学習指導要領を読み、質問や意見等をまとめる。 100 分 事後 学習指導要領に関して授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む。 150 分
第 7 回	学習指導要領の変遷と社会的背景（１）経験主義・系統主義	事前 戦後日本の教育に関する資料収集をする。 100 分 事後 経験主義と系統主義について授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む。 150 分
第 8 回	学習指導要領の変遷と社会的背景（２）教育の現代化・教育の人間化	事前 1960 年代前後の日本の教育に関する資料収集をする。 100 分 事後 教育の現代化・人間化について授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む。 150 分
第 9 回	学習指導要領の変遷と社会的背景（３）生きる力	事前 1990 年代、2000 年代の日本の教育に関する資料収集をする。 100 分 事後 生きる力について授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む。 150 分
第 10 回	学習指導要領の変遷と社会的背景（４）確かな学力	事前 2000 年代以降の日本の教育に関する資料収集をする。 100 分 事後 確かな学力について授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む。 150 分
第 11 回	カリキュラム・マネジメントの考え方	事前 カリキュラム・マネジメントに関する資料収集をし、質問や意見等をまとめる。 100 分 事後 カリキュラム・マネジメントについて授業内で提示された課題に取り組む。 150 分
第 12 回	社会に開かれた教育課程	事前 教育課程は社会において果たしている役割や機能について意見をまとめる。 150 分 事後 社会に開かれた教育課程について授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む。 150 分
第 13 回	教育課程の編成の方法（１）教科・領域を横断する計画	事前 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する例を作成する。 100 分 事後 授業内で示された他の例も参考にして授業内容をまとめる。 150 分
第 14 回	教育課程の編成の方法（２）単元・学期・学年をまたぐ計画	事前 単元・学期・学年をまたいだ指導計画の例を作成する。 100 分 事後 授業内で示された他の例も参考にして授業内容をまとめる。 150 分
第 15 回	教育課程や指導計画の検討	事前 これまでの授業で示された教育課程・指導計画を評価する方法について考察する。 100 分 事後 授業で学んだことを教育実習や教職に就いた時にどのように活用するかをまとめる。 150 分

フィードバック リフレクションペーパーやレポートを通して、学修者にフィードバックする。

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物（40%）、最終レポート（60%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 中学校学習指導要領（平成 29 年告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年告示 文部科学省）

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング 学習指導要領や教育課程等についてのディスカッションを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方を習得する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・ 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバル な視野	社会的責 任・倫理観	生涯学習 意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

道徳教育指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 小泉博明

科目コード：SCH109

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	道徳教育の意義や内容について理解することができる。道徳教育の指導計画、教材研究及び学習指導案の作成ができる。模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付けることができる。道徳教育を行うための方法や技術（ICT 活用の技術）を身に付けることができる。

到達目標	道徳の学習指導要領の内容を理解し、その意義や内容について説明することができる。道徳教育の「学習指導案」を構想し作成することができる。また関連するワークシートを作成することができる。模擬授業を実践し、他者の模擬授業に対してコメントができる。模擬授業を実践し、実践的な指導力を身に付ける。
------	--

第 1 回	道徳とは何か 道徳の本質（道徳とは何か）について理解する。	事前 事後	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。 テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	90 分 180 分
第 2 回	道徳教育の歴史と道徳教育の現代的課題 道徳教育の歴史及び、現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル、生命倫理等）を理解する。I C T 活用にも学ぶ。	事前 事後	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。 テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	90 分 180 分
第 3 回	中学生の道徳性の発達 生徒（中学生）の心の成長及び道徳性の発達を理解する。	事前 事後	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。 テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	90 分 180 分
第 4 回	学習指導要領における道徳教育の目標 中学校学習指導要領に提示された道徳教育の目標並びに主な内容を理解する。また、中学校「道徳科」について理解を深める。	事前 事後	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。 テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	90 分 180 分
第 5 回	道徳教育の指導計画と全体計画 学校における道徳教育の指導計画及び教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。学校の道徳教育の全体計画について学ぶ。	事前 事後	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。 テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	90 分 180 分
第 6 回	道徳教育における指導方法 道徳教育における指導方法（問題解決的な学習や体験的な活動等）の特徴を理解する。	事前 事後	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。 テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	90 分 180 分
第 7 回	「総合的な探究の時間」等における授業設計を踏まえ、テーマを設定し学習指導案を作成する技法を学ぶ。	事前 事後	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。 テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	90 分 180 分
第 8 回	学習指導案の作成 授業のねらい及び学習課程を明確にし、学習指導案を作成する。	事前 事後	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。 テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	90 分 180 分
第 9 回	模擬授業の実践(1) 中学校における道徳教育の模擬授業(1)・振り返り・講評	事前 事後	学習指導案作成のための教材を用意すること。 作成した学習指導案と模擬授業での課題を考えること。	90 分 180 分
第 10 回	模擬授業の実践(2) 中学校における道徳教育の模擬授業(2)・振り返り・講評	事前 事後	学習指導案作成のための教材を用意すること。 作成した学習指導案と模擬授業での課題を考えること。	90 分 180 分
第 11 回	模擬授業の実践(3) 中学校における道徳教育の模擬授業(3)・振り返り・講評	事前 事後	学習指導案作成のための教材を用意すること。 作成した学習指導案と模擬授業での課題を考えること。	90 分 180 分
第 12 回	模擬授業の実践(4) 中学校における道徳教育の模擬授業(4)・振り返り・講評	事前 事後	学習指導案作成のための教材を用意すること。 作成した学習指導案と模擬授業での課題を考えること。	90 分 180 分
第 13 回	模擬授業の実践(5) 中学校における道徳教育の模擬授業(5)・振り返り・講評	事前 事後	学習指導案作成のための教材を用意すること。 作成した学習指導案と模擬授業での課題を考えること。	90 分 180 分
第 14 回	模擬授業の実践(6) 中学校における道徳教育の模擬授業(6)・振り返り・講評	事前 事後	学習指導案作成のための教材を用意すること。 作成した学習指導案と模擬授業での課題を考えること。	90 分 180 分
第 15 回	まとめと全体講評 グループ討議を通して模擬授業を振り返り（省察）、授業改善の視点を身に付ける。まとめと全体講評を行う。	事前 事後	模擬授業の改善点についてまとめること。 道徳科の授業担当者としての心構えを省察すること。	90 分 180 分

フィードバック コメントシート、学習指導案、模擬授業に対するコメントを行い、受講生の意見を共有し省察する。

成績評価 毎回のコメントシート(30%)、学習指導案の作成と模擬授業の実践（50%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。

テキスト 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編』文部科学省、平成 30 年 7 月 （授業時に教科書として使用する）

オフィスアワー 質問等がある場合は、授業の終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐

※教育職員免許状取得に関わる科目

到達目標	特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容によって構成されており、特に学級活動は学級担任が指導する生徒指導の要である。特別活動の見方・考えを働かせた実践的な指導方法の習得を目標とする。「総合的な学習の時間」の趣旨を理解し、生徒の探究的な学びを実現する教科横断的かつ、地域・専門家等との連携を図った実践的指導能力の育成を図る。
------	---

第1回	特別活動の教育的意義及び家庭、地域、社会とのつながり	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、目標を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	110 分
第2回	特別活動の特質と内容 学級活動・生徒会活動・学校行事	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、内容を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	110 分
第3回	「学校や学級での生活づくり」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、生活づくりの概念を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを自己指導力の視点から考察し、まとめる。	110 分
第4回	「学業と進路」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、進路指導の概念を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことをキャリア教育の視点から考察し、まとめる。	110 分
第5回	生徒会活動の内容と目標	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、生徒会活動の概要を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第6回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（儀式・文化・健康安全・体育）の具体を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第7回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（旅行・集団宿泊行事、勤労生産・奉仕的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（旅行・宿泊・勤労・奉仕）の具体を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第8回	学級活動の指導案作成	事前 事前に配付する指導案を読み、概要を理解しておく。	160 分
		事後 講義における批評を生かし、指導案を練り上げる。	110 分
第9回	『総合的な学習の時間』の趣旨を理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 1-17 を読んでくる。	160 分
		事後 講義を通して理解した総合的な学習の時間の趣旨をまとめる。	110 分
第10回	「探究的な見方・考え方」について、事例を通して理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 103-119 を読んでくる。	160 分
		事後 講義を通して理解した「探究的な見方・考え方」についてまとめる。	110 分
第11回	教科横断的な学習の事例を通して、「総合的な学習の時間」を考える	事前 配付資料を基に、横断的な学習の指導事例を検索し、発表する準備をしてくる。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第12回	SDG s 関連の「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 SDG s 関連の総合的な学習の時間の事例を検索する。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第13回	地域や専門家と連携した「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 地域や専門家と連携した総合的な学習の時間の事例を検索する。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第14回	生徒の「探究的な見方・考え方」を育む「総合的な学習の時間」の指導計画をグループで検討し、作成する。	事前 取り組んでみたい実践について、概要をまとめる。	160 分
		事後 グループで検討した総合的な学習の時間の指導計画をまとめる。	110 分
第15回	作成した「総合的な学習の時間」の指導計画を発表し、全員で検討する。	事前 授業内でのプレゼンテーションの準備をする。	160 分
		事後 発表と討議を通して学び考えたことを、最終レポートにまとめる。	110 分

成績評価	特別活動 レポート 60% リフレクションペーパー40% 総合的な学習の時間：レポート 60% リフレクションペーパー40% 以上の合算から総合的に評価する。
テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』

アクティブ・ラーニング 生徒指導におけるロールプレイング、キャリア学習の模擬授業を行う。

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・スキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒

教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一		科目コード：SCH11
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：講義		単位数：2 単位
概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、教育の目的に適した指導技術を実践しながら理解し身につける。そして、情報通信技術の活用の意義と理論や、効果的に活用した学習指導や校務の在り方について理解し、生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための指導法を学ぶ。	
到達目標	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。さらに情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方、並びに生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	
授業計画	前半では教育方法に関する理論、後半では情報通信技術の活用を中心に説明し、授業を行う際に必要となる技術や方法についての実践も含めて体得していく。	

第 1 回	教育方法の基礎的理論と実践	事前	これまでの学校生活において「良い授業」だと感じたものを思い出しておく。	100 分
		事後	授業で配布された資料を読んでおく。	180 分
第 2 回	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方ー主体的・対話的で深い学びの実現についてー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 3 回	授業を構成する基礎的な要件とはー学級・生徒・教員・教室・教材についてのグループ討論ー	事前	授業で指示された課題に取り組む。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 4 回	学習評価の基礎的な考え方ー学力と教育評価ー	事前	授業で指示された課題に取り組む。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 5 回	授業を行う上での基礎的な技術ー指示・発問のワークショップー	事前	各自望ましい話し方と板書について考え、必要に応じて調べておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 6 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成ー目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価基準等の観点からー	事前	前回の授業をふまえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 7 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（１）社会的背景や急速な技術発展を踏まえた授業改善（個別最適な学び、協働的な学び、主体的・対話的で深い学びの実現）	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 8 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（２）特別の支援を必要とする生徒に対する留意点	事前	学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 9 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（３）ICT 支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方や学校における ICT 環境の整備の在り方	事前	学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 10 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（ワークショップ）ー育成を目指す資質・能力や学習場面に応じたデジタル教材の作成・利用を含む指導事例ー	事前	情報機器の操作方法を調べ、教材作成のための資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 11 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（グループディスカッション）ー学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した指導や学習評価、教育情報セキュリティの重要性ー	事前	これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 12 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（模擬授業）ー遠隔・オンライン教育の意義と関連するシステムの使用法ー	事前	これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 13 回	情報通信技術を効果的に活用した校務の推進の在り方ー統合型校務支援システムとはー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 14 回	生徒の情報モラルを含む情報活用能力育成のための基礎的な指導法（１）各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における横断的な情報活用能力の育成	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 15 回	生徒の情報モラルを含む情報活用能力育成のための基礎的な指導法（２）各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の特性に応じた指導の事例研究	事前	授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	200 分
		事後	教育実習や学校体験活動などですぐに使えるように、まとめておく。	80 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート（60%）、リフレクションペーパー（40%）により総合的に評価する。

テキスト 中学校学習指導要領（平成 29 年告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年告示 文部科学省）
参考書・参考資料等
田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法 改訂版』（2019）有斐閣
田中智志・橋本美保監修『新・教職課程シリーズ 教育方法論』（2014）一藝社

オフィスアワー : 事前のメールによる予約により、常時相談を受け付ける。

アクティブ・ラーニング 模擬授業を通して、発問、指示の具体について学ぶとともに教育技術と教育的タクトの関係を理解する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

生徒・進路指導課

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一

科目コード：SCH112

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解する。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が知識的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。

到達目標 学校において他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくための実践的指導能力を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画 前半は生徒指導について、後半は進路指導・キャリア教育について、模擬授業、ロールプレイングを用いた授業を展開する。

第 1 回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能	事前 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導に何があるか思い出す。 事後 生徒指導の 3 機能について自己の考えをまとめる。	100 分 180 分
第 2 回	集団指導・個別指導の方法原理	事前 生徒指導提要における集団指導・個別指導の内容を読んでおく。 事後 集団指導・個別指導の原理と実践例についてまとめる。	140 分 140 分
第 3 回	生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方	事前 事前に示された教育相談事例について、教育相談の手だけを考える 事後 模擬授業を通して、「見取る」ことの意味を考察する。	140 分 140 分
第 4 回	学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取り組み	事前 生徒指導提要における生徒指導の組織的対応について内容を理解しておく。 事後 組織的対応の模擬授業を通して、実践上の課題を考察する。	140 分 140 分
第 5 回	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方ならびに児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方	事前 事前に示された事例について、教師としての視点から手だてを考える。 事後 自己存在感を獲得するための手だてについて考察する。	140 分 140 分
第 6 回	校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容	事前 生徒指導提要における校則・懲戒・体罰に関わる法令の内容を理解しておく。 事後 校則の意義、体罰と懲戒の違いについて考察する。	140 分 140 分
第 7 回	暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の対応の視点及び模擬授業	事前 事前に示した実践事例について手だてを考えて置く 事後 模擬授業を振り返り、アドラーの勇気付け理論から考察する。	140 分 140 分
第 8 回	インターネットや性に関する寛大、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や専門家や関係機関との連携の在り方	事前 生徒指導提要におけるインターネット、性の問題を読み、理解しておく。 事後 チーム学校における専門機関との連携について考察する。	140 分 140 分
第 9 回	教育課程における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置付け	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 10 回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方	事前 これまでの学校生活でどのような進路指導・キャリア教育を受けてきたか思い出しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 11 回	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 12 回	職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 13 回	全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 14 回	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、ポートフォリオの活用の在り方	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 15 回	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	180 分 100 分

フィードバック リフレクションペーパーについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リアクションペーパー（40%）、レポート（60%）から総合的に評価する。

テキスト 文部科学省『生徒指導提要 令和 4 年 12 月』（2022）東洋館
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』（2011）※https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html よりダウンロードして使用する。個人のデバイスとしてノートブック型 PC、タブレット型 PC を推奨する。

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 模擬授業、ロールプレイングを用いて実践的指導能力の習得を図る。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽・芸術・スポーツ・健康	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	

教育相談

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一

科目コード：SCH113

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	生徒を理解し、一人ひとりの個性に応じた支援ができるように、教育相談の目的と方法について理解を深め、基本的な相談スキルを実践的に学習する。主な問題行動への対応を学ぶと共に、適切に教育相談を実践するための実践的指導能力を養う。

到達目標	教育相談を実施するために必要な知識や技法、態度を身につける。具体的には①生徒が呈する心身の症状や不適応行動の理解、②カウンセリング理論の理解と相談スキルの習得、③教育相談の実施方法の理解、④教師としての心構えと態度を身に付けることを目標とする。
------	--

授業計画				
第 1 回	ガイダンス：授業の方法や進め方の理解 学校における教育相談の意義～問題への全体的・総合的アプローチ	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	教育相談の意義についてまとめる。	200 分
第 2 回	アセスメントに関する基礎的理解	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	特に発達障がいに関する概念を整理する。	200 分
第 3 回	保幼小連携の接続期支援と子どもの理解	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	小1プロブレムの具体について調べてまとめる。	210 分
第 4 回	小中高の接続期支援と子どもの理解	事前	テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。	70 分
		事後	小学校のスタートカリキュラム、中1ギャップについて整理する。	200 分
第 5 回	カウンセリングの基礎理論	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	実際の面談を想定して、どこでどの技能を用いるか整理する。	200 分
第 6 回	相談のプロセス	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	相談関係を支える要素について考える。	210 分
第 7 回	模擬教育相談①	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	模擬教育相談を通し自己の課題を見出す。	210 分
第 8 回	コンサルテーションと自己ディネーションの理解と方法	事前	テキストの関連ページを読む。	130 分
		事後	最新の文科省「児童生徒の問題行動調査結果」からコーディネートの在り方を考える	140 分
第 9 回	模擬教育相談②	事前	模擬教育相談①で見出し自己の課題に基づき、方略を考える。	70 分
		事後	模擬授業②の振り返りを行う。	200 分
第 10 回	学校で行う教育相談と行内体制、関係機関との連携	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	保健室登校、不登校の対応を考える。	200 分
第 11 回	開発的・予防的カウンセリングの理解と方法	事前	テキストの関連ページを読む。	50 分
		事後	不登校、いじめに対す開発的、予防的カウンセリングの在り方を考える。	220 分
第 12 回	学校教育における集団的アプローチ	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	学級づくりにおける集団的アプローチについて考える。	210 分
第 13 回	多様なニーズにある子どもの教育相談と支援体制	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	多様なニーズについて新聞記事を読む。	200 分
第 14 回	集団不適応への支援と地域における専門家との連携や制度の活用	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	関係機関が行う業務について調べる。	210 分
第 15 回	家族への支援と地域における専門家と連携や制度の活用	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	子供の貧困問題について新聞記事から考える。	200 分

フィードバック 課題はコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験（レポート）60%、対話的な態度、ロールプレイングの積極性を 40%の評価配分として総合的に評価する。

テキスト 鳥海順子・吉永睦子共著：「子ども理解と教育相談～移行期支援の視点から～」（東洋館出版社）

※教育職員免許状取得に関わる科目

授業計画

フィードバック	講義における指導案、発表への批評を通して学修者にフィードバックする。
成績評価	学習指導案の評価（900%）、実習校からの評価（900%）から評価する。

参考書・参考資料 「指導と評価の一体化のための参考資料【中学校・音楽】」（国立教育政策研究所）

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

ング
備考

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード : SCH204

形態：講義 単位数：2 単位

到達目標 全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとし、教育的愛情をもって生徒に接し、学修内容を生きた力として発揮できるようにすることを目標とする。

第1回	教職の意義及び専門職としての資質・能力	事前 教育実習を通して感じた教師という仕事について、箇条書きでまとめる。	160分
		事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第2回	教員の職務と学校現場における課題解決（いじめ、SNS、不登校等への対応）	事前 教育実習で感じた学校現場における課題について、箇条書きでまとめる。	160分
		事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第3回	チーム学校及びコミュニティスクールの実践	事前 教育実習で感じた「チーム学校」または「チームでの取り組み」について、箇条書きでまとめる。	160分
		事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第4回	教師としての人権意識及び発達障害を有する生徒への対応	事前 事前に指示された人権についての資料を読み、質問や意見等をまとめる。	160分
		事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第5回	生活指導と道徳の指導	事前 事前に指示された生徒指導、道徳についての資料を読み、課題問題に取り組む。	160分
		事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第6回	安全管理及び学校の危機管理	事前 事前に指示された安全教育についての資料を読み、質問や意見等をまとめる。	160分
		事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第7回	GIGAスクール構想における個別最適化学習と協働的学習の一体化	事前 GIGAスクール構想に関する資料を読み、質問や意見等をまとめる。	160分
		事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第8回	教育原理・知識と実践のつながりについてのグループ討論	事前 教育原理の講義で使用したテキスト・資料・ノートを用意し、読み直す。	160分
		事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第9回	教育課程の意義及び編成の方法についての事例研究	事前 教育課程総論の学びを振り返る。	160分
		事後 取り上げた事例の内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第10回	教育に関する社会的・制度的課題についての事例研究	事前 教育に関する社会的・制度的課題について関心がある事例や報道をまとめる。	160分
		事後 取り上げた事例の内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第11回	ICTを活用した教育の方法及び技術に関する実技指導	事前 教育方法論の講義で使用した資料・ノートを用意し、読み直す。	160分
		事後 実技内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第12回	ICTを活用した教科及び総合的な学習の時間の指導実践（模擬授業）	事前 教科や総合的な学習の時間の講義・教育実習を振り返り、模擬授業の準備をする。	160分
		事後 模擬授業を行った内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第13回	学級経営（学級づくり）案の作成・グループ討論	事前 教育実習等で使用した資料を用意し、学級経営案作成の準備をする。	160分
		事後 学級経営案の手直しを行い、完成させる。	110分
第14回	進路選択に資する各種の機会の提供についてのロールプレイング	事前 進路指導論の講義で使用した資料・ノートを用意し、読み直す。	160分
		事後 役割演技を行った内容で重要と思うことをノートにまとめる。	110分
第15回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師の在り方についての討論	事前 事前に指示された教師像についての資料を読み、課題問題に取り組む。	160分
		事後 討論後の自己の課題を把握する。	110分

成績評価 リフレクションペーパー（50%），最終レポート（50%）から評価する。

テキスト ・ 毎回、授業用資料を提示する。

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング 学校危機管理や安全管理に関する具体例等について、ディスカッションやロールプレイを通して検討し、実務的能力を獲得する。
ICTを活用した授業を通して、ICTスキルの向上を図る。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

教育史	
※教育職員免許状取得に関わる科目	
教授 内田有一	科目コード：SCH103
専門／学年：全専門／2 年次	
形態：講義	単位数：2 単位
概要	教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育及び学校の変遷を理解する。そして教育に関する様々な思想、それらと多様な教育理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。さらに社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。
到達目標	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。その歴史をうけて現代の学校教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、教育に関する制度的・形成的事項や、学校と地域との連携及び学校安全への対応については教育原理で学ぶ。
授業計画	前半では教育の変遷について学び、後半はその歴史を受けて現代の学校教育の成り立ちについて考察する。

第 1 回	オリエンテーションー教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標ー	事前 テキスト『教育の理念・歴史』の全体に目を通しておく。	100 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	180 分
第 2 回	家族と社会による教育の歴史	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 3 回	家庭や子供に関わる教育の思想と学校や教員の成り立ちとの相互関係	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 4 回	西洋における近代教育制度の成立と課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 5 回	西洋における学校や学習に関わる教育の思想	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 6 回	代表的な教育家の思想（1）ルソー	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 7 回	代表的な教育家の思想（2）ベスタロッチ、フレーベル	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 8 回	日本における近代教育制度の成立と展開	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 9 回	日本における学校や学習に関わる教育の思想	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 10 回	代表的な教育家の思想ー明治・大正期	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 11 回	学校を巡る近年の様々な状況の変化	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 12 回	子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 13 回	近年の教育政策の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 14 回	現代社会における教育課題を歴史的視点から捉える	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 15 回	諸外国の教育事情や教育改革の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントを押さえる。	100 分

フィードバック リフレクションペーパーについてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート（60％）、リフレクションペーパー（20％）を基に総合的に評価する。

テキスト 田中智志・橋本美保監修『新・教職課程シリーズ 教育の理念・歴史』（2019 第五刷）一藝社

オフィスアワー ：事前のメールによる予約により、常時相談を受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒

音楽科授業実践演習

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一		科目コード：SCH206
専門／学年： 全専門／2 年次		
形態：講義	単位数 2 単位	
概要	音楽科教育法で習得した教材研究と教育方法を活用し、表現と鑑賞の模擬授業を通して授業力を身に付ける。	

到達目標	この科目では、授業における実践的指導能力を獲得するために表現と鑑賞に関する指導案を作成し、授業実践ができることをねらいとする。
------	---

授業計画		
第 1 回	歌唱教材の模擬授業（変声期を踏まえた指導方法）	事前 新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。 事後 新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。 160 分 110 分
第 2 回	中学校歌唱共通教材の模擬授業①（@6 辺の歌、赤とんぼ、夏の思い出）	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」における共通歌唱教材を歌っておく。 160 分 事後 講義で配付した資料を基に共通歌唱教材における深い学びについて自己の考えをまとめる。 110 分
第 3 回	混声合唱の模擬授業	事前 混声合唱「夢の世界を」の教材性について考えておく。 160 分 事後 混声合唱の指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 4 回	日本伝統的な歌唱の模擬授業	事前 「勅進帳」より指示された長唄の一節を歌えるようにしておく。 160 分 事後 伝統音楽の歌唱指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 5 回	リコーダーを用いた器楽学習の模擬授業	事前 事前に指示されたリコーダー曲を吹けるようにしておく。 160 分 事後 リコーダーの指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 6 回	電子楽器を用いた器楽学習の模擬授業 情報処理機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前 事前に配付する電子楽器に関する資料を読んでおく。 160 分 事後 電子楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 7 回	箏を用いた器楽学習の模擬授業	事前 事前に配付する和楽器に関する資料を読んでおく。 160 分 事後 和楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 8 回	リズム、旋律づくりの模擬授業	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 160 分 事後 講義で配付した資料を基に創作指導と評価ついて自己の考えをまとめる。 110 分
第 9 回	構成を生かした創作学習の模擬授業	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 160 分 事後 講義で配付した資料を基に創作指導と評価ついて自己の考えをまとめる。 110 分
第 10 回	生活や社会における意味を考える創作学習の模擬授業	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 160 分 事後 自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。 110 分
第 11 回	鑑模の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞①	事前 学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。 160 分 事後 講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。 110 分
第 12 回	鑑模の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞②	事前 指導案を構想しておく 160 分 事後 講義内容を踏まえて指導案の展開を練り上げる。 110 分
第 13 回	指導案の検討及び優れた授業の条件	事前 指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。 160 分 事後 講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。 110 分
第 14 回	表現の模擬授業と批評	事前 表現の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 160 分 事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。 110 分
第 15 回	振り返りとまとめ	事前 優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。 160 分 事後 指導案構成力及び教育技術の習得について今後の見通しをもつ。 110 分

フィードバック 小レポート、模擬授業批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 指導案評価（70%）、模擬授業の評価（30%）、授業への取組

テキスト 『平成 29 年告示中学校学習指導要領解説音楽編』 令和 3 年度版『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 別紙周知してあるオフィスアワーにて対応。事前にメールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	□	□	□

科目コード：SLF110

单位数：1 单位

到達目標	「和声法」「鍵盤和声」「ソルフェージュ」「楽曲分析」など、音楽基礎科目関係の授業を受講するのに必要な知識を身につけることを目標とする。
------	---

第1回	(楽典の基礎 a) 音程 (基礎)	事前	楽典の基礎 a の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 a の復習	誤答を解き直す	30 分
第2回	(楽典の基礎 b) 音程 (発展)	事前	楽典の基礎 b の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 b の復習	誤答を解き直す	30 分
第3回	(楽典の基礎 c) 音階 (基礎)	事前	楽典の基礎 c の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 c の復習	誤答を解き直す	30 分
第4回	(楽典の基礎 d) 音階 (発展)	事前	楽典の基礎 d の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 d の復習	誤答を解き直す	30 分
第5回	(楽典の基礎 e) 調 (基礎)	事前	楽典の基礎 e の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 e の復習	誤答を解き直す	30 分
第6回	(楽典の基礎 f) 調 (発展)	事前	楽典の基礎 f の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 f の復習	誤答を解き直す	30 分
第7回	(楽典の基礎 g) 和音 (基礎)	事前	楽典の基礎 g の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 g の復習	誤答を解き直す	30 分
第8回	(楽典の基礎 h) 和音 (発展)	事前	楽典の基礎 h の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 h の復習	誤答を解き直す	30 分
第9回	(楽典の基礎 i) 調性判断 (基礎)	事前	楽典の基礎 i の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 i の復習	誤答を解き直す	30 分
第10回	(楽典の基礎 j) 調性判断 (発展)	事前	楽典の基礎 j の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 j の復習	誤答を解き直す	30 分
第11回	(楽典の基礎 k) 移調 (基礎)	事前	楽典の基礎 k の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 k の復習	誤答を解き直す	30 分
第12回	(楽典の基礎 l) 移調 (発展)	事前	楽典の基礎 l の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 l の復習	誤答を解き直す	30 分
第13回	(楽典の基礎 m) 楽語 (基礎)	事前	楽典の基礎 m の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 m の復習	誤答を解き直す	30 分
第14回	(楽典の基礎 n) 楽語 (発展)	事前	楽典の基礎 n の予習	テキストを読む	30 分
		事後	楽典の基礎 n の復習	誤答を解き直す	30 分
第15回	まとめ	事前	まとめの予習		30 分
		事後	まとめの復習		30 分

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

備考

[illegible]

科目コード : SLF112

形態：演習

第 1 回	(鍵盤和声の基礎 a)	事前 鍵盤和声の基礎 a の予習	課題を弾く	30 分
-------	-------------	------------------	-------	------

[illegible]

哲学と倫理

非常勤講師 小泉博明

科目コード : HUM301

専門／学年 : 全専門／専攻科 1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	現代の諸課題というテーマの中で、生と死をめぐる倫理的な問題について、「生命倫理」を学ぶことを通して、哲学と倫理の基礎的な知識を習得する。また、身近な自らに関わる問題として主体的に考察する。他者に対して思いやりの態度を身に付ける。

到達目標	「生命倫理」に関連する基本的な用語の意味を説明することができる。先端医療技術の開発による多様な倫理的な諸問題について議論することができる。キュアを中心とした医療に対する批判から、ケアの倫理について説明できる。生命倫理の諸問題を理解し、自らに関わる問題として意識を持ち、日本の文化的な背景にも配慮しながら考察することができる。
------	--

授業計画				
第 1 回	脳死と臓器移植 テキスト（テーマ 11）臓器提供におけるオプティミズムについて考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 2 回	人体の資源化・商品化 テキスト（テーマ 12）精子や卵子の提供の勧誘があれば、どのように対応すれば良いのか考えよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 3 回	尊厳死と安楽死 テキスト（テーマ 14）安楽死に賛成する主張と反対する主張の双方の根拠を検討してみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 4 回	終末期医療 テキスト（テーマ 15）望ましい終末期医療のあり方とはどのようなものか、考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 5 回	インフォームド・コンセント テキスト（テーマ 16）医療におけるパターナリズムを完全に排除すべきかどうか考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 6 回	生殖補助医療技術 テキスト（テーマ 5）生殖補助医療技術を利用することで、生まれてくる子どもにどんな影響を及ぼすのか、考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 7 回	出生前診断・着床前診断 テキスト（テーマ 6）親は生まれてくる子どもを自分の希望によって選択してよいと考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 8 回	優生思想 テキスト（テーマ 7）生殖に関する個人の選択や決定は、どのくらい認められるべきかを考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 9 回	遺伝子・DNA・ゲノム テキスト（テーマ 1）遺伝子、DNA、ゲノムの関係を整理した上で、「遺伝的な平等性と多様性」について、自分なりに考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 10 回	バイオテクノロジー テキスト（テーマ 2）バイオテクノロジーの活用にはどのような倫理的問題があるだろうか、異なる立場から具体的に考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 11 回	ヒトゲノム テキスト（テーマ 3）人間の遺伝子を特許の対象とすることは是非を考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 12 回	ヒトと人格 テキスト（テーマ 4）人間の生命の間に、生きる価値や道徳的地位の違いを何らかのかたちで、もうけてはいないだろうか、考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 13 回	医療資源の配分 テキスト（テーマ 9）医療費における公的負担と患者個人の負担との割合はどうあるべきか、考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 14 回	医療倫理の四原則 テキスト（テーマ 18）医療に関する倫理的な問題を、医療倫理の四原則を用いて考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 15 回	生命倫理とは・まとめ 生命倫理の授業を通じて、自らの死生観、人生観を確立しよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、自らの死生観、人生観を確立する。	180 分

フィードバック リアクションペーパー・課題に対し、次週の授業でコメントを行い、受講生の意見を共有し省察する。

成績評価 講義に対するリアクションペーパー(20%)や、テーマごとの課題レポート(80%)により、総合的に評価する。

テキスト 小泉博明他『テーマで読み解く 生命倫理』教育出版 （授業時に教科書として使用する）

オフィスアワー 質問などがある場合には授業終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□

美術史基礎

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：HUM302

専門／学年： 全専門／専攻科1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	西洋美術を中心に造形作品の基本的な見方を学ぶ。多くの文化施設が集まる上野に位置した本学園の立地条件を生かし、教室で講義を受けるばかりでなく、美術館・博物館での実作品の鑑賞も行いながら、視覚芸術に対する感性を養い、これをよりよく理解するための基礎的知識を身につける。
到達目標	絵画を中心に造形作品のかたちの見方、作品のかたちが表わす意味の読み方、さらには作品と作品をめぐる人々や社会との関係を学ぶ。また、さまざまな主題の作品を鑑賞する中で、古代から現代にいたる西洋美術のおおまかな流れも理解する。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：授業概要、成績評価に関する説明ほか 上野の美術館・博物館について（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 2 回	美術作品を「見る」（講義・演習・演習解説）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 3 回	人物像：西洋美術における理想的人物像（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 4 回	人物像：肖像画（講義・演習）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 5 回	人物像：肖像画（演習解説・講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 6 回	人物像（美術館での作品鑑賞）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 鑑賞作品と鑑賞体験のまとめ 150 分
第 7 回	宗教画：キリスト教美術とは（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 8 回	宗教画：礼拝像（講義・演習）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 9 回	宗教画：礼拝像（演習解説・講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 10 回	物語画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 11 回	宗教画・物語画（美術館での作品鑑賞）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 鑑賞作品と鑑賞体験のまとめ 150 分
第 12 回	風景画（講義・演習）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 13 回	風景画（演習解説・講義） 静物画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 14 回	静物画（講義・演習・演習解説）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 15 回	風景画・静物画：美術館での作品鑑賞	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 鑑賞作品と鑑賞体験のまとめ 150 分

フィードバック 授業内に実施する演習（レポート）については解説を行う。

成績評価	主に授業内演習（レポート）（4・5 回程度を予定）と期末レポートにより、美術作品を見る力、および鑑賞体験について適切に記述する能力をはかる。 【評価配分（目安）：授業内演習 50%、期末レポート 40%、授業への積極的な取り組み 10%】
テキスト	教科書は使わない。 参考資料：秋山聰、田中正之監修・著 『西洋美術史』（美術出版ライブラリー 歴史編） 美術出版社 2021 年 （美術史のための情報ソース等については、授業の中で随時紹介する。）

オフィスアワー 質問や相談等は原則、授業時間内に受付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□

英語コミュニケーションⅠ-1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG301

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 多彩なアクティビティ（ロールプレイングやディスカッション）を通して発信のためのコミュニケーションスキルを磨く。「読む」「聞く」＋「話す」を中心に4技能に対応する。自信を持って英語を駆使する力を養う。

到達目標 留学生活、就職、旅行、買い物、アルバイト、SNS など、身近で興味深い話題を題材に、リアルな英語表現でコミュニケーションの向上を図る。

授業計画				
第 1 回	Orientation, Unit 1 College Life Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書を入手し、Unit 1 を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 2 回	Unit 1 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	50 分
第 3 回	Unit 2 Future Plans / Jobs Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 4 回	Unit 2 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 5 回	Unit 3: Part-Time Jobs and Otakatsu Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 6 回	Unit 3 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 7 回	Unit 4 Movies Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 8 回	Unit 4 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 9 回	Unit 5: Parties and Festivals Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 10 回	Unit 5 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 11 回	Unit 6: Friends Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 12 回	Unit 6 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 13 回	Unit 7: Study Abroad / World Englishes Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 14 回	Unit 7 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 15 回	Review Chapters 1-7 理解度確認テスト	事前	理解度確認テストの準備をする	40 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	50 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 50%】

テキスト 塩澤正、Adam Martineli, “Activator Next: 大学生の自信を促す英語コミュニケーション” 金星堂

その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

アクティブ・ラーニング ペアワークやディスカッションを活かしたアクティブな学びを通じて、能動的な英語習得を目指す。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	□

英語コミュニケーションⅠ-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG301

専門／学年： 全専門／専攻科Ⅰ年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 前期に引き続き、多彩なアクティビティ（ロールプレイングやディスカッション）を通して発信のためのコミュニケーションスキルを磨く。「読む」「聞く」＋「話す」を中心に4技能に対応する。自信を持って英語を駆使する力を養う。

到達目標 留學生活、就職、旅行、買い物、アルバイト、SNS など、身近で興味深い話題を題材に、リアルな英語表現でコミュニケーションの向上を図る。

授業計画

第1回	Unit 8 SNS / Fashion / Weather Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第2回	Unit 8 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	50 分
第3回	Unit 9 Cultures / Idols / Anime Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第4回	Unit 9 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第5回	Unit 10: Music Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第6回	Unit 10 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第7回	Unit 11 Relationships Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第8回	Unit 11 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第9回	Unit 12: Traveling Overseas Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第10回	Unit 12 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第11回	Unit 13: Shopping Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第12回	Unit 13 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第13回	Unit 14: Social Media Brainstorm, Dialogue, Expressions, Interactive Practice	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第14回	Unit 14 Active Listening, Active Reading, Activator	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第15回	Review Chapters 8-14 理解度確認テスト	事前	理解度確認テストの準備をする	40 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	50 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 50%】

テキスト 塩澤正、Adam Martineli, “Activator Next: 大学生の自信を促す英語コミュニケーション” 金星堂

その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

アクティブ・ラーニング ペアワークやディスカッションを活かしたアクティブな学びを通じて、能動的な英語習得を目指す。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	□

英語コミュニケーションⅡ-1

非常勤講師 佐野直哉

科目コード：ENG401

専門／学年： 全専門／専攻科2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	昨年に引き続き「読んで話す」「聞いて話す」を通して発信のためのコミュニケーションスキルを磨く。英語でのディスカッションやプレゼンテーションへと繋がる基礎的なコミュニケーション能力を養成する。副読本「会話もメールも 英語は3語で伝わります」も昨年に続き重点的に使用し、シンプルで平易な文章を口頭ですぐに作成できるように練習する。
到達目標	学習者ひとりひとりが、相手の立場を理解し、相手に対して情報を的確に伝え、また説得や意見交換できることをゴールとする。自らの意見を書いたり、プレゼンテーションする活動で循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用する。自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる。
授業計画	昨年同様、教科書「Chat and Share」では「読む」「聞く」をメインに学習し、「会話もメールも英語は3語で伝わります」は副教材的に使用しながら「話す」力を養成する。

第1回	Chapter 8: Travel Reading/Alternative places to stay	事前	Check the textbook and look it through	40分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50分
第2回	Chapter 8: Travel Opinion/Stay at an Airbnb or not	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40分
		事後	Complete a writing task and submit.	50分
第3回	Chapter 9: Food Reading/Japanese food in the world	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50分
第4回	Chapter 9: Food Opinion/The best Japanese food	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40分
		事後	Complete a writing task and submit.	50分
第5回	Chapter 10: The Environment Reading/Earth Day	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50分
第6回	Chapter 10: The Environment Opinion/How to reduce air pollution	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40分
		事後	Complete a writing task and submit.	50分
第7回	Chapter 11: Business Reading/SMS and email	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50分
第8回	Chapter 11: Business Opinion/A busy workplace or a quiet one	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40分
		事後	Complete a writing task and submit.	50分
第9回	Chapter 12: The Internet and Social Media Reading/Fake news	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50分
第10回	Chapter 12: The Internet and Social Media Opinion/The internet or TV	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40分
		事後	Complete a writing task and submit.	50分
第11回	Chapter 13: Sports Reading/First woman to run in the Boston Marathon	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50分
第12回	Chapter 13: Sports Opinion/Belong to many clubs or just one	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40分
		事後	Complete a writing task and submit.	50分
第13回	Chapter 14: A Barrier-free Society Reading/No limitations!	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50分
第14回	Chapter 14: A Barrier-free Society Opinion/Hiring people with disabilities	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40分
		事後	Complete a writing task and submit.	50分
第15回	Review Chapters 8-14	事前	Go through the units 8-14 and identify where you need more support.	40分
		事後	Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	50分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 小テスト 80% 授業態度 20%

テキスト 「Chat and Share! Topic Starters for Today’s Students 話してみよう！トピックベースの英会話」 Diane H. Nagatomo, 金星堂

中山裕木子「会話もメールも 英語は3語で伝わります」ダイヤモンド社

オフィスアワー 授業後に必要に応じて時間を取ります。

備考 両方の教科書を毎回使用します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐

英語コミュニケーションⅡ-2

非常勤講師 佐野直哉

科目コード：ENG402

専門／学年： 全専門／専攻科 2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 映像を通して基本となる 5 つのモデルプレゼンテーションの構造を学び、自身の企画やアイディアを的確に英語でプレゼンテーションが行える力を養成する。そのためにプレゼンテーションの構造をイメージ化し、プレゼンに必要な語彙や表現を身につける。適宜小テストを行う。また副教材として「英語は 3 語で伝わります。練習英文 100」を使用し、前期で学修した内容を復習しながら、徹底的に練習しながら、言いたいことを口頭でシンプルに表現できることを目指す。

到達目標

- 英語によって自分の考えや提案などを正確に相手に理解してもらえるようになる。
- プレゼンテーションの基本構造が理解した上で、話題と目的にあったタイプを的確に選べる。
- プレゼンテーションで用いる基本的な表現が身につく。
- プレゼンテーションの各タイプに用いられる表現を的確に選んで活用できる。

授業計画 教科書『動画で学ぶ英語プレゼンテーション～覚えておきたい 8 つのモデル～ Winning Presentations』ではプレゼンテーションのスタイルを学び、教科書『英語は 3 語で伝わります。練習英文 100』は副教材的に使用しながらコンテンツを表現する力を養成する。

第 1 回	オリエンテーション、授業概要と教材の解説。進め方	事前 教科書の目次を読み、内容をつかむ 事後 自己紹介プレゼンテーションの準備	60 分 210 分
第 2 回	Unit 1: Presentation Structure プレゼンテーションの構造	事前 Unit 1 を予習する。 事後 Find the Structure および Signal the Structure を復習する	90 分 180 分
第 3 回	Unit 2: Presentation Skills プレゼンテーションのスキル	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Presentation Practice を練習する	90 分 180 分
第 4 回	Unit 3: Preparing for Your Presentation 情報収集と情報倫理	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 APA Style について復習する、参考文献リストを作成する	90 分 180 分
第 5 回	Unit 4: How to Arrange a Presentation Setting プレゼンテーション環境の準備	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Creating Visual Aids 課題から実際に Power Point スライドを作成する	90 分 180 分
第 6 回	Unit 5 Type 1: Listing 列挙型プレゼンテーション	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 7 回	Unit 6 Type 2: Classification 分類型プレゼンテーション	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 8 回	Unit 7 Type 3: Process プロセス型プレゼンテーション	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 9 回	Unit 8 Type 4: Investigation 調査型プレゼンテーション	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Model Presentation の内容を復習し、理解を深める	90 分 180 分
第 10 回	Unit 8 Type 4: Investigation 調査型プレゼンテーションの前半	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Mini Presentation に向けて調査を実施し、作成する	90 分 180 分
第 11 回	Unit 8 Type 4: Investigation 調査型プレゼンテーションの後半	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 自分の Mini Presentation を振り返り、より期末プレゼン課題に備える	90 分 180 分
第 12 回	Unit 9 Review Unit: Giving Your Presentation 報告型プレゼンテーションの実践	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 プレゼン課題のトピックを決め、リサーチを実施する	90 分 180 分
第 13 回	Unit 9 Review Unit: Giving Your Presentation 報告型プレゼンテーションの実践	事前 プレゼン課題のドラフトを作成する 事後 プレゼン課題の最終スライドを作成する	90 分 180 分
第 14 回	Unit 9 Review Unit: Giving Your Presentation 報告型プレゼンテーションの実践	事前 プレゼン課題の練習と準備 事後 評価と振り返り	90 分 180 分
第 15 回	Review Test 英語能力テスト + プレゼンテーション予備日	事前 英語能力テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	180 分 90 分

フィードバック 課題や講評を通して学修成果をフィードバックする。

成績評価 プレゼンテーション課題 60%、小テスト 30%、授業態度 10%

テキスト Akira Morita, Shinichi Harada, Kazuma Kitamura, Sayaka Sugimoto, Bill Benfield 『動画で学ぶ英語プレゼンテーション～覚えておきたい 8 つのモデル～ Winning Presentations』(成美堂)

中山裕木子『英語は 3 語で伝わります どんどん話せる練習英文 100』ダイヤモンド社 (昨年使用したテキストとは別の本です)

オフィスアワー 授業後に時間を適宜取ります。(事前に Email にて連絡が望ましい。ball60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

アクティブ・ラーニング プレゼンテーション、プロジェクト型学習、ワークショップ型アプローチ

備考 両方の教科書を毎回使います。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	□	□	

専門実技研究Ⅰ-1（ピアノ）

ピアノ主任 准教授 倉地恵子

科目コード：IND301

専門／学年： ピアノ専門／専攻科１年次

形態：実技	単位数 2単位
概要	技術と感性を磨き、知識に裏付けられた表現を学ぶ。

到達目標	それぞれの作品に即した様式、音色、タッチを自ら探求し、より深い表現力を習得する。
------	--

授業計画		前期 15 回、各人 60 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画を立てる	事前 レパートリーに加えたい作品を選ぶ 420 分 事後 前期の目標を設定し、勉強方針を立てる 420 分
第 2 回	前期試験曲 作品の概要、時代背景	事前 読譜をはじめる 420 分 事後 作曲家について調べる 420 分
第 3 回	前期試験曲 読譜の確認	事前 作品の様式を意識しながら、読譜を進める 420 分 事後 正しい読譜ができているか確認をする 420 分
第 4 回	前期試験曲 楽譜の読み込み	事前 作曲家の時代背景を考える 420 分 事後 記譜の細部まで意識して、作曲家の意図を考えながら練習をする 420 分
第 5 回	前期試験曲 アーティキュレーションと奏法	事前 表現方法を考えて、練習をする 420 分 事後 様式に即した奏法を確認して、練習をする 420 分
第 6 回	前期試験曲 フレーズ感と脱力	事前 アーティキュレーション、スラーの確認をして、練習をする 420 分 事後 フレーズ感をもって演奏しているか確認をして、練習をする 420 分
第 7 回	前期試験曲 和声感	事前 和声機能の確認をして、練習をする 420 分 事後 和声の響きを意識して、練習をする 420 分
第 8 回	前期試験曲 形式・様式	事前 作曲家の要求している音色を探り、練習をする 420 分 事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする 420 分
第 9 回	前期試験曲 強弱とコントラスト	事前 強弱の確認をして、練習をする 420 分 事後 コントラストの付け方の研究をして、練習をする 420 分
第 10 回	前期試験曲 細かいニュアンス	事前 タッチの確認をして、練習をする 420 分 事後 色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする 420 分
第 11 回	前期試験曲 テンポ感	事前 最終的なテンポを設定する 420 分 事後 テンポの不自然なふらつきがないか確認をして、練習をする 420 分
第 12 回	前期試験曲 響きを聴く	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習をする 420 分 事後 声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして、練習をする 420 分
第 13 回	前期試験曲 仕上げ 1	事前 表現を掘り下げて、練習をする 420 分 事後 独自の表現ができているか確認をして、練習をする 420 分
第 14 回	前期試験曲 仕上げ 2	事前 曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする 420 分 事後 細部の確認をする 420 分
第 15 回	前期試験曲 仕上げ 3	事前 問題点の最終確認と反復練習 420 分 事後 全体の流れを確認する 420 分
フィードバック	前期演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。	

成績評価	実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％、課題 20％、授業態度 20％ 試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
テキスト	適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 教員のレッスン室で対応する。(教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	□	□

専門実技研究 1-2（ピアノ）

ピアノ主任 准教授 倉地恵子

科目コード：IND302

専門／学年： ピアノ専門／専攻科 1 年次

形態：実技	単位数 2 単位
概要	技術と感性を磨き、知識に裏付けられた表現を学ぶ。

到達目標	それぞれの作品に即した様式、音色、タッチを自ら探求し、より深い表現力を習得する。
------	--

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	オーディションの曲 読譜の確認	事前 楽語を調べ、意識をして読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をする	420 分 420 分
第 2 回	オーディションの曲 様式・形式	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 形式を考えて練習をする	420 分 420 分
第 3 回	オーディションの曲 表現	事前 表現方法を考えて練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探り、練習をする	420 分 420 分
第 4 回	オーディションの曲 仕上げ	事前 作曲家の要求している音色を探り、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分 420 分
第 5 回	自由曲 後期試験に向けて、技術面・表現面の向上のための課題に取り組む 1	事前 技術面・表現面での自分の弱点や課題点を把握し、新たに取り組みたい曲を選ぶ 事後 読譜と弾き込み	420 分 420 分
第 6 回	自由曲 後期試験に向けて、技術面・表現面の向上のための課題に取り組む 2	事前 課題克服のための練習の仕方を考え、工夫する 事後 自由曲の仕上げ	420 分 420 分
第 7 回	後期試験曲 読譜の確認	事前 後期試験曲の楽語を調べ、読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をする	420 分 420 分
第 8 回	後期試験曲 形式・様式	事前 曲の大きな流れや様式に合った表現を考え、練習をする 事後 作曲家の時代背景を調べる	420 分 420 分
第 9 回	後期試験曲 表現	事前 アーティキュレーション、スラーなどの細部も確認して、練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す	420 分 420 分
第 10 回	後期試験曲 和声感	事前 和声機能の確認をして練習をする 事後 和音の響きを意識して練習をする	420 分 420 分
第 11 回	後期試験曲 強弱	事前 強弱の確認をして練習をする 事後 コントラストの付け方の研究をして練習をする	420 分 420 分
第 12 回	後期試験曲 音色	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分 420 分
第 13 回	後期試験曲 細部の表現	事前 音色・コントラストを考えて、練習をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をして練習をする	420 分 420 分
第 14 回	後期試験曲 細部の音色	事前 タッチの確認をして練習をする 事後 色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする	420 分 420 分
第 15 回	後期試験曲 仕上げ	事前 和音の響きを聴いているか確認をして練習をする 事後 声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして練習をする	420 分 420 分

フィードバック オーディション・後期演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％、課題 20％、授業態度 20％
試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 教員のレッスン室で対応する。（教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技研究Ⅰ-1（器楽）

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：IND301

専門／学年： 器楽専門／専攻科1年次

形態：実技	単位数 2単位
概要	この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。 短大で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標	専攻科1年前期の課題はバロック。演奏するパートのみを学ぶのではなく、バロック音楽の特徴でもある対位法と通奏低音も学ぶ。 試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し試験に臨むこと。（この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある）
------	---

授業計画	以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。		
第1回	前期の学修計画を立てる	事前 短大時代の学修を確認し学修計画案を立てる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420分 420分
第2回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第3回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第4回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（装飾法を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第5回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第6回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第7回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第8回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。試験曲を決める	420分 420分
第9回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第10回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第11回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（装飾法を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第12回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第13回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第14回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第15回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する。	420分 420分

フィードバック 前期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が50点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1回あたりの時間数（事前・事後）は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	☒		☒	☒	□	☒	□	□	□

専門実技研究Ⅰ-2（器楽）

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：IND302

専門／学年： 器楽専門／専攻科1年次

形態：実技	単位数 2単位
概要	この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。 短大で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標	専攻科1年次後期の課題は古典時代。演奏するパートのみを学修するのではなく、多くの音楽的所産を生み出した古典派音楽の特徴を学ぶこと。試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し試験に臨むこと。（この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある）
------	---

授業計画	以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。			
第1回	後期の学修計画を立てる	事前	前期の学修を確認し、後期の学修計画案を立てる	420分
		事後	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420分
第2回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派時代の楽曲を数曲学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第3回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第4回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第5回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第6回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第7回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第8回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。試験曲を決める	420分
第9回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第10回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第11回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第12回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第13回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第14回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第15回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、後期試験に向けて練習する。	420分

フィードバック 後期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が50点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1回あたりの時間数（事前・事後）は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

専門／学年： 器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数 2 単位
概要	この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。 専攻科 1 年次で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標 専攻科 2 年次前期の課題はロマン派。演奏するパートのみを学修するのではなく、感情や主観などを表現に出してゆくロマン派音楽の特徴を学ぶこと。試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し学内演奏会に臨むこと。（この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある）

授業計画	以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。		
第 1 回	前期の学修計画を立てる	事前 一年次後期の学修を確認し、前期の学修計画案を立てる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420 分 420 分
第 2 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（テクニックを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 6 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 7 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 8 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。試験曲を決める	420 分 420 分
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 10 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 11 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（ホールリハーサル）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、学内演奏会に向けて練習する。	420 分 420 分

フィードバック 学内演奏会の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が 50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	21世紀トピック対応力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	☒	☒	☒	□	☒	□	□	□

専門実技研究Ⅱ-2（器楽）

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：IND402

専門／学年： 器楽専門／専攻科2年次

形態：実技	単位数 2単位
概要	この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。 専攻科1年次で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標	専攻科2年次後期の課題は近代・現代音楽。演奏するパートのみを学修するのではなく、印象派や抽象的な音楽の近・現代の特徴を学ぶこと。試験前は数数学修し、その中から一曲を選択し修了演奏試験に臨むこと。（この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある）
------	--

授業計画	以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。			
第1回	後期の学修計画を立てる	事前	2年次前期の学修を確認し、後期の学修計画案を立てる	420分
		事後	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420分
第2回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第3回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第4回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第5回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第6回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第7回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第8回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。修了演奏試験曲を決める	420分
第9回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第10回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第11回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第12回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第13回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第14回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第15回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（ホールリハーサル）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、修了演奏試験に向けて練習する。	420分

フィードバック 修了演奏試験後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が50点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1回あたりの時間数（事前・事後）は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニ・ナレッジ・リテラシー	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒		☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技研究Ⅰ-1（声楽）

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND301

専門／学年： 声楽専門／専攻科1 年次

形態：実技	単位数 2 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	より高度な声楽的発声を習得する。演奏技術、表現力の向上を目指す。 個々の声のカテゴリーに合ったレパートリーの拡大をはかる。
------	--

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンを する。また、上記を題材としての確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。			
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	これまでの学修を確認し学習計画を練る	90 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜などの準備をする	210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 5 回	グループレッスン① 詩の内容を理解する	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、および演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（歌詞の意味を調べる）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 オペラ・アリアやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前	次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、前期試験の演奏曲目を選択する	事前	次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 10 回	グループレッスン② 言語、和声感、様式感を中心に 問題点の認識と解決をはかる	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、および演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、練習する	210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い暗譜を確かなものとする	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 13 回	ピアノ伴奏を伴い暗譜を確かなものとする	事前	伴奏合わせを重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 14 回	グループレッスン③ ピアノ伴奏とともに演奏の質を高める	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、および演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 15 回	前期試験の予行演習をする	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分

フィードバック 前期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次への課題を話し合う。

成績評価 前期演奏試験による成績 75%、授業への積極的な取組み 25%

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 授業後各教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門／学年： 声楽専門／専攻科1 年次

形態：実技	単位数 2 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	より高度な声楽的発声を習得する。演奏技術、表現力の向上を目指す。 個々の声のカテゴリーに合ったレパートリーの拡大をはかる。
------	--

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材としての確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。		
第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 4 回	グルーブレッスン① ーオーディション曲の仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分 210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 課題曲の練習を重ねる（言葉のディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 課題曲の練習を重ねる（言葉のディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 課題曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 10 回	グルーブレッスン② 問題点の認識と解決をはかる	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分 210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ ー表現ー	事前 呼吸、テンポ等伴奏者と確認する 事後 伴奏合わせを繰り返し、暗譜をする	210 分 210 分
第 15 回	グルーブレッスン③ 後期試験曲一仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 伴奏者とともに曲の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック 後期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 学年末演奏試験による成績 75％、授業への積極的な取り組み 25％

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 授業後、各教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□

修了演奏研究

専門／学年：器楽専門／専攻科2年次

形態：演習	単位数 2単位
概要	これまでに学修で身につけた知識・理解や技能をもとに総合的な学修をおこない、問題発見・解決に必要な論理的・創造的思考力を解決し、修了演奏試験に向けての準備をする。

到達目標 短期大学2年間、専攻科2年間の集大成として楽曲を選曲し、修了演奏試験まで問題発見し、それを解決することを目標とする。

授業計画					
第1回	学修成果録音曲の研究 様式	楽曲分析①	事前	楽曲分析①の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析①の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第2回	学修成果録音曲の研究 形式	楽曲分析②	事前	楽曲分析②の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析②の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第3回	学修成果録音曲の研究 語法	楽曲分析③	事前	楽曲分析③の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析③の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第4回	学修成果録音曲の研究（説明書指導）④		事前	事前に第3回までの研究内容の概要をまとめる。	120分
			事後	授業に基づき説明書を作成する。	120分
第5回	学修成果録音曲の研究（説明書指導）⑤		事前	説明書作成上の疑問点を整理する。	120分
			事後	説明書を完成させる。	120分
第6回	学修成果録音曲の指導 ① 伴奏合わせ		事前	演奏するソロパートのみならず、伴奏譜を研究し、しっかりイメージを創る。	120分
			事後	タイミング、音楽表現などの問題点を洗い出し、録音に向けての準備をする。	120分
第7回	学修成果録音曲の指導 ② 学修成果録音		事前	録音する場所で合わせ練習、仮録音をしてマイクの位置などを確認する。	120分
			事後	録音したものをよく聴き、ミスなどをチェック、場合によっては後日再録音をする。	120分
第8回	学修成果録音曲の研究（面接指導）⑥		事前	レポート内容についての質問に答えられるように準備する。	120分
			事後	面接を通して課題を把握する	120分
第9回	学修成果録音曲の研究（面接指導）⑦		事前	課題解決をして面接の準備をする。	120分
			事後	自己評価を通して次の課題を見出す。	120分
第10回	修了演奏試験曲の研究 様式、形式	楽曲分析①	事前	楽曲分析①の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析①の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第11回	修了演奏試験曲の研究 語法	楽曲分析②	事前	楽曲分析②の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析②の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第12回	修了演奏試験曲の研究（修了演奏小論文指導）③		事前	小論文原稿の説明準備をする。	120分
			事後	自己の課題を見出し、小論文の見直しを行う。	120分
第13回	修了演奏試験曲の研究（修了演奏小論文指導）④		事前	自己の課題解決による小論文原稿を準備する。	120分
			事後	課題を基に見直しをもって完成させる。	120分
第14回	修了演奏試験曲の指導 ① 伴奏合わせ		事前	演奏するソロパートのみならず、伴奏譜を研究し、しっかりイメージを創る。	120分
			事後	タイミング、音楽表現などの問題発見をして、試験に向けての準備をする。	120分
第15回	修了演奏試験曲の指導 ② ホールリハーサル		事前	通常の試験会場とホールとの違いをイメージし、ホールリハーサルに備える	120分
			事後	ホールでの伴奏楽器とのバランス、響を感じ取り、試験に向かって準備する。	120分

フィードバック 毎回の課題に対し教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 修了演奏試験 80%、レポート 20%

テキスト 修了演奏試験曲楽譜

オフィスアワー 授業の前後 メールでも予約できる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

合唱と指導Ⅰ-1・Ⅱ-1

非常勤講師 大隈優梨子

科目コード：VEN301／VEN401

専門／学年： 全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	合唱における基本的な歌唱法、姿勢、ストレッチ、呼吸法、発声法や曲についての知識を学ぶ、演奏会に向けて実践練習を重ねる実習形式の講義である。

到達目標	ハーモニーを作りあげるプロセスを体得し、様々な合唱様式や表現方法を学ぶことを目標とする。 また、合唱の指導を実践し、自分の考えやイメージを相手に正しく伝える力、問題点をみつけ、解決する力を身につける。
------	---

授業計画				
第 1 回	ガイダンス「声種分け」	事前	自分がどのパートに相応しいか考える	40 分
		事後	音域、音色について考える	50 分
第 2 回	合唱の基礎トレーニング 1「呼吸、ストレッチ、姿勢」	事前	合唱曲の譜読みをする	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 3 回	合唱の基礎トレーニング 2「子音、母音、口腔内について」	事前	呼吸、ストレッチをする	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 4 回	合唱の基礎トレーニング 3「表情筋を感じる」	事前	顔の筋肉を動かしてみる	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 5 回	合唱の基礎トレーニング 4「歌うポジションで母音を発語する」	事前	話すポジションと歌うポジションの違いを考える	40 分
		事後	授業内で指摘された箇所の練習	50 分
第 6 回	合唱の基礎トレーニング 5「練習曲①をハミングで歌う」	事前	巻き舌、ハミングを練習する	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 7 回	合唱の基礎トレーニング 6「練習曲①を母音をつけて歌う」	事前	練習曲①をさらう	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 8 回	定期演奏会リハーサル「パートリーダーの重要性」	事前	パートリーダーの役割について考える	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 9 回	定期演奏会リハーサル「ハンドサイン」	事前	ハンドサインとは何かを考える	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 10 回	定期演奏会リハーサル「言葉の抑揚で歌う」	事前	歌詞を読んてくる	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 11 回	定期演奏会リハーサル「発音について」	事前	発音記号について調べる	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 12 回	定期演奏会リハーサル「体をつかって表現する」	事前	曲に合わせて体をうごかす	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 13 回	定期演奏会リハーサル「合唱指導のテクニック」	事前	合唱指導とは何かを考える	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 14 回	定期演奏会リハーサル「合唱を指揮する（基礎）」	事前	指揮者の重要性を考える、指揮をしてみる	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分
第 15 回	定期演奏会リハーサル「合唱を指揮する（応用）」	事前	実際に指揮をしてみる	40 分
		事後	授業内で指摘された所の練習	50 分

フィードバック リハーサル及び演奏会後コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リハーサル及び演奏会の評価 60％ 授業への積極的な取り組み 40％

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩時間に講義室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒

合唱と指導 I -2・II-2

非常勤講師 大隈優梨子

科目コード：IND302／IND402

専門／学年： 全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	合唱における基本的な歌唱法、姿勢、ストレッチ、呼吸法、発声法や曲についての知識を学ぶ。 演奏会に向けて実践練習を重ねる実習形式の講義である。

到達目標	ハーモニーを作りあげるプロセスを体得し、様々な合唱様式や表現方法を学ぶことを目標とする。 また、合唱の指導を実践し、自分の考えやイメージを相手に正しく伝える力、問題点をみつけ解決する力を身につける。
------	--

授業計画				
第 1 回	合唱曲を暗譜する	事前	楽譜を見直す	40 分
		事後	言葉の抑揚に気をつけて音読する	50 分
第 2 回	曲を仕上げていく 1 ステップ、言葉のさばき	事前	暗譜確認、ステップ確認	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 3 回	曲を仕上げていく 2 表現力を身につけ、空間を広げる	事前	自分で指揮をしながら演奏する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 4 回	曲を仕上げていく 3 それぞれのイメージをまとめる	事前	楽譜を見直しイメージを具現化する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 5 回	総合練習 ホールを想定した演奏を考える	事前	本番をイメージして演奏する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 6 回	総合練習 ランスルー	事前	ホールでの演奏をイメージする	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 7 回	ホールリハーサル 1 総合練習、移動の確認	事前	本番を想定する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 8 回	ホールリハーサル 2 総合練習、楽譜の見直し	事前	歌詞をリズム読みし、ステップを踏む	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 9 回	定期演奏会のリハーサル及び本番	事前	暗譜の確認	40 分
		事後	本番を振り返る	50 分
第 10 回	定期演奏会のふりかえり	事前	本番で一番印象に残ったことを考える	40 分
		事後	選曲を考える	50 分
第 11 回	選曲の重要性	事前	ア・カベラの楽曲を聴いてみる	40 分
		事後	授業で指摘を受けた所の練習	50 分
第 12 回	ア・カベラの楽曲の指揮をする 1	事前	課題曲の譜読み、分担	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 13 回	ア・カベラの楽曲の指揮をする 2	事前	課題曲を指揮する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 14 回	ア・カベラの楽曲の指揮をする 3	事前	課題曲を練習する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 15 回	まとめ～合唱指導テクニック・指導者の重要性～	事前	指導者の重要性を考える	40 分
		事後	全体のバランスを考える	50 分

フィードバック 授業前後の指導にて、学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 リハーサル及び演奏会の評価、授業への積極的な取り組みなどで評価

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩時間に講義室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒

日本音楽史概説-1

非常勤講師 櫻井利佳

科目コード：LED301

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義	単位数 2単位
概要	日本に現存する様々な史料の検討を通じて日本音楽の歴史を文化史のなかに位置づけ、日本音楽史の文化的・音楽的特徴を理解する。西洋との共通性や差異を考え、双方を相対化しながら、日本の音の文化的嗜好性、音楽家の社会的立場、芸能の場と音づくりとの相関などの具体相を明らかにする。明治初期から遡り、近世の多種多様な音楽文化がいかに現代の音楽文化を内包していたかを考察する。
到達目標	日本における音楽の場の豊かな歴史を十分に理解し、学習後の演奏・創作・鑑賞などの音楽生活に生かすことができる。各自が日本文化の担い手の一人としての自覚を持ち、将来の日本文化の在り方について考えを深める。講義を通じて調査力や言語による表現力を強化し、社会人としての活躍に際しての基礎力を自覚的に高める。

授業計画				
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価の仕方、講義の目的の解説）。日本音楽史の特徴、時代区分の概説。参考文献紹介ほか。	事前	シラバスを通覧し、疑問点を把握する。	30 分
		事後	図書館に行き、利用方法や紹介された参考文献の所在を一通り確認する。	240 分
第 2 回	ジャポニスム 1：双方向の影響。「日本的なるもの」の輸出。「輸出用文化」と現代の日本像。	事前	提示された参考文献に目を通し質問の準備をする。	100 分
		事後	万博、美術、音楽それぞれの要点を掴み、講義で提示された音楽を鑑賞・分析する。	170 分
第 3 回	ジャポニスム 2：日本文化の逆輸入。宮城道雄の創作。	事前	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。	100 分
		事後	講義の要点を踏まえ、自分なりに逆輸入された音楽文化を探す。	170 分
第 4 回	江戸文化と上野、浅草。悪所、娯楽、宗教の三角関係。	事前	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。	100 分
		事後	上野・浅草界限の江戸文化を探し、実地調査を行う（グループワーク）。	170 分
第 5 回	江戸東京博物館見学調査。「音の史料を探す」。	事前	「音の史料」の多様性について事前調査をし、種類をリストアップする。	100 分
		事後	調査結果をまとめ、レポートを作成する。	170 分
第 6 回	歌舞伎の歴史：舞台編。図書館にて博物館見学の補足調査（グループワーク）。	事前	歌舞伎とはなにか、事典項目を通読しておく。	100 分
		事後	歌舞伎流行の時代背景を復習し、舞台、演出の工夫について調査する。	170 分
第 7 回	三味線伝来と歌舞伎音楽の歴史 1：出囃子。博物館見学のグループ発表 1。	事前	歌舞伎音楽各種について試聴しておく。	100 分
		事後	多彩な舞台音楽のジャンルや役割について、視聴を通して理解を深める。	170 分
第 8 回	歌舞伎音楽の歴史 2：下座（黒御簾）音楽。博物館見学のグループ発表 2。	事前	現代のさまざまな「効果音」について調べておく。	100 分
		事後	実地調査。宮本卯之助商店太鼓館で下座音楽の道具を調べる。	170 分
第 9 回	上演史と歌舞伎鑑賞（DVD）：舞踊と演劇。上演演目の地方差、文楽との関係、上演制度の変遷など。	事前	歌舞伎研究の様々な視点を調べておく。	100 分
		事後	歌舞伎について学んだことを文章でまとめる。	170 分
第 10 回	寺子屋教育と能の小謡。庶民教育における音楽教育の重要性。	事前	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。	100 分
		事後	江戸の音楽教育についての理解を踏まえ、現代の音楽科について考察する。	170 分
第 11 回	レポート執筆の仕方。なぜレポートを書くのか。何をどう書けばよいのか。	事前	配布された資料を通読し、質問の準備をする。	100 分
		事後	学んだ調査法を駆使し、レポートのテーマを決め、執筆を進める。	170 分
第 12 回	文楽（人形浄瑠璃）の歴史：江戸の上方文化。近松門左衛門と竹本義太夫。	事前	文楽とはなにか、事典項目を通読しておく。	100 分
		事後	文楽流行の時代背景を復習し、近松の代表的演目について調査する。	170 分
第 13 回	浄瑠璃の音楽と文楽鑑賞（DVD）	事前	浄瑠璃各種を試聴しておく。	100 分
		事後	鑑賞した音楽を分析し、結果をまとめておく。	170 分
第 14 回	音楽芸能文化の場としての浅草寺界限、吉原、寛永寺など。田村八太夫、楽器製作、寄席芸能、お座敷音楽、声明など。	事前	配布された資料を通読し、掲載された資料について調べておく。	100 分
		事後	江戸の音楽文化の全体像を文章でまとめる。	170 分
第 15 回	まとめ。江戸の音楽文化の総括。商業文化のなかの音楽。町人の教養文化向上と音楽	事前	レポート作成。	100 分
		事後	レポート指導を踏まえ、補筆修正する。	170 分

フィードバック 提出物の添削や質問への回答を通してフィードバックを行う。

成績評価	授業へ参加態度および課題への取り組み（毎時の復習クイズ、講義内の質疑応答、講義内の口頭発表、受講生同士の望ましいコミュニケーション、小レポートや調査への取り組みなど）50%、期末レポート50%
テキスト	講義時に次回のプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 11:00-12:00 日本音楽史研究所

備考 博物館見学、歌舞伎・文楽の鑑賞をかならず行うため、公開・公演の事前確認を各自こまめに行うこと。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□

日本音楽史概説-2

非常勤講師 櫻井利佳

科目コード：LEC302

専門／学年： 全専門／専攻科1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	日本に現存する様々な史料の検討を通じて日本音楽の歴史を文化史のなかに位置づけ、日本音楽史の文化的・音楽的特徴を理解する。西洋との共通性や差異を考え、双方を相対化しながら、日本の音の文化的嗜好性、音楽家の社会的立場、芸能の場と音づくりとの相関などの具体相を明らかにする。中世、古代、先史の音楽文化を知り、日本がいかに音楽を重視する文化であったかを考察する。
到達目標	日本における音楽の場の豊かな歴史を十分に理解し、学習後の演奏・創作・鑑賞などの音楽生活に生かすことができる。各自が日本文化の担い手の一人としての自覚を持ち、将来の日本文化の在り方について考えを深める。講義を通じて調査力や言語による表現力を強化し、社会人としての活躍に際しての基礎力を自覚的に高める。

授業計画				
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価の仕方、講義の目的の解説）。日本音楽史の特徴、時代区分の概説。参考文献紹介ほか。	事前	シラバスを通覧し、疑問点を把握する。	30 分
		事後	図書館に行き、紹介された参考文献の所在を一通り確認する。	240 分
第 2 回	中世 能楽 1：能楽の変遷。	事前	提示された参考文献に目を通し質問の準備をする。	100 分
		事後	能楽史の要点を掴み、講義で提示された音楽作品を鑑賞・分析する。	170 分
第 3 回	中世 能楽 2：世阿弥の革新と能楽論。	事前	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。	100 分
		事後	世阿弥の著作を読み、自分なりに文化史的意義を考察する。	170 分
第 4 回	中世 能楽 3：能の音楽、狂言。鑑賞（DVD）	事前	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。	100 分
		事後	能・狂言と現代の芸能との関係を話し合う（グループワーク）。	170 分
第 5 回	東京国立博物館見学調査（総合文化展、東洋館、法隆寺館）。「音の史料を探す」。	事前	「音の史料」の多様性について事前調査をし、種類をリストアップする。	100 分
		事後	調査結果をまとめ、レポートを作成する。	170 分
第 6 回	宗教音楽。声明。図書館にて博物館見学の補足調査（グループワーク）。	事前	宗教音楽と寺、神社について事典を利用し、基本的事項を理解しておく。	100 分
		事後	時代背景や芸能における寺社の役割を復習し、さまざまな中世芸能について調査する。	170 分
第 7 回	中世 講式と琵琶法師。博物館見学のグループ発表 1。	事前	声明・講式。琵琶法師について事前調査をしておく。	100 分
		事後	声明から派生した語り物芸能について、視聴を通して理解を深める。	170 分
第 8 回	中世 平家物語 1：博物館見学のグループ発表 2。	事前	『平家物語』について事典項目を読み、基本的事項を理解しておく。	100 分
		事後	さまざまな琵琶案について視聴する。	170 分
第 9 回	中世 平家物語 2：楽譜と伝承。鑑賞（DVD）。	事前	「宇治川」を読み、語彙を調べておく。	100 分
		事後	平家語りの特徴を文章でまとめる。	170 分
第 10 回	中古 宮廷の音楽 1：舞楽。『源氏物語』を通して知る。	事前	配布されたテキストを通覧し、平安時代の文化について理解しておく。	100 分
		事後	舞楽の基礎についての講義を踏まえ、多様な演目について調査する。	170 分
第 11 回	レポート執筆の仕方。レポートの基本ルールの徹底。引用と参考文献。索引、割傍について。	事前	配布された資料を通読し、質問の準備をする。	100 分
		事後	学んだ調査法を駆使し、レポートのテーマを決め、執筆を進める。	170 分
第 12 回	中古 宮廷の音楽 2：御遊。『うつほ物語』を通して知る。	事前	配布された資料を通読し、質問の準備をする。	100 分
		事後	御遊の意義と時代背景を復習し、楽器編成について調査する。	170 分
第 13 回	先史・上代の音楽：記紀神話、記紀歌謡と考古学。	事前	配布された資料を通読し、語彙を調べておく。	100 分
		事後	講義で扱った考古学史料に基づき、先史日本の音楽の在りようを文章でまとめる。	170 分
第 14 回	上代の音楽：奈良時代の音楽輸入。遣唐使と正倉院。	事前	配布された資料を通読し、掲載された資料について調べておく。	100 分
		事後	唐の楽を将来した意義、国際化社会と音楽との関係について文章でまとめる。	170 分
第 15 回	まとめ。日本の音楽文化の総括。	事前	レポート作成。	100 分
		事後	レポート指導を踏まえ、補筆修正する。	170 分

成績評価	授業へ参加態度および課題への取り組み（毎時の復習クイズ、講義内の質疑応答、講義内の口頭発表、受講生同士の適切なコミュニケーション、小レポートや調査への取り組みなど） 50%、期末レポート 50%
テキスト	講義時に次のプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 11:00-12:00 日本音楽史研究所

備考 博物館見学、能鑑賞をかならず行うため、公開・公演情報をこまめに確認すること。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□

音樂理論特殊講義-1

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF401

専門／学年：全専門／専攻科2年次

形態：講義

概要	和声法Ⅰ・Ⅱや楽曲分析Ⅰ・Ⅱで学んだことをふまえ、現代の作曲家の作品を楽曲分析し、授業内発表をする。 ソルフェージュで学んだことをふまえ、さらに発展したソルフェージュを行う。 また、学位授与申請で使用する曲を楽曲分析し、授業内発表をする。
----	---

到達目標	和声法と楽曲分析の知識を統合させ、総合的な音楽になることを目指す。
------	-----------------------------------

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	--------------------------

	【学生による分析】	【ソルフェージュ/教員による分析】		
第1回	ガイダンス 音楽理論とは	事前 ガイダンスの予習 事後 ガイダンスの復習	「音楽理論」の項目を音楽事典で読む	120 分
第2回	(作品 a) ギロック：こどものためのアルバム 第1曲	事前 作品 a、作品 A の予習 事後 作品 a、作品 A の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
	(作品 b) ギロック：こどものためのアルバム 第2曲	事前 作品 b、作品 B の予習 事後 作品 b、作品 B の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第3回	(作品 c) ギロック：こどものためのアルバム 第3曲	事前 作品 c、作品 C の予習 事後 作品 c、作品 C の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
	(作品 d) ギロック：こどものためのアルバム 第4曲	事前 作品 d、作品 D の予習 事後 作品 d、作品 D の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第4回	(作品 e) ギロック：こどものためのアルバム 第5曲	事前 作品 e、作品 E の予習 事後 作品 e、作品 E の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
	(作品 f) ギロック：こどものためのアルバム 第6曲	事前 作品 f、作品 F の予習 事後 作品 f、作品 F の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第5回	(作品 g) ギロック：こどものためのアルバム 第7曲	事前 作品 g、作品 G の予習 事後 作品 g、作品 G の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
	(作品 h) ギロック：こどものためのアルバム 第8曲	事前 作品 h、作品 H の予習 事後 作品 h、作品 H の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第6回	(作品 i) ギロック：こどものためのアルバム 第9曲	事前 作品 i、作品 I の予習 事後 作品 i、作品 I の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
	(作品 j) ギロック：こどものためのアルバム 第10曲	事前 作品 j、作品 J の予習 事後 作品 j、作品 J の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第7回	(作品 k) ギロック：こどものためのアルバム 第11曲	事前 作品 k、作品 K の予習 事後 作品 k、作品 K の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
	(作品 l) ギロック：こどものためのアルバム 第12曲	事前 作品 l、作品 L の予習 事後 作品 l、作品 L の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第8回	(作品 m) ギロック：こどものためのアルバム 第13曲	事前 作品 m、作品 M の予習 事後 作品 m、作品 M の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
	まとめ	事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		120 分 120 分

フィードバック	分析発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	-------------------------------

成績評価 分析発表 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐

音樂理論特殊講義-2

准教授 三宅康弘

科目コード : SLF402

専門／学年：全専門／専攻科2年次

形態：講義

單位數：2 單位

概要	音楽理論特殊講義－1で学んだことをふまえ、あらためてロマン派の作曲家の作品を楽曲分析し、授業内発表をする。 ソルフェージュで学んだことをふまえ、さらに発展したソルフェージュを行う。 また、修了演奏試験で演奏する曲を楽曲分析し、授業内発表をする。
----	--

到達目標 和声法と楽曲分析の知識を統合させ、さらに総合的な音楽になることを目指す。

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	--------------------------

	【学生による分析】	【ソルフェージュ/教員による分析】		
第1回	ガイダンス ロマン派の音楽とは	事前 ガイダンスの予習 事後 ガイダンスの復習	「ロマン派」の項目を音楽事典で読む	120 分 120 分
第2回	(作品 a) シューマン：子供の情景 第1曲	事前 作品 a、作品 A の予習 事後 作品 a、作品 A の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第3回	(作品 b) シューマン：子供の情景 第2曲	事前 作品 b、作品 B の予習 事後 作品 b、作品 B の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第4回	(作品 c) シューマン：子供の情景 第3曲	事前 作品 c、作品 C の予習 事後 作品 c、作品 C の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第5回	(作品 d) シューマン：子供の情景 第4曲	事前 作品 d、作品 D の予習 事後 作品 d、作品 D の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第6回	(作品 e) シューマン：子供の情景 第5曲	事前 作品 e、作品 E の予習 事後 作品 e、作品 E の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第7回	(作品 f) シューマン：子供の情景 第6曲	事前 作品 f、作品 F の予習 事後 作品 f、作品 F の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第8回	(作品 g) シューマン：子供の情景 第7曲	事前 作品 g、作品 G の予習 事後 作品 g、作品 G の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第9回	(作品 h) シューマン：子供の情景 第8曲	事前 作品 h、作品 H の予習 事後 作品 h、作品 H の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第10回	(作品 i) シューマン：子供の情景 第9曲	事前 作品 i、作品 I の予習 事後 作品 i、作品 I の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第11回	(作品 j) シューマン：子供の情景 第10曲	事前 作品 j、作品 J の予習 事後 作品 j、作品 J の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第12回	(作品 k) シューマン：子供の情景 第11曲	事前 作品 k、作品 K の予習 事後 作品 k、作品 K の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第13回	(作品 l) シューマン：子供の情景 第12曲	事前 作品 l、作品 L の予習 事後 作品 l、作品 L の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第14回	(作品 m) シューマン：子供の情景 第13曲	事前 作品 m、作品 M の予習 事後 作品 m、作品 M の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第15回	まとめ	事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		120 分 120 分

フィードバック	分析発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	-------------------------------

成績評価 分析発表 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

音楽教育方法論-1

※実務経験を持つ教員による授業
小学校、中学校における管理職等の経験を生かして、教育と人間形成、社会とのつながりを理論的、実践的に読み解き、課題解決力を養う授業を行う。

教授 内田有一 科目コード：LEC303

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義	単位数 2単位
概要	オルフ、ダルクローズ、コダーイ、古川のふりづくりなど教育メソッドを比較し、それぞれの原理を理解する。学生自身が関心のある分野（合唱、吹奏楽等）の教育方法（メソッド）に関する情報を収集し、批判的な検討を通して実践に活用できることを目指すアクティブラーニングを展開する。
到達目標	完成された教育方法は存在しないことを理解し、様々な音楽教育の方法における原理を活用して、社会において音楽教育に関わる際、学習者に合わせて教育方法を創出していく能力を獲得する。

授業計画		
第1回	イントロダクション	事前 これまでの学修から世界の特色ある音楽教育法について調べておく。 60分 事後 興味・関心を持った音楽教育法について資料を集める。 100分
第2回	オルフの音楽教育	事前 オルフに関する資料を収集し、調べておく。 100分 事後 オルフの音楽的発達原理についてまとめる。 100分
第3回	ダルクローズの音楽教育	事前 ダルクローズに関する資料を収集し、調べておく。 100分 事後 ダルクローズの音楽教育活動の特徴についてまとめる。 100分
第4回	コダーイ・メソッド	事前 コダーイ・メソッドの資料を収集し、調べておく。 100分 事後 ソルフェージュ教育の充実に必要なことについてまとめる。 100分
第5回	ハンドサインと移動ド	事前 幼児期の音楽教育に関する資料を収集し、調べておく。 100分 事後 コダーイ・メソッドと現代の音楽教育との関連について考察する。 100分
第6回	古川のふしづくり教育	事前 事前配付資料を読む。 100分 事後 経験の再構成についてまとめる。 100分
第7回	J.マーセルの音楽的成長	事前 事前配付資料を読む。 100分 事後 発達の経験についてまとめる。 100分
第8回	日本の西洋音楽受容と音楽教育①明治期	事前 音楽教育史資料を読む 120分 事後 西洋音楽受容4つのルートについてまとめる。 150分
第9回	日本の西洋音楽受容と音楽教育②大正～戦中	事前 西洋音楽史資料を読む 110分 事後 童謡運動についてまとめる。 160分
第10回	日本の西洋音楽受容と音楽教育③戦後	事前 西洋音楽史資料を読む。 110分 事後 戦後の音楽教育の特徴をまとめる。 160分
第11回	日本の伝統音楽をどのように教えるか（能）	事前 詞章を読む。 110分 事後 伝統音楽教育の意義を考える。 160分
第12回	ICTを活用した音楽教育の可能性	事前 ICTについて調べる。 110分 事後 ICTの可能性についてまとめる。 160分
第13回	学生の発表に基づく対話型の学習～合唱の教育方法について	事前 発表の準備をする。 110分 事後 個が生きる教育方法について考察する。 160分
第14回	学生の発表に基づく対話型の学習～器楽の教育方法について	事前 発表の準備をする。 110分 事後 技術と音楽表現の関わりについて考察する。 160分
第15回	音楽はいかに生活に関わるのか	事前 音楽が生活に関わる事例について考える。 110分 事後 音楽が生活に関わる意味について考える。 160分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 リフレクションペーパー40%、レポート 60%

テキスト 授業の際に資料を配布する。

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 教育方法について発表し、批判的思考力を用いて検討する。
備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

音楽教育方法論-2

※実務経験を持つ教員による授業
小学校、中学校における管理職等の経験を生かして、教育と人間形成、社会とのつながりを理論的、実践的に読み解き、課題解決力を養う授業を行う。

教授 内田有一 科目コード：LEC304

専門／学年： 全専門／専攻科 1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	教育方法は教育の歴史の中でどのような意味をもって生成されたか考察する。原理を理解する。社会教育における音楽指導者としてのキャリア形成に向けて、模擬指導によるピアレビューを通して実践的指導能力の獲得を目指す。

到達目標 音楽教育方法論-1 の発展として、実践的指導能力の獲得と、その理論的な理解ができる。

授業計画		
第 1 回	音楽教育における自己調整	事前 自己調整に関する資料を読む。 事後 メタ認知についてまとめる。 110 分 160 分
第 2 回	エル・システマの分析	事前 エル・システマに関する資料を読む。 事後 エル・システマの理念について考察する。 110 分 160 分
第 3 回	合唱指導の問題点と解決策	事前 事前配付資料を読む。 事後 実践化の課題を考察する。 110 分 160 分
第 4 回	吹奏楽指導の問題点と解決策	事前 事前配付資料を読む。 事後 実践化の課題を考察する。 110 分 160 分
第 5 回	部活動の地域移行①実態把握	事前 インターネットから情報収集する。 事後 実態をまとめる。 110 分 160 分
第 6 回	部活動の地域移行②課題把握と解決策の検討	事前 部活動における課題を考える。 事後 解決策をまとめる。 110 分 160 分
第 7 回	部活動の地域移行③先進地域の事例研究	事前 インターネットから情報収集する。 事後 事例の考察をまとめる。 110 分 160 分
第 8 回	地域が支える音楽教育の在り方	事前 事前配付資料を読む。 事後 地域の音楽活動、教育の考察をする。 110 分 160 分
第 9 回	指導におけるアドラー心理学の応用	事前 アドラーについて資料を読む。 事後 勇気付けについてまとめる。 60 分 100 分
第 10 回	学生による発表とディスカッション①	事前 発表準備、資料の作成をする。 事後 ディスカッションの振り返りをする。 100 分 100 分
第 11 回	学生による発表とディスカッション②	事前 発表準備、資料の作成をする。 事後 ディスカッションの振り返りをする。 100 分 100 分
第 12 回	学生による発表とディスカッション③	事前 発表準備、資料の作成をする。 事後 ディスカッションの振り返りをする。 100 分 100 分
第 13 回	地域における音楽教育の事例研究①	事前 事前資料を読む。 事後 事例研究の考察をする。 100 分 100 分
第 14 回	地域における音楽教育の事例研究②	事前 事前資料を読む。 事後 事例研究の考察をする。 100 分 100 分
第 15 回	生涯学習としての音楽教育の在り方	事前 生涯学習の資料を読む。 事後 生涯学習をテーマにレポートにまとめる。 100 分 150 分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 リフレクションペーパー40%、レポート 60%

テキスト 授業の際に資料を配布する。

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 問題発見と課題解決に発表とディスカッションを通して取り組む。
備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

公立小中学校の教諭、管理職経験をもつ教員が、音楽科教育及び特別活動の実務経験を活かし、小学生対象の参加型音楽プログラムの企画、実行を指導する。

科目コード: LEC401

形態：講義（アウトリーチを含む）

概要	学校教育における課外活動や社会教育と連携した音楽教育、及び音楽教室における音楽教育を扱う。J. マーセルの発達の経験の視点から、生涯にわたって音楽や音楽文化に豊かに関わる資質・能力を形成する音楽教育の在り方について考察する。また、教育施設等へのアウトリーチを通して、地域における音楽文化創出に関して実践的に学ぶ。
----	---

到達目標	発達の経験の理論から、学校、社会における音楽教育に関する実践的指導能力を獲得する。また学校等へのアウトリーチを通じた社会と関連した実践的課題解決能力を獲得する。
------	--

第1回	音楽教育と人間形成～J.マーセルの発達の経験から～	事前 J. マーセル「音楽教育と人間形成」を読む。 事後 マーセルのいう発達の経験についてまとめる。	110 分 160 分
第2回	アウトリーチとは何か	事前 事前配付資料を読む。 事後 アウトリーチの教育的意義をまとめる。	110 分 160 分
第3回	アウトリーチにおけるエンゲージとは何か	事前 事前配付資料を読む。 事後 エンゲージの概念をまとめる。	110 分 160 分
第4回	アウトリーチ対象施設への聞き取り調査	事前 質問事項を整理する。 事後 聞き取り調査による情報についてまとめる	110 分 160 分
第5回	アウトリーチの目的とねらいを明確化する	事前 アウトリーチのねらいを考える。 事後 アウトリーチのねらいと目的について文章でまとめる。	110 分 160 分
第6回	エル・システムを検討する～エルシステムジャパンの活動から～	事前 エル・システムの動画を視聴する。 事後 生かすための音楽教育について考察する。	110 分 160 分
第7回	アウトリーチのプログラムを検討する（情報収集）	事前 対話型授業に向けて、考えをまとめる。 事後 プログラムをまとめる。	110 分 160 分
第8回	アウトリーチのプログラムを検討する。（参加型プログラム）	事前 インターネットにおける情報を見つけておく。 事後 参加型プログラム案を作成する。	110 分 160 分
第9回	アウトリーチプログラムを対象施設に説明し、意見を聴取する（オンラインによる対話）	事前 対話型授業に向けて、自身の考えをまとめる。 事後 対象施設のニーズについて考察する。	110 分 160 分
第10回	アウトリーチ対象施設のニーズに基づき、プログラムを再検討する。	事前 対話型授業に向けて、考えをまとめる。 事後 演奏協力者への依頼を行う。	110 分 160 分
第11回	予定楽曲の分析、およびセッションのねらいを検討する。	事前 予定楽曲を用意する。 事後 セッションのねらいをまとめる。	110 分 160 分
第12回	アウトリーチの実施案検討	事前 実施案を作成する。 事後 実施案を完成させ、提出する。	110 分 160 分
第13回	アウトリーチリハーサル	事前 リハーサルの準備 事後 リハーサルの振り返り	110 分 160 分
第14回	アウトリーチ実践	事前 演奏準備を授業外に行う。 事後 振り返りを行う。	110 分 160 分
第15回	アウトリーチの振り返り（対話型授業）	事前 振り返りをもとに発表内容を考える。 事後 アウトリーチの価値について考察する。	110 分 160 分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 企画案レポート 40%、アウトリーチ振返レポート 60%

テキスト その都度資料を配付する。
参考書 J.マーセル「音楽教育と人間形成」(音楽之友社)

オフィスアワー メールにて予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 教育施設との打合せや実践活動により、課題解決能力を習得する。

ング
備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発想力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

公立小中学校の教諭、管理職経験をもつ教員が、音楽科教育及び特別活動の実務経験を活かし、小学生対象の参加型音楽プログラムの企画、実行を指導する。

科目コード: LEC402

形態：講義（アウトリーチを含む）

單位：2 單位

到達目標	発達の経験の理論から、学校、社会における音楽教育に関する実践的指導能力を獲得する。また学校等へのアウトリーチを通じた社教 育と関連した実践的課題解決能力を獲得する。
------	---

第1回	前期の成果と課題から、目標を設定する。	事前 前期の振り返りレポートを読む。 事後 目標の具現化についてをまとめる。	110 分 160 分
第2回	アウトリーチ事例研究①a cappella	事前 事前配付資料を読む。 事後 事例の考察をまとめる。	110 分 160 分
第3回	アウトリーチ事例研究②音の輪プロジェクト	事前 事前配付資料を読む。 事後 事例の考察をまとめる。	110 分 160 分
第4回	アウトリーチ事例研究③病院施設へのアウトリーチ	事前 事前配付資料を読む。 事後 事例の考察をまとめる。	110 分 160 分
第5回	アウトリーチ対象施設への聞き取り調査	事前 質問事項を整理する。 事後 聞き取り調査による情報についてまとめる	110 分 160 分
第6回	前期の振り返りからアウトリーチの目的とねらいを再構成する。	事前 アウトリーチのねらいを考える。 事後 アウトリーチのねらいと目的について文章でまとめる。	110 分 160 分
第7回	アウトリーチのプログラムを検討する（情報収集）	事前 対話型授業に向けて、考えをまとめる。 事後 プログラムをまとめる。	110 分 160 分
第8回	アウトリーチのプログラムを検討する。（参加型プログラム）	事前 インターネットにおける情報を見つけておく。 事後 参加型プログラム案を作成する。	110 分 160 分
第9回	アウトリーチプログラムを対象施設に説明し、意見を聴取する（オンラインによる対話）	事前 対話型授業に向けて、自身の考えをまとめる。 事後 対象施設のニーズについて考察する。	110 分 160 分
第10回	アウトリーチ対象施設のニーズに基づき、プログラムを再検討する。	事前 対話型授業に向けて、考えをまとめる。 事後 演奏協力者への依頼を行う。	110 分 160 分
第11回	予定楽曲の分析、およびセッションのねらいを検討する。	事前 予定楽曲を用意する。 事後 セッションのねらいをまとめる。	110 分 160 分
第12回	アウトリーチの実施案検討	事前 実施案を作成する。 事後 実施案を完成させ、提出する。	110 分 160 分
第13回	アウトリーチのリハーサル	事前 リハーサルの準備 事後 リハーサルの振り返り	110 分 160 分
第14回	アウトリーチ実践	事前 演奏準備を授業外に行う。 事後 振り返りを行う。	110 分 160 分
第15回	アウトリーチの振り返り（対話型授業）ⅠとⅡを総合的に省察する。	事前 振り返りをもとに発表内容を考える。 事後 アウトリーチの価値について考察する。	110 分 160 分

成績評価 企画案レポート 40%、アウトリーチ振返レポート 60%

テキスト その都度配付する

アクティブ・ラーニング 教育施設との打合せや実践活動により、課題解決能力を習得する。

ング
備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

ピアノアンサンブル研究 I-1

ピアノ主任 准教授 倉地恵子

科目コード：PEN301

専門／学年： ピアノ専門／専攻科1年次

形態：実技	単位数 1単位
概要	モーツァルト・シューベルトの連弾曲のテンポ感、ニュアンス、表現について学ぶ。

到達目標 連弾曲を様々な角度から掘り下げ、内容の濃い演奏を目指す。

授業計画		前期 15 回、各人 30 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。レパートリーは、必要に応じて変更することがある。
第1回	ガイダンス 1年間の学習計画を立てる	事前 これまでに勉強したアンサンブルの曲を書き出す 事後 1年間の目標を設定し勉強方針を立てる 140分
第2回	モーツァルトの連弾曲 テンポ感	事前 KV381 ソナタ ニ長調の読譜をする 140分 事後 作曲時の時代背景を調べる 140分
第3回	モーツァルトの連弾曲 様式	事前 KV358 ソナタ 変ロ長調の読譜をする 140分 事後 作曲時の時代背景を調べる 140分
第4回	モーツァルトの連弾曲 表現	事前 KV401 フーガ ト短調の読譜をする 140分 事後 表現方法を考えて練習をする 140分
第5回	モーツァルトの連弾曲 ニュアンス	事前 KV497 ソナタ ヘ長調の読譜をする 140分 事後 モーツァルトの要求しているニュアンスをを考えて練習する 140分
第6回	モーツァルトの連弾曲 響き	事前 KV357 アレグロ ト長調の読譜をする 140分 事後 響きを感じとる練習をする 140分
第7回	モーツァルトの連弾曲 バランス	事前 KV501 アンダンテと変奏曲 ト長調の読譜をする 140分 事後 全体のバランスをを考えて練習をする 140分
第8回	モーツァルトの連弾曲 まとめ	事前 KV521 ソナタ ハ長調の読譜をする 140分 事後 作品のイメージを感じとる練習をする 140分
第9回	シューベルトの連弾曲 テンポ感	事前 シューベルトの連弾曲ボロネーズより1曲を選び読譜をする 140分 事後 ボロネーズのリズムを感じとる練習をする 140分
第10回	シューベルトの連弾曲 様式	事前 シューベルトの連弾曲ソナタより1曲を選び読譜をする 140分 事後 作曲時の時代背景を調べる 140分
第11回	シューベルトの連弾曲 表現	事前 幻想曲 ヘ長調 Op.103 の読譜をする 140分 事後 表現方法を考えて練習をする 140分
第12回	シューベルトの連弾曲 ニュアンス	事前 変奏曲より1曲を選び読譜をする 140分 事後 作曲家の要求しているニュアンスをを考えて練習をする 140分
第13回	シューベルトの連弾曲 響き	事前 行進曲より1曲を選び読譜をする 140分 事後 音の響き、和声感を感じとる練習をする 140分
第14回	シューベルトの連弾曲 バランス	事前 アレグロ イ短調 Op.144 の読譜をする 140分 事後 バランスを考え、聴きとり、すぐ反応できる練習をする 140分
第15回	シューベルトの連弾曲 まとめ	事前 ロンド イ長調 Op.107 の読譜をする 140分 事後 作品のイメージを感じとる練習をする 140分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価をする。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

ピアノアンサンブル研究 I-2

ピアノ主任 准教授 倉地恵子

科目コード：PEN302

専門／学年： ピアノ専門／専攻科 1 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	フランス作品に取り組み、パートナーとの呼吸、音色、フレーズ感の合わせ方を更に学ぶ。連弾曲のレパートリーを研究し、様々な様式の連弾曲に取り組む。

到達目標 連弾曲を様々な角度から掘り下げ、内容の濃い演奏を目指す。

授業計画	後期 15 回、各人 30 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。レパートリーは、必要に応じて変更することがある。
------	--

第 1 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 テンポ感	事前 事後	ドビュッシー『小組曲』またはフォーレ『ドリー』から 1 曲選び、読譜する 曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分 140 分
第 2 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 音色	事前 事後	タッチと音色について、自分のイメージを明確にする パートナーと合わせをし、タッチや音色について、確認する	140 分 140 分
第 3 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 フレーズ感	事前 事後	取り組む作曲家の他の楽器編成の作品（オーケストラや弦楽・器楽作品）を聴く パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分 140 分
第 4 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 ニュアンス、ペダルの使い方	事前 事後	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分 140 分
第 5 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 バランス	事前 事後	全体の流れとバランスを意識して、練習をする パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分 140 分
第 6 回	連弾 自由曲① テンポ感	事前 事後	連弾曲のレパートリーを調べ、勉強する曲を選ぶ 曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分 140 分
第 7 回	連弾 自由曲① 様式・形式	事前 事後	形式を考えて、練習をする パートナーと合わせをし、曲の構成と様式について話し合う	140 分 140 分
第 8 回	連弾 自由曲① 表現	事前 事後	表現方法を考えて練習をする パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分 140 分
第 9 回	連弾 自由曲① ニュアンス	事前 事後	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分 140 分
第 10 回	連弾 自由曲① バランス	事前 事後	全体の流れとバランスを意識して、練習をする パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分 140 分
第 11 回	連弾 自由曲② テンポ感	事前 事後	勉強する曲を選び、読譜を進める 曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分 140 分
第 12 回	連弾 自由曲② 様式・形式	事前 事後	形式を考えて、練習をする パートナーと合わせをし、曲の構成と様式について話し合う	140 分 140 分
第 13 回	連弾 自由曲② 表現	事前 事後	表現方法を考えて練習をする パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分 140 分
第 14 回	連弾 自由曲② ニュアンス	事前 事後	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分 140 分
第 15 回	連弾 自由曲② バランス	事前 事後	全体の流れとバランスを意識して、練習をする パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分 140 分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価をする。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒	□

専門／学年： 全専門／専攻科 1 年次

形態：演習	単位数 1 単位
概要	声楽曲と器楽曲の楽曲を幅広く扱い、伴奏の様々な役割について見ていく。呼吸法、フレージング、音色、ペダルの使用法についても研究する。

到達目標 ピアノの可能性を最大限に生かし、高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。

授業計画		
第 1 回	伴奏とは 1 年間の学習計画を立てる	事前 これまでの伴奏の経験を振り返り、伴奏の役割について考える 140 分
		事後 バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第 1 楽章のソリストと伴奏の関係を考える 140 分
第 2 回	器楽曲の伴奏 様式	事前 バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第 1、2 楽章を読譜する 140 分
		事後 第 2 楽章の様式を確認する 140 分
第 3 回	器楽曲の伴奏 ポリフォニー	事前 バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第 3 楽章を読譜する 140 分
		事後 ポリフォニーをよく聴き、練習をする 140 分
第 4 回	山田耕作の作品『かやの木山の』 伴奏の役割について考える	事前 歌詞を読み、読譜する 140 分
		事後 実際にソリストのパートを歌い、伴奏の必要性を考える 140 分
第 5 回	木下牧子の作品『竹とんぼに』 アンサンブルを考える	事前 歌詞を読み、読譜する 140 分
		事後 伴奏の音色について考える 140 分
第 6 回	スカルラッチェの歌曲の伴奏『陽はすでにガンジス川から』 イタリア語のリズムを感じる	事前 歌詞を読んで内容を理解し、読譜する 140 分
		事後 イタリア語のリズム、ブレスの合わせ方について考える 140 分
第 7 回	シューベルトの歌曲『音楽を寄せて』 伴奏の低音部との二重唱	事前 歌詞を読んで内容を理解し、読譜する 140 分
		事後 ペダルの使い方を考える 140 分
第 8 回	シューベルトの歌曲『菩提樹』 情景の細かい表現について	事前 歌曲「冬の旅」について調べ、読譜する 140 分
		事後 歌詞と音楽の関係について考える 140 分
第 9 回	モーツァルト〈フィガロの結婚〉より『恋とはどんなものかしら』 オーケストラの音を表現する	事前 フィガロの結婚について調べ、読譜する 140 分
		事後 ビッツィカートとレガートを同時に表現する 140 分
第 10 回	トスティの歌曲の伴奏『理想の人』 和声感	事前 歌詞を読んで内容を理解し、読譜する 140 分
		事後 和声を感じ、曲の流れの作り方を意識する 140 分
第 11 回	学内演奏会の曲の伴奏 バランスについて	事前 読譜をする 140 分
		事後 ソロと伴奏の楽譜からバランスを考える 140 分
第 12 回	学内演奏会の曲の伴奏 表現について	事前 ソロの音楽表現を感じとれる様に練習をする 140 分
		事後 ソロの音楽表現に合わせられる様に練習をする 140 分
第 13 回	学内演奏会の曲の伴奏 音色について	事前 ソロの音色を感じとれる様に練習をする 140 分
		事後 ソロの音色に合わせられる様に練習をする 140 分
第 14 回	学内演奏会の曲の伴奏 ブレスについて	事前 自分で実際に歌い、歌詞のリズムとブレスを確認する 140 分
		事後 流れを失わずに自然なブレスの間が取れるように練習をする 140 分
第 15 回	学内演奏会の曲の伴奏 仕上げ	事前 ソロの人と曲の内容を確認する 140 分
		事後 ピアノのふたの開閉状態を考える 140 分

フィードバック 授業内での課題の演奏、および学内演奏会での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

応用ピアノ伴奏法演習-2

ピアノ主任 准教授 倉地恵子

科目コード：PLE302

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：演習	単位数 1単位
概要	声楽曲と器楽曲の様々な楽曲を幅広く扱い、伴奏の様々な役割について見ていく。読譜、初見、奏法についても、さらなる向上を図る。

到達目標 ピアノの可能性を最大限に生かし、高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。

授業計画				
第1回	オーディションの器楽曲の伴奏 バランス、表現、音色について	事前	伴奏部の読譜の確認をする	140分
		事後	ソロ楽器の特性を考える	140分
第2回	オーディションの器楽曲の伴奏 仕上げ	事前	音量やペダリングにも気を配り、アンサンブルを考える	140分
		事後	ピアノのふたの開閉状態を考える	140分
第3回	オーディションの声楽曲の伴奏 バランス、表現、音色について	事前	伴奏部の読譜の確認をする	140分
		事後	歌詞の内容の確認をする	140分
第4回	オーディションの声楽曲の伴奏 仕上げ	事前	ソロの人と曲の内容を確認する	140分
		事後	広い空間での演奏を想定し、ソロの人との音のバランスをイメージする	140分
第5回	自由曲①	事前	声楽曲、器楽曲、合唱曲の中から勉強したい曲を選び、読譜する	140分
		事後	ソロパートと伴奏との関わりと役割について考える	140分
第6回	自由曲②	事前	声楽曲、器楽曲、合唱曲の中から勉強したい曲を選び、読譜する	140分
		事後	ソロパートと伴奏との関わりと役割について考える	140分
第7回	合唱曲の伴奏（三善晃の作品） 合唱曲でのピアノの役割を考える	事前	作曲家の時代背景を調べる	140分
		事後	ピアノが表現しなくてはならない音楽を考える	140分
第8回	合唱曲の伴奏（新実徳英の作品） 伴奏の響きを聴く	事前	法人作曲家の合唱曲の流れを調べる	140分
		事後	三善晃の作品の響きと新実徳英の作品の響きを比べてみる	140分
第9回	合唱曲の伴奏 まとめ	事前	木下牧子の作品について調べる	140分
		事後	混声合唱曲、女声合唱曲、男声合唱曲の伴奏の役割について考える	140分
第10回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 バランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする	140分
		事後	作曲家の時代背景を調べる	140分
第11回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 表現について	事前	ピアノが表現しなくてはならない部分の練習をする	140分
		事後	ソロと表現方法が同じであるか確認をする	140分
第12回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	140分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	140分
第13回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 バランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする	140分
		事後	ソロと伴奏の楽譜から、バランスを考える	140分
第14回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 表現について	事前	歌詞の内容を調べる	140分
		事後	ピアノが表現する情景や情感を考える	140分
第15回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 音色について	事前	作曲家が要求している音色を考える	140分
		事後	情景や情感に合った音色で演奏しているか確認をする	140分

フィードバック 授業内での課題の演奏、および演奏試験での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 各自で、上記の楽譜を用意する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

器楽アンサンブル研究(ウィンド)Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS301／ENS401

専門／学年： 器楽専門／専攻科1～2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 成果発表会に向け、授業時間をその練習に充て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

第 1 回	ガイダンス・アンサンブル基礎概論	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	同属楽器アンサンブル実習 1・基礎	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	同属楽器アンサンブル実習 2・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	同属楽器アンサンブル実習 3・表現方法	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	同属楽器アンサンブル実習 4・立体的な演奏を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	同属楽器アンサンブル実習 5・精度の上げ方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	同属楽器アンサンブル実習 6・まとめ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	混成楽器アンサンブル実習 1・混成編成概論	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	混成楽器アンサンブル実習 2・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	混成楽器アンサンブル実習 3・バランスのとり方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	混成楽器アンサンブル実習 4・オーケストレーション	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	混成楽器アンサンブル実習 5・表現を深める	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	混成楽器アンサンブル実習 6・精度の上げ方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	混成楽器アンサンブル実習 7・まとめ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	成果発表会	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

器楽アンサンブル研究（ウィンド）Ⅰ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS302／ENS402

専門／学年： 器楽専門／専攻科1～2 年次	
形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。
到達目標	2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に充て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

第 1 回	楽曲リハーサル演習 1・秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	楽曲リハーサル演習 2・秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	楽曲リハーサル演習 3・ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	楽曲リハーサル演習 4・秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	楽曲リハーサル演習 5・秋のコンサート演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 6 回	楽曲リハーサル演習 6・秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 7 回	楽曲リハーサル演習 7・秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	楽曲リハーサル演習 8・秋のコンサート演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	楽曲リハーサル演習 9・定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 10 回	楽曲リハーサル演習 10・定期演奏会演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 11 回	楽曲リハーサル演習 11・定期演奏会演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 12 回	楽曲リハーサル演習 12・定期演奏会演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	楽曲リハーサル演習 13・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	楽曲リハーサル演習 14・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	楽曲リハーサル演習 15・定期演奏会演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるための取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

器楽アンサンブル研究Ⅰ-1・Ⅱ-1（その他の楽器）

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：IEN301／IEN401

専門／学年：器楽専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	アンサンブルをする場合における技術的な基本（和音におけるピッチの取り方、同種楽器・他楽器とのバランス、主旋律と副旋律、あるいは伴奏などの演奏法）を学ぶ。専攻科ではより高度な楽曲を学ぶ。

到達目標	初対面同士でコミュニケーションも図りながらともに音楽をまとめ上げていけるようにする。 専攻科ではお互い意見を出しあい楽曲を仕上げてゆけるようにする。
------	---

授業計画	・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。
------	---

第 1 回	自己紹介、グループ分け	事前 自己紹介の準備をする 事後 グループメンバー内の連絡方法を決める	50 分 50 分
第 2 回	和音を重視した優しい楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕譜読み 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕部分練習 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕全体練習 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 5 回	上記楽曲を仕上げる	事前 〔グループ練習〕全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 6 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕譜読み 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 7 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕部分練習 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕全体練習 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記楽曲を仕上げる	事前 〔グループ練習〕全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 10 回	小発表会	事前 〔グループ練習〕ゲネプロ 事後 個人練習・反省点を振り返る	50 分 50 分
第 11 回	小発表会反省会、櫻樹祭演奏会用グループ分け	事前 グループごとに集まり反省点を振り返る 事後 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 12 回	櫻樹祭演奏会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕譜読み 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕部分練習 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕全体練習 事後 〔個人練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 〔グループ練習〕全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕復習して理解を深める	50 分 50 分

フィードバック 小発表会後に演奏内容、ステージマナー等のアドバイスでフィードバックする。

成績評価	授業態度 50% 発表会等の演奏内容 50%
テキスト	特になし

オフィスアワー 授業後すぐに対応する。予約も可能

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

器楽アンサンブル研究Ⅰ-2・Ⅱ-2

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：IEN302／IEN402

専門／学年：器楽専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	前期より難易度の高い楽曲を取り上げ、よりアンサンブル力を高める。 専攻科では自ら楽曲も選曲し場合によっては編曲もできるようにする。

到達目標	自分達の力である程度のレベルまで仕上げられるようにする。 ともに音楽を作る楽しさを味わえるようにする。
------	--

授業計画	・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。
------	---

第 1 回	前期の楽曲より難易度の高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 2 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 5 回	授業（ゲネプロ）後、櫻樹祭演奏会本番	事前 事後	〔グループ練習〕 ゲネプロ 個人練習・反省点を振り返る	50 分 50 分
第 6 回	櫻樹祭演奏会反省会、発表会グループ分け	事前 事後	グループごとに集まり反省点を振り返る 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 7 回	発表会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 10 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 11 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要） 難易度も高い楽曲を学ぶ	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 12 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 15 回	授業（ゲネプロ）後、発表会本番	事前 事後	〔グループ練習〕 ゲネプロ 一年で学んだことを振り返る	50 分 50 分

フィードバック 櫻樹祭のコンサート、発表会後に演奏内容、ステージマナー等のアドバイスでフィードバックする。

成績評価	授業態度 50% 発表会等の演奏内容 50%
テキスト	特になし

オフィスアワー 授業後すぐに対応する。予約も可能

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

器楽特殊研究

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：ILE301

専門／学年： 器楽専門／専攻科1年次

形態：演習	単位数 1単位
概要	短期大学部2年間ではバロック、古典、ロマン、近代を中心に学んだが、専攻科では特に現代曲について追求する。 「現代音楽」は現代のすべての音楽ではなく、ある特定な音楽のことを示す。現代音楽の奏法、演奏法を習得する。

到達目標	現代音楽を演奏するためには特殊な技術を習得する必要がある。この器楽特殊研究では特殊技術を習得し作品を研究することを目標とする。
------	---

授業計画	専門により内容・進度が異なる場合もある。
------	----------------------

第1回	オリエンテーション 現代音楽についての概要	事前	現代音楽とは何か調べる	140分
		事後	いつの時代から現代音楽なのか歴史を調べる	140分
第2回	ハーモニックス① 演奏方法を学ぶ	事前	ハーモニックスとは何かを調べる	140分
		事後	ハーモニックスの練習をする	140分
第3回	ハーモニックス② 楽曲で演奏してみる	事前	ハーモニックスの楽曲を仕上げる	140分
		事後	ハーモニックスをまとめる	140分
第4回	フラッター奏法① 演奏方法を学ぶ	事前	フラッター奏法とは何かを調べる	140分
		事後	フラッター奏法の練習をする	140分
第5回	フラッター奏法② 楽曲で演奏してみる	事前	フラッター奏法の楽曲を仕上げる	140分
		事後	フラッター奏法をまとめる	140分
第6回	ヴォイス① 演奏方法を学ぶ	事前	ヴォイスとは何かを調べる	140分
		事後	ヴォイスの練習をする	140分
第7回	ヴォイス② 楽曲で演奏してみる	事前	ヴォイスの楽曲を仕上げる	140分
		事後	ヴォイスをまとめる	140分
第8回	重音① 演奏方法を学ぶ	事前	重音とは何かを調べる	140分
		事後	重音の練習をする	140分
第9回	重音② 楽曲で演奏してみる	事前	重音の楽曲を仕上げる	140分
		事後	重音をまとめる	140分
第10回	ホイッスルトーン① 演奏方法を学ぶ	事前	ホイッスルトーンとは何かを調べる	140分
		事後	ホイッスルトーンの練習をする	140分
第11回	ホイッスルトーン② 楽曲で演奏してみる	事前	ホイッスルトーンの楽曲を仕上げる	140分
		事後	ホイッスルトーンをまとめる	140分
第12回	キークラップ① 演奏方法を学ぶ	事前	キークラップとは何かを調べる	140分
		事後	キークラップの練習をする	140分
第13回	キークラップ② 楽曲で演奏してみる	事前	キークラップの楽曲を仕上げる	140分
		事後	キークラップをまとめる	140分
第14回	その他の現代奏法 演奏方法を学ぶ、楽曲で演奏してみる	事前	他の現代奏法を探す	140分
		事後	他の現代奏法をまとめる	140分
第15回	まとめ 現代奏法が必要な理由	事前	今まで学んだ全ての現代奏法を復習する	140分
		事後	今後、現代奏法を使用する場面を考える	140分

フィードバック 各現代奏法の楽曲演奏について常にフィードバックされる。

成績評価 楽曲演奏 25%、取り組み 50%、レッスン態度 25%

テキスト 教員の指示による。

オフィスアワー 授業前後、教員のレッスン室で実施
メールで予約も可能

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

器楽指導法研究

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード：ILE401

専門／学年： 器楽専門／専攻科2年次

形態：演習	単位数 1単位
概要	個人レッスンやアンサンブル指導、吹奏楽指導、また教育現場において必要な楽器の知識と指導法を学習する。小・中・高校生への指導、またアマチュアの社会人を前提に分かりやすく指導できる実践力を身に着け、合奏指導を適切な順序で指導を行い、現場で求められる指導力を実践的に身につける。更に合奏指導により指揮法も身につける。
到達目標	授業で実際の指導を受講することで実践的な指導力を身につけているか確認。教育者、アンサンブル指導者、大合奏指導者として理論と知識を総合的に考え指導法を学ぶ。小・中・高、社会人への指導を想定し、現場で求められる指導を身につけることを目標とする。

授業計画		
第1回	個人レッスンの指導法① 個人レッスン概論（児童からシニアまで）	事前 初めて専門のレッスンを受けた頃を思い出し書き留めておく 135 分
		事後 児童からシニアまでの指導法の違いをまとめる 135 分
第2回	個人レッスンの指導法② 教則本の選び方	事前 初めて使用した教則本を用意し思い出してみる 135 分
		事後 多種ある教本を楽譜店で探してみる 135 分
第3回	個人レッスンの指導法③ レッスンの進め方（初・中級編）	事前 レッスンで必要なことを考える 135 分
		事後 生徒それぞれのレッスン実施法を考える 135 分
第4回	個人レッスンの指導法④ 個人レッスンの指導法まとめ	事前 個人レッスンのあり方について考える 135 分
		事後 レッスン室の環境をどのように整えるか考える 135 分
第5回	個人レッスンの指導法④ 個人レッスンの指導法まとめ	事前 どのように募集するか考える 135 分
		事後 どのように運営するか考える 135 分
第6回	アンサンブルの指導法② 曲の選曲法	事前 楽譜店やインターネットでアンサンブルの種類を把握する 135 分
		事後 レベルに合った楽譜を探してみる 135 分
第7回	アンサンブルの指導法③ アンサンブル指導の進め方（初級編）	事前 レッスン内容を考える 135 分
		事後 初級者アンサンブルの指導をまとめる 135 分
第8回	アンサンブルの指導法④ アンサンブル指導の進め方（中・上級編）	事前 レッスン内容を考える 135 分
		事後 中・上級アンサンブル指導をまとめる 135 分
第9回	アンサンブルの指導法⑤ アンサンブルの指導法まとめ	事前 アンサンブル指導について質問を考える 135 分
		事後 アンサンブル指導法をまとめてみる 135 分
第10回	吹奏楽等大合奏の指導法① 大合奏概論と運営	事前 大合奏の作り方を考える 135 分
		事後 大合奏運営をイメージする 135 分
第11回	吹奏楽等大合奏の指導法② 得意分野以外の楽器を知る(弦楽器・木管編)	事前 専門以外の木管楽器の仕組みを調べる 135 分
		事後 木管楽器の仕組みをまとめる 135 分
第12回	吹奏楽等大合奏の指導法③ 得意分野以外の楽器を知る（金管・打楽器編）	事前 専門以外の金管・打楽器の仕組みを調べる 135 分
		事後 金管楽器の仕組みをまとめる 135 分
第13回	吹奏楽等大合奏の指導法④ 吹奏楽等大合奏の指導法まとめ	事前 大合奏の配置を調べる 135 分
		事後 大合奏の指導法をまとめる 135 分
第14回	コンサートの企画と当日までのスケジュール チラシ、プログラム作成、会場打ち合わせ等	事前 コンサートまでのスケジュールをメモしてみる 135 分
		事後 本番当日までの準備をまとめてみる。 135 分
第15回	指導法のまとめ まとめと今後の指導法	事前 指導とは何かを考える 135 分
		事後 今後の指導法を考える 135 分

フィードバック	個人レッスン、アンサンブル、大合奏ごと（各まとめ）に発表をし、学生同士でディスカッションする。また教員からのコメントがありこれをフィードバックとする。
成績評価	授業に臨む姿勢・発言 50％ 発表 50％
テキスト	必要なときに教員が用意する。

オフィスアワー 授業前後に対応。またメールでも対応している。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	☑	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	□

副科実技（ピアノ）									
ピアノ主任 准教授 倉地恵子									
科目コード：IND303									
専門／学年： 器楽・声楽専門／専攻科１年次									
形態：実技					単位数 ２単位				
概要					ピアノ演奏に必要な技術を高め、曲の様式に合った音色と表現を追求する。				

到達目標	音楽への理解をより深めて、各自の専門領域で生かすことを目標とする。年度末に発表会を行う。
------	--

授業計画	隔週 20 分のグループ指導
------	----------------

第 1 回	1 年間の学習計画を立てる	事前	これまで学んできたレパートリーをまとめ、今後取り組みたい曲を選ぶ	105 分
第 2 回	基礎テクニックの確認 脱力、アーティキュレーションを中心に	事後	1 年間の目標を設定し、そのための課題と勉強方針を明確にする	105 分
		事前	レガート、スタッカート奏法、脱力について考え、ハノンの練習をする	105 分
		事後	手首の力の抜き方を確認し、スケールとアルペジオの練習をする	105 分
第 3 回	バロック・古典の曲に取り組む 読譜の確認	事前	作品を決め読譜をし、楽語を調べる	105 分
第 4 回	バロック・古典の曲に取り組む 形式・様式	事後	正しい読譜ができているか確認をする	105 分
		事前	曲が作曲された時代、作曲家について調べる	105 分
第 5 回	バロック・古典の曲に取り組む 和声感	事後	曲の構成を分析する	105 分
		事前	和声機能を確認して、練習する	105 分
第 6 回	自由曲 読譜の確認	事後	曲に合ったテンポを探求し、仕上げる	105 分
		事前	読譜をし、楽語を調べる	105 分
第 7 回	自由曲 アーティキュレーション、音色	事後	正しい読譜ができているか確認をする	105 分
		事前	楽譜から作曲家の意図を読み取り、アーティキュレーションなどの細部を見る	105 分
第 8 回	自由曲 強弱	事後	フレーズ感をもって演奏しているか確認をして、練習する	105 分
		事前	強弱の確認をして、練習をする	105 分
第 9 回	ペダリングの確認 踏みタイミングと、効果的な使い方について	事後	コントラストの付け方を考える	105 分
		事前	打鍵とペダルの関係について、確認する	105 分
第 10 回	発表会用の楽曲 読譜の確認	事後	音をよく聴き、ペダルを踏みかえる練習をする	105 分
		事前	読譜をし、楽語を調べる	105 分
第 11 回	発表会用の楽曲 形式・様式	事後	正しい読譜ができているか確認をする	105 分
		事前	曲が作曲された背景を調べる	105 分
第 12 回	発表会用の楽曲 表現	事後	曲の構成を分析する	105 分
		事前	表現方法を考えて、練習をする	105 分
第 13 回	発表会用の楽曲 和声感	事後	表現する上で最適なテンポを探す	105 分
		事前	和声機能の確認をして、練習をする	105 分
第 14 回	発表会用の楽曲 テンポ感	事後	暗譜しながら、曲の内容を意識する	105 分
		事前	暗譜しなが	105 分
第 15 回	発表会用の楽曲 仕上げ	事後	最終的なテンポを設定する	105 分
		事前	暗譜を確実にし、弾き込む	105 分
		事後	曲のイメージを明確に持ち、弾き込む	105 分
		事後	曲の完成度を高める	105 分

フィードバック 発表会での演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする

成績評価 発表会 30%、課題への取り組み 30%、授業態度 40%

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	□	□

副科実技（声楽）

非常勤講師 栗田恵美子

科目コード：IND304

専門／学年： ピアノ・器楽専門／専攻科１年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	実技グループレッスン形態で行う。 短期大学の副科声楽で学んだ基礎を元に、個々のレベルに合わせ、更に発展した声楽の歌曲、オペラなどを学ぶ。
到達目標	色々な言語の歌曲、オペラなどの語感や美しさに触れ、繊細な感性と自然で美しい歌唱法を習得する。

授業計画 年間 15 回、隔週 20 分のグループレッスン。個々のレベルにあった練習曲(コンコーネ 50 番又はコンコーネ 25 番)の伴奏付き歌唱、イタリア歌曲、ドイツリート、フランス歌曲、オペラなどからレベルにあった曲の伴奏付き歌唱。

第 1 回	個々のレベルに合わせて、練習曲、歌曲オペラなどから曲目を選択して、歌唱と言葉を学ぶ	事前 音楽練習	80 分
		事後 課題曲目の、ディクシヨンの練習、音楽練習	80 分
第 2 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱①	事前 個々の課題曲の練習①	80 分
		事後 個々の課題曲の練習①の復習	80 分
第 3 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱②又は、課題の曲が仕上がった場合は、新しい曲決める	事前 個々の課題曲の練習②	80 分
		事後 個々の課題曲の練習②の復習	80 分
第 4 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱③	事前 個々の課題曲の練習③	80 分
		事後 個々の課題曲の練習③の復習	80 分
第 5 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱④	事前 個々の課題曲の練習④	80 分
		事後 個々の課題曲の練習④の復習	80 分
第 6 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑤	事前 個々の課題曲の練習⑤	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑤の復習	80 分
第 7 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑥	事前 個々の課題曲の練習⑥	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑥の復習	80 分
第 8 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑦	事前 個々の課題曲の練習⑦	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑦の復習	80 分
第 9 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑧	事前 個々の課題曲の練習 ⑧	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑧の復習	80 分
第 10 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑨	事前 個々の課題曲の練習⑨	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑨の復習	80 分
第 11 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑩	事前 個々の課題曲の練習⑩	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑩の復習	80 分
第 12 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑪	事前 個々の課題曲の練習⑪	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑪の復習	80 分
第 13 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱の仕上げ	事前 個々の課題曲の仕上げ	80 分
		事後 個々の課題曲の仕上げ	80 分
第 14 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱の総仕上げ	事前 個々の課題曲の総仕上げ	80 分
		事後 個々の課題曲の総仕上げ	80 分
第 15 回	個々の課題曲総まとめ	事前 個々の課題曲総まとめ	80 分
		事後 個々の課題曲の総まとめ	80 分

フィードバック コンコーネ、個々の課題曲の楽曲に通じて歌唱表現や、テクニックを学ぶ。

成績評価 授業の積極的な取り組みなどから総合的に判断する。

テキスト 短期大学で購入した楽譜を使う。又は、適宜楽譜を配布する。

オフィスアワー レッスン室にてレッスン後行う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

声楽アンサンブル研究Ⅰ

非常勤講師 栗田恵美子

科目コード：VEN303

専門／学年： 声楽専門／専攻科1年次

形態：実技	単位数：1単位
概要	モーツァルト作曲オペラの重唱曲を取り上げ、オペラを歌うのに必要な演技を学び、演技付きのオペラ重唱曲を実践する。

到達目標	モーツァルトの重唱曲を通じ、オペラに必要な歌唱法、又舞台での自然な動きを身につける。
------	--

授業計画				
第 1 回	モーツァルト作曲オペラの二重唱などから曲目決めと音楽稽古①	事前	モーツァルトのオペラ	130 分
		事後	課題の二重唱を復習し、原語の意味を調べる	140 分
第 2 回	モーツァルト作曲オペラの二重唱の音楽稽古②	事前	課題の二重唱の音楽練習とオペラの文献を調べ理解を深める	130 分
		事後	課題のオペラの作品を鑑賞する。又、重唱曲の復習	140 分
第 3 回	モーツァルト作曲オペラの音楽稽古③	事前	課題の二重唱の音楽練習	130 分
		事後	課題のオペラの別の演出の作品を鑑賞し、演技の違いや歌い方など研究する	140 分
第 4 回	モーツァルト作曲オペラの音楽稽古④	事前	課題の二重唱の音楽練習	130 分
		事後	課題のオペラの別の演出の作品を鑑賞し、より深く歌唱法、演技を研究する。	140 分
第 5 回	モーツァルト作曲オペラの荒立ち①	事前	課題の二重唱の音楽練習	130 分
		事後	課題のオペラの演技の復習し、動き方を研究する	140 分
第 6 回	モーツァルト作曲オペラの荒立ち②	事前	課題の二重唱の音楽練習と演技練習	130 分
		事後	授業の復習と演技付き歌唱練習を練習する	140 分
第 7 回	モーツァルト作曲オペラの演技付き歌唱稽古①	事前	演技付き歌唱練習	130 分
		事後	演技付き歌唱の復習	140 分
第 8 回	モーツァルト作曲オペラの演技付き歌唱稽古②	事前	演技付き歌唱練習	130 分
		事後	演技付き歌唱の復習	140 分
第 9 回	モーツァルト作曲オペラの演技付き歌唱稽古③	事前	演技付き歌唱練習	130 分
		事後	他者とお互いに協力しながら演技練習をする	140 分
第 10 回	モーツァルト作曲オペラの演技付き歌唱稽古④	事前	演技付き歌唱練習	130 分
		事後	他者とお互いに協力しながら演技練習をする	140 分
第 11 回	モーツァルト作曲オペラの演技付き歌唱稽古⑤	事前	演技付き歌唱練習	130 分
		事後	他者とお互いに協力しながらより深く演技を研究する	140 分
第 12 回	モーツァルト作曲オペラの演技付き歌唱仕上げ	事前	演技付き歌唱練習	130 分
		事後	他者とお互いに協力しながら自然に演技が出来る様、繰り返し練習する	140 分
第 13 回	モーツァルト作曲オペラの総まとめ①	事前	演技付き歌唱練習	130 分
		事後	試演会に向けて演技付き重唱曲の復習	140 分
第 14 回	モーツァルト作曲オペラの総まとめ②	事前	試演会に向けて演技付き重唱曲の練習	130 分
		事後	試演会に向けて演技付き重唱曲の復習	140 分
第 15 回	試演会	事前	試演会に向けて重唱曲の練習	130 分
		事後	総まとめ	140 分

フィードバック 試演会后、お互いの演奏にディスカッションする。

成績評価 試演会の演奏 70%、授業の態度 30%
総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	☑	□	☑	☑	□	□	□

専門／学年： 声楽専門／専攻科Ⅰ年次

形態：実技	単位数 1単位
概要	W.A.モーツァルト及び周辺の作曲家のオペラ重唱曲を題材とし、アンサンブル能力の向上を目指す。 声楽アンサンブル（邦人作品含む）を取り上げ、ハーモニー感覚を養う

到達目標	それぞれの作品の特徴に触れ、様式、音楽的構造、詩の内容も踏まえ、演奏技術を高め豊かな表現力を養うことを目標とする。
------	---

授業計画					
第1回	ガイダンス 学習計画を立てる	事前	楽譜を準備する	30	分
		事後	履修計画を確認し、読譜を進める	30	分
第2回	W.A.モーツァルトのオペラ作品より 重唱曲① 読譜、発音を中心に	事前	モーツァルトの作品について調べる	30	分
		事後	重唱曲①音程、音階、リズム等に気を付けて読譜の反復練習	30	分
第3回	重唱曲① 読譜 和声感、様式感を中心に	事前	重唱曲①詩の内容を調べる	30	分
		事後	重唱曲①詩の内容を考えながら反復練習	30	分
第4回	重唱曲① 表現の発展	事前	重唱曲①テンボ、強弱、アーティキュレーション等考える	30	分
		事後	重唱曲①歌唱法、表現法の研究	30	分
第5回	重唱曲② 読譜、発音を中心に	事前	重唱曲②の単語の意味、詩の内容を調べる	30	分
		事後	重唱曲②詩の内容を考えながら練習する	30	分
第6回	重唱曲② 和声感、様式感を中心に	事前	重唱曲②テンボ、強弱、アーティキュレーション等考える	30	分
		事後	重唱曲②歌唱法、表現法の研究	30	分
第7回	重唱曲② 表現の発展	事前	重唱曲②の楽譜の意味、発声、発音への配慮	30	分
		事後	授業内での問題を確認し、解決する	30	分
第8回	重唱曲③ 読譜、発音を中心に	事前	重唱曲③音程、音階、リズム等に気を付けて読譜練習する	30	分
		事後	重唱曲③詩の内容を調べる	30	分
第9回	重唱曲③ 和声感、様式感を中心に	事前	重唱曲③詩の内容を考えながら練習する	30	分
		事後	重唱曲③テンボ、強弱、アーティキュレーション等考える	30	分
第10回	重唱曲③ 表現の発展	事前	重唱曲③歌唱法、表現法の研究	30	分
		事後	授業内での問題を確認し、解決する	30	分
第11回	声楽アンサンブル① 曲の準備をする 読譜を中心に	事前	音程、音階、リズム等に気をつける	30	分
		事後	音程、音階、リズム等に気をつけて読譜の反復練習	30	分
第12回	声楽アンサンブル① 和声感を中心	事前	詩の内容を調べる	30	分
		事後	詩の内容を考えながら練習をする	30	分
第13回	声楽アンサンブル① 様式感を中心に	事前	アンサンブル曲のテンボ、強弱、アーティキュレーションを意識する	30	分
		事後	テンボ、強弱、アーティキュレーションを確認し、練習する	30	分
第14回	声楽アンサンブル① 表現の発展 伴奏を伴い	事前	アンサンブル曲の伴奏合わせをする	30	分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善、暗譜をする	30	分
第15回	演奏の質の向上を図る	事前	暗譜の確認と表現法の研究	30	分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善、演奏の質を高める	30	分

フィードバック 試演会を実施した後、成果と課題を話し合う。

成績評価 試演会 70% 授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	□	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

歌曲研究Ⅰ

教授 細谷美直

科目コード：VLE301

専門／学年： 声楽専門／専攻科1年次

形態：演習	単位数 1単位
概要	課題曲に加え、各々が選んだ日本歌曲をレッスン形態で演習を行う

到達目標	① 日本語唱法の特性を知り、自然な歌唱を習得する。詩と音楽との関係に着目しながら日本歌曲の歌唱法を修得する。 ② 歌曲の黎明期から時代を追って様々な作曲家の作品を取り上げ、その解釈と演奏法を知る。
------	---

授業計画	以下の作曲家の作品の中から、受講生の声、キャラクターにあったものを選択し、自然で美しい日本語歌唱に留意しながら、個々の演奏レパートリーとなるよう掘り下げていく 課題曲以外で各々が選んだ日本歌曲を演習する
------	--

第1回	ガイドンス、試聴会並びに曲目を決める	事前 楽譜を準備し、履修計画をたてる 事後 履修する計画を確認し、準備する	30分 30分
第2回	日本歌曲黎明期の作品 日本語歌唱の基礎を学ぶ ～様々な母音について～	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第3回	瀧廉太郎の作品① ～品詞による歌い分け～	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第4回	瀧廉太郎の作品①、② ～鼻濁音、促音～	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第5回	山田耕柁の作品① ～鼻濁音・促音について～	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第6回	山田耕柁の作品①、② ～多様な表現記号に着目し、演奏法を学ぶ～	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第7回	信時潔、橋本国彦、他の作品 ～四つ仮名じ・ち・ず・づについて～	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第8回	信時潔、橋本国彦、他の作品 前週の楽曲の表現をさらに深める	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第9回	中田喜直の作品 多くの作品群から選択して研究する	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第10回	中田喜直の作品より 前週の作品の表現をさらに深める	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第11回	大中恩、高田三郎の作品より 「ふるみち」「私が歌うわけ」「くちなし」他	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第12回	大中恩、高田三郎の作品より 前週の楽曲の表現をさらに深める	事前 読譜し練習を重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第13回	三善晃、林光の作品より 「小さな空」「島へ」他	事前 既習曲を確認し、練習する 事後 ピアニストと伴奏合わせを重ねる	30分 30分
第14回	三善晃、林光の作品より 前週の楽曲の表現をさらに深める	事前 ピアニストと合わせを重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	30分 30分
第15回	総合演習	事前 ピアニストと合わせを重ねる 事後 録音（画）等を使い演奏を振り返る	30分 30分

フィードバック 試演会後に合評し、課題を見つけて今後に繋げる。

成績評価 試演会 70％ 授業への積極的な取り組み 30％

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー 授業終了後、担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	☑	□	☑	□	□	□	□	☑	□	□	□	□	☑

民族音楽学特殊講義

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：LEC305

専門／学年：全専門／専攻科 1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	本授業では、アフリカおよびアジア地域で伝統的に用いられてきた楽器をとりあげ、素材や構造、起源や伝播の歴史などについて考察する。可能な限り、実演を交えた解説、楽器に触れて音を鳴らす時間を取り入れ各々の楽器の魅力を身体で感じ取ることを目指す。また学校の音楽教育のなかでそれらの楽器をどのように取り上げるかについての可能性を探る。
到達目標	楽器の構造の多様性や、素材とその楽器が生まれた地域の風土との関連性、楽器の伝播の経路について考察することができるようになる。楽器に関する先行研究について辞典やデータベース検索、ウェブサイトなどで調べ、文献表および参考動画リストを作成し、新しい研究および音楽教育活動の可能性を模索することができるようになる。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：本講義でとりあげる楽器および文献表と授業計画案作成手順についての説明	事前 シラバスを読んで、授業の概要と目標を理解する。 120 分 事後 本授業で取り上げる楽器について、文献およびウェブサイトで確認する。 160 分
第 2 回	アフリカの楽器（1）親指ピアノとコラ	事前 アフリカの音楽に関する文献表および参考動画リストを作成する。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表および参考動画リストの改訂版を作成する。 160 分
第 3 回	アフリカの楽器（2）アサラトとシェケレ	事前 文献表および参考動画リストに載せた文献や動画について調べて疑問点をまとめる。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表および参考動画リストの改訂版を作成する。 160 分
第 4 回	アフリカの楽器（3）親指ピアノとコラを使った音楽授業	事前 参考図書の授業計画案を読み、その内容について自分なりの意見を考える。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、授業計画案について考える。 160 分
第 5 回	アフリカの楽器（4）アサラトとシェケレを使った音楽授業	事前 参考図書の授業計画案を読み、その内容について自分なりの意見を考える。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、授業計画案について考える。 160 分
第 6 回	南アジアの楽器（1）シタールと口琴	事前 南アジアの音楽に関する文献表および参考動画リストを作成する。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表および参考動画リストの改訂版を作成する。 160 分
第 7 回	南アジアの楽器（2）タブラーとパンスリー	事前 文献表および参考動画リストに載せた文献や動画について調べて疑問点をまとめる。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表および参考動画リストの改訂版を作成する。 160 分
第 8 回	南アジアの楽器（3）シタールと口琴を使った音楽授業	事前 参考図書の授業計画案を読み、その内容について自分なりの意見を考える。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、授業計画案について考える。 160 分
第 9 回	南アジアの楽器（4）タブラーとパンスリーをとりあげた音楽授業	事前 参考図書の授業計画案を読み、その内容について自分なりの意見を考える。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、授業計画案について考える。 160 分
第 10 回	東京藝術大学小泉資料室見学	事前 小泉資料室のホームページで展示されている楽器について予備調査する。 120 分 事後 見学時に最も興味を持った楽器について調べて情報をまとめる。 160 分
第 11 回	アジア・アフリカ地域の楽器についての比較考察	事前 小泉資料室見学時に興味を持った楽器について小レポートを作成する。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、小レポートの改訂版を作成する。 160 分
第 12 回	東南アジアの楽器（1）アンクルンとパッター	事前 東南アジアの音楽に関する文献表および参考動画リストを作成する。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表および参考動画リストの改訂版を作成する。 160 分
第 13 回	東南アジアの楽器（2）スィーワーとチン	事前 文献表および参考動画リストに載せた文献や動画について調べて疑問点をまとめる。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表および参考動画リストの改訂版を作成する。 160 分
第 14 回	東南アジアの楽器（3）アンクルンとパッターをとりあげた音楽授業	事前 参考図書の授業計画案を読み、その内容について自分なりの意見を考える。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、授業計画案について考える。 160 分
第 15 回	東南アジアの楽器（4）スィーワーとチンをとりあげた音楽授業	事前 参考図書の授業計画案を読み、その内容について自分なりの意見を考える。 120 分 事後 授業時に得た情報をもとに、授業計画案について考える。 160 分

フィードバック ・各学生が作成した文献表について、授業時にチェックした上で、補足が必要な場合は適宜アドバイスする。
・各学生が作成した授業案について授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 作成した文献表、参考動画リスト、授業計画案についてのコメント 60% 授業時の質疑応答 40%

テキスト 教科書
・ 柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999 年）
参考図書
・ 島崎篤子、加藤富美子『授業のための日本の音楽・世界の音楽 世界の音楽編』（音楽之友社、2013 年）
・ 田中多佳子編著『アクティブに楽しく学ぶ世界の音楽』（音楽之友社、2023 年）
・ その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。 hiromaru886@hotmail.com または ball.60000622@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング ・学生は授業でとりあげる伝統音楽ジャンルに関する文献・参考動画リストを発表する。

備考 ・文献表や動画リストの作成については、学生の負担が重くなりすぎないように配慮する。
・東京藝術大学の小泉文夫資料室で楽器を閲覧する時間を設ける。実施日については学生と相談の上決める。

学位授与の方針との関連														
授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☑	□	□	□	□	☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	□

音楽心理学特殊講義

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：LEC306

専門／学年：全専門／専攻科1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽心理学とは、音楽的行動（聴取、演奏など）とそれに随伴する精神活動についてのメカニズムの科学的な理解・説明を目指す心理学である。本講義では、現代の広範な音楽心理学を深く理解するため、関連諸領域の影響を含めた音楽心理学の源流、および多彩な変遷と展開について、新たな研究トピックスを交えつつ講じていく。主要テーマは、音楽の認知・感情・演奏の基礎的・応用的研究。
到達目標	演奏、音楽教育、音楽療法など、音楽的行動・活動に携わる学習者に必要な音楽心理学の基礎知識を身に付けるとともに、その研究法を学び、最前線の研究動向を知る中から、現在の音楽心理学の特徴および音楽教育、音楽療法との関係性などを俯瞰し、現場でも役に立つ力を養う。
授業計画	テキストとプリントを用いながら、以下の内容で講義とディスカッションを含む授業を行なう。

第 1 回	オリエンテーションへ講義の目的・内容・進め方など～	事前 事後	シラバスに目を通し、この科目履修の目的を明確にする。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 2 回	音楽心理学の歴史、研究法、主要なテーマ	事前 事後	テキスト第 1 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 3 回	音響学と聴覚心理学からの影響	事前 事後	テキスト第 2 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 4 回	楽音の知覚をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 3 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 5 回	旋律およびリズムの認知をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 4 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 6 回	音楽と記憶の関係をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 5 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 7 回	音楽と他の認知能力との関係～モーツァルト効果を中心として～	事前 事後	テキスト第 6 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 8 回	音楽と感情をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 7 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 9 回	音楽行動の発達をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 8 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 10 回	音楽活動に関する脳研究からのアプローチ	事前 事後	テキスト第 9 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 11 回	演奏に関する実証的研究とその応用	事前 事後	テキスト第 1 0 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 12 回	音楽の好みや個人特性との関係をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 1 1 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 13 回	音楽心理学と音楽療法との関係性	事前 事後	テキスト第 1 2 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 14 回	音楽の産業領域における位置づけに関わる諸研究	事前 事後	テキスト第 1 3 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 15 回	最終試験とまとめ	事前 事後	ノート全体の整理と振り返りを行なう。 試験の解答を自分で確認・振り返る。	110 分 160 分

フィードバック 授業後に、ほぼ毎回コメントの提出を求める。次の授業でコメントに対するフィードバックを行なう。

成績評価 試験の成績と授業への取り組み等を総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（25 点）、レポート（25 点）、最終試験（50 点）。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』誠信書房

オフィスアワー 授業後の教室にて対応する。メールでの質問も受け付ける。

備考 授業の進度等によっては内容の順序が前後することもあり得る。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	☑	☑	□	□	□	□	□	□	☑	□	□		☑

室内楽Ⅰ-1・Ⅱ-1

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード： IEN303／ IEN403

専門／学年： 全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要 「室内楽」では異なる楽器同士の学生と相談の上、室内楽曲を取り上げ授業を進める。その中で各楽器の特性や演奏法の違いを理解し、旋律と副旋律、伴奏の表現の違いを研究する。また時代背景も考慮し、その時代様式に即した表現方法を研究する。	

到達目標	室内楽曲の演奏を通して異なる楽器同士のアンサンブルを、音色、音程、アタック、ニュアンス、和声を考慮し、アンサンブルの中で自分の役割を理解して演奏できるようになることを目標とする。
------	---

授業計画	・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で、自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。 ・必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと。
------	--

第 1 回	オリエンテーション 取り上げる楽曲の選定	事前	古典の弦楽四重奏を数曲聴いてから授業に参加する	135 分
		事後	演奏メンバーで話し合い、合わせの日程を決める	135 分
第 2 回	バロック音楽① 作品の時代背景や様式について	事前	必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと	135 分
		事後	各自時代背景を復習する	135 分
第 3 回	バロック音楽② 各楽器の音色の違いによる表現方法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自表現方法を復習する	135 分
第 4 回	バロック音楽③ 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自発音やニュアンスの表現法について復習する	135 分
第 5 回	バロック音楽④ 和声を考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自和声を考えた音程のとり方を復習する	135 分
第 6 回	バロック音楽⑤ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自演奏形式を復習する	135 分
第 7 回	古典派音楽① 作品の時代背景や様式について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自時代背景を復習する	135 分
第 8 回	古典派音楽② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自表現方法を復習する	135 分
第 9 回	古典派音楽③ 和声を考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自和声を考えた音程のとり方を復習する	135 分
第 10 回	古典派音楽④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自演奏形式を復習する	135 分
第 11 回	発表会で演奏する楽曲① 作品の時代背景や様式について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自時代背景を復習する	135 分
第 12 回	発表会で演奏する楽曲② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自表現方法を復習する	135 分
第 13 回	発表会で演奏する楽曲③ 和声を考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自和声を考えた音程のとり方を復習する	135 分
第 14 回	発表会で演奏する楽曲④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	各自演奏形式を復習する	135 分
第 15 回	リハーサル 発表会に向けて仕上げる	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135 分
		事後	発表会に向けて個人練習、合わせ練習をする。	135 分

フィードバック 発表会后教員からコメントを受けることでフィードバックとする。

成績評価 発表会の演奏 25％ 授業態度 25％ 授業の取り組み 50％

テキスト 教員からの指示あり

オフィスアワー 授業前後、メールでも予約を受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	

室内楽Ⅰ-2・Ⅱ-2

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード： IEN304／IEN404

専門／学年： 全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技

单位数 1 单位

概要	「室内楽」では異なる楽器同士の学生と相談の上、室内楽曲を取り上げ授業を進める。その中で各楽器の特性や演奏法の違いを理解し、旋律と副旋律、伴奏の表現の違いを研究する。また時代背景も考慮し、その時代様式に即した表現方法を研究する。
----	---

到達目標	室内楽曲の演奏を通して異なる楽器同士のアンサンブルを、音色、音程、アタック、ニュアンス、和声を考慮し、アンサンブルの中で自分の役割を理解して演奏できるようになることを目標とする。
------	---

授業計画 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で、自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。

第1回	後期オリエンテーション 取り上げる楽曲の選定	事前	ロマン派、近代音楽の弦楽四重奏を数曲聴いてから授業に参加する	135分
		事後	演奏メンバーで話し合い合わせの予定を決める	135分
第2回	ロマン派音楽① 作品の時代背景や様式について	事前	必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと	135分
		事後	各自時代背景を復習する	135分
第3回	ロマン派音楽② 各楽器の音色の違いによる表現方法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自表現方法を復習する	135分
第4回	ロマン派音楽③ 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自発音やニュアンスの表現法について復習する	135分
第5回	ロマン派音楽④ 和声考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分
第6回	ロマン派音楽⑤ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自演奏形式を復習する	135分
第7回	近代音楽① 作品の時代背景や様式について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自時代背景を復習する	135分
第8回	近代音楽② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自表現方法を復習する	135分
第9回	近代音楽③ 和声考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分
第10回	近代音楽④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自演奏形式を復習する	135分
第11回	発表会で演奏する楽曲① 作品の時代背景や様式について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自時代背景を復習する	135分
第12回	発表会で演奏する楽曲② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自表現方法を復習する	135分
第13回	発表会で演奏する楽曲③ 和声考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分
第14回	発表会で演奏する楽曲④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自演奏形式を復習する	135分
第15回	リハーサル 発表会に向けて仕上げる	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	発表会に向けて個人練習、合わせ練習をする。	135分

フィードバック 発表会后教員からコメントを受けることでフィードバックとする。

成績評価 発表会の演奏 25% 授業態度 25% 授業の取り組み 50%

テキスト 教員からの指示あり

オフィスアワー 授業前後、メールでも予約を受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発奮力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：実技	単位数 2 単位
概要	ハーブの基本的な奏法、特有の奏法を習得し、ソロ曲、アンサンブル曲を学習する。

到達目標	アイリッシュハーブ、グランドハーブを体験し、基本的な奏法の他、ハーブ特有の奏法、美しい音色の演奏法を身につけることを目標とする。
------	--

授業計画	年間 15 回、隔週 20 分のグループレッスン。授業内容は各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	アイリッシュハーブ、グランドハーブの構造、歴史、第 2 指での奏法①	事前 事後	アイリッシュハーブ、グランドハーブについて調べる。 構造を確認し、レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 2 回	アイリッシュハーブを使い、調弦方法、第 2 指の奏法②	事前 事後	教則本に従って練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 3 回	アイリッシュハーブを使い、第 1 指、第 2 指の奏法、グリッサンド奏法	事前 事後	教則本に従って練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 4 回	アイリッシュハーブを使い、第 1 指、第 2 指、3 度の和音の奏法	事前 事後	教則本に従って練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 5 回	アイリッシュハーブを使い、第 1 指、第 2 指、第 3 指、6 度の和音の奏法	事前 事後	教則本に従って練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 6 回	アイリッシュハーブを使い、第 1 指、第 2 指、第 3 指、第 4 指、オクターブの和音の奏法	事前 事後	教則本に従って練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 7 回	グランドハーブを使い、ペダルの説明、音階、3 和音の奏法	事前 事後	教則本に従って練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 8 回	グランドハーブを使い、音階、4 和音の奏法	事前 事後	教則本に従って練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 9 回	上記で習得した奏法を使い ー楽曲の譜読みー	事前 事後	指使いに従い譜読み。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 10 回	上記で習得した奏法を使い ー曲想ー	事前 事後	テンポ、フレージングを考え練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 11 回	上記で習得した奏法を使い ー仕上げー	事前 事後	総合的な練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 12 回	上記で習得した奏法を使い ー楽曲の譜読みー	事前 事後	指使いに従い譜読み。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 13 回	上記で習得した奏法を使い ー曲想ー	事前 事後	テンポ、フレージングを考え練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 14 回	上記で習得した奏法を使い ーアンサンブル実習ー	事前 事後	共演者と役割分担を考え練習。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分
第 15 回	上記で習得した奏法を使い ー仕上げー	事前 事後	共演者とひとつの音楽を作り上げていく。 レッスンでの注意点を練習。	50 分 50 分

フィードバック 授業内でのコメント

成績評価 授業への取り組み 70％、発表会 30％

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後、レッスン室にて。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

専門／学年：全専門／専攻科1～2 年次	
形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	2 回の公開演奏会、成果発表会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。器楽専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。
------	--

第 1 回	ガイダンス・合奏基礎	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 2 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 1・ マーチ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 3 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 2・ マーチ、コラール	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 4 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 3・ コラール、3 部形式作品	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 5 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 4・ 3 部形式作品、組曲	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 6 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 5・ 組曲、ソナタ形式	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 7 回	基礎合奏・基礎楽曲演習 6・ ソナタ形式	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 8 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 1・ 秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 9 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 2・ 秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 10 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 3・ ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 11 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 4・ 秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 12 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 5・ 秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 13 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 6・ 定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 14 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 7・ 秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 15 回	成果発表会	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応する。予約も可能。
---------	-------------------

備考	曲目は都度指定する。
----	------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

専門／学年：全専門／専攻科1～2 年次	
形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。器楽専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる
------	---

第 1 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 1・秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 2 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 2・秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 3 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 3・ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 4 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 4・秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 5 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 5・秋のコンサート演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 6 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 6・秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 7 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 7・秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 8 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 8・秋のコンサート演奏曲・仕上げ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 9 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 9・定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 10 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 10・定期演奏会演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 11 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 11・定期演奏会演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 12 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 12・定期演奏会演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 13 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 13・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 14 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 14・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 15 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 15・定期演奏会演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応する。予約も可能。
---------	-------------------

備考	曲目は都度指定する
----	-----------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

フルートオーケストラ研究Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ

器楽主任 特任教授 飯島和久 科目コード：IEN307／IEN407

専門／学年： 器楽専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技		単位数 1 単位		
概要	日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。			
到達目標	この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶことを目標とする。専攻科生は短大時に経験していない特殊楽器を 2 種類は演奏できるようにする。			
授業計画	・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。			
第 1 回	特殊楽器を紹介・試奏 （ソプラノフルート・アルトフルート）（短大時に吹かなかった楽器を試奏）	事前	特殊楽器について調べる	105 分
		事後	ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分
第 2 回	特殊楽器を紹介・試奏 （バスフルート・コントラバスフルート）（短大時に吹かなかった楽器を試奏）	事前	特殊楽器について調べる	105 分
		事後	ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分
第 3 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （フルートの弱点を知る）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 4 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （音合わせの仕方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 5 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （音程の合わせ方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 6 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （ユニゾンの音程の合わせ方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 7 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （平均律、純正律を学ぶ）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 8 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （2 声の音程の合わせ方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 9 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （4 声の音程の合わせ方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 10 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （担当楽器を決め、譜読みを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 11 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （時代背景、演奏法を学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 12 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （テクニックを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 13 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （バランスを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 14 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （表現を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 15 回	発表会に向けて練習、後日発表会	事前	仕上げ	105 分
		事後	発表会后、教員コメント読み後期授業に役立てる。	105 分

成績評価 発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト 教員からの指示あり。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□		□	☑	☑	□	□	☑

フルートオーケストラ研究Ⅰ-2・Ⅱ-2

器楽主任 特任教授 飯島和久

科目コード： IEN308／ IEN408

専門／学年： 器楽専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技 単位数 1 単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶことを目標とする。専攻科生は短大時に経験していない特殊楽器を 2 種類は演奏できるようにする。

授業計画			・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。		
第 1 回	コンサートに向け楽曲の練習 （譜読みを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 2 回	コンサートに向け楽曲の練習 （時代背景、演奏法を学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 3 回	コンサートに向け楽曲の練習（和音を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 4 回	コンサートに向け楽曲の練習 （テクニックを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 5 回	コンサートに向け楽曲の練習 （音程を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 6 回	コンサートに向け楽曲の練習（音色を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 7 回	コンサートに向け楽曲の練習 （バランスを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 8 回	コンサートに向け楽曲の練習 （表現を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 9 回	コンサートに向け楽曲の練習（仕上げ練習）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 10 回	ゲネプロ（曲順で練習）、櫻樹祭コンサート	事前	櫻樹祭コンサートに向けて問題箇所を練習する	105	分
		事後	題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 11 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ （譜読みを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 12 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ （時代背景、演奏法を学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 13 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（テクニックを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 14 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ （表現を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 15 回	ゲネプロ（曲順で練習）、授業後発表会	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105	分

フィードバック 毎回の課題に対し教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価

発表・コンサート 20% 課題 40% 授業態度 40%

テキスト

教員からの指示があり

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

声楽特殊研究

教授 細谷美直

科目コード：VLE402

専門／学年： 全専門／専攻科 2 年次

形態：演習	単位数 1 単位
概要	前半は日本歌曲の継承と発展を学ぶ 後半にドイツ歌曲のはじまりと代表的作品をグループレッソンの形態で演習する

到達目標	日本歌曲においては品詞による歌い分けにより自然な歌唱を目指す ドイツ歌曲は歌唱のためのドイツ語の発音を中心に学ぶ
------	---

授業計画	各回の授業内容は進度により変更することがある
------	------------------------

第 1 回	明治以前の日本のうた ～わらべうたの世界～	事前 資料を読み、内容を理解する	30 分
		事後 内容の理解を深める	30 分
第 2 回	近代音楽教育草創時代 母音の純化について	事前 資料を読み、内容を理解する	30 分
		事後 内容の理解を深める	30 分
第 3 回	唱歌の誕生 母音と準母音について	事前 資料を読み、内容を理解する	30 分
		事後 内容の理解を深める	30 分
第 4 回	童謡運動の展開 鼻濁音と促音について	事前 資料を読み、内容を理解する	30 分
		事後 内容の理解を深める	30 分
第 5 回	童謡の黄金時代とそれ以降 半母音および様々な子音の扱いについて	事前 資料を読み、内容を理解する	30 分
		事後 自分の考えをまとめる	30 分
第 6 回	ドイツリートのはじまり シューベルトの歌曲 An die Musik	事前 課題曲について調べ、音取りをする	30 分
		事後 発音に注意しながら復習する	30 分
第 7 回	シューベルトの歌曲 An die Musik 作品の解釈と発音を中心に	事前 課題曲について調べ、音取りをする	30 分
		事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分
第 8 回	シューベルトの歌曲 An die Musik 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする	30 分
		事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分
第 9 回	ベートーヴェンの歌曲 Ich liebe dich 作品の解釈と発音を中心に	事前 課題曲について調べ、音取りをする	30 分
		事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分
第 10 回	ベートーヴェンの歌曲 Ich liebe dich 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べる	30 分
		事後 楽譜を用意し、音取りをする	30 分
第 11 回	モーツァルトの歌曲 Das Veilchen 作品の解釈と発音を中心に	事前 課題曲について調べ、音取りをする	30 分
		事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分
第 12 回	モーツァルトの歌曲 Das Veilchen 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする	30 分
		事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分
第 13 回	学習したドイツ歌曲の復習 発表曲を選択する	事前 これまでの曲の復習をする	30 分
		事後 ピアニストと伴奏合わせを重ねる	30 分
第 14 回	選択したドイツ歌曲の復習 ピアニストと伴奏合わせをする	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる	30 分
		事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分
第 15 回	発表（試験形式）とまとめ	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる	30 分
		事後 発表と講評（演奏を振り返る）	30 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 授業への取り組み 40％ 演奏 60％

テキスト 授業内で提示する。

オフィスアワー 授業終了後、担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒